SHUBUN

SYLLABUS

2023年度

修 文 大 学 看護学部

SHUBUN University Faculty of Nursing

目　　次

１．教育研究上の目的、教育目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー
２．カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシー対比表）2022年度からの入学生用
　カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシー対比表）2021年度までの入学生用
３．履修年次別授業科目編成表看護師課程・保健師課程（2022年度からの入学生用）
　履修年次別授業科目編成表看護師課程・保健師課程（2020年度からの入学生用）
　履修年次別授業科目編成表看護師課程・保健師課程（2019年度までの入学生用）
４．科目の先修条件（2022年度からの入学生用）
　科目の先修条件（2021年度までの入学生用）
５．３年次への進級
６．臨地実習概要
７．卒業要件

シラバス　※（旧）は2021年度までの入学生対象
＜基礎分野＞
◇人間と文化
生活美学……1
言語と表現……2
家族社会学……3
教育学……4
音　楽……5
哲　学……6
心理学……7
国際文化論……8
食文化論……9
生命倫理……10

◇自然と社会
日本国憲法……11
ジェンダー論……12
暮らしと経済……13
生物学……14
物理学……15

化　学……16
統計学……17
データサイエンス演習……18

◇コミュニケーション
ナーシングイングリッシュⅠ……19
ナーシングイングリッシュⅡ……20
ナーシングイングリッシュⅢ……21
臨床応用英語（旧）……22
英語文献講読（旧）……23
中国語……24
フランス語……25
ドイツ語……26
手　話……27
コミュニケーション論……28
カウンセリング論……29

◇総合
基礎ゼミナール……30
情報科学……31
情報科学演習……32
健康運動スポーツ科学論……33
健康運動スポーツ実技……34

＜専門基礎分野＞
◇人体の構造と機能
人体解剖学……37
人体組織学……38
人体生理学……39
生化学……40

◇健康障害と回復
病理学……41
免疫学……42
薬理学……43
病態治療学Ⅰ……44
病態治療学Ⅱ……45
病態治療学Ⅲ……46
病態生理学……47
臨床検査医学……48
病原微生物学……49

◇健康支援と社会制度
公衆衛生学……50
保健・医療・介護・福祉関係法規……51
国際保健環境学（旧）……52
疫学……53
保健医療福祉行政論Ⅱ（旧）……54

＜専門分野＞

◇基礎看護学
看護学概論Ⅰ……57
看護学概論Ⅱ……58
フィジカルアセスメント……59
基礎看護援助技術Ⅰ……60
基礎看護援助技術Ⅱ……61
看護援助論……62
看護援助演習……63
看護アセスメント演習……64

◇地域・在宅看護学
地域・在宅看護学Ⅰ……65
地域・在宅看護学Ⅱ……66
地域・在宅看護学Ⅲ……67
在宅看護援助論（旧）……68

◇成人看護学
成人看護学Ⅰ……69
成人看護学Ⅱａ……70
成人看護学Ⅱｂ……71
成人看護学Ⅲ……72
クリティカルケア論……73
急性期看護援助論（旧）……74
慢性期療養生活援助論（旧）……75
ターミナルケア論（旧）……76
がん看護（旧）……77

◇母性看護学
母性看護学Ⅰ……78
母性看護学Ⅱ……79
母性看護援助論（旧）……80

◇小児看護学
小児看護学Ⅰ……81
小児看護学Ⅱ……82
小児看護援助論（旧）……83

◇老年看護学
老年看護学Ⅰ……84
老年看護学Ⅱ……85
老年看護援助論（旧）……86

◇精神看護学
精神看護学Ⅰ……87
精神看護学Ⅱ……88
精神看護援助論（旧）……89

◇統合看護

医療安全学……90
家族看護学……91
看護人間工学……92
感染看護学Ⅰ……93
感染看護学Ⅱ……94
チームケア論（旧）……95
学校看護（旧）……96
災害看護（旧）……97
健康危機管理論（旧）……98
特別講義（旧）……99
家族看護（旧）……100
認知症看護（旧）……101
健康教育学Ⅱ（旧）……102
看護過程演習（旧）……103
看護管理論（旧）……104
保健統計学Ⅱ（旧）……105
看護研究方法Ⅰ（旧）……106
看護研究方法Ⅱ（旧）……107
専門ゼミナール（旧）……108

◇公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論……109
保健医療福祉行政論Ⅰ……110
公衆衛生看護学概論Ⅱ（旧）……111
地域ケアシステム論（旧）……112
公衆衛生看護援助論（旧）……113
公衆衛生活動看護実践論Ⅰ（旧）……114
公衆衛生活動看護実践論Ⅱ（旧）……115
公衆衛生看護管理論（旧）……116

＜臨地実習＞

◇臨地実習

早期体験看護実習……119
基礎看護学実習Ⅰ……120
基礎看護学実習Ⅱ……121
急性期看護学実習（旧）……122
慢性期看護学実習（旧）……123
母性看護学実習（旧）……124
小児看護学実習（旧）……125
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ（旧）……126
精神看護学実習（旧）……127
在宅看護学実習（旧）……128
統合看護実習（旧）……129
公衆衛生看護学実習Ⅰ（旧）……130
公衆衛生看護学実習Ⅱ（旧）……131

１．教育研究上の目的、教育目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

【教育研究上の目的】

人間としての尊厳と人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性に裏付けられた感性により人々との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて個人の置かれた状況に最適な看護を提供できる専門的な知見と技術を持った看護師を養成することを目的とする。（学則第６条）

【教育目的】

建学の精神である「国家･社会に貢献できる人材の育成」に基づき､大学の教育研究上の目的を「学術・教育の高度化に対応した職業人の育成」と定義した上で、医療系大学への進化のもと３学部連携し、地域医療に貢献できる人材育成を目指して、看護学部では、倫理と人間性を尊重し、地域の人々の健康回復・増進と疾病予防に寄与し、高度な専門的知識・技術・態度を有する看護実践者を育成することを目的とする。

【アドミッション・ポリシー】

１．看護職に興味と関心を有する。
２．人と積極的に関わる姿勢を有する。
３．看護学を学ぶ上で必要な基礎学力を有する。
４．自ら学修する意欲を有する。
５．広く社会に貢献しようとする意欲を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

１．看護の対象者に対して倫理的配慮、尊厳をもって接し、信頼関係を構築し、対象者の権利の擁護と意思決定を支援できる看護実践者を育成する。
２．科学的根拠と判断力を持ち、地域社会における人々の健康増進、健康回復、疾病予防や生活の質向上に貢献できる看護実践者を育成する。
３．看護の対象者にチームで協働できる基盤作りやメンバーの役割を認識して対象者への情報交換・連携ができる看護実践者を育成する。
４．質の高い看護を提供するために生涯にわたり自己研鑽と研究的姿勢を持つことができる看護実践者を育成する。
５．国内外を問わず、あらゆる対象者の健康問題と看護の役割を認識できる看護実践者を育成する。

【ディプロマ・ポリシー】

１．生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性
２．看護の現象を科学的に探究し、看護学の発展に貢献できる基礎的能力
３．保健・医療・福祉において多職種と協働・連携する基礎的能力
４．看護実践者として継続的に学修する能力
５．グローバル社会における健康問題と看護の役割を認識する能力

2．カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシー対比表）

看護学部看護学科カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシー対比表）2022年度からの入学生用

ディプロマ・ポリシー （DP：学位授与方針）	**卒業認定・学位授与の方針**（ディプロマ・ポリシー） 卒業要件単位数を取得し、以下の能力を身につけたものに卒業が認定され、学位（看護学）が与えれらます。 ⑴生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性 ⑵看護の現象を科学的に探求し、看護学の発展に貢献できる基礎的能力 ⑶保健・医療・福祉において他職種と協働・連携する基礎的能力 ⑷看護実践者として継続的に学習する能力 ⑸グローバル社会における健康問題と看護の役割を認識する能力 **◎＝強く関連　○＝関連**

区分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	DP⑴	DP⑵	DP⑶	DP⑷	DP⑸
基礎分野	人間と文化	生活美学	1後		1	○				
		言語と表現	1前	1		○				
		家族社会学	1前	2		○	◎			
		教育学	1前		1	○				
		音楽	1後		1	○				
		哲学	1前		1	◎	○			
		心理学	1後	2		◎				
		国際文化論	1前		1	○				◎
		食文化論	1前		1	○	◎			
		生命倫理	1前	2		◎	○			
	自然と社会	日本国憲法	1前	2		◎	○			
		ジェンダー論	1前		1	◎				
		暮らしと経済	1前		1		◎			
		生物学	1前		2		◎			
		物理学	1後		2		◎			
		化学	1前	2			◎			
		統計学	1後	1			◎			
		データサイエンス演習	2前	1			◎			
	コミュニケーション	ナーシングイングリッシュⅠ	1前	1						◎
		ナーシングイングリッシュⅡ	1後	1						◎
		ナーシングイングリッシュⅢ	2前	1						◎
		中国語	1前		1					◎
		フランス語	1前		1					◎
		ドイツ語	1前		1					◎
		手話	1後		1	○		◎		
		コミュニケーション論	1後		1			◎		
		カウンセリング論	1後		1	◎		○		
	総合	基礎ゼミナール	1前	1			◎		○	
		情報科学	1前	1			◎			
		情報科学演習	1後	1			◎			
		健康運動スポーツ科学論	1前		1	◎				○
		健康運動スポーツ実技	1後		1	◎			○	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体解剖学	1前	2			◎	○		
		人体組織学	1前	2			◎	○		
		人体生理学	1後	2			◎			
		生化学	1後	2			◎			
	健康障害と回復	病理学	1後	2			◎	○		
		免疫学	1後	2			◎	○		
		薬理学	2前	2			◎			
		病態治療学Ⅰ	1後	2			◎			
		病態治療学Ⅱ	2前	2			◎			

区分		授業科目	配当年次	単位数		DP(1)	DP(2)	DP(3)	DP(4)	DP(5)
				必修	選択					
専門基礎分野	健康障害と回復	病態治療学Ⅲ	2後	2			◎			
		病態生理学	2前	2			◎	○		
		臨床検査医学	2後	1			◎	○		
		病原微生物学	2前	1			◎			
		臨床栄養学	3前	2			◎			
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	2前	2			◎	○		
		疫学	2後	2			◎	○		
		保健・医療・介護・福祉関係法規	2前	2			○	◎		
		社会福祉学	3前	1			○	◎		
		保健統計学	3前	2			◎		○	
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1前	1		◎	○			
		看護学概論Ⅱ	2前	1		◎	○			
		フィジカルアセスメント	2前	2			◎		○	
		基礎看護援助技術Ⅰ	1後	2		◎	○			
		基礎看護援助技術Ⅱ	2前	2		○	◎			
		看護援助論	2後	1			◎		○	
		看護援助演習	2後	1			◎		○	
		看護アセスメント演習	2前	1			◎		○	
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学Ⅰ	1前	1		◎	○			
		地域・在宅看護学Ⅱ	2前	2		◎	○			
		地域・在宅看護学Ⅲ	2後	2			◎	○		
		地域・在宅看護アセスメント演習	3前	1			◎	○		
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2前	1		◎	○			
		成人看護学Ⅱ	2後	2		◎	○			
		成人看護学Ⅲ	2後	2			◎	○		
		成人看護学Ⅳ	3前	1			◎	○		
		成人看護技術演習	3前	1		○	◎			
		クリティカルケア論	2後	1		◎	○			
	老年看護学	老年看護学Ⅰ	2前	1		◎	○			
		老年看護学Ⅱ	2後	1		○	◎			
		老年看護学Ⅲ	3前	2		○	◎			
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1後	1		◎				○
		小児看護学Ⅱ	2後	1		○	◎			
		小児看護学Ⅲ	3前	2		○	◎			
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	2前	1		◎				○
		母性看護学Ⅱ	2後	1		○	◎			
		母性看護学Ⅲ	3前	2		○	◎			
	精神看護学	精神看護学Ⅰ	2前	1		◎	○			
		精神看護学Ⅱ	2後	1		◎	○			
		精神看護学Ⅲ	3前	2		◎				○
	統合看護	災害看護学	4後	1		◎		○		
		医療安全学	2後	1			◎	○		
		家族看護学	2前	1			◎		○	
		国際看護学	3前		1			○		◎
		看護人間工学	2後		1		◎		○	
		リハビリテーション論	3後		1		◎	○		
		感染看護学Ⅰ	1後	1			◎		○	
		感染看護学Ⅱ	2前	1			○		◎	
		看護管理論	3前	1				◎	○	
		看護研究方法Ⅰ	3前	1			◎		○	
		看護研究方法Ⅱ	3後	1			◎		○	
		看護研究方法Ⅲ	4前	1			◎		○	
		看護特論	4後	2				○	◎	

区　分		授業科目	配当年次	単位数		DP(1)	DP(2)	DP(3)	DP(4)	DP(5)
				必修	選択					
専門分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		2	◎				○
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	2前	1		◎	○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2		○	◎			
		地域・在宅看護学実習	3・4	2			◎	○		
		急性期看護学実習	3・4	3		○	◎			
		慢性期看護学実習	3・4	3			◎	○		
		老年看護学実習	3・4	3		○	◎			
		小児看護学実習	3・4	2		○	◎			
		母性看護学実習	3・4	2		○	◎			
		精神看護学実習	3・4	2		◎	○			
		早期体験看護実習	1前	1		◎	○			
		統合看護学実習	4前	2			◎	○		
保健師課程	公衆衛生看護活動	保健医療福祉行政論Ⅰ	2後	2			○	◎		
		保健医療福祉行政論Ⅱ(演習)	3前	2			○		◎	
		地域看護診断論	3前	2				◎		○
		学校看護・産業看護	3前	2				◎		○
		健康教育論（演習含む）	3前	2				◎		○
		公衆衛生看護実践論Ⅰ	3前	2			◎		○	
		公衆衛生看護実践論Ⅱ	4前	2			◎		○	
		地域ケアシステム論	4前	2				◎	○	
		公衆衛生看護援助論(演習)	4前	2			◎		○	
	管理	健康危機管理論(演習)	4前	1		◎	○			
		公衆衛生看護管理論	4前	1				◎		○
	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4後	4		○		◎		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	1		○		◎		

看護学部看護学科カリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシー対比表）2021年度までの入学生用

ディプロマ・ポリシー （DP：学位授与方針）	**卒業認定・学位授与の方針**（ディプロマ・ポリシー） 卒業要件単位数を取得し、以下の能力を身につけたものに卒業が認定され、学位（看護学）が与えれらます。 ⑴生命の尊厳と人間の基本的権利を尊重できる豊かな人間性 ⑵看護の現象を科学的に探求し、看護学の発展に貢献できる基礎的能力 ⑶保健・医療・福祉において他職種と協働・連携する基礎的能力 ⑷看護実践者として継続的に学習する能力 ⑸グローバル社会における健康問題と看護の役割を認識する能力 **◎＝強く関連　○＝関連**

区分		授業科目	配当年次	単位数		DP⑴	DP⑵	DP⑶	DP⑷	DP⑸
				必修	選択					
基礎教育科目	人間と文化	生活美学	1前		2	○				
		言語と表現	1後		2	○				
		家族社会学	2前		2	○	◎			
		教育学	1後		1	○				
		音楽	2前		1	○				○
		哲学	2後		2	◎	○			
		心理学	1後	1		◎				
		国際文化論	1前	1		○				◎
		食文化論	1前	1		○	◎			
		生命倫理	1前	1		◎	○			
	自然と社会	日本国憲法	1前		2	◎	○			
		ジェンダー論	1前		2	◎				
		暮らしと経済	1前		2		◎			
		情報科学演習	1後		1		◎			
		生物学	1前		2		◎			
		物理	1後		2		◎			
		化学	1後	1			◎			
		情報科学	1前	1			◎			
		統計学	2前	1			◎			
	コミュニケーション	コミュニケーション英語Ⅰ	1後	2						◎
		コミュニケーション英語Ⅱ	2前	2						◎
		総合英語	1前	2						◎
		臨床応用英語	3前		1					◎
		英語文献講読	4後		1					◎
		中国語	1前		1					◎
		フランス語	1前		1					◎
		手話	1後		1	○		◎		
		コミュニケーション論	1後	1				◎		
		カウンセリング論	1後	1		◎		○		
	総合	健康運動スポーツ科学論	1前		1	◎				○
		健康運動スポーツ実技	1後		1	◎			○	
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体解剖学	1前	1			◎	○		
		人体組織学	1前	1			◎	○		
		人体生理学	1後	2			◎			
		生化学	1後	2			◎			
	健康障害と回復	病理学	1後	2			◎	○		
		免疫学	1後	2			◎	○		
		薬理学	2前	2			◎			
		病態治療学Ⅰ	1後	2			◎			
		病態治療学Ⅱ	2前	2			◎			
		病態治療学Ⅲ	2後	1			◎			
		病態生理学	2前	1			◎	○		
		臨床検査医学	2後	1			◎	○		
		臨床栄養学	2前	2			◎			

区分		授業科目	配当年次	単位数		DP(1)	DP(2)	DP(3)	DP(4)	DP(5)
				必修	選択					
専門基礎科目	健康支援と社会制度	公衆衛生学	2後	1			◎	○		
		国際保健環境学	3前	1		○				◎
		疫学	2後	2			◎	○		
		保健医療福祉行政論Ⅰ	2後	1			○	◎		
		保健医療福祉行政論Ⅱ	3前	2			○	◎		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1前	1		◎	○			
		看護学概論Ⅱ	2前	1		◎	○			
		ヘルスアセスメント	2前	2			◎		○	
		基礎看護援助技術Ⅰ	1後	2		◎	○			
		基礎看護援助技術Ⅱ	2前	2		○	◎			
		看護援助論	2後	1			◎		○	
		看護援助演習	2後	1			◎		○	
	成人看護学	成人看護援助概論	2前	1		◎	○			
		急性期看護援助概論	2後	1		◎	○			
		急性期看護援助論	3前	2		○	◎			
		慢性期療養生活援助概論	2後	1			◎	○		
		慢性期療養生活援助論	3前	2			◎	○		
		ターミナルケア論	4後		1	◎	○			
		リハビリテーション論	2前		1		◎	○		
		クリティカルケア論	2後		1	◎	○			
		がん看護	3前		1	◎	○			
	母性看護学	母性看護援助概論	2後	1		◎				○
		母性看護援助論	3前	2		○	◎			
	小児看護学	小児看護援助概論	2後	1		◎				○
		小児看護援助論	3前	2		○	◎			
	老年看護学	老年看護援助概論	2後	1		◎				
		老年看護援助論	3前	2			◎	○		
	精神看護学	精神看護援助概論	2前	1		◎	○			
		精神看護援助論	3前	2		◎	○			
	在宅看護学	在宅看護援助概論	2前	1		◎	○			
		在宅看護援助論	3前	2			◎	○		
	統合看護	学校看護	3前		1			○		◎
		災害看護	4後		1	◎		○		
		国際看護	2後		1			○		◎
		健康危機管理論	4前		1		◎	○		
		人間工学	2後		1		◎		○	
		特別講義	4後		1		◎		○	
		家族看護	3前		1		◎		○	
		生涯発達論	1後		1		◎		○	
		予防看護	2前	1			◎	○		
		感染看護	2前	1			◎		○	
		チームケア論	2前	1				◎		
		栄養ケア論	2後	1				◎		
		認知症看護	2後	1		◎				
		健康教育学Ⅰ	2後	1				◎		○
		健康教育学Ⅱ	3前	1				◎		○
		看護過程演習	3前	1			◎			
		看護管理論	3前	1				◎	○	
		保健統計学Ⅰ	2後	1			◎		○	
		保健統計学Ⅱ	3前	1			◎		○	
		看護研究方法Ⅰ	3前	1			◎		○	
		看護研究方法Ⅱ	4通年	1			◎		○	
		基礎ゼミナール	1前	1			◎		○	
		専門ゼミナール	3後	1			◎		○	

区　分		授業科目	配当年次	単位数		DP(1)	DP(2)	DP(3)	DP(4)	DP(5)
				必修	選択					
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	2前	1		◎		○		
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	3前	1				○		◎
		地域看護診断論	2後	2				◎		○
		地域ケアシステム論	4前	1				◎	○	
		公衆衛生看護援助論	4前	2			◎		○	
		公衆衛生活動看護実践論Ⅰ	3前	2			◎		○	
		公衆衛生活動看護実践論Ⅱ	3後	2			◎		○	
		公衆衛生看護管理論	4前	1				○		◎
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	2前	1		◎	○			
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	2		○	◎			
		急性期看護学実習	3後4前	3		○	◎			
		慢性期看護学実習	3後4前	3			◎	○		
		母性看護学実習	3後4前	2		○	◎			
		小児看護学実習	3後4前	2		○	◎			
		老年看護学実習Ⅰ	3後4前	2		○	◎			
		老年看護学実習Ⅱ	3後4前	2		○	◎			
		精神看護学実習	3後4前	2		◎	○			
		在宅看護学実習	3後4前	2			◎	○		
		統合看護実習	4前	2			◎	○		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	4後	4		○		◎		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	1		○		◎		

3．履修年次別授業科目編成表

表1　看護学部の授業科目および年次配当（2022年度からの入学生用）

区分		授業科目	配当年次	単位数		開講単位数								1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件
						1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	人間と文化	生活美学	1後		○		1							30	必修7単位＋選択2単位
		言語と表現	1前	○		1								30	
		家族社会学	1前	○		2								15	
		教育学	1前		○	1								15	
		音楽	1後		○		1							15	
		哲学	1前		○	1								15	
		心理学	1後	○			2							15	
		国際文化論	1前		○	1								15	
		食文化論	1前		○	1								15	
		生命倫理	1前	○		2								15	
	自然と社会	日本国憲法	1前	○		2								15	必修6単位＋選択3単位
		ジェンダー論	1前		○	1								15	
		暮らしと経済	1前		○	1								15	
		生物学	1前		○	2								15	
		物理学	1後		○		2							15	
		化学	1前	○		2								15	
		統計学	1後	○			1							30	
		データサイエンス演習	2前	○				1						30	
	コミュニケーション	ナーシングイングリッシュⅠ	1前	○		1								30	必修3単位＋選択2単位
		ナーシングイングリッシュⅡ	1後	○			1							30	
		ナーシングイングリッシュⅢ	2前	○				1						30	
		中国語	1前		○	1								30	
		フランス語	1前		○	1								30	
		ドイツ語	1前		○	1								30	
		手話	1後		○		1							30	
		コミュニケーション論	1後		○		1							30	
		カウンセリング論	1後		○		1							15	
	総合	基礎ゼミナール	1前	○		1								30	必修3単位＋選択1単位
		情報科学	1前	○		1								15	
		情報科学演習	1後	○			1							30	
		健康運動スポーツ科学論	1前		◎	1								15	
		健康運動スポーツ実技	1後		◎		1							30	
	小計														27
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体解剖学	1前	○		2								15	必修8単位
		人体組織学	1前	○		2								15	
		人体生理学	1後	○			2							15	
		生化学	1後	○			2							15	
	健康障害と回復	病理学	1後	○			2							15	必修18単位
		免疫学	1後	○			2							15	
		薬理学	2前	○				2						15	
		病態治療学Ⅰ	1後	○			2							15	
		病態治療学Ⅱ	2前	○				2						15	
		病態治療学Ⅲ	2後	○					2					15	
		病態生理学	2前	○				2						15	
		臨床検査医学	2後	○					1					15	
		病原微生物学	2前	○				1						15	
		臨床栄養学	3前	○						2				15	

区分		授業科目	配当年次	単位数		開講単位数								1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件
						1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎分野	健康支援と社会制度	公衆衛生学	2前	○				2						15	必修9単位
		疫学	2後	○					2					15	
		保健・医療・介護・福祉関係法規	2前	○				2						15	
		社会福祉学	3前	○						1				15	
		保健統計学	3前	○						2				15	
	小計														35
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1前	○		1								15	必修11単位
		看護学概論Ⅱ	2前	○				1						15	
		フィジカルアセスメント	2前	○				2						30	
		基礎看護援助技術Ⅰ	1後	○			2							30	
		基礎看護援助技術Ⅱ	2前	○				2						30	
		看護援助論	2後	○					1					15	
		看護援助演習	2後	○					1					30	
		看護アセスメント演習	2前	○				1						30	
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学Ⅰ	1前	○		1								15	必修6単位
		地域・在宅看護学Ⅱ	2前	○				2						15	
		地域・在宅看護学Ⅲ	2後	○						2				15	
		地域・在宅看護アセスメント演習	3前	○								1		30	
	成人看護学	成人看護学Ⅰ	2前	○				1						15	必修8単位
		成人看護学Ⅱ	2後	○					2					30	
		成人看護学Ⅲ	2後	○					2					30	
		成人看護学Ⅳ	3前	○						1				30	
		成人看護技術演習	3前	○						1				30	
		クリティカルケア論	2後	○					1					15	
	老年看護学	老年看護学Ⅰ	2前	○				1						15	必修4単位
		老年看護学Ⅱ	2後	○					1					15	
		老年看護学Ⅲ	3前	○						2				30	
	小児看護学	小児看護学Ⅰ	1後	○			1							15	必修4単位
		小児看護学Ⅱ	2後	○					1					15	
		小児看護学Ⅲ	3前	○						2				30	
	母性看護学	母性看護学Ⅰ	2前	○				1						15	必修4単位
		母性看護学Ⅱ	2後	○					1					15	
		母性看護学Ⅲ	3前	○						2				30	
	精神看護学	精神看護学Ⅰ	2前	○				1						15	必修4単位
		精神看護学Ⅱ	2後	○					1					15	
		精神看護学Ⅲ	3前	○						2				30	
	統合看護	災害看護学	4後	○									1	15	（看護師）必修11単位＋選択2単位 （保健師）必修13単位（公衆衛生看護学概論）
		医療安全学	2後	○					1					15	
		家族看護学	2前	○				1						15	
		国際看護学	3前		○					1				15	
		看護人間工学	2後		○				1					15	
		リハビリテーション論	3前		○					1				15	
		感染看護学Ⅰ	1後	○			1							15	
		感染看護学Ⅱ	2前	○				1						15	
		看護管理論	3前	○						1				30	
		看護研究方法Ⅰ	3前	○						1				15	
		看護研究方法Ⅱ	3後	○							1			30	
		看護研究方法Ⅲ	4前	○								1		30	
		看護特論	4後	○									2	15	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2後		◎				2					15	

区分		授業科目	配当年次	単位数		開講単位数								1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件
						1年次		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	2前	○				1						45	必修23単位
		基礎看護学実習Ⅱ	2後	○					2					45	
		地域・在宅看護学実習	3・4	○							2			45	
		急性期看護学実習	3・4	○							3			45	
		慢性期看護学実習	3・4	○							3			45	
		老年看護学実習	3・4	○							3			45	
		小児看護学実習	3・4	○							2			45	
		母性看護学実習	3・4	○							2			45	
		精神看護学実習	3・4	○							2			45	
		早期体験看護実習	1前	○		1								45	
		統合看護実習	4前	○								2		45	
	小計														77
保健師課程	公衆衛生看護活動	保健医療福祉行政論Ⅰ	2後	○					2					15	保健師課程必修25単位
		保健医療福祉行政論Ⅱ(演習)	3前	○						2				15	
		地域看護診断論	3前	○						2				15	
		学校保健・産業保健	3前	○						2				15	
		健康教育論（演習含む）	3前	○						2				15	
		公衆衛生看護実践論Ⅰ	3前	○						2				15	
		公衆衛生看護実践論Ⅱ	4前	○								2		15	
		地域ケアシステム論	4前	○								2		15	
		公衆衛生看護援助論(演習)	4前	○								2		15	
	管理	健康危機管理論（演習）	4前	○								1		15	
		公衆衛生看護管理論	4前	○								1		15	
	実習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4後	○									4	45	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4後	○									1	45	
	小計														25
卒業要件単位数															139
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数（◎は保健師課程必修）															164

表２［看護師課程］　看護学部の授業科目および年次配当（2021年度までの入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数		
					１年次		２年次		３年次		４年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎教育科目	人間と文化	生活美学		○	2								２以上	８以上	26以上
		言語と表現		○		2									
		家族社会学		○			2						２以上		
		教育学		○		1									
		音楽		○			1								
		哲学		○				2							
		心理学	○			1							４		
		国際文化論	○		1										
		食文化論	○		1										
		生命倫理	○		1										
	自然と社会	日本国憲法		○	2								２以上	７以上	
		ジェンダー論		○	2										
		暮らしと経済		○	2										
		情報科学演習		○		1							２以上		
		生物学		○	2										
		物理		○		2									
		化学	○			1							３		
		情報科学	○		1										
		統計学	○				1								
	コミュニケーション	コミュニケーション英語Ⅰ	○			2							６	10以上	
		コミュニケーション英語Ⅱ	○				2								
		総合英語	○		2										
		臨床応用英語		○					1				２以上		
		英語文献講読		○								1			
		中国語		○	1										
		フランス語		○	1										
		手話		○		1									
		コミュニケーション論	○			1							２		
		カウンセリング論	○			1									
	総合	健康運動スポーツ科学論		○	1								１以上	１以上	
		健康運動スポーツ実技		○		1									
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体解剖学	○		1								６	28	
		人体組織学	○		1										
		人体生理学	○			2									
		生化学	○			2									
	健康障害と回復	病理学	○			2							１５		
		免疫学	○			2									
		薬理学	○				2								
		病態治療学Ⅰ	○			2									
		病態治療学Ⅱ	○				2								
		病態治療学Ⅲ	○					1							
		病態生理学	○				1								
		臨床検査医学	○					1							
		臨床栄養学	○				2								
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	○					1					７		
		国際保健環境学	○						1						
		疫学	○					2							
		保健医療福祉行政論Ⅰ	○					1							
		保健医療福祉行政論Ⅱ	○						2						

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	○		1								10	50以上
		看護学概論Ⅱ	○				1							
		ヘルスアセスメント	○				2							
		基礎看護援助技術Ⅰ	○			2								
		基礎看護援助技術Ⅱ	○				2							
		看護援助論	○					1						
		看護援助演習	○					1						
	成人看護学	成人看護援助概論	○				1						7	
		急性期看護援助概論	○					1						
		急性期看護援助論	○						2					
		慢性期療養生活援助概論	○					1						
		慢性期療養生活援助論	○						2					
		ターミナルケア論		○								1	1以上	
		リハビリテーション論		○			1							
		クリティカルケア論		○				1						
		がん看護		○					1					
	母性看護学	母性看護援助概論	○					1					15	
		母性看護援助論	○						2					
	小児看護学	小児看護援助概論	○					1						
		小児看護援助論	○						2					
	老年看護学	老年看護援助概論	○					1						
		老年看護援助論	○						2					
	精神看護学	精神看護援助概論	○				1							
		精神看護援助論	○						2					
	在宅看護学	在宅看護援助概論	○				1							
		在宅看護援助論	○						2					
	統合看護	学校看護(2021年開講せず)		○					1				1以上	
		災害看護		○								1		
		国際看護		○			◀	1						
		健康危機管理論		○							1			
		人間工学		○				1					1以上	
		特別講義		○								1		
		家族看護		○					1					
		生涯発達論		○		1								
		予防看護	○				1						15	
		感染看護	○				1							
		チームケア論	○				1							
		栄養ケア論	○					1						
		認知症看護	○					1						
		健康教育学Ⅰ	○					1						
		健康教育学Ⅱ	○						1					
		看護過程演習	○						1					
		看護管理論	○						1					
		保健統計学Ⅰ	○					1						
		保健統計学Ⅱ	○						1					
		看護研究方法Ⅰ	○						1					
		看護研究方法Ⅱ	○									1		
		基礎ゼミナール	○		1									
		専門ゼミナール	○							1				

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	○				1						1	24
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○				1						23	
		基礎看護学実習Ⅱ	○					2						
		急性期看護学実習	○						3					
		慢性期看護学実習	○						3					
		母性看護学実習	○						2					
		小児看護学実習	○						2					
		老年看護学実習Ⅰ	○						2					
		老年看護学実習Ⅱ	○						2					
		精神看護学実習	○						2					
		在宅看護学実習	○						2					
		統合看護実習	○								2			
単位総合計					23	27	27	24	26	1	22	4	128以上	
					50		51		27		26			
					154（128）									

表３［保健師課程］　看護学部の授業科目および年次配当（2021年度までの入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					１年次		２年次		３年次		４年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	人間と文化	生活美学		○	2								２以上	８以上
		言語と表現		○		2								
		家族社会学		◎			2						２以上	
		教育学		○		1								
		音楽		○			1							
		哲学		○				2						
		心理学	○			1							４	
		国際文化論	○		1									
		食文化論	○		1									
		生命倫理	○		1									
	自然と社会	日本国憲法		◎	2								２以上	７以上
		ジェンダー論		○	2									
		暮らしと経済		○	2									
		情報科学演習		◎		1							２以上	
		生物学		○	2									
		物理		○		2								
		化学	○			1							３	
		情報科学	○		1									
		統計学	○				1							
	コミュニケーション	コミュニケーション英語Ⅰ	○			2							６	10以上
		コミュニケーション英語Ⅱ	○				2							
		総合英語	○		2									
		臨床応用英語		○					1				２以上	
		英語文献講読		○								1		
		中国語		○	1									
		フランス語		○	1									
		手話		○		1								
		コミュニケーション論	○			1							２	
		カウンセリング論	○			1								
	総合	健康運動スポーツ科学論		◎	1								１以上	１以上
		健康運動スポーツ実技		◎		1								
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体解剖学	○		1								６	６
		人体組織学	○		1									
		人体生理学	○			2								
		生化学	○			2								
	健康障害と回復	病理学	○			2							１５	１５
		免疫学	○			2								
		薬理学	○				2							
		病態治療学Ⅰ	○			2								
		病態治療学Ⅱ	○				2							
		病態治療学Ⅲ	○					1						
		病態生理学	○				1							
		臨床検査医学	○					1						
		臨床栄養学	○				2							
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	○					1					７	７
		国際保健環境学	○						1					
		疫学	○					2						
		保健医療福祉行政論Ⅰ	○					1						
		保健医療福祉行政論Ⅱ	○						2					

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	○		1								10	10
		看護学概論Ⅱ	○				1							
		ヘルスアセスメント	○				2							
		基礎看護援助技術Ⅰ	○			2								
		基礎看護援助技術Ⅱ	○				2							
		看護援助論	○					1						
		看護援助演習	○					1						
	成人看護学	成人看護援助概論	○				1						7	8以上
		急性期看護援助概論	○					1						
		急性期看護援助論	○						2					
		慢性期療養生活援助概論	○					1						
		慢性期療養生活援助論	○						2					
		ターミナルケア論		○								1	1以上	
		リハビリテーション論		○			1							
		クリティカルケア論		○				1						
		がん看護		○					1					
	母性看護学	母性看護援助概論	○					1					9	9
		母性看護援助論	○						2					
	小児看護学	小児看護援助概論	○					1						
		小児看護援助論	○						2					
	老年看護学	老年看護援助概論	○					1						
		老年看護援助論	○						2					
	精神看護学	精神看護援助概論	○				1						6	6
		精神看護援助論	○						2					
	在宅看護学	在宅看護援助概論	○				1							
		在宅看護援助論	○						2					
	統合看護	学校看護(2021年開講せず)		◎					1				1以上	17以上
		災害看護		◎								1		
		国際看護		◎			←1							
		健康危機管理論		◎							1			
		人間工学		○				1					1以上	
		特別講義		○								1		
		家族看護		◎					1					
		生涯発達論		○		1								
		予防看護	○				1						15	
		感染看護	○				1							
		チームケア論	○				1							
		栄養ケア論	○					1						
		認知症看護	○					1						
		健康教育学Ⅰ	○					1						
		健康教育学Ⅱ	○						1					
		看護過程演習	○						1					
		看護管理論	○						1					
		保健統計学Ⅰ	○					1						
		保健統計学Ⅱ	○						1					
		看護研究方法Ⅰ	○						1					
		看護研究方法Ⅱ	○									1		
		基礎ゼミナール	○		1									
		専門ゼミナール	○							1				

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	○				1						12	12
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	○						1					
		地域看護診断論	○					2						
		地域ケアシステム論	○								1			
		公衆衛生看護援助論	○								2			
		公衆衛生活動看護実践論Ⅰ	○						2					
		公衆衛生活動看護実践論Ⅱ	○							2				
		公衆衛生看護管理論	○								1			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○				1						23	23
		基礎看護学実習Ⅱ	○					2						
		急性期看護学実習	○							3				
		慢性期看護学実習	○							3				
		母性看護学実習	○							2				
		小児看護学実習	○							2				
		老年看護学実習Ⅰ	○							2				
		老年看護学実習Ⅱ	○							2				
		精神看護学実習	○							2				
		在宅看護学実習	○							2				
		統合看護実習	○								2			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	○									4	5	5
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	○									1		
単位総合計					23	27	27	26	30	1	27	9		146以上
					50		53		31		36			
					170（146）									

◎印：保健師免許取得（養護教諭２種免許申請を含む）のために履修が必要な科目

表４［看護師課程］　看護学部の授業科目および年次配当（2019年度までの入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数		
					１年次		２年次		３年次		４年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎教育科目	人間と文化	生活美学		○	2								２以上	８以上	26以上
		言語と表現		○		2									
		家族社会学		○			2						２以上		
		教育学		○		1									
		音楽		○			1								
		哲学		○				2							
		心理学	○			1							４		
		国際文化論	○		1										
		食文化論	○		1										
		生命倫理	○			1									
	自然と社会	日本国憲法		○	2								２以上	７以上	
		ジェンダー論		○	2										
		暮らしと経済		○	2								２以上		
		生物学		○	2										
		物理		○		2									
		化学	○			1							３		
		情報科学	○		1										
		統計学	○				1								
	コミュニケーション	コミュニケーション英語Ⅰ	○			2							６	10以上	
		コミュニケーション英語Ⅱ	○				2								
		総合英語	○		2										
		臨床応用英語		○					1				２以上		
		英語文献講読		○								1			
		中国語		○	1										
		フランス語		○	1										
		手話		○		1									
		コミュニケーション論	○			1							２		
		カウンセリング論	○			1									
	総合	健康運動スポーツ科学論		○	1								１以上	１以上	
		健康運動スポーツ実技		○		1									
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体解剖学	○		1								６	28	
		人体組織学	○		1										
		人体生理学	○			2									
		生化学	○			2									
	健康障害と回復	病理学	○			2							１５		
		免疫学	○			2									
		薬理学	○				2								
		病態治療学Ⅰ	○			2									
		病態治療学Ⅱ	○				2								
		病態治療学Ⅲ	○					1							
		病態生理学	○				1								
		臨床検査医学	○					1							
		臨床栄養学	○				2								
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	○					1					７		
		国際保健環境学	○						1						
		疫学	○					2							
		保健医療福祉行政論Ⅰ	○					1							
		保健医療福祉行政論Ⅱ	○						2						

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	○		1								10	50以上
		看護学概論Ⅱ	○				1							
		ヘルスアセスメント	○				2							
		基礎看護援助技術Ⅰ	○			2								
		基礎看護援助技術Ⅱ	○				2							
		看護援助論	○					1						
		看護援助演習	○					1						
	成人看護学	成人看護援助概論	○				1						7	
		急性期看護援助概論	○					1						
		急性期看護援助論	○						2					
		慢性期療養生活援助概論	○					1						
		慢性期療養生活援助論	○						2					
		ターミナルケア論		○								1	1以上	
		リハビリテーション論		○			1							
		クリティカルケア論		○				1						
		がん看護		○					1					
	母性看護学	母性看護援助概論	○					1					15	
		母性看護援助論	○						2					
	小児看護学	小児看護援助概論	○					1						
		小児看護援助論	○						2					
	老年看護学	老年看護援助概論	○					1						
		老年看護援助論	○						2					
	精神看護学	精神看護援助概論	○				1							
		精神看護援助論	○						2					
	在宅看護学	在宅看護援助概論	○				1							
		在宅看護援助論	○						2					
	統合看護	学校看護(2021年開講せず)		○				1					1以上	
		災害看護		○								1		
		国際看護		○					1					
		健康危機管理論		○								1		
		人間工学		○				1					1以上	
		特別講義		○								1		
		家族看護		○					1					
		生涯発達論		○		1								
		予防看護	○				1						15	
		感染看護	○				1							
		チームケア論	○				1							
		栄養ケア論	○					1						
		認知症看護	○					1						
		健康教育学Ⅰ	○					1						
		健康教育学Ⅱ	○						1					
		看護過程演習	○						1					
		看護管理論	○						1					
		保健統計学Ⅰ	○					1						
		保健統計学Ⅱ	○						1					
		看護研究方法Ⅰ	○							1				
		看護研究方法Ⅱ	○									1		
		基礎ゼミナール	○		1									
		専門ゼミナール	○							1				

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	○				1						1	24
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○				1						23	
		基礎看護学実習Ⅱ	○					2						
		急性期看護学実習	○							3				
		慢性期看護学実習	○							3				
		母性看護学実習	○							2				
		小児看護学実習	○							2				
		老年看護学実習Ⅰ	○							2				
		老年看護学実習Ⅱ	○							2				
		精神看護学実習	○							2				
		在宅看護学実習	○							2				
		統合看護実習	○								2			
単位総合計													128以上	

表５［保健師課程］　看護学部の授業科目および年次配当（2019年度までの入学生用）

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					１年次		２年次		３年次		４年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	人間と文化	生活美学		○	2								2以上	8以上
		言語と表現		○		2								
		家族社会学		◎			2						2以上	
		教育学		○		1								
		音楽		○			1							
		哲学		○				2						
		心理学	○			1							4	
		国際文化論	○		1									
		食文化論	○		1									
		生命倫理	○			1								
	自然と社会	日本国憲法		◎	2								2以上	7以上
		ジェンダー論		○	2									
		暮らしと経済		○	2								2以上	
		生物学		○	2									
		物理		○		2								
		化学	○			1							3	
		情報科学	○		1									
		統計学	○				1							
	コミュニケーション	コミュニケーション英語Ⅰ	○			2							6	10以上
		コミュニケーション英語Ⅱ	○				2							
		総合英語	○		2									
		臨床応用英語		○					1				2以上	
		英語文献講読		○								1		
		中国語		○	1									
		フランス語		○	1									
		手話		○		1								
		コミュニケーション論	○			1							2	
		カウンセリング論	○			1								
	総合	健康運動スポーツ科学論		◎	1								1以上	1以上
		健康運動スポーツ実技		◎		1								
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体解剖学	○		1								6	6
		人体組織学	○		1									
		人体生理学	○			2								
		生化学	○			2								
	健康障害と回復	病理学	○			2							15	15
		免疫学	○			2								
		薬理学	○				2							
		病態治療学Ⅰ	○			2								
		病態治療学Ⅱ	○				2							
		病態治療学Ⅲ	○					1						
		病態生理学	○				1							
		臨床検査医学	○					1						
		臨床栄養学	○				2							
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	○					1					7	7
		国際保健環境学	○						1					
		疫学	○					2						
		保健医療福祉行政論Ⅰ	○					1						
		保健医療福祉行政論Ⅱ	○						2					

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	○		1								10	10
		看護学概論Ⅱ	○				1							
		ヘルスアセスメント	○				2							
		基礎看護援助技術Ⅰ	○			2								
		基礎看護援助技術Ⅱ	○				2							
		看護援助論	○					1						
		看護援助演習	○					1						
	成人看護学	成人看護援助概論	○				1						7	8以上
		急性期看護援助概論	○					1						
		急性期看護援助論	○						2					
		慢性期療養生活援助概論	○					1						
		慢性期療養生活援助論	○						2					
		ターミナルケア論		○								1	1以上	
		リハビリテーション論		○			1							
		クリティカルケア論		○				1						
		がん看護		○					1					
	母性看護学	母性看護援助概論	○					1					9	9
		母性看護援助論	○						2					
	小児看護学	小児看護援助概論	○					1						
		小児看護援助論	○						2					
	老年看護学	老年看護援助概論	○					1						
		老年看護援助論	○						2					
	精神看護学	精神看護援助概論	○				1						6	6
		精神看護援助論	○						2					
	在宅看護学	在宅看護援助概論	○				1							
		在宅看護援助論	○						2					
	統合看護	学校看護(2021年開講せず)		◎				1					1以上	17以上
		災害看護		◎								1		
		国際看護		◎					1					
		健康危機管理論		◎								1		
		人間工学		○				1					1以上	
		特別講義		○								1		
		家族看護		◎					1					
		生涯発達論		○		1								
		予防看護	○				1						15	
		感染看護	○				1							
		チームケア論	○				1							
		栄養ケア論	○					1						
		認知症看護	○					1						
		健康教育学Ⅰ	○					1						
		健康教育学Ⅱ	○						1					
		看護過程演習	○						1					
		看護管理論	○						1					
		保健統計学Ⅰ	○					1						
		保健統計学Ⅱ	○						1					
		看護研究方法Ⅰ	○							1				
		看護研究方法Ⅱ	○									1		
		基礎ゼミナール	○		1									
		専門ゼミナール	○							1				

区分		授業科目	必修	選択	開講単位数								履修すべき単位数	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	○				1						12	12
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	○						1					
		地域看護診断論	○					2						
		地域ケアシステム論	○								1			
		公衆衛生看護援助論	○								2			
		公衆衛生活動看護実践論Ⅰ	○						2					
		公衆衛生活動看護実践論Ⅱ	○						2					
		公衆衛生看護管理論	○								1			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	○				1						23	23
		基礎看護学実習Ⅱ	○					2						
		急性期看護学実習	○							3				
		慢性期看護学実習	○							3				
		母性看護学実習	○							2				
		小児看護学実習	○							2				
		老年看護学実習Ⅰ	○							2				
		老年看護学実習Ⅱ	○							2				
		精神看護学実習	○							2				
		在宅看護学実習	○							2				
		統合看護実習	○								2			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	○									4	5	5
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	○									1		
単位総合計					22	27	27	26	30	20	7	10		146以上
					49		53		50		17			
					169（146）									

◎印：保健師免許取得（養護教諭２種免許申請を含む）のために履修が必要な科目

表６　看護学部先修条件科目一覧（2022年度からの入学生より適用）
（右欄の科目の単位を修得していないと履修できない）

先修条件のある科目名	学年	期間	単位修得が必要な科目		
看護学概論Ⅱ	２年	前期	看護学概論Ⅰ	１年	前期
感染看護学Ⅱ	２年	前期	感染看護学Ⅰ	１年	後期
基礎看護援助技術Ⅱ	２年	後期	基礎看護援助技術Ⅰ	１年	後期
看護援助論	２年	後期	看護学概論Ⅱ	２年	前期
			フィジカルアセスメント	２年	前期
			基礎看護援助技術Ⅱ	２年	前期
			看護アセスメント演習	２年	前期
			基礎看護学実習Ⅰ	２年	前期
看護援助演習	２年	後期	看護援助論	２年	後期
基礎看護学実習Ⅰ	２年	前期	看護学概論Ⅰ	２年	前期
			基礎看護援助技術Ⅰ	２年	前期
基礎看護学実習Ⅱ	２年	後期	看護援助演習	２年	後期
地域・在宅看護学Ⅱ	２年	前期	地域・在宅看護学Ⅰ	１年	前期
地域・在宅看護学Ⅲ	２年	後期	地域・在宅看護学Ⅱ	２年	前期
地域・在宅看護アセスメント演習	３年	前期	地域・在宅看護学Ⅲ	２年	後期
成人看護学Ⅱ	２年	後期	成人看護学Ⅰ	２年	前期
成人看護学Ⅲ	２年	後期	成人看護学Ⅰ	２年	前期
成人看護技術演習	３年	前期	成人看護学Ⅱ	２年	後期
成人看護学Ⅳ	３年	前期	成人看護学Ⅲ	２年	後期
母性看護学Ⅱ	２年	後期	母性看護学Ⅰ	２年	前期
母性看護学Ⅲ	３年	前期	母性看護学Ⅱ	２年	後期
小児看護学Ⅱ	２年	後期	小児看護学Ⅰ	１年	後期
小児看護学Ⅲ	３年	前期	小児看護学Ⅱ	２年	後期
老年看護学Ⅱ	２年	後期	老年看護学Ⅰ	２年	前期
老年看護学Ⅲ	３年	前期	老年看護学Ⅱ	２年	後期
精神看護学Ⅱ	３年	前期	精神看護学Ⅰ	２年	前期
精神看護学Ⅲ	２年	後期	精神看護学Ⅱ	２年	後期
看護研究方法Ⅱ	３年	後期	看護研究方法Ⅰ	３年	前期
看護研究方法Ⅲ	４年	前期	看護研究方法Ⅱ	３年	後期
地域・在宅看護学実習	３年後期・４年前期		地域・在宅看護学Ⅲ	２年	後期
			地域・在宅看護アセスメント演習	３年	前期
急性期看護学実習	３年後期・４年前期		成人看護技術演習	３年	前期
			成人看護学Ⅳ	３年	前期
慢性期看護学実習	３年後期・４年前期		成人看護技術演習	３年	前期
			成人看護学Ⅳ	３年	前期
母性看護学実習	３年後期・４年前期		母性看護学Ⅲ	３年	前期
小児看護学実習	３年後期・４年前期		小児看護学Ⅲ	３年	前期
老年看護学実習	３年後期・４年前期		老年看護学Ⅲ	３年	前期
精神看護学実習	３年後期・４年前期		精神看護学Ⅲ	３年	前期
統合看護実習	４年	前期	地域・在宅看護学実習	３年後期・４年前期	
			急性期看護学実習	３年後期・４年前期	
			慢性期看護学実習	３年後期・４年前期	
			母性看護学実習	３年後期・４年前期	
			小児看護学実習	３年後期・４年前期	
			老年看護学実習	３年後期・４年前期	
			精神看護学実習	３年後期・４年前期	
公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	４年	後期	保健統計学	３年	前期
			保健医療福祉行政論Ⅱ（演習）	３年	前期
			地域看護診断論	３年	前期
			学校保健・産業保健	３年	前期
			健康教育論（演習含む）	３年	前期
			公衆衛生看護実践論Ⅰ	３年	前期
			公衆衛生看護実践論Ⅱ	４年	前期
			地域ケアシステム論	４年	前期
			公衆衛生看護援助論（演習）	４年	前期
			健康危機管理論（演習）	４年	前期
			公衆衛生看護管理論	４年	前期

表７　看護学部先修条件科目一覧（2021年度までの入学生に適用）
（右欄の科目の単位を修得していないと履修できない）

先修条件のある科目名	学年	期間	単位修得が必要な科目		
看護学概論Ⅱ	２年	前期	看護学概論Ⅰ	１年	前期
基礎看護援助技術Ⅱ	２年	前期	基礎看護援助技術Ⅰ	１年	後期
基礎看護学実習Ⅰ	２年	前期	看護学概論Ⅰ	１年	前期
			基礎看護援助技術Ⅰ	１年	後期
看護援助論	２年	後期	看護学概論Ⅱ	２年	前期
			基礎看護学実習Ⅰ	２年	前期
			ヘルスアセスメント	２年	前期
			基礎看護援助技術Ⅱ	２年	前期
看護援助演習	２年	後期	看護援助論	２年	後期
基礎看護学実習Ⅱ	２年	後期	看護学概論Ⅱ	２年	前期
			基礎看護学実習Ⅰ	２年	前期
			ヘルスアセスメント	２年	前期
			基礎看護援助技術Ⅱ	２年	前期
			看護援助論	２年	後期
			看護援助演習	２年	後期
保健医療福祉行政論Ⅱ	３年	前期	保健医療福祉行政論Ⅰ	２年	後期
急性期看護援助論	３年	前期	急性期看護援助概論	２年	後期
慢性期療養生活援助論	３年	前期	慢性期療養生活援助概論	２年	後期
母性看護援助論	３年	前期	母性看護援助概論	２年	後期
小児看護援助論	３年	前期	小児看護援助概論	２年	後期
老年看護援助論	３年	前期	老年看護援助概論	２年	後期
精神看護援助論	３年	前期	精神看護援助概論	２年	前期
在宅看護援助論	３年	前期	在宅看護援助概論	２年	前期
健康教育学Ⅱ	３年	前期	健康教育学Ⅰ	２年	後期
保健統計学Ⅱ	３年	前期	保健統計学Ⅰ	２年	後期
公衆衛生活動看護実践論Ⅱ	３年	後期	公衆衛生活動看護実践論Ⅰ	３年	前期
急性期看護学実習	３年後期・４年前期		急性期看護援助概論	２年	後期
			急性期看護援助論	３年	前期
慢性期看護学実習	３年後期・４年前期		慢性期療養生活援助概論	２年	後期
			慢性期療養生活援助論	３年	前期
母性看護学実習	３年後期・４年前期		母性看護援助概論	２年	後期
			母性看護援助論	３年	前期
小児看護学実習	３年後期・４年前期		小児看護援助概論	２年	後期
			小児看護援助論	３年	前期
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ	３年後期・４年前期		老年看護援助概論	２年	後期
			老年看護援助論	３年	前期
精神看護学実習	３年後期・４年前期		精神看護援助概論	２年	前期
			精神看護援助論	３年	前期
在宅看護学実習	３年後期・４年前期		在宅看護援助概論	２年	前期
			在宅看護援助論	３年	前期
看護研究方法Ⅱ	４年	通年	看護研究方法Ⅰ	３年	後期
公衆衛生看護学概論Ⅱ	４年	前期	公衆衛生看護学概論Ⅰ	２年	前期
統合看護実習	４年	前期	急性期看護学実習	３年後期・４年前期	
			慢性期看護学実習	３年後期・４年前期	
			母性看護学実習	３年後期・４年前期	
			小児看護学実習	３年後期・４年前期	
			老年看護学実習Ⅰ	３年後期・４年前期	
			老年看護学実習Ⅱ	３年後期・４年前期	
			精神看護学実習	３年後期・４年前期	
			在宅看護学実習	３年後期・４年前期	
公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	４年	後期	地域看護診断論	２年	後期
			地域ケアシステム論	３年	前期
			公衆衛生看護援助論	３年	前期
			公衆衛生活動看護実践論Ⅰ	３年	前期
			公衆衛生看護学概論Ⅱ	４年	前期
			公衆衛生活動看護実践論Ⅱ	４年	前期
			公衆衛生看護管理論	４年	前期

４．科目の先修条件

表６、表７の左列の科目を履修するためには右に記載された科目を履修し、単位修得済みでなければ履修登録することができない。

５．３年次への進級

２年次後期までに配当された科目の単位が取得できない場合は３年次への進級は「不可」とし、２年次に原級留め置きとする。

６．臨地実習概要（図１）

１）臨地実習の基本方針

看護は実践の科学であり、看護教育課程における臨地実習は重点的な科目である。

本学部では、地域の医療と連携し、倫理観を育みかつ人間性豊かな看護実践能力の高い看護職者の育成を目指し、臨地実習を通して、看護の理論と実践の統合をはかる。臨地実習では、看護の対象と直接に接して、対象特性や臨地の場を理解して、学内での学びを応用展開する能力を育む機会と位置付ける。臨地実習は大学近隣の病院、施設等において本学の目的を達成するために講義、学内演習を土台に基礎的な実習を１年から２年に、各看護学の実習は３年から４年にかけて段階的に学修する。

２）先修科目の履修と実習の関わり　（先修要件表　参照）

各看護援助論等実習を履修するには、先修要件に示されているように必要な単位が修得されていない学生は臨地実習を履修することができない。

３）倫理・SNS（ソーシャル・ネット　サービス）の使用について

☆講義中あるいは、実習中に提示された画像を許可なく撮影することを禁ずる。

☆学業に支障をきたすSNSの活用ならびに学内視聴の動画、教材をSNSを介して、許可なく発信することを禁じる。

☆実習に関する事柄、実習の風景、実習中に見学した臓器、看護の対象について　SNSに記載することにより、実習施設における実習が長期間にわたりできなくなるので十二分に注意する。ひとりの学生のSNS記載により、すべての学生が被害をうけることを認識する。

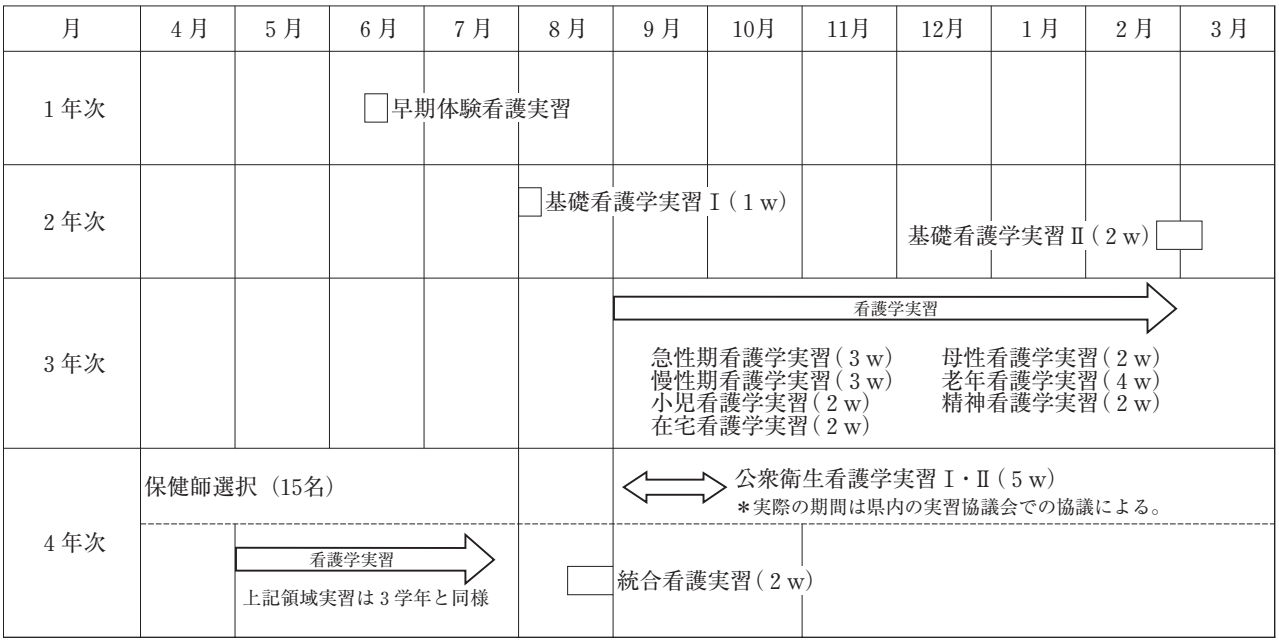
（実習各施設に臨地実習を受けていただけないために、全学生が実習できない状況が発生する）

４）実習関連について

☆再実習は原則行わない。

☆追実習については、病気等により実習ができない場合、協議の上、追実習を行うことがある。ただし、臨地実習施設等の調整により、実習が確定するので当該年度に実習を行うことができないことがある。その場合は、次年度、再履修を行う。

図１　臨地実習全体



７．卒業要件

卒業要件は、４年間以上在籍し、看護師課程カリキュラムに指定された履修すべき単位の条件を満たし、128単位（令和４年度生以降139単位）以上修得したもの、保健師課程カリキュラム選択者は146単位（令和４年度生以降は164単位）以上取得した学生に学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。また、学位授与者は、保健師・看護師国家試験受験資格を付与する。

基礎分野

◇ 人間と文化

◇ 自然と社会

◇ コミュニケーション

◇ 総合

生活美学

Life Aestheties

担当教員名	堀　義幸	実務経験（年数）	彫刻家　35年
英語氏名	HORI Yoshiyuki	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後研究室にて質問を受け付ける。	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	空間、立体、重心、静、動	授業方法	講義・演習
授業概要	形態の美とは何かという本質に触れながら、学生各々の身辺に広がる自然・芸術及び周辺領域も含めた現空間に存在する形態の構造を考察し体験する。		
教育目標	視覚的表現を理解した上で表現方法を段階的に学び、形態の理解を深める検証をおこなう。看護学部ディプロマ・ポリシーの①に関連する。		
到達目標	自らをとりまく空間を認識し、観察能力を高め表現力を身につけることができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する研究を継続し、課題について意欲的に取り組む。１単位あたりの自習時間はおよそ30時間が目安。		
教科書・教材	適宜資料を配布する。		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	授業の参加態度（30%）、提出物（70%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス　授業についての概要説明	立体を学ぶ意味を理解できる。
2	二次元と三次元を理解する	平面と立体の違いを理解できる。
3	空間を理解する	三次元を理解できる。
4	視点を理解する	対象の見え方の変化を理解する。
5	骨格を理解する	立体物の芯を理解できる。
6	陰影法を理解する	光の存在を認識できる。
7	遠近法を理解する	視点を認識できる。
8	立体の表現方法を学ぶ	二次元を理解できる。
9	安定と不安定について学ぶ	物体の関係性を認識できる。
10	配置について学ぶ	物体の位置関係を把握することができる。
11	動きを表現する	重心の変化が理解できる。
12	静と動を理解する	重心の安定・不安定を認識できる。
13	人体を表現する	立位、座位を表現できる。
14	人体の動きを表現する	体重移動を表現できる。
15	まとめ	学習した事項について整理し理解を深めることができる。

言語と表現

Language and Expression

担当教員名	青山　勇樹	実務経験（年数）	高等学校国語教員31年　うち教頭14年
英語氏名	AOYAMA Yuki	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月曜日12：15～12：45および16：15～17：15 （於7611研究室）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	適切な記述、言葉の論理、接続表現	授業方法	講義
授業概要	学術的・実務的な文章において必要な基本的技能に習熟するため、初等中等教育で習得した能力を確認したうえで、日本語についての理解をより深めるとともに、実践的な演習を実施する。		
教育目標	日本語リテラシーに関する知識や技能を習得し、日本語を用いて豊かな人間性を育むための礎を築く。看護学部ディプロマ・ポリシーの①に関連する。		
到達目標	学術的な、あるいは実務的な文章を書くための日本語リテラシーに関する知識や技能を習得することで、学業や社会で役立つ表現技術が獲得できる。		
予習・復習	毎時の授業内容を復習し、理解を深めたうえで、指定された課題に取り組むこと。週３時間を目安に予習・復習すること（課題も含む）。		
教科書・教材	授業時に、必要な教材を配付する。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（60%）、毎授業時のレポート提出（30%）、課題提出（10%）で評価する。 レポートおよび課題は返却し、課題は次時に解説する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス	日本語リテラシーに関する知識や技術を習得する意義と方法とについて理解できる。
2	適切な記述(1)　事実と意見との相違	説明文の記述における事実と意見との相違について理解し、適切な記述に修正できる。
3	適切な記述(2)　情報源と判断者	説明文の記述における情報源と判断者とに着目し、的確に指摘できる。
4	日本語の言葉遣い(1)　仮名遣い、重複表現	日本語の言葉遣いを理解し、仮名遣いや重複表現の誤用について正すことができる。
5	日本語の言葉遣い(2)　敬語、可能・使役表現	日本語の言葉遣いを理解し、敬語や可能・使役表現の誤用について正すことができる。
6	わかりにくい表現(1)　具体的な情報の欠落	具体的な情報が欠落しているためわかりにくい表現について、適切に修正できる。
7	わかりにくい表現(2)　多義的な解釈の発生	多義的な解釈を生んでしまう誤謬の例を理解し、一義的な文章に修正できる。
8	わかりやすい文章(1)　段落	わかりやすい文章を書くための段落の役割と、形式や順序とについて理解できる。
9	わかりやすい文章(2)　トピックセンテンス	文章技術の一つとして、各段落にトピックセンテンスを立てる方法について理解できる。
10	接続表現(1)　順接・逆接・添加・選択	言葉の論理に不可欠な接続表現のうち、順接・逆接・添加・選択について理解できる。
11	接続表現(2)　換言・例示・理由・転換	言葉の論理に不可欠な接続表現のうち、換言・例示・理由・転換について理解できる。
12	引用の方法	著作権法および文化庁が示す著作物等の引用の条件について理解できる。
13	小論文(1)　準備	小論文における段落の設定方法や評価基準、参考文献の読み方について理解できる。
14	小論文(2)　執筆	設定した段落ごとにトピックセンテンスを明確に示すことで、質の高い小論文が執筆できる。
15	まとめ	日本語リテラシーの習得により、目標とした表現技術が獲得できたかどうか検証できる。

家族社会学

Family Sociology

担当教員名	佐々木　政司	実務経験（年数）	
英語氏名	SASAKI Masashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水12：10～12：50（於7621研究室）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	家族　社会化　ライフコース	授業方法	講義
授業概要	社会学の枠組みを用いて、制度、集団のそれぞれの観点から家族の変遷と多様性、現代的特徴について講義する。また、家族の生活と健康障害との関連や疾病・障害が家族生活に及ぼす影響などについても説明する。		
教育目標	社会学における基本的な考え方を用いて、多様化する現代家族の特質を理解し、個人と家族の生活を把握するための基礎となる知識や視点を養う。ディプロマ・ポリシーの①と②に該当する。		
到達目標	現代家族についての基礎的知識を獲得し、家族集団の一員という視点から家族と健康について検討できる。		
予習・復習	シラバスで次回の講義内容を確認し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、各回で学習した内容について十分に理解を深めておくこと。予習・復習でそれぞれ90分必要とする。各回小レポートを課す（授業で解説）。		
教科書・教材	授業時に適宜プリント配布。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100％）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	社会と構造	人間の社会生活における個人の行動を行為と構造の観点から説明できる。普遍的な家族の定義の不可能性について説明できる。
2	社会と家族	個人と社会を結ぶ単位として家族を説明できる。普遍的な家族の定義の不可能性について説明できる。
3	「家」制度と近代家族、家族の類型	伝統家族から近代家族への変化について理解し、情緒的関係を中心に近代家族を説明できる。 家族類型について理解し、近年の特徴について説明できる。
4	家族機能の外部化・縮小化	家族機能の外部化・縮小化の進展とその影響について説明できる。
5	家族の多様化	核家族や単身世帯の増加、ステップファミリー、事実婚など近代的家族形態について説明できる。
6	家族の個人化	家族関係の希薄化に伴う家族の個人化について説明できる。
7	ライフコース・ライフスタイルとしての家族	ライフコースにおける家族の変化とライフスタイルとしての家族について説明できる。
8	労働と家族	雇用形態と家族の形成・維持の関係について説明できる。
9	結婚行動と結婚の安定性	家族変容の契機の１つとしての結婚・離婚とその今日的変化について説明できる。
10	親子関係と子育て	家族内の世代関係について理解し、説明できる。子どもの社会化における家族の意義とその影響について説明できる。
11	高齢者介護と家族	高齢者介護について、高齢者の家族形態と介護者の関係から説明できる。
12	健康と家族	家族が健康に及ぼす影響について家族周期論と家族システム論を基に説明できる。
13	家族病理と家族モデル	家庭内暴力などについて家族モデルと家族病理の観点から説明できる。
14	家族と近隣コミュニティ	家族を取り巻く社会的ネットワークとしての近隣コミュニティについて理解し、現代的な特徴について説明できる。
15	家族政策	少子化対策や子育て支援、貧困対策について理解し、その意義と今後について説明できる。

教育学

Study of Education

担当教員名	有働　真太郎	実務経験（年数）	
英語氏名	UDO Shintaro	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業前を除く随時（7702研究室）	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	教育に対する関心と思考	必修・選択	選択
キーワード	近代学校　人間形成　学級　クラス　子ども	授業方法	講義
授業概要	教育の歴史・思想を学習し、社会的機能としての教育、学校のあり方について考える。		
教育目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。ディプロマ・ポリシーの①に該当する。		
到達目標	教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。		
予習・復習	レポート作成に際し、複数の文献と資料に当たること。 1単位あたりの自習時間は30時間を目安である。		
教科書・教材	各時間ごとに配布する。		
参考書	P. アリエス『「教育」の誕生』藤原書店、1992年　978－4938661502 柳治男『＜学級＞の歴史学』講談社選書メチエ、2005年　978－4062583251		
成績評価方法 フィードバック	レポート（70%）　受講状況（30%）		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス：講義の仕組みの説明、教育学の意味	講義の仕組みを理解する。 教育学の目的や目標について考え続ける態度。
2	人間形成の環境としての教育	人間形成における教育の必要性について、野生児研究やホスピタリズムの研究、人間形成の前成説、白紙説、輻輳説、および遺伝率について学習し、教育の意味を考えられる。
3	近代子ども観の誕生	P. アリエスの著作等を通じて近代以降の子ども観が造り出された背景を理解する。
4	後期近代の子どもの変容	N. ポストマンやA. プラウトを通じて、後期近代社会における技術革新や社会変動による「子ども」の変化を理解する。
5	市民形成論と教育思想	ロックやルソーといった社会契約説・市民形成論を通じて、近代社会における人間形成のあり方を理解する。
6	「クラス」「学級」の成立と課題	モニトリアルシステム、学年学級制など、組織的な教育が確立されてきた経緯や歴史的意義、そして現代的な課題を理解する。
7	文化・教育・格差	言語コード論などを通じて、教育における社会階層による差異の問題を理解する。 潜在的カリキュラムの問題について理解する。
8	教育の効果と教育政策	教育の効果・質について理解する。 「潜在能力」の点から教育と格差について考える。

音楽

Music

担当教員名	岡田　暁子	実務経験（年数）	
英語氏名	OKADA Akiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後30分間（当該教室もしくは非常勤講師室） 都合の合わない場合は、メールで対応する。	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	特になし	必修・選択	選択
キーワード	音楽　文化　歴史　遊び	授業方法	演習
授業概要	音楽について、ジャンルやその歴史、文化、宗教など様々な角度から学び、視聴を交えながら理解を深める。また、歌唱、演奏、音楽遊びなどの活動を通して音楽に親しむ。		
教育目標	人間の心に響く対話力や表現力を高めることを目的とする。世界の様々な音楽に触れたり、自ら奏でたりして音楽への愛好心を深める。ディプロマ・ポリシーの①と⑤に該当する。		
到達目標	教養としての音楽の知識を深め、多様な音楽や音楽の役割について関心をもつことができる。 歌うことや奏でることなどを通して、心から音楽を楽しむことができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関連した音楽について自分なりに調べる（視聴可）。		
教科書・教材	必要に応じて授業内にて資料を配布する。		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	提出物（40%）、レポート（60%）、受講態度を考慮して総合的にして評価する。 提出物は返却、レポートは成績評価としてのフィードバックとし、希望者には講評する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	音楽の起源、人間と音楽について、関連曲を鑑賞しながら学ぶ。	音楽の起源、人間と音楽のつながりについて考え、鑑賞曲に親しむ。
2	クラシック音楽、ピアノの歴史について、ピアノ楽曲鑑賞を交えながら学ぶ。	クラシック音楽とピアノの歴史の概要について理解し、鑑賞曲に親しむ。
3	歌うことに親しみ、合唱を楽しむ。	みんなで声を合わせて歌う心地よさを味わうことができる。
4	日本の音楽について鑑賞を交えながら学ぶ。	日本の音楽の概要について理解し、鑑賞曲を楽しむ。
5	アメリカの音楽について鑑賞を交えながら学ぶ。	音楽と諸芸術の関連について理解し、融合作品に親しむ。
6	音楽療法の概要について学ぶ。	音楽療法の概要について理解する。
7	音やリズムを使った音楽あそびを楽しむ。	音やリズムを使った音楽あそびを知り、実践できる。
8	楽器を奏でることに親しみ、器楽合奏を楽しむ。	周りの音を聴きながら、器楽合奏を楽しむことができる。

哲学

Philosophy

担当教員名	平手　賢治	実務経験（年数）	
英語氏名	HIRATE Kenji	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	（非常勤講師控室）短い質問は、授業内で受け付ける。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	正義論、功利主義、義務論、徳倫理学	授業方法	講義
授業概要	正義論の論点を中心に、功利主義、義務論、徳倫理学を討議・講義をする。		
教育目標	看護師および社会人として必要な知識と倫理的思考を身につける。看護師に必要な倫理意識を育む。ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	現代正義論を理論的に理解することができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する資料を前日までに熟読し、不明点は調べること。１単位あたりの自習学習は30時間が目安である。		
教科書・教材	資料を配布します。		
参考書	マイケル・サンデル著（鬼澤忍訳）『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2011年）。		
成績評価方法フィードバック	定期試験100%。フィードバックは、各講義の冒頭に行われるリアクション・ペーパーでの応答にて行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、社会問題を哲学する	経済問題を通じて、功利主義、義務論、徳倫理学の基本的立場を理解する。
2	功利主義の概要と批判	ベンサムの功利主義の概要を理解し、功利主義の問題点を理解する。
3	自由尊重主義の概要と批判	ノージックの自由尊重主義の概要を理解し、自由尊重主義の問題点を理解する。
4	義務論の概要と批判	カントの義務論の概要を理解し、義務論の問題点を理解する。
5	現代リベラリズムの概要と批判	ロールズの現代リベラリズムの概要を理解し、現代リベラリズムの問題点を理解する。
6	平等主義的リベラリズムの概要と批判	ドウォーキンの平等主義的リベラリズムの概要を理解し、平等主義的リベラリズムの問題点を理解する。
7	目的論の概要と批判	アリストテレスの目的論の概要を理解し、目的論の問題点を理解する。
8	トマス主義の概要、まとめ	現代トマス主義を理解する。講義全体のまとめ演習を行う。

心理学

Psychology

担当教員名	尾上　恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	ONOUE Keiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月曜日・水曜日16時～17時に7706研究室にて対応	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	認知、対人関係、心理査定、動機づけ、心身の健康	授業方法	講義
授業概要	行動や性格、精神的な問題発生のプロセスについて様々な心理学的理論から学ぶことで、人間理解を深める。特に、看護領域と職務上関連する健康、臨床心理学分野を深く学ぶ。		
教育目標	心理学の基礎的知識を身につけ、理解した内容に基づき私たちに起こる諸事象を別視点から解釈できるようになることを目指す。看護学部ディプロマ・ポリシー①に関連する。		
到達目標	(1)心理学の基礎的知識を身につけることができる。 (2)心身の健康や問題に関連する研究について理解し、さまざまな要因を理解することができる。		
予習・復習	講義で習った用語を参考書、配布資料等で再確認し、内容について理解を深めること。 適宜小課題を課すので期限までに提出すること。予習復習の時間は週90分～120分を目安とする。		
教科書・教材	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	筆記試験80%、小課題20%（授業内において解説）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	授業ガイダンス　心理学とは	この科目を学ぶ意味を理解することができる。
2	感覚・知覚の心理学	視知覚の仕組みを理解するとともに、私たちに生じるさまざまな現象を理解することができる。
3	記憶のしくみ	記憶について理解し、アルツハイマー型認知症などの記憶の問題への理解を深める。
4	学習心理学	人の行動獲得の過程と特徴を知り、実生活での行動とその結果、および行動変容について理解することができる。
5	知能と思考	知能獲得と知能検査を理解するとともに、クリティカルシンキングについて学び、実践できるようになる。
6	動機づけ理論①　さまざまな理論	動機づけの諸理論について理解することができる。
7	動機づけ理論②　やる気を高めるには	人がやる気を高めたり、失う要因を知り、意欲的に物事に取組むための工夫を理解することができる。
8	発達心理学の基礎	出生後からの人の心の発達の基礎を理解することができる。
9	対人関係の心理	人とのかかわりにおけるさまざまな現象について、日常生活の事例から理解することができる。
10	集団心理	集団や群集における心理を知り、実生活の様々な現象を理解することができる。
11	健康心理学①　心身の健康とは	健康心理学領域の概要について理解することができる。
12	健康心理学②　さまざまな問題と性格傾向	健康心理学の分野で扱われるさまざまな問題や関連する性格傾向について理解することができる。
13	臨床心理学①　概論	臨床心理学の基礎を学び、心理学から精神医学的問題へのアプローチ法を理解することができる。
14	臨床心理学②　検査法	各種心理検査の基礎を理解することができる。
15	臨床心理学③　さまざまな心理療法	心理療法やカウンセリングの基礎について理解することができる。

国際文化論

Interrecultural Studies

担当教員名	日髙　郁子	実務経験（年数）	
英語氏名	HIDAKA Ikuko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後に対応する。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	国際社会、国際文化、異文化理解、文化交流、日本	授業方法	講義
授業概要	米国、中国、ヨーロッパ、等と日本の文化的諸相を比較分析し、国際文化についての講義する。		
教育目標	看護学部のディプロマ・ポリシー①と⑤に関連する。		
到達目標	他国に対して関心を持ち、思考を深め、他者の話題への理解と協力、自分の意見、思考力を養う。		
予習・復習	ネット、TV、新聞等のメディアを通じた国際的な話題への関心を高め目を通す。配布資料の精読。		
教科書・教材	プリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100％）（授業態度・授業中の発言を参考にする。）個々の問い合わせに、メールで対応します。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	国際社会と国際文化	国際文化論の意義について理解できる。
2	異文化理解の必要性と国際協力	国連とUNESCOについて理解できる。
3	世界三大宗教と「世界遺産」	三大宗教の歴史と概論、世界遺産の成り立ちを理解できる。
4	北アメリカと南アメリカの文化	北アメリカの主要都市とその文化的特徴について、また、南アメリカの歴史、地理、植民地時代の名残を継承した文化、自然遺産について理解できる。
5	ヨーロッパの文化	北欧の充実した福祉について、北欧神話、北欧文学、サンタクロースについて理解できる。また、英国、EUについて美術と音楽、世界遺産、食文化、文学について理解できる。
6	中東とアフリカの文化	中東の歴史と宗教､死海に関連する日本との交流について､ディズニー作品の原作の文学作品について理解できる。アフリカの世界遺産、カカオの原産国と日本との交流等、アフリカ系アメリカ人について理解できる。
7	オセアニアの文化	英国領の名残と先住民について、食文化、文化遺産と自然遺産、ピカチュウのモデルなど現地の生息動物について理解できる。
8	日本を含むアジアの文化	アジア四小龍について、歴史、政治、国際関係、経済、観光地と世界遺産について理解できる。無形文化遺産である和食、その中で大切にされている季節感（四季、二十四節気）について、年中行事、わび、さびについて理解できる。

食文化論

Food Culture

担当教員名	加藤　治美	実務経験（年数）	
英語氏名	KATO Harumi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後から16時半まで および昼食時間後の休憩時間	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	食生活　和食文化　世界の食	授業方法	講義
授業概要	食事文化が食文化として定着し発展した過程を説明し、食文化の特異性が理解できるよう講義する。		
教育目標	多様な食文化を柔軟にとらえることのできる知識を身に着け、健康との関連性を理解し、柔軟に対応できる力をつける。ディプロマ・ポリシーの①と②に該当する。		
到達目標	食文化の歴史や特色を理解できる。食が健康や疾病に大きな関りがあることを理解できる。		
予習・復習	各週の授業内容について事前に調べ、90分は予習する。授業後に、講義された内容について復習し、疑問点について整理しておく。		
教科書・教材	江原絢子編著「日本食の文化　原始から現代に至る食のあゆみ」アイ・ケイコーポレーション ISBN978－4－87492－375－7　その他必要教材は別途配布		
参考書	石毛直道著「食の文化」財団法人味の素食の文化センター、西東秋男著「日本食生活史年表」楽遊書房、樋口清之「日本人の歴史２食物と日本人」講談社		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（75%）レポート（25%）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス　食文化の定義	文化の定義と食文化の定義を理解する。 食に関する思想を理解する。
2	世界の食文化形成	粉食文化と粒食文化を理解する。 世界の料理文化を理解する。
3	日本の食文化形成と展開	食文化形成の自然環境と社会環境を理解する。 日本食文化のハレとケの食事の特徴と現状を理解する。
4	異文化接触と需要	大陸文化と南蛮文化を理解する。 欧米文化と多国籍の食を理解する。
5	主食の文化と副食の文化	動物性食品と植物性食品の文化の特徴を理解する。
6	調味料・油脂・香辛料	塩・砂糖と発酵調味料の文化について理解する。 油脂とだし・香辛料の文化について理解する。
7	日本料理の形成と発展	本膳料理について理解する。 会席料理と懐石料理を理解する。
8	菓子と嗜好品	和菓子と洋菓子の違いについて理解する。 茶とアルコール飲料について理解する。

生命倫理

Bioethics

担当教員名	飯島　祥彦	実務経験（年数）	
英語氏名	IIJIMA Yoshihiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	非常勤であるため、e-mailにて対応、講義終了後での質問も極力受け付ける。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－人間と文化	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	生命倫理、医療倫理、医事法	授業方法	講義
授業概要	生命の尊厳、自己決定など、医療者、特に看護師が備えなければならない職業倫理について学習、理解する。		
教育目標	安楽死・尊厳死、生殖補助医療、妊娠中絶、遺伝子検査など具体的事例を通して、看護職としての倫理の基礎を理解する。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	具体的事例に対して、生命倫理原則や法令の考え方に則って、自分の意見を述べることができるようにすること。		
予習・復習	予め配布する資料および教科書を読んでおくこと。		
教科書・教材	授業中に資料配付		
参考書	特になし		
成績評価方法フィードバック	2回のレポート（20点）および定期試験（80点）総合評価する。レポート内容は講義で解説する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	倫理総論	生命倫理、医療倫理、研究倫理を理解する。
2	患者と医療者の関係論	患者と医療者の関係について学習する。看護師免許制度を取り扱う。
3	インフォームド・コンセント1、医療者の守秘義務	インフォームド・コンセントについて学習する。個人情報保護、守秘義務について理解する。
4	臨床倫理と倫理委員会	臨床倫理と臨床倫理支援、生命倫理の4原則を理解する。
5	看護師と法	看護師と法のかかわりを理解する。
6	臨床研究の倫理	臨床研究に係る倫理、とりわけ、ヘルシンキ宣言や我が国の倫理指針の概要を理解する。
7	ヒトクローンと再生医療	ヒトクローンの概要、再生医療の概要と規制について理解する。
8	生殖補助医療	第三者が関与する生殖医療、親子関係の在り方について学習する。
9	出生前診断、選択的人工妊娠中絶及び優生学	出生前診断と選択的人工妊娠中絶、優生学の歴史と概要を理解する。
10	尊厳死、安楽死、延命治療の中止	尊厳死、安楽死、延命治療の中止の概要を理解する。
11	脳死と臓器移植	脳死、臓器移植に係る倫理的課題を理解する。
12	インフォームド・コンセント2	がんの告知、治療拒否の際の対応、決定能力評価などを理解する。
13	遺伝検査の倫理	研究および診療における遺伝検査で直面する倫理的課題を理解する。
14	医療資源の配分	医療資源が枯渇した場合の対応について理解する。
15	問題演習	生命倫理に関する看護師国家試験の問題を演習する。

日本国憲法

Constitution of Japan

担当教員名	平手　賢治	実務経験（年数）	
英語氏名	HIRATE Kenji	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	（非常勤講師控室）短い質問は、授業内で受け付ける。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	基本的人権、統治機構、国家の最高法規の理解	授業方法	講義
授業概要	日本国憲法が規定する基本的人権規定と権力分立に基づく統治機構の構造を講義する。		
教育目標	看護師および社会人として必要な憲法学の知識とリーガルマインド（法解釈能力）を身につける。看護師に必要な人権意識をはぐくむ。ディプロマ・ポリシーの①に該当する。		
到達目標	基本的人権の理論的理解と統治機構の基本構造を理解することができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する教科書を前日までに熟読し、不明点は調べること。2単位あたりの自習学習は60時間が目安である。		
教科書・教材	山本克司・村岡潔編『医療・看護に携わる人のための人権・倫理読本』（法律文化社、2021年）。ISBN978－4－5890－4146－3。		
参考書	山本克司著『福祉に携わる人のための人権読本』（法律文化社、2009年）。ISBN978－4－589－03172－3。		
成績評価方法フィードバック	定期試験100％　定期試験では基本用語･概念の理解を問うことを中心にしつつも、リーガルマインド（法解釈能力）を身につけることができたかどうかを確認する問題を出題する。フィードバックは、各講義の冒頭に行われるリアクション・ペーパーでの応答にて、行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	日本国憲法の役割	日本国憲法の成立と特徴、基本原理を理解できる。
2	人として生まれながらにもちうる権利	人権享有主体、人権制約、人権の分類と体系を理解できる。
3	個人の尊重と幸せに生きる権利	幸福追求権、新しい人権、自己決定権を理解できる。
4	法の下の平等	法の下の平等の意味と現代的課題を理解できる。
5	思想・良心の自由と信教の自由	思想・良心の自由、信教の自由、政教分離を理解できる。
6	表現の自由	表現の自由の意義、内容、制約と知る権利について理解できる。
7	学問の自由	学問の自由の意義、内容、制約について理解できる。
8	職業選択の自由と財産権の保障	職業選択の自由の内容、制約、および財産権の保障の内容、制約を理解できる。
9	生存権	生存権の背景、具体化、法的性格、裁判について理解できる。
10	労働者の権利	勤労の権利、労働基本権、労働者の権利をめぐる最近の問題を理解できる。
11	権力分立の意義と統治機構	国を治める仕組みの原理と体系を理解できる。
12	国会の地位と組織	国会の地位と組織、権能と運営について理解できる。
13	内閣の役割と権能	議院内閣制、内閣の権能、内閣の責任を理解できる。
14	裁判所の役割と仕組み	司法権の意味、裁判所の組織と権能、違憲審査権を理解できる。
15	地方自治、まとめ講義	地方自治の本旨、地方公共団体の組織と権能を理解できる。

ジェンダー論

Gender Theory

担当教員名	日髙　郁子	実務経験（年数）	
英語氏名	HIDAKA Ikuko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後に対応する。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	ジェンダーフリー、ダイバーシティ、ハラスメント	授業方法	講義
授業概要	社会構造の変化、文化の多様化の現代社会におけるジェンダーについて考える機会とする。		
教育目標	多様な人々の性と向き合える態度と理解を高める。ディプロマ・ポリシー①に該当する。		
到達目標	偏見や既成概念を取り払い相手を理解し、同僚、患者やその家族等に対応する事が出来る。		
予習・復習	メディア等による最新のジェンダーや性に関するニュースなどを収集してみよう。		
教科書・教材	プリントを配布する。		
参考書	授業時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（100％）（受講態度・授業中の発言を参考にする）　個々の問い合わせにメール対応します。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ジェンダーとは何か	ジェンダー教育とその意義を知る。
2	社会問題とかかわるジェンダー	ジェンダー論は個人の問題だけでなく、男女共同参画を実現することが急務であることを知る。
3	セクシャリティー（恋愛・性と生殖に関して）	ダブルスタンダードではない多様な性のあり方が理解できる。
4	相手を尊重し自己主張するアサーティブな生き方	自分の考えを否定的・肯定的両面から主張する力を得る。
5	暴力…児童虐待・PTSD・DV・等	生活の中に潜む性的固定観念を発見し考えることができる。
6	男女共同参画社会の生き方	男女共同参画社会で専門職として生きていく看護師のワークライフ・バランスをデザインする。
7	ジェンダー指数、経済万能主義、格差	経済的発展に目を向ける世界と対比して、健康・福祉・衛生問題など未解決なジェンダー格差を知る。
8	グローバル社会・ジェンダーギャップ指数	世界のジェンダーギャップから人種・国籍が持つ要因から生じる差異を知る。

暮らしと経済

Life and Economy

担当教員名	河地　清	実務経験（年数）	商学博士
英語氏名	KAWACHI Kiyoshi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後に対応する。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	豊かさとは・幸福とは「日本国憲法第25条の意義」	授業方法	講義
授業概要	日本経済の発展と経済社会の現象と仕組みを考える。		
教育目標	「ものづくり」の視点から経済活動の仕組みと人間社会の関係を理解する。ディプロマ・ポリシー②に該当する。		
到達目標	経済活動の仕組みを理解し、up to dateな経済・社会現象を理解し、判断できるようにする。		
予習・復習	各回の授業後、何が理解できて、どのような疑問が生じたかをレポート（A４　１枚程度）で提出する。日々の社会経済情報を新聞、文献・書籍等で蒐集することを督励する。		
教科書・教材	渋井康弘『ものづくりと人々の暮らし』三恵社　ISBN978－4－86693－334－4 講義資料：資料集「経済学の基礎理論」（自主教材）		
参考書	適宜授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期考査（60%）各回のレポート（20%）授業貢献（20%）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	なぜ経済学を学ばなければならないのか	経済学とは何か／経済学の考え方の基本／現代社会と経済学／豊かさ・幸福とはなにか、健康生活と経済学との関係も考える。
2	経済史―ものづくりと人類の歩み	道具から機械へそしてコンピューターとものづくりの歴史から学ぶ。
3	市場のしくみ―生産から消費へ	市場メカニズムと完全競争市場／需要曲線と供給曲線を理解する。
4	企業とは何か―ものづくりのしくみ	企業の定義／企業は誰のもの／企業経営はどうあるべきか、健康関連企業・医療組織を社会的共通資本の視点から考える。
5	現代社会の問題①地球環境とエネルギー	地球温暖化、気象の変化、産業廃棄物、CO_2排出をどのように国際協調の中で解決して行くのかを考える。
6	現代社会の問題②日本の食料問題	日本の食料自給率が40%を下回る状況はなぜか、どうすればよいかを考える。
7	現代社会の問題③少子高齢化と経済社会	長期的に人口減少が予測される日本社会の問題点を理解する。
8	現代社会の経済問題④地方の活性化	少子高齢化を踏まえて地域経済を活性化させて行くためにはどうすべきかを考える。

生物学

Biology

担当教員名	渡辺　昭	実務経験（年数）	
英語氏名	WATANABE Akira	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	適宜（7620研究室）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	微小な生物、細胞、天然有機化合物、遺伝子	授業方法	講義
授業概要	目に見えない微生物、細胞、遺伝と遺伝子について理解を深め普遍的な科学の思考方法を学ぶ。		
教育目標	生命科学を学ぶために必要な生物学の基礎知識を習得する。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	以下のことについて理解し、専門領域の学びに生かすことができる。 1　代表的な微生物と疾病。 2　代謝の概要。 3　遺伝と遺伝子。		
予習・復習	各回、90分の予習・復習を必要とする。授業中に理解度を確認するテストを実施する。		
教科書・教材	資料配付		
参考書	授業中に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期テスト（60%）、授業中の理解度確認テスト及び提出物（40%）、答案返却は行わない。成績は個別に申し出に応じて開示する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	進化・分類	生物進化・進化論、生物分類の基礎を理解している。
2	微小な生物①	プリオン、ウイルスを理解している。
3	微小な生物②	細菌、真菌を理解している。
4	微小な生物③	原虫、有用微生物を理解している。
5	有機化学入門①	原子構造、結合、化学式等を理解している。
6	有機化学入門②	化学式、官能基等を理解している。
7	有機化学入門③	生体内の代表的な化学反応を理解している。
8	細胞①	細胞の概要及び細胞膜の働きを理解している。
9	細胞②	糖及びその代謝の概略を説明できる。
10	細胞③	蛋白質及びその代謝の概略を説明できる。
11	細胞④	脂質及びその代謝の概略を説明できる。
12	細胞⑤	核酸及びタンパク質合成を説明できる。
13	遺伝と遺伝子①	DNAの研究史を理解している。
14	遺伝と遺伝子②	医療と関わりの深い遺伝現象を理解している。
15	遺伝と遺伝子③	医療と関わりの深い遺伝現象を理解している。

物理学

Physics

担当教員名	宮島　佐介	実務経験（年数）	
英語氏名	MIYAJIMA Sasuke	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	自然現象にみられる規則性・科学的な思考	授業方法	講義
授業概要	自然現象にみられる規則性を理解するのに必要な論理的思考の基礎を講義する。		
教育目標	科学的な思考能力を身につけるために物理学の基本法則・考え方を体得する。		
到達目標	医療に必要な生体の仕組みと医療機器等の原理を理解するうえで有用な物理学の基本法則を学ぶ。		
予習・復習	各回の授業内容について、シラバスを読み事前に調べておくこと。また、授業中に配布した演習用のプリントを復習し、次回の準備をすること。		
教科書・教材	物理学基礎　原康夫著　第5版　学術図書出版　ISBN－978－4－7806－0950－9		
参考書	完全版　「ベッドサイトを科学する」 平田雅子著　学研　ISBN－978－4－0515－3022－8		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（3回の平均）及び授業時の積極性		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	はじめに	物理学の勉強方法について学ぶ。
2	医療と物理学	医療に利用されている物理的現象を確認する。
3	慣性と運動の物理学	ニュートンの運動方程式を理解し説明できる。
4	仕事とエネルギー	力と仕事、仕事率、運動エネルギー等について理解する。
5	周期運動	多用されている周期運動について理解する。
6	連続体の基礎知識	圧力と変形などの基礎知識を説明できる。
7	気体と液体	気体、液体の性質を知り、説明できる。
8	波の基礎知識	波を表すのに必要な物理量を説明できる。
9	音の性質	音の医療への応用を例示し、その原理を概説できる。
10	光の性質	光の医療への応用を例示し、その原理を概説できる。
11	温度と熱	温度と熱に関する法則とその測定法を理解する。
12	電気の基礎知識	電気に関する基本法則を理解し、説明できる。
13	磁気の基礎知識	磁気に関する基本法則を理解し、説明できる。
14	原子物理	原子、電子の2重性と医療との関連について理解し、説明できる。
15	原子核物理	原子核の構造性質を学習し、これを利用する医療機器の動作を理解する。

化学

Chemistry

担当教員名	丹羽　利夫	実務経験（年数）	
英語氏名	NIWA Toshio	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月曜　15：00～16：00および水曜　10：00～11：00（於　9307）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	原子・分子、酸塩基平衡	授業方法	講義
授業概要	化学の基礎知識を身につける。		
教育目標	看護を科学的に理解するための化学的基礎知識を習得する。 看護学部ディプロマ・ポリシー②に関連する。		
到達目標	酸・アルカリおよび緩衝作用を理解し、薬剤理解の基礎としての化学を身につける。		
予習・復習	適宜小テストを行う。そのため、各回90分程度の復習をする。また高校の化学を復習しておく。		
教科書・教材	東京化学同人　スミス基礎化学　村田滋（訳） （ISBN：978－4－8079－2012－9）		
参考書			
成績評価方法 フィードバック	期末テスト（80%）、小テスト（20%）をもとに評価を行ない、授業態度を参考にする。小テストは返却しないがその場で解答と簡単な解説を行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	物質の概念	身の回りのものがどのようにできているかを理解する。
2	化学で用いる単位	化学を含む科学で用いる単位を理解する。
3	原子の性質	原子について理解する。
4	イオン	電子とイオンについて理解する。
5	イオン化合物	イオンによる物質について理解する。
6	共有結合化合物	電子をもちいた結合について理解する。
7	分子の性質	分子について理解する。
8	アボガドロ定数	モル数について理解する。
9	反応速度と触媒	化学反応と触媒について理解する。
10	物質の三態	気体・液体・個体について理解する。
11	溶液	「溶ける」とはなにかについて理解する。
12	酸と塩基	酸・塩基について理解する。
13	ｐH	酸・塩基をあらわすｐHについて理解する。
14	平衡	緩衝作用について理解する。
15	中和	酸・塩基の価数について理解する。

統計学

Statistics

担当教員名	佐々木　政司	実務経験（年数）	
英語氏名	SASAKI Masashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水12：10～12：50（於7621研究室）	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	統計処理　推定　検定	授業方法	講義
授業概要	統計学、疫学、保健統計における基本的な概念や理論、解析手法や指標について講義し、実験・観測データの基本的な解析法について演習を行う。		
教育目標	基礎的な統計処理の概念と手法及び基本的な疫学や保健統計の指標についての理解と、データの的確な分析・結果の整理を通して、統計的根拠に基づいた看護を提供する能力を養う。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	基礎的な統計処理の概念と手法及び基本的な疫学や保健統計の指標を理解し、的確な分析・結果の整理ができる。		
予習・復習	シラバス、教科書で次回の講義内容を確認しておくこと。また、各回で学習した内容について十分に理解を深めておくこと。各回小レポートを課す（授業で解説）。数学（特に代数）についての理解が不足していると思う場合には各自勉強すること。予習・復習でそれぞれ90分必要とする。		
教科書・教材	系統看護学講座　統計学　医学書院　ISBN978－4－260－02189－0 その他プリント配布 √計算ができる電卓を用意すること。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（100％）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	看護における統計学	数学的・確率的な判断の重要性について説明できる。
2	ナイチンゲールによる記述統計学・視覚化	データの視覚化について理解し、データに応じて的確な視覚化手法を用いることができる。
3	基礎統計量	平均や分散などの基礎統計量とその特徴について理解し、計算することができる。
4	相関と回帰	相関と回帰、共分散、最小二乗法について理解し、計算することができる。
5	確率と確率分布	順列組み合わせ、確率の計算ができる。推測における確率分布の重要性を理解し、主要な確率分布について説明できる。また標準化ができる。
6	疾病とリスク	リスク比とオッズ比について理解し、計算し、その結果の意味を説明することができる。
7	統計的推定	母集団と標本の関係について理解し、点推定・区間推定を行い、その結果の意味を説明できる。
8	統計的検定の考え方	帰無仮説や危険率について理解し、基本的な統計的検定の方法について説明できる。
9	２つの平均値の差の検定	t検定を的確に用いて各平均値の差の検定を行い、その結果の意味を説明できる。
10	独立性の検定、適合度の検定	クロス集計を作成し、χ^2検定を的確に行い、その結果の意味について説明できる。
11	分散分析	実験計画法と分散分析について理解し、基本的な分散分析を行い、その結果の意味について説明できる。
12	多変量解析	重回帰分析などの主な多変量解析の意義と手法を理解し、適切に選択できる。また結果の意味について説明できる。
13	ベイズ統計学	ベイズ統計学についてその意義と主な手法を理解し、説明できる。
14	データサイエンス：人工知能（AI）による分析	データサイエンスやビッグデータについて理解し、説明できる。人工知能による分析手法について理解し、その応用分野も含めて説明できる。
15	保健に関する統計データ	保健に関する統計資料の主な指標について理解し、近年の傾向を含めて説明できる。

データサイエンス演習 Data Science Exercise

担当教員名	大谷　隆浩	実務経験（年数）	
英語氏名	OTANI Takahiro	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	（非常勤講師室） 質問は授業内で受け付けるほか、メールでも対応します。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－自然と社会	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	情報処理 データ分析 統計解析 AI（人工知能）	授業方法	講義・演習
授業概要	データサイエンスの意義と必要な基礎知識について講義し、データの収集、加工、分析、視覚化の方法についてパソコンを用いた演習を行うので、パソコン必携のこと。		
教育目標	社会で利活用されているデータの種類と、その収集・加工・分析・視覚化の方法を習得することで、保健医療情報や看護データを実務に役立てる能力を養う。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	データサイエンスの意義と必要な基礎知識を理解し、基礎的なデータ分析を的確に実施できる。		
予習・復習	授業内での説明と配付プリントに従い、次回の講義内容を確認しておくこと。各回、課題を課す（授業内に解説を行う）。統計学、情報科学、情報科学演習で学んだ内容について、理解が不足していると思う場合には各自復習しておくこと。		
教科書・教材	プリントを配布する。演習・課題を行うため、Microsoft Excelがインストールされたパソコンを準備すること。		
参考書	北川源四郎、竹村彰通 編集「教養としてのデータサイエンス」講談社 ISBN978－4－06－523809－7 松田晋哉、伏見清秀 監修「ナースに必要な問題解決思考と病院データ分析力」南山堂 ISBN978－4－525－50051－1		
成績評価方法フィードバック	課題提出（100%）。授業内に解説する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	データサイエンスとは	データ・AIにより社会が大きく変化していることを理解し、その重要性を説明できる。
2	データ分析のしかた	データ分析による課題解決の手順について説明できる。
3	分析用データの作成	分析用データの適切な形式について理解し、データを作成できる。
4	データの分布・代表値	ヒストグラムの作成と基本的な代表値の計算を行い、データの特徴を説明できる。
5	データのばらつき・誤差	データのばらつきの度合いについて、分散・標準偏差を用いて説明できる。
6	データの相関関係	データの相関関係について理解し、相関分析を行い、その結果を適切に説明できる。
7	データの因果関係	相関関係と因果関係の違い、交絡因子について説明できる。
8	データの比較	クロス集計表、相関係数行列、散布図行列を用いてデータの比較ができる。
9	データの視覚化	データを視覚化するための図表表現の方法を理解し、適切な図表を作成できる。
10	統計的推定	点推定と区間推定を行い、その結果を適切に説明できる。
11	統計的仮説検定	仮説検定を行い、その結果を適切に説明できる。
12	AI（人工知能）とは	AIで用いられている技術とその応用方法について説明できる。
13	AIの基礎① データに基づく予測	データに基づく予測の考え方を理解し、回帰分析によるデータの予測を実施できる。
14	AIの基礎② データに基づく分類	データに基づく分類の考え方を理解し、線形判別関数によるデータの判別を実施できる。
15	AIの基礎③ データのクラスタリング	クラスタリングの考え方を理解し、基礎的なクラスター分析を実施できる。

ナーシングイングリッシュⅠ Nursing English I

担当教員名	タム　ヤング	実務経験（年数）	
英語氏名	Tam Young	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	12：50－14：20 / 14：30－16：00	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	Listening, Reading, Writing, Vocabulary, Speaking	授業方法	講義
授業概要	テキスト及びプレゼンテーション資料を使用し、現場の状況を視覚と読解にて理解を深めていく。		
教育目標	看護学校のディプロマ・ポリシーに沿った看護英語力の向上を目指す。		
到達目標	医療現場において、必要な英語力（専門用語の理解、外国人の患者とのコミュニケーション、英語での書類作成等）の取得・向上を目的とする。		
予習・復習	1レッスンあたり、おおよそ60分間の予習・復習を目安とする。		
教科書・教材	English for Nursing 1		
参考書	授業時に紹介。		
成績評価方法フィードバック	年度末試験（1回）及び定期テスト		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1･2	Unit 1 Meeting colleagues p.4 to 7	医療スタッフへの自己紹介。自分自身の紹介/看護に携わる上での自己紹介の方法を考える。
3･4	Unit 1 Meeting colleagues p.8 to 11	患者及び面会者との関わり方。医療機器について。
5･6	Unit 2 Nursing assessment p.12 to p.14	患者のカルテに記載する名前について。発熱・咳・めまい・耳痛に対するWHの質問。
7･8	Unit 2 Nursing Assessment p.15 to 19	主要な幼児疾患について考える。症状、採血検体について説明。
9･10	Unit 3 The patient ward p.20 to p. 23	患者の体温計測について。
11･12	Unit 3 The paicient ward p. 24 to p.27	言語構造についての説明。現在進行形・現在進行形－未来の予定、動詞：予期する、調べる、与える、多忙な一日について考える。
13･14	Unit 4 Food and measurements. p. 28 to 31	病院食をオーダーする。可算名詞と不可算名詞。食品と飲料について。
15・reveiw	Unit 4 Food and measurements. p 32 to 35 reveiw.	食事の際、患者のメニュー注文を手助けする。食事の際に使用する動詞を使っての質疑応答 － 噛む、飲む、飲み込む手助けをする。患者を褒める・励ます表現について。滑り止め防止皿や2把手付きカップ等介助用の食器について。

ナーシングイングリッシュⅡ Nursing EnglishⅡ

担当教員名	テレサ　カネンバーグ	実務経験（年数）	
英語氏名	Theresa Kannenberg	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	Monday, Tuesday & Friday 12：30－	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	English Conversation pairwork, Listening, reading, writing in textbook and workbook download PDF	授業方法	演習
授業概要	Students are expected to keep good notes in their Campus notebook, complete Workbook units 1－4, practice speaking and reading in class to improve pronunciation and have a cheerful attitude. Please listen and keep focussed on the lesson.		
教育目標	Corresponds to ⑤ of the Diploma Policy.		
到達目標	In this class we will develop our speaking, listening and writing skills.		
予習・復習	The workbook IS homework each week! Any student copying will receive “0” points!		
教科書・教材	1.Text： English FIRSTHAND 1 (GRN) 5thEdition. Authors： Marc Helgesen, Steven Brown, John Wilshier Publisher： Pearson Longman　2.English FIRSTHAND 1 Workbook PDF　3.The North Fence（graded reader） Author： Theresa Kannenberg Publisher： Atama-ii Books Available at Englishbooks.jp		
参考書	In class： Dictionary, 2 Campus Notebooks, textbook, Workbook PDF, graded reader		
成績評価方法フィードバック	Basic Rules： Students must NOT miss MORE than 2 classes each semester, and the use of SMARTPHONES is restricted to English lesson searches. Grading： 1.Participation 15％　2.Workbook PDF 15％　3.Assignment 10％　4.Vocabulary Quiz（2）10％　5.Conversation Presentation 20％　6.Final Examination 30％		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	Introduction	The Canadian teacher will introduce herself and the course requirements
2	Unit 1　p.12－19	Its nice to meet you. Meet your classmates and give information Workbook homework Unit 1 PDF, weekly diary
3	Unit 1　continued	Listening, speaking and voice reading practice.. “My Self-Introduction” assignment
4	Unit 2　p.20－27	Who are they? Lets talk about your family.
5	Unit 2　continued	Question and answer practice. Listening and voice reading practice. Workbook homework unit 2 PDF
6	Review of Units 1 － 2　Quiz 1	Whole class conversation practice and Vocab Quiz 1 units 1 － 2
7	Unit 3　p.28－35	When do you start? Let’s talk about activities and daily schedules. Workbook Homework unit 3 PDF
8	Unit 3　continued	Speaking and listening. 1 st Call for Assignment “My Self-Introduction”
9	Unit 4　p.36－43	Where does this go? Let’s talk about furniture and its location in the room. Workbook Homework unit 4 PDF
10	Unit 4　continued	Let’s find the differences using There is/There are. Listening and voice reading practice. Please finish Workbook 1 － 4
11	Review of Units 3 － 4　Quiz 2	Whole class conversation practice and Vocab Quiz 2 units 3 － 4
12	Conversation Writing Day	Students will write oral test conversations in pairs.
13	Conversation Presentation Day	Pairs will present their memorized conversations in front of the class.
14	Conversation Presentation Day	Pairs will present their memorized conversations in front of the class.
15	Final Workbook PDF check, Exam preparation	Please bring your workbook, units 1 － 4 to be checked and graded 15％ “Copied work” = “0”

ナーシングイングリッシュⅢ Nursing EnglishⅢ

担当教員名	テレサ　カネンバーグ	実務経験（年数）	
英語氏名	Theresa Kannenberg	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	Monday, Tuesday & Friday 12：30－	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	English Conversation pairwork, Listening, reading, writing in textbook and workbook download PDF	授業方法	演習
授業概要	Students are expected to keep good notes in their Campus notebook, complete Workbook units 5－8, practice speaking and reading in class to improve pronunciation and have a cheerful attitude. Please listen and keep focussed on the lesson.		
教育目標	Corresponds to ⑤ of the Diploma Policy.		
到達目標	In this class we will develop our speaking, listening, reading and writing skills.		
予習・復習	The workbook IS homework each week! Any student copying will receive “0” points!		
教科書・教材	1.Text： English FIRSTHAND 1（GRN）5thEdition. Authors： Marc Helgesen, Steven Brown, John Wilshier Publisher： Pearson Longman　2.English FIRSTHAND 1 Workbook download PDF　3.The North Fence（graded reader）Author： Theresa Kannenberg Publisher： Atama-ii Books Available at Englishbooks.jp		
参考書	In class： Dictionary, Campus Notebook, textbook, Workbook, graded reader		
成績評価方法フィードバック	Basic Rules： Students must NOT miss MORE than 2 classes each semester, and the use of SMARTPHONES is restricted to English lesson searches. Grading： 1.Participation 15％　2.Workbook PDF 15％　3.Assignment 10％　4.Vocabulary Quiz（2）10％　5.Conversation Presentation 20％　6.Final Examination 30％		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	Welcome back! Unit 5　p.44－55	How do I get there? Let’s practice giving directions. Workbook homework unit 5 PDF, weekly diary
2	Unit 5　continued	Listening, speaking and voice reading
3	Unit 6　p.52－59	What happened? Let’s talk about important life events and activities. Workbook homework unit 6 PDF
4	Unit 6　continued	Listening, speaking and voice reading for improving pronunciation
5	Review of units 5 － 6，Quiz 1	Whole class conversation practice, and review vocab Quiz 1（5％）
6	Unit 7　p.64－71	I’d love that job! Let’s talk about jobs/occupations. Workbook homework unit 7 PDF
7	Unit 7　continued	Listening, speaking and voice reading
8	Unit 8　p.72－79	What’s playing? Let’s talk about entertainment. Workbook homework unit 8 PDF
9	Unit 8　continued	Listening, speaking and voice reading
10	Review units 7 － 8，Quiz 2，Writing Day	Vocab Quiz 2（5％），for Conversation Presentation： write a conversation for the oral test and memorize it for homework
11	Story Time	Work in groups of 2. Help each other read the story and fill in the story endings on the Book report sheet.
12	Story Time	Let’s read a real storybook called The North Fence. Let’s talk about the story. Start Book report assignment
13	Conversation Presentation Day	Students will present their final conversations to the class（see lesson 10）
14	Conversation Presentation Day	Students will present their final conversations to the class
15	Final Workbook PDF and weekly diary check & Exam preparation	Please bring your workbook PDF, units 5 － 8 to be checked and graded 15％ “Copied work” = “0” Please hand in book report assignment

臨床応用英語

English for Clinical Application

担当教員名	近藤　真治	実務経験（年数）	
英語氏名	KONDO Shinji	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	メールにて対応する。	開講時期	前期
科目区分	基礎教育科目－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	medical terminology, systems review, emergency medicine	授業方法	講義
授業概要	1.米国看護師国家試験頻出用語の定義を英語で学ぶことにより、専門的・学術的な語彙力を養う。 2.英語で病歴をとる訓練を通して、臨床現場におけるコミュニケーション能力を養う。 3.救急病棟の１日を記録したドキュメンタリーの読解により、医療系英文を正確に読み取る力をつける。		
教育目標	グローバル社会に対応したコミュニケーション能力を養う。ディプロマ・ポリシーの⑤に関連する。		
到達目標	1.米国看護師国家試験頻出用語100語の定義を英語で説明できる。 2.基本的な系統歴（systems review）の採取を英語で行うことができる。 3.新たに学んだ語彙・表現・文法事項を医療系英文の読解に応用できる。		
予習・復習	毎回、講義開始時に単語テストを行うので、１時間程度準備をしておくこと。また、指定された英訳（１時間程度）を行ってくること。１単位当たりの自習時間は30時間が目安。		
教科書・教材	教科書は使用しない。授業時に資料を配布する。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（36%）、中間試験（34%）、単語テスト（25%）、提出課題（５%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	科目の全体概要説明	この科目を学ぶ意味を理解できる。
2	用語の定義、系統歴（皮膚）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
3	用語の定義、系統歴（アレルギー、リンパ腺、頭部）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
4	用語の定義、系統歴（眼、耳）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
5	用語の定義、系統歴（鼻、口）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
6	用語の定義、系統歴（頸部、乳房、呼吸器系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
7	用語の定義、系統歴（心臓血管系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
8	前半のまとめ（中間試験を含む）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
9	用語の定義、系統歴（消化器系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
10	用語の定義、系統歴（泌尿器系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
11	用語の定義、系統歴（骨格系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
12	用語の定義、系統歴（生殖器系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
13	用語の定義、系統歴（性病）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
14	用語の定義、系統歴（神経筋肉系）、英文読解	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
15	医学用語の構造、医療面接の英語	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。

英語文献講読

English Reading

担当教員名	近藤　真治	実務経験（年数）	
英語氏名	KONDO Shinji	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	メールにて対応する。	開講時期	後期
科目区分	基礎教育科目－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	medical terminology, case records	授業方法	講義
授業概要	基礎的な内科学用語の定義を英語で学ぶことにより、専門的・学術的な語彙力を養う。また、New England Journal of MedicineのCase Records（症例報告）の読解を通じ、医療系英文を読み取る力を向上させる。		
教育目標	グローバル社会に対応したコミュニケーション能力を養う。ディプロマ・ポリシーの⑤に関連する。		
到達目標	1.内科学の基本語100語の定義を英語で説明できる。 2.新たに学んだ語彙・表現・文法事項を医療系英文の読解に応用できる。		
予習・復習	毎回、講義開始時に単語テストを行うので、1時間程度準備をしておくこと。また、指定された英訳（1時間程度）を行ってくること。1単位当たりの自習時間は30時間が目安。		
教科書・教材	教科書は使用しない。授業時に資料を配布する。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（36%）、中間試験（34%）、単語テスト（30%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	科目の全体概要説明	この科目を学ぶ意味を理解できる。
2	内科学用語（全身状態）、症例1（現病歴）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
3	同上	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
4	内科学用語（呼吸器系）、症例1（入院時所見）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
5	同上	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
6	内科学用語（呼吸器系）、症例1（鑑別診断）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
7	内科学用語（循環器系）、症例1（画像解析）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
8	前半のまとめ（中間試験を含む）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
9	内科学用語（循環器系）、症例1（退院）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
10	内科学用語（消化器系）、症例2（現病歴）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
11	内科学用語（消化器系）、症例2（入院時所見）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
12	同上	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
13	内科学用語（消化器系）、症例2（鑑別診断）	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
14	同上	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。
15	後半のまとめ	新たに学んだ語彙・表現・文法事項をコミュニケーションに応用できる。

中国語

Chinese

担当教員名	山西　翼	実務経験（年数）	
英語氏名	YAMANISHI Tsubasa	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業中に質問時間を設けます。たくさん質問がある場合、アポイントをとった上で、授業の前後に講師室にて対応します。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	中国語、中国文化、異文化コミュニケーション	授業方法	演習
授業概要	まず中国語はどのような言語かを日本語や英語と比較しながら説明し、中国人の考え方や価値観及び中国の様々な事情を説明します。発音記号であるピンインや基礎的な文法知識を丁寧に指導します。		
教育目標	中国語に興味をもってもらい、日本語との異同点を注意しながら楽しく学んでもらいます。初歩的な中国語の知識を身につけてもらうばかりではなく、日本語や日本文化に対する再発見も期待します。ディプロマ・ポリシー⑤に該当します。		
到達目標	中国語の発音記号であるピンインをマスターし、初歩的な文法知識を使って会話、作文できるように。中国語検定試験４級合格を目指します。		
予習・復習	授業で習った単語や例文を次の授業までに暗記してもらいます。小テストを随時行います。２時間から３時間かけてもらいたい。		
教科書・教材	「楽しい中国語講座」(改訂版)。董紅俊・王麗英著。ISBN4－88361－352－6－6。2,100円。三恵社。		
参考書	必要に応じて授業中指示します。		
成績評価方法フィードバック	平常点（授業態度、課題）30%、期末試験70%。定期試験で４割以上の得点がある場合のみ再試験対象。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	第１課　発音１	中国語について概説。声調、単母音。
2	第２課　発音２	前回の復習、複母音、鼻音を伴う複母音。
3	第３課　発音３	前回の復習、子音、有気音と無気音。
4	第４課　発音４、第５課　挨拶言葉と教室用語	前回の復習、声調変化、r化音、挨拶言葉、教室用語。
5	第６課　文法のポイント、本文	人称代名詞、名前の言い方、「是」の文など。
6	第７課　文法のポイント、本文	指示代名詞、動詞述語文など。
7	第８課　文法のポイント、本文	「在」の用法、量詞など。
8	第９課　文法のポイント、本文	連動文、「了」、「想」など。
9	第10課　文法のポイント、本文	動詞の重ね型、年月日など。
10	第11課　文法のポイント、本文	「会」、「能」、疑問詞の不定用法など。
11	第12課　文法のポイント、本文	年齢の言い方、「的」の用法など。
12	第13課　文法のポイント、本文	「就」、経験を表す表現など。
13	第14課　文法のポイント、本文	程度補語、結果補語など。
14	第15課　文法のポイント、本文	連体修飾語、方向補語など。
15	復習、質疑応答	今まで学習した内容を復習し、質疑応答。

フランス語

French

担当教員名	竹本　江梨	実務経験（年数）	フランス語翻訳通訳（テレビ番組用素材など）17年以上
英語氏名	TAKEMOTO Eri	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後に来てください。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	フランス語を初めて学ぶ、もしくはそれと同等であること。	必修・選択	選択
キーワード	初級フランス語、フランスの風土と食文化	授業方法	演習
授業概要	パリ市内の様子を話題にした教科書を使用しながら、初級文法と会話を学習する。また地方の風土・暮らし・食文化の密接な関係も学ぶ。		
教育目標	フランス語の授業を通してグローバル社会に対応する基礎的な語学力とともに、パリのみならずフランスにおける地方の食や暮らしの知識を得ることにより、幅広い視野と多様性に対する尊重の念を持つ。ディプロマ・ポリシーの⑤に関連する。		
到達目標	フランス語の初級文法と会話を学習しながら異文化への好奇心と尊重の念を育む。また今後の勉学のため、レポートのまとめ方なども学ぶ。		
予習・復習	毎回、練習問題や会話の和訳などを課題とする。また、各地方の食文化の特色について指示されたテーマに沿ってリサーチする。各回１時間ほどの自習が必要。		
教科書・教材	「パリのクール・ジャパン」藤田裕二著　朝日出版社（978－4－255－35211－4）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	毎回課題となる小テスト（80%）、受講態度（20%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	授業について説明、第０課（アルファベ、あいさつなど基本表現）	この科目を学ぶ意義を理解し、アルファベの読み方とあいさつを覚える。
2	０課の続きと１課 être動詞「私は～です」	名前や国籍など、簡単な自己紹介が言える。
3	フランス食文化１：パリの町、無形文化遺産フランス料理とパリのビストロ	パリの町の成り立ち、無形文化遺産に登録されたフランス料理とパリのビストロについて知る。
4	２課　第一群規則動詞「私は～語を話します」	自己紹介の挨拶と何語が話せるかを言える。
5	２課の続き　形容詞の性数一致	フランス語では「男性形／女性形」および「単数／複数」の区別が重要であり、形容詞も変化することを学ぶ。
6	フランス食文化２：ノルマンディ地方	世界遺産モンサンミシェルおよび「フランスの食糧庫」と呼ばれるノルマンディ地域圏の特産品について学ぶ。
7	３課　名詞の性数と疑問文「映画は男、音楽は女？」	名詞に「男性名詞／女性名詞」があることを理解する。また疑問文の作り方を学ぶ。
8	３課の続き　定冠詞および国名	フランス語の定冠詞を理解する。また、国名について学ぶ。
9	フランス食文化３：ブルゴーニュ地方とボルドー	ワインの産地として名高い二つの地域において、暮らしと健康への取り組みについて学ぶ。
10	４課　不定冠詞と指示代名詞および近接過去	フランス語の不定冠詞と「これ・それ・あれ」にあたる指示代名詞、「～したばかり」という表現を学ぶ。
11	４課の続き　疑問代名詞「何」と形容詞の位置	「これは何ですか？」「～がしたい」という文の会話を理解する。
12	フランス食文化４：プロヴァンス地方とローヌ・アルプ地方	フランスの東側に隣接しながら風土も食文化も全く異なる二つの地域を比較する。
13	５課　場所を尋ねる「ここはどこ？」	疑問副詞oùやil y a「～がある」という表現を学ぶ。
14	６課　動詞avoir「持っている」「何歳ですか？」	avoirを用いて表現される様々な意味を学ぶ。
15	６課の続き　職業と疑問形容詞quel「どんな」	名前、国籍、職業、何語を話す、趣味などを一通り表現できるよう練習する。

ドイツ語

German

担当教員名	中川　佳英	実務経験（年数）	
英語氏名	NAKAGAWA Yoshihide	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業後に対応します。	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	格変化、人称変化、名詞の性	授業方法	演習
授業概要	半年で終了するテキストを用いて、ドイツ語学習における文法・読解・表現の基礎を作る。		
教育目標	基礎的なドイツ文の読解や表現ができるようにする。ディプロマ・ポリシーの⑤に該当する。		
到達目標	ドイツ語の短い文を正しく自然の速度で発音し、理解する。		
予習・復習	予習：授業で扱う箇所のドイツ文を発音できるようにしておきましょう。 復習：授業で習った文法事項や新出単語を覚えるようにしましょう。		
教科書・教材	三修社『300語で話すドイツ語』（CD付き）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（85%）授業態度（ペア練習を始めとする練習への取り組み、テキストの正しい発音等）（15%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	授業方針の説明　教科書P５－7の『つづりと発音』	ドイツ語のつづりと発音のルールを習得する。
2	Lektion 1　例文	つづりと発音の規則の復習。簡単なあいさつを覚える。
3	Lektion 1　基本練習　応用練習	自己紹介の練習と動詞の人称変化を習得。
4	Lektion 2　例文	疑問文の作り方、名詞の性別を理解する。
5	Lektion 2　基本練習　応用練習	名詞の性に合わせた、正しい冠詞の運用を学ぶ。
6	Lektion 3　例文	動詞のすべての人称変化、冠詞の格変化を習得。
7	Lektion 3　基本練習　応用練習	冠詞の格変化に留意したやりとりができること。
8	Lektion 4　例文	冠詞と人称代名詞の３格の格変化を理解する。
9	Lektion 4　基本練習　応用練習	上記の文法をふまえたペア練習ができる。
10	Lektion 5　例文、基本練習　応用練習	所有冠詞を用いたペア練習、独作文練習ができること。
11	Lektion 6　例文、基本練習　応用練習	名詞の複数変化、２格名詞句を用いたペア練習、独作文練習ができる。
12	Lektion 7　例文、基本練習　応用練習	不規則動詞を用いたペア練習、独作文練習ができる。
13	Lektion 8　例文、基本練習　応用練習	前置詞句を用いたペア練習、独作文練習ができる。
14	Lektion 9　例文、基本練習　応用練習	前置詞の格支配に留意したペア練習、独作文練習ができる。
15	まとめ、テスト	前期の学習をテストを機に復習する。

手話

Sign Language

担当教員名	森本　利子	実務経験（年数）	手話通訳士（22年）　県登録手話通訳者（30年）
英語氏名	MORIMOTO Toshiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業内に受ける。または授業後に非常勤講師控室で受ける。	開講時期	前期・後期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	聴覚障害の理解、聴覚障害者の生活、簡単な手話の習得、交流	授業方法	講義・実技指導 グループワーク
授業概要	聴覚障害についての基礎知識を講義する。聴覚障害者の生活及び必要な援助方法を経験を通して講義する。簡単な手話を習得し、聴覚障害者と手話などを使い交流する。		
教育目標	聴覚障害の基礎知識を理解し簡単な手話を学ぶ。聴覚障害者と交流し生の声を聞くことで、聴覚障害者の暮らし・社会的立場や背景を知ることで看護の現場で聴覚障害者に対し自分のできる援助方法を学ぶ。 ディプロマ・ポリシーの①と③に該当する。		
到達目標	聴覚障害の基礎知識・援助方法や簡単な手話を身につけることができる。		
予習・復習	手話は目で見ることばで書記化できないため、テキストに添付されているDVDで予習・復習をする。		
教科書・教材	手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう　手話で話そう」発行（一社）全日本ろうあ連盟　価格3,000円（税込）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（50%）、課題提出（40%※評価基準は授業内に説明）、実技（10%）、授業態度を参考にする。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	科目の全体概要説明　講義：聴覚障害の基礎知識①	科目を学ぶ意味が理解できる。聴覚障害がわかる。
2	講義：聴覚障害の基礎知識②　実技：第1・第2講座	手話が「見ることばである」ことがわかる。
3	講義：聴覚障害の基礎知識③　実技：第3講座	自分の名前をいろいろな方法で表現できる。
4	講義：聴覚障害の基礎知識④　実技：第4講座	家族の紹介を通して、基礎となる人物の表現がわかる。
5	講義：聴覚障害の基礎知識⑤　実技：第5講座	数の表し方や数を使って自分の生年月などが表現できる。
6	講義：聴覚障害者の生活①　実技：第6講座　指文字	趣味をテーマに自己紹介や疑問詞を使い会話ができる。
7	講義：聴覚障害者の生活②　実技：第7講座　指文字	仕事をテーマに自己紹介や疑問詞を使い会話ができる。
8	実技：第8講座　都道府県	住所をテーマに自己紹介や交通方法を説明し会話ができる。
9	実技：自己紹介のまとめ	自己紹介ができる。DVDを使い読み取りができる。
10	実技：第10講座	時の表し方①で、一日の生活を表現できる。
11	講義：通訳の現場から①　実技：第11講座	時の表し方②で、過去・現在・未来の時の表現ができる。
12	講義：通訳の現場から②　実技：第12講座	時の表し方③で、季節の手話や疑問詞を使って会話ができる。
13	実技：医療に関する手話	医療に関する手話単語を知ることができる。
14	聴覚障害者の生活「わたしの大切な家族」DVD鑑賞	聴覚障害者の生活と自分たちの生活の違いを知ることができる。
15	聴覚障害者と交流	学んだ手話を使い聴覚障害者と会話することでき、生の声を聞き看護の現場で活かせることを知ることができる。

コミュニケーション論 Communication Theory

担当教員名	尾上　恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	ONOUE Keiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月曜日・火曜日16時～17時に7706研究室にて対応	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	コミュニケーション、人間関係、対人援助	授業方法	講義
授業概要	コミュニケーションの大切さを知り、個人の認識、対人関係などさまざまな側面からコミュニケーション力の向上を目指し、各理論の理解だけでなく、体験やロールプレイなどにより多角的に学ぶ。		
教育目標	実生活及び看護領域におけるコミュニケーションの重要性を知り、コミュニケーションスキルの向上を目的とする。さらに、自己を適切に表現する方法を知り、その実践を目指す。看護学部ディプロマ・ポリシー③に関連する。		
到達目標	(1)コミュニケーションの基礎を学び、対人関係を円滑に行うことの大切さを理解する。 (2)様々なコミュニケーション技法を理解し、看護領域において実践できる力をつける。		
予習・復習	講義で習った用語を参考書、配布資料等で再確認し、内容について理解を深めること。 適宜小課題を課すので期限までに提出すること。予習復習の時間は週90分～120分を目安とする。		
教科書・教材	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	筆記試験60%、提出物および受講態度40%（授業内において解説）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	授業ガイダンス	この科目を学ぶ意味を理解することができる。
2	コミュニケーションにまつわる現代社会の状況	コミュニケーションスキル獲得に関する様々な問題点と重要性を理解することができる。
3	対人関係を考える①対人魅力	他者に対する感情のあり方を理解し、コミュニケーションを取る際の留意点を身につける。
4	対人関係を考える②対人距離	さまざまな場面における適切な対人距離を知り、日常生活や職場で実践できるようになる。
5	自己開示と自己呈示①相互インタビュー	自己開示と自己呈示の概念を学び、相互インタビューを通して自身の自己開示・自己呈示を見直すことができる。
6	自己開示と自己呈示②ジョハリの窓	ジョハリの窓から適切な自己開示について理解することができる。
7	メディアコミュニケーション	SNSなどメディアを介したコミュニケーションの問題点を理解し、適切に利用することができる。
8	コミュニケーションの問題への対処	コミュニケーションに問題を抱えるケースへの対処、援助法について理解することができる。
9	コミュニケーションスキルの向上①ノンバーバルコミュニケーション	グループワークを通して非言語によるコミュニケーションを理解し、適切な対応ができる。
10	コミュニケーションスキルの向上②アサーティブ・コミュニケーション	アサーションを習得し、互いを尊重にするコミュニケーション力を身につける。
11	コミュニケーションスキルの向上③要求・援助場面でのコミュニケーション	コミュニケーションをとる相手が何を望み、それに対してどう対応すべきかを適切に理解することができる。
12	コミュニケーションスキルの向上④グループディスカッション	グループディスカッションを通して、様々な価値観、考え方があることを知り、適切な自己主張ができる。
13	コミュニケーションスキルの向上⑤カウンセリングマインドと傾聴	カウンセリングマインドと傾聴について学び、ロールプレイを通じ聴く態度を向上させる。
14	コミュニケーションスキルの向上⑥リーダーとしてのコミュニケーション（コーチング）	PM理論とコーチング理論について理解しリーダーとしてのコミュニケーション力を身につける。
15	授業のまとめ	授業を振り返り、学んだことを実生活や職場でどのように生かすことができるか考えることができる。

カウンセリング論

Counseling Theory

担当教員名	佐々木　政司	実務経験（年数）	
英語氏名	SASAKI Masashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水12：10～12：50（於7621研究室）	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－コミュニケーション	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	精神分析　来談者中心療法　認知行動療法	授業方法	講義（演習を含む）
授業概要	心理臨床における基礎的な概念や理論を概説した後、来談者中心療法を基礎として、カウンセリング技法を用いたコミュニケーション・スキルについて、一部演習を含め講義する。		
教育目標	主要な心理臨床における基礎理論についての理解と、カウンセリング技法を活用した基本的なコミュニケーション・スキルの習得を目標とする。ディプロマ・ポリシーの①と③に該当する。		
到達目標	主要な心理臨床における基礎理論について理解し、カウンセリング技法を活用した基本的なコミュニケーション・スキルを習得している。		
予習・復習	シラバス、教科書で次回の講義内容を確認しておくこと。また、各回で学習した内容について十分に理解を深めておくこと。予習・復習でそれぞれ90分必要とする。各回小レポートを課す（授業で解説）。		
教科書・教材	伊藤まゆみ　看護に活かすカウンセリングⅠ　ナカニシヤ出版　ISBN9784779508707		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100％）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	心理臨床の基礎理論	心理臨床の基礎として、発達・学習・認知について理解し、パーソナリティや発達課題、学習理論などを説明できる。
2	精神分析	心理臨床の基礎として、精神分析について理解し、無意識や自我構造、精神分析の手法などについて説明できる。
3	認知行動療法	認知行動療法について理解し、認知再構成法などの主な手法について説明できる。
4	来談者中心療法	来談者中心療法について、自己理論を基礎に理解し、説明できる。
5	カウンセラーの基本的態度	ロジャースの治療の６条件を基礎に治療過程を理解し、カウンセラーの基本的態度である受容、共感、自己一致について説明できる。
6	カウンセリング技法	ロールプレイなどを通じて、傾聴、質問などの技法の基本を身につけている。
7	カウンセリングマインド	カンセリングマインドについて理解し、看護におけるカウンセリングマインドの重要性について説明できる。
8	看護場面におけるコミュニケーションスキル	人間関係構築におけるコミュニケーションスキルの重要性について理解し、その基礎的なスキルを身に着けている。

基礎ゼミナール

Seminar : Nursing Foundamentals

担当教員名	相撲　佐希子・春田　佳代・ 茂木　泰子・山口　陽子・ 北林　由紀子・那波　潤美・ 青山　京子・浅場　香・ 神谷　美香・大村　政生・ 諏訪　美栄子・平野　明美・ 夏目　恵美子・足立　勝宣・ 松野　智香子・東山　新太郎・ 中村　美奈子・和田　恵子	実務経験（年数）	病院経験10年（循環器内科、血液内科、手術室）
英語氏名	SUMAI Sakiko・HARUTA Kayo・MOTEGI Yasuko・ YAMAGUCHI Youko・KITABAYASHI Yukiko・NAWA Masumi・ AOYAMA Kyouko・ASABA Kaori・KAMIYA Mika・ OMURA Masaki・SUWA Mieko・HIRANO Akemi・ NATSUME Emiko・ADACHI Katsunori・MATSUNO Chikako・ HIGASHIYAMA Shintaro・NAKAMURA Minako・WADA Keiko	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後1時間	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－総合	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	大学生、マナー、モラル、スタディスキル	授業方法	講義・演習
授業概要	大学で学ぶために必要なスタディスキル（ノートのとり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、図書館の使い方）を習得し、学びのモチベーションを高める。また、大学生、ならびに看護学生としての姿勢や生活態度を身に付ける。		
教育目標	大学生としてのマナー、モラルなどについて学び、考える。学習方法として能動的に学ぶ意味を知り、ノートの取り方やレポートの書き方などのスキルが身に付けられるようにする。図書館の利用法や文献検索や調べ学習、プレゼンテーションの基礎的知識が習得できる。また、討議に活かすことができる。根拠のある看護実践の土台となる看護の視点に基づく思考過程を学ぶ。		
到達目標	看護大学生としてのマナー、モラル、学習方法の基本を身に付ける。		
予習・復習	レポートや討議に活かすことができるように文献を熟読する。自らの考えを伝えられるようにプレゼンテーション内容をまとめる。予習・復習でそれぞれ45分～90分を必要とする。		
教科書・教材	各担当教員の指示に従う。		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	レポート内容・討議姿勢と内容・参加度を総合的に評価する。レポート等の課題の提出がなければ評価しない。出席が2／3に達しないときは評価対象としない。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	大学で学ぶとは	大学生としてのルールや学習姿勢が理解できる。	相撲
2	e-テキストの使い方と情報モラル	e-テキストの基本的な使い方や情報モラルを理解し、学習に役立てる。	春田・相撲
3	文献検索とは　ビブリオバトルについて	図書館の利用方法と文献検索の方法が理解できる。	黒柳
4	大学のレポートとは	レポート・論文とはどのようなものか理解でき、レポートの書き方が理解できる。	春田
5	レポートの書き方	テーマに沿ってレポートを書くことができる。	
6	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションについて理解できる。	那波
7	接遇講座(1)	看護学生としてのマナーを理解できる。	外部講師
8	接遇講座(2)	看護学生としてふさわしい身だしなみを考え、実践することができる。	相撲
9	カンファレンスとは	看護のカンファレンスについて理解し、実施できる。	茂木
10	要約の仕方	要約について理解できる。	北林
11	ビブリオバトル(1)	自分の読んだ本の紹介　プレゼンと討議	山口
12	ビブリオバトル(2)		
13	担当教員によるゼミナール(1)自己紹介	自己アピールと看護大学生として自分が実践している、または実践したい学習方法の提案（資料提示）	各担当教員
14	担当教員によるゼミナール(2)課題学習	提示された課題の調べ学習と発表資料の作成	
15	担当教員によるゼミナール(3)発表	課題のプレゼンと討議	

情報科学

Information Science

担当教員名	佐々木　政司	実務経験（年数）	
英語氏名	SASAKI Masashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水12：10～12：50（於7621研究室）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－総合	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	情報化社会　情報セキュリティ	授業方法	講義
授業概要	情報化社会や保健医療における情報、情報の倫理について講義を行う。		
教育目標	情報の基礎的知識、保健医療・看護の現場での情報の取り扱いや倫理、患者の権利について理解を深める。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	情報の基礎的知識、保健医療・看護の現場での情報の取り扱いや倫理、患者の権利について理解している。		
予習・復習	コンピュータに関心を持ち、授業時間以外にもコンピュータに触れる機会をできるだけ多く持つこと。シラバスで次回の講義内容を確認し、問題意識を持って授業に臨むこと。また、各回で学習した内容について十分に理解を深めておくこと。予習・復習でそれぞれ90分必要とする。各回小レポートを課す（授業で解説）。		
教科書・教材	系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院　ISBN978－4－260－02771－7		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100％）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	コンピュータサイエンスと情報科学	ICTについて理解し、日常生活においてICTがどのように使われているか説明できる。
2	情報化社会と看護	情報リテラシーについて理解し、情報格差とその健康への影響について具体的に説明できる。
3	保健・医療における情報	保健・医療情報にはどのようなものがあるかを知り、EBN、EBHCの考え方を身につける。
4	患者の権利と意思決定	リスボン宣言を基に患者の権利について理解し、インフォームドコンセントの重要性について説明できる。
5	情報倫理と個人情報の保護	情報倫理に基づく倫理観を身につけ、守秘義務や個人情報の保護に関する法律について理解し、的確な個人情報の保護ができる。
6	医療情報システム	病院情報システムについて理解し、DPC、SOAPや看護の標準化の重要性について説明できる。
7	情報セキュリティ	物理的・論理的セキュリティについて理解し、情報セキュリティを高めることができる。
8	これからの情報システムと看護	ビッグデータやAI、ソーシャルメディア、地域医療包括システムについて理解し、今後情報システムを活用していこうとする積極的な意欲がある。

情報科学演習

Information Processing

担当教員名	佐々木　政司	実務経験（年数）	
英語氏名	SASAKI Masashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水12：10～12：50（於7621研究室）	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－総合	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	情報処理　文書作成　表計算　プレゼンテーション	授業方法	演習
授業概要	情報社会におけるツールである情報機器の操作について、パソコンを用いて習得する。 Microsoft Officeを活用して文書の作成、データの処理、プレゼンテーションを行う。		
教育目標	情報機器に関する基礎的知識と操作を習得する。Microsoft Officeによる文書作成、表計算、プレゼンテーションを身につける。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	Microsoft Officeによる文書作成、表計算、プレゼンテーションができる。		
予習・復習	コンピュータに関心を持ち、授業時間以外にもコンピュータに触れる機会をできるだけ多く持つこと。次回の講義内容を確認しておくこと。予習・復習でそれぞれ90分必要とする。各回課題を課す（授業で解説）。		
教科書・教材	指定しない。プリントを配布する。各自が作成したデータを保存するためのUSBメモリを準備すること。		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	課題提出（100％）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	情報機器の基礎	パソコンの仕組みやOSについて理解し説明できる。
2	パソコンの基本操作	文字入力やファイルの操作ができる。データ形式、ファイル形式について説明できる。
3	Word：文書作成の基礎	Wordで基本的な文書の入力、書体や書式、印刷、の設定、文書の保存ができる。
4	Word：作表とレイアウト	Wordで作表ができ、そのレイアウトを変更できる。
5	Word：画像	Wordで画像の入った文書を作成できる。画像形式について説明できる。
6	Excel：表計算の基礎	表計算の基本概念について説明できる。Excelでデータや基礎的な数式の入力ができる。
7	Excel：関数の基礎	Excelで合計関数（sum）・平均（average）等の基礎的な関数が利用できる。ウィザード形式で関数が利用できる。
8	Excel：データ処理	Excelで端数処理、並べ替え、フィルターの操作ができる。
9	Excel：条件分岐	Excelで論理関数による条件分岐ができる。
10	Excel：グラフとデータベース	Excelで目的に合ったグラフを作成できる。データベース関数を利用して抽出集計ができる。
11	Powerpoint：プレゼンテーションの基礎	Powerpointで基礎的なスライドの作成、印刷ができる。
12	Powerpoint：マスターとテンプレート	Powerpointでスライドマスターやテンプレートを用いてレイアウトを設定できる。
13	Powerpoint：アニメーションとスライドショー	Powerpointでアニメーションとスライドショー機能を活用し効果的なプレゼンテーションができる。
14	Officeソフトウエア間の連携	OLEを用いて他のOfficeソフトウェアで作成された内容を活用できる。
15	HTMLと共有	HTMLの基礎的な内容について説明できる。HTMLファイルを用いて作成された内容を共有できる。

健康運動スポーツ科学論 Lecture : Exercise and Sport

担当教員名	坂本　達哉	実務経験（年数）	1年
英語氏名	SAKAMOTO Tatsuya	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	（7622研究室）	開講時期	前期
科目区分	基礎分野－総合	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	運動、健康、トレーニング	授業方法	講義
授業概要	健康の保持増進のための実践力の育成と体力向上のための運動について講義する。		
教育目標	発育・発達に適した身体活動の実施は人々が健康な身体で生活することや、体力の維持・向上に役立つ。科学的に運動の意義を考え、運動生理学的な視点から運動を科学しながらスポーツと心身の関わりを理解する。ディプロマ・ポリシーの①と⑤に該当する。		
到達目標	体力を維持向上するための知識を用いて健康の保持増進につなげることができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関する予習、復習となる課題を出すので、A４用紙枚にまとめて提出する。 １単位あたりの自習時間は30時間が目安。		
教科書・教材	授業時資料配布		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	筆記試験70%（健康、体力の理解、健康な身体を作るトレーニング方法と理論）、授業時の提出レポート30%		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	健康の定義、スポーツと健康	健康づくりの３本柱、健康と体力との関係を理解する。
2	体力とはなにか、健康関連体力	体力の分類と健康関連体力を理解する。
3	トレーニング理論	トレーニングの原理・原則を理解する。
4	スポーツの実践（筋力・筋持久力）	筋力・筋持久力について理解する。
5	スポーツの実践（パワーアップ）	パワーアップのメカニズムについて理解する。
6	スポーツの実践（全身持久力）	全身持久力について理解する。
7	スポーツの実践（調整力・柔軟性）	調整力・柔軟性について理解する。
8	発育・発達と加齢	発育・発達に伴う形態、身体機能と加齢変化について理解する。

健康運動スポーツ実技

Practice : Exercise and Sports

担当教員名	坂本　達哉	実務経験（年数）	1年
英語氏名	SAKAMOTO Tatsuya	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	（7622研究室）	開講時期	後期
科目区分	基礎分野－総合	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	運動、健康、トレーニング、継続	授業方法	実技
授業概要	健康づくりに効果的な身体活動を球技種目（卓球、ソフトバレーボール）を中心に実践し、自らの健康の保持増進に活かす方法を学ぶ。		
教育目標	健康の保持増進と体力向上の為の実践力の育成。運動によるチームプレイを通して豊かな人間性をはぐくむ。ディプロマ・ポリシーの①と④に該当する。		
到達目標	運動の実践と継続により健康の保持増進につなげることができる。健康運動スポーツ科学論で学んだ体力の高め方の効果を実感し、行動につなげることができる。		
予習・復習	卓球、ソフトバレーボールについてのルール、基本技術、練習方法等を調べてA４用紙２－３枚にまとめレポート提出すること。詳細は授業で１単位当たりの自習時間は45時間が目安。		
教科書・教材	授業時ノート・資料配布		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実技試験（70%）、授業時レポート提出（30%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、実技の目的・種目・実施方法	実技を行う際の注意事項、内容を理解する。
2	体力測定	自らの体力の現状と課題を理解する。
3	卓球（握り方、構え、フォアハンド、バックハンド）	グリップの握り方、構え、基本的な打法を理解する。
4	卓球（ラリー、ツッツキ、サーブ）	基本的な打法を用いてロングでのラリーを行うことができる。
5	卓球（ラリー、スマッシュ）	ロングとショートのラリー、スマッシュを理解する。
6	卓球（三球目攻撃、ダブルスのルール理解）	三球目攻撃、ダブルスのルールを理解する。
7	卓球（ダブルスでゲーム、戦術）	ダブルスでのゲームの組み立てを理解する。
8	卓球（ダブルス、ゲーム戦術）	ダブルスでのゲームを理解する。
9	ソフトバレーボール（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ）	基本的なパスとサーブの種類を理解する。
10	ソフトバレーボール（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、ゲーム形式）	パス､サーブの技術を高め､ゲーム形式で実践するとともにルールを理解する。
11	ソフトバレーボール（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、ゲーム）	ゲームから各自の弱点を理解しチームで話し合う。
12	ソフトバレーボール（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、ゲーム）	ゲームに活かせるサーブ・スパイクを理解する。
13	ソフトバレーボール（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、ゲーム）	パスの応用練習とスパイクを活用することを理解する。
14	ソフトバレーボール（パス、サーブ、スパイク、ブロック、ゲーム）	スパイクに対するブロックについて理解する。
15	ソフトバレーボール（パス、サーブ、スパイク、ブロック、ゲーム）	得点につながるチームプレーを理解する。

専門基礎分野

◇　人体の構造と機能

◇　健康障害と回復

◇　健康支援と社会制度

人体解剖学

Human Anatomy

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－人体の構造と機能	単位数	2
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	人体、解剖、構造、機能	授業方法	講義
授業概要	人体の構造と機能に関するマクロ解剖学（肉眼的解剖学）を学修する。		
教育目標	看護学を学習するために必要な基礎的知識として、人体の構造と機能を理解する。		
到達目標	人体の肉眼的構造と機能を理解し、各臓器や組織の構造と機能を説明することができる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ、人体の構造と機能①、解剖生理学、武田裕子ほか著、メディカ出版 （ISBN：978－4－8404－7831－1）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	15回の講義の中で小テストを3回実施し、小テスト3回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	解剖学の基礎	解剖学の基礎、体の区分や方向などについて理解する。
2	人体の骨格	人体の骨格について理解する。
3	人体の筋肉	人体の筋肉について理解する。
4	人体の血液・循環器系	人体の血液・循環器系について理解する。
5	人体の呼吸器系	人体の呼吸器系について理解する。
6	人体の泌尿器系	人体の泌尿器系について理解する。
7	人体の消化器系①	人体の消化器系（消化管）について理解する。
8	人体の消化器系②	人体の消化器系（肝・胆・膵）について理解する。
9	人体の神経系①	人体の中枢神経系について理解する。
10	人体の神経系②	人体の末梢神経系について理解する。
11	人体の皮膚・免疫系	人体の皮膚・免疫系について理解する。
12	人体の内分泌系①	人体の内分泌系（下垂体、甲状腺、副甲状腺）について理解する。
13	人体の内分泌系②	人体の内分泌系（膵臓、副腎、性腺）について理解する。
14	人体の生殖器①	人体の女性生殖器について理解する。
15	人体の生殖器②	人体の男性生殖器について理解する。

人体組織学

Human Histology

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－人体の構造と機能	単位数	2
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	人体、組織、構造、機能	授業方法	講義
授業概要	人体の構造と機能に関する組織学（ミクロ解剖学）を学修する。		
教育目標	看護学を学習するために必要な基礎的知識として、人体の構造と機能を理解する。		
到達目標	人体の組織学的構造を理解し、各組織や臓器の構造と機能を説明することができる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	入門組織学、牛木辰男著、南江堂（ISBN：978－4－524－21617－8）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	15回の講義の中で小テストを3回実施し、小テスト3回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能を理解する。
2	上皮組織	上皮組織について理解する。
3	支持組織	支持組織について理解する。
4	筋組織	筋組織について理解する。
5	神経組織	神経組織について理解する。
6	心・血管系	心・血管系について理解する。
7	血液・リンパ系	血液・リンパ系について理解する。
8	消化器	消化器について理解する。
9	肝・胆・膵	肝・胆・膵について理解する。
10	呼吸器	呼吸器について理解する。
11	泌尿器	泌尿器について理解する。
12	男性生殖器	男性生殖器について理解する。
13	女性生殖器	女性生殖器について理解する。
14	内分泌臓器	内分泌臓器について理解する。
15	皮膚・感覚器	皮膚・感覚器について理解する。

人体生理学

Human Physiology

担当教員名	丹羽　利充	実務経験（年数）	名古屋大学病院勤務・医師　39年
英語氏名	NIWA Toshimitsu	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	木曜日および金曜日　12：10～12：40（10501研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－人体の構造と機能	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	生体機能、メカニズム、分子・細胞・臓器	授業方法	講義
授業概要	人体の機能とそのメカニズムに関する基礎知識を学習する。		
教育目標	看護職者として必要な人体生理学を身につける。 ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	人体の機能とそのメカニズムの基礎を理解する。		
予習・復習	自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。		
教科書・教材	「医療系学生のための図解生理学テキスト＆ノート」丹羽利充著　診断と治療社　2014年 ISBN：978－4－7878－2141－6		
参考書	なし		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）、小テスト（正解はwebで知らせる）（20%）で評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	栄養と代謝	炭水化物（糖質）、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルについて理解する。
2	消化と吸収①	消化器系、唾液、胃液、膵液、胆汁、腸液について理解する。
3	消化と吸収②	炭水化物（糖質）、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル、水の吸収について理解する。
4	体液・血液	酸塩基平衡、赤血球、白血球、リンパ球と免疫、止血、血液型について理解する。
5	循環器	心臓と循環、心筋と電気的興奮、血圧、動脈、静脈、毛細血管、リンパ管について理解する。
6	腎・泌尿器	糸球体・尿細管、水・電解質、クリアランス、ホルモン、尿路について理解する。
7	内分泌	下垂体、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、卵巣、精巣のホルモンについて理解する。
8	体温調節	体温の恒常性、日内リズム、熱の産生と放熱、体温調節と発汗、体温異常について理解する。
9	呼吸器	呼吸運動、呼吸中枢、肺気量、ガス交換について理解する。
10	骨・筋肉	骨の構造と機能、筋肉の構造と収縮について理解する。
11	脳・神経	ニューロン、中枢神経系、自律神経系、伝達物質、反射について理解する。
12	記憶と睡眠	記憶と海馬、睡眠の種類、神経機構について理解する。
13	感覚器	皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚について理解する。
14	生殖	女性の生殖機能、妊娠・分娩・授乳、男性の生殖機能、性ホルモンの基礎を理解する。
15	細胞と遺伝	細胞の構造と機能、タンパク質合成、細胞分裂と染色体、遺伝形式について理解する。

生化学

Biochemistry

担当教員名	田村　明	実務経験（年数）	
英語氏名	TAMURA Akira	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月曜日～木曜日の10：00～18：00 授業や会議のない時はいつでも歓迎（9120室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－人体の構造と機能	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	生体内代謝、糖質、脂質、たんぱく質、核酸	授業方法	講義
授業概要	「口から入ったご飯は鼻から排泄」最初に語る言葉である。摂取したでんぷんは数多くの化学反応を受けてエネルギーを産生し、二酸化炭素と水になって排泄される。また、食べたご飯から体脂肪も合成される。この授業では、体内で行われている巧妙なからくりを化学の目でとらえることとする。		
教育目標	生体構成成分および摂取栄養素の構造と機能およびそれらの代謝に関する知識を習得する。ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	体内における極めて巧妙な種々代謝反応を説明出来る。		
予習・復習	最初の授業時に、いつ、どの分野を学ぶかを示すので、その部分を予習（30分）すること。また履修したその日のうちに必ず復習（60～90分）すること。		
教科書・教材	ナーシンググラフィカ　人体の構造と機能②　臨床生化学　宮澤恵二編著　メディカ出版		
参考書	生化学ガイドブック（改訂第３版）遠藤克己、三輪一智著　南江堂（ISBN978－4－524－24363－1） 人体の構造と機能および疾病の成り立ち　加藤昌彦ほか　東京教学社（ISBN678－4－8082－6076－7）		
成績評価方法 フィードバック	授業中に実施する小テスト（40%）および学期末に実施する試験（60%）で評価する。 小テストは隔週で実施するが、実施後ただちに解説をする。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	はじめに、化学の基礎	講義内容の説明。生化学に必要な化学の基礎（共有結合・水素結合、酸化還元反応、pH、官能基等）について説明できる。
2	代謝のあらまし、細胞	異化代謝・同化代謝および細胞と細胞膜の構造・機能、種々細胞内小器官の働きについて説明できる。
3	糖質の化学、糖質の消化と吸収	単糖類（三～六炭糖）、二糖類、多糖類（ホモ・ヘテロ）の構造と機能および糖質の消化と吸収について説明できる。
4	糖質の代謝Ⅰ（エネルギー産生）	高エネルギーリン酸化合物（ATP）、解糖系とクエン酸回路、電子伝達系におけるATP産生について説明できる。
5	糖質の代謝Ⅱ（血糖維持機構）	グリコーゲンの合成と分解、糖新生、コリ回路および各種ホルモンによる血糖調節について説明できる。
6	脂質の化学、脂質の消化と吸収	脂肪酸、単純脂質、リン脂質、ステロイド類の構造と機能および脂質の消化と吸収について説明できる。
7	脂質の代謝Ⅰ（エネルギー産生）	体内脂肪の分解と脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成と利用について説明できる。
8	脂質の代謝Ⅱ（エネルギー貯蔵とコレステロール合成）	飽和・不飽和脂肪酸と脂肪の合成、コレステロールの合成と利用について説明できる。
9	脂質の代謝Ⅲ（血中における脂質輸送）	血中リポたんぱく質の種類と働き、動脈硬化症および脂質異常症について説明できる。
10	アミノ酸の化学、たんぱく質の栄養	アミノ酸の種類と特徴、たんぱく質の栄養価について説明できる。
11	たんぱく質の化学、たんぱく質の消化と吸収	ペプチド結合、たんぱく質の一次～四次構造と性質、たんぱく質の消化と吸収について説明できる。
12	アミノ酸の代謝	アミノ基転移・脱アミノ反応、尿素回路とアミノ酸の炭素骨格の代謝およびアミノ酸由来の生理活性物質を説明できる。
13	核酸の化学・代謝	DNA・RNAの構成成分と構造およびプリン・ピリミジンヌクレオチドの合成と分解について説明できる。
14	遺伝情報の保存（複製）	DNAの複製、PCR法、遺伝子操作について説明できる。
15	遺伝情報の発現（転写、翻訳）	たんぱく質の合成（転写・翻訳）および遺伝子異常、一塩基多型（SNP）について説明できる。

病理学

Pathology

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	2
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	人体、疾病、病理	授業方法	講義
授業概要	病理学総論（細胞障害、循環障害、体液異常、炎症、免疫異常、感染症、腫瘍、遺伝子異常、代謝異常、中毒、放射線障害、外傷など）について学修する。		
教育目標	人間の疾病について、病因、発生機序、組織学的変化などの病理学的知識を理解し修得する。		
到達目標	人間の疾病に関する病理学的知識を理解し、説明することができる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ、疾病の成り立ちと回復の促進①、病態生理学、山内豊明ほか著、メディカ出版（ISBN：978－4－8404－7833－5）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	15回の講義の中で小テストを3回実施し、小テスト3回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	病理学序論	病気の分類と人間の死について理解する。
2	遺伝子異常	遺伝子異常、遺伝性疾患について理解する。
3	細胞障害、変性と細胞死	細胞障害、変性と細胞死について理解する。
4	腫瘍①	細胞の増殖と腫瘍の発生について理解する。
5	腫瘍②	腫瘍の病理学および診断と治療について理解する。
6	炎症	炎症の徴候、急性炎症と慢性炎症について理解する。
7	免疫異常	アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全について理解する。
8	感染症①	感染症の種類について理解する。
9	感染症②	感染症への対応について理解する。
10	循環障害	出血、血栓、塞栓、梗塞について理解する。
11	体液異常	水腫、ショック、酸塩基平衡について理解する。
12	代謝異常	糖尿病、脂血異常症、栄養障害について理解する。
13	中毒	中毒の種類とその対応・治療について理解する。
14	放射線障害	放射線の人体への影響について理解する。
15	外傷	骨折、熱傷、褥瘡などについて理解する。

免疫学

Immunology

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	2
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	免疫、炎症、アレルギー	授業方法	講義
授業概要	人体における免疫、炎症、アレルギーなどの仕組みについて学修する。		
教育目標	人体における免疫、炎症、アレルギーの仕組みに関する免疫学的知識を修得する。		
到達目標	免疫学について理解し、免疫、炎症、アレルギーの仕組みについて理解し、説明することができる。 ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	休み時間の免疫学、齋藤紀先著、講談社出版（ISBN：978－4－06－155714－7）		
参考書	特記なし		
成績評価方法 フィードバック	15回の講義の中で小テストを3回実施し、小テスト3回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	免疫学の歴史と免疫の概念	免疫学の歴史と免疫の概念について理解する。
2	細菌感染と免疫	細菌感染と免疫について理解する。
3	細菌感染と抗体産生（自然免疫と体液性免疫）	細菌感染の自然免疫と体液性免疫について理解する。
4	細菌感染と抗体産生（抗原提示と抗体産生）	抗原提示と抗体産生、抗体のクラススイッチについて理解する。
5	ウイルスの防御反応（自然免疫と細胞性免疫）	ウイルス感染の自然免疫と細胞性免疫について理解する。
6	ウイルスの防御反応（Tc細胞と活性化マクロファージ）	細胞性免疫のTc細胞と活性化マクロファージについて理解する。
7	免疫に関わる物質（補体、抗体、抗原）	補体、抗体、抗原の働きについて理解する。
8	炎症に関わる細胞（好中球、マクロファージ、樹状細胞）	好中球、マクロファージ、樹状細胞の働きについて理解する。
9	リンパ球と免疫（B細胞、T細胞、自然リンパ球）	B細胞、T細胞、自然リンパ球について理解する。
10	免疫と病気（炎症、感染症）	炎症や感染症と免疫の関係について理解する。
11	免疫と病気（Ⅰ型アレルギー）	Ⅰ型アレルギーについて理解する。
12	免疫と病気（Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型アレルギー）	Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、Ⅴ型のアレルギーについて理解する。
13	免疫不全、がんと免疫	免疫不全、がんと免疫について理解する。
14	免疫を制御する物質	サイトカイン、ケモカイン、接着分子について理解する。
15	細胞内シグナル伝達	受容体、蛋白キナーゼ、MAPKカスケードなどについて理解する。

薬理学

Pharmacology

担当教員名	吉田　佳督	実務経験（年数）	厚生労働省・国家公務員Ⅰ種（薬学）16年 （うち国立がんセンター中央病院・薬剤師２年）
英語氏名	YOSHIDA Yoshitoku	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	月・水・木・金　８：30～13：30、14：30～17：15（10516研究室） 講義や会議等で不在の際はメール問い合わせ可	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	２
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	医薬品安全対策、薬効、薬の作用機序、薬物相互作用	授業方法	講義・演習
授業概要	薬の適正使用や、薬の有害作用とその対策を理解するための薬効群ごとの医薬品の効果や作用機序を学習する。また、アクティブラーニングの観点から講義の中で双方向のディスカッションを行う。		
教育目標	薬が生体に対してどのようにして効果を発揮するのかを明らかにするための薬理学の基礎を理解することができる。ディプロマ・ポリシー②に該当する。		
到達目標	薬理学の基礎について、その理解したことを簡潔に説明することができる。		
予習・復習	予習の際に各テーマについてＡ４用紙２枚程度にまとめたうえで受講すること。詳細は授業中に示す。自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。（課題作成も含む）		
教科書・教材	「系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学」吉岡充弘他著　医学書院　ISBN978－4－260－04716－6 「パワーアップ問題演習　薬理学　第２版」鈴木雅彦著　サイオ出版　ISBN978－4－907176－66－2		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80％）、課題（授業中に解説する）（20％）を基に評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	薬理学の基礎知識	薬理学の基礎知識について理解したことを説明できる。
2	抗感染症薬	抗感染症薬について理解したことを説明できる。
3	抗がん薬	抗がん薬について理解したことを説明できる。
4	免疫治療薬	免疫治療薬について理解したことを説明できる。
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬	抗アレルギー薬・抗炎症薬について理解したことを説明できる。
6	末梢での神経活動に作用する薬物	末梢での神経活動に作用する薬物について理解したことを説明できる。
7	中枢神経作用の概要	中枢神経作用の概要について理解したことを説明できる。
8	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する薬物について理解したことを説明できる。
9	循環器系作用の概要	循環器系作用の概要について理解したことを説明できる。
10	循環器系に作用する薬物	循環器系に作用する薬物について理解したことを説明できる。
11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物について理解したことを説明できる。
12	物質代謝に作用する薬物	物質代謝に作用する薬物について理解したことを説明できる。
13	皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物及び消毒薬	皮膚科用薬・眼科用薬・救急の際に使用される薬物及び消毒薬について理解したことを説明できる。
14	漢方薬・輸血製剤・輸血剤	漢方薬・輸血製剤・輸血剤について理解したことを説明できる。
15	看護業務に必要な薬の知識	看護業務に必要な薬の知識について理解したことを説明できる。

病態治療学Ⅰ

Pathological Therapeutics Ⅰ

担当教員名	丹羽　利充	実務経験（年数）	名古屋大学病院勤務・医師　39年
英語氏名	NIWA Toshimitsu	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	木曜日および金曜日　12：10～12：40（10501研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	内科であつかう疾患の病態と治療について学習する。	授業方法	講義
授業概要	内科であつかう疾患の病態と治療について学習する。		
教育目標	看護職者として必要な病態治療学（内科学）を身につける。 ディプロマ・ポリシーの②に該当する。		
到達目標	内科であつかう疾患の成り立ちと回復過程を理解する。		
予習・復習	自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。		
教科書・教材	「医療系学生のための図解病態治療学テキスト＆ノート」丹羽利充著 診断と治療社　2016年　ISBN：978－4－7878－2229－1		
参考書	なし		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）、小テスト（正解はwebで知らせる）（20%）で評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	内科学	臨床医学、疾患の症状・徴候、バイタルサイン、末期患者の治療と死の判定を理解する。
2	循環器疾患の病態と治療①	心不全、心電図、不整脈、虚血性心疾患を理解する。
3	循環器疾患の病態と治療②	心筋の疾患、心臓弁膜症、高血圧、先天性心疾患、感染性心内膜炎を理解する。
4	呼吸器疾患の病態と治療	かぜ、インフルエンザ、肺炎、肺結核、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺がんを理解する。
5	消化管疾患の病態と治療①	食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、小腸・大腸の疾患を理解する。
6	消化管疾患の病態と治療②	肝臓の疾患、胆嚢・胆管の疾患、膵臓の疾患を理解する。
7	腎・泌尿器疾患の病態と治療①	慢性腎臓病、急性腎障害、慢性腎不全を理解する。
8	腎・泌尿器疾患の病態と治療②	糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、その他の腎障害、尿路疾患、電解質異常を理解する。
9	代謝・内分泌疾患の病態と治療	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、下垂体、甲状腺疾患、副腎疾患を理解する。
10	血液・リンパ系疾患の病態と治療	貧血、白血病、悪性リンパ腫、出血性疾患を理解する。
11	脳・神経系疾患の病態と治療①	脳血管障害、神経変性疾患を理解する。
12	脳・神経系疾患の病態と治療②	免疫性神経疾患、感染性神経疾患、脳腫瘍、筋障害を理解する。
13	自己免疫疾患の病態と治療	関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎、強皮症、血管炎を理解する。
14	感染症の病態と治療	細菌感染症、ウイルス感染症、その他の感染症を理解する。
15	中毒の病態と治療	食中毒、薬毒物による中毒、農薬による中毒、身近なものによる中毒を理解する。

病態治療学Ⅱ

Pathological TheraputicsⅡ

担当教員名	渡辺　敦	実務経験（年数）	現職開業医
英語氏名	WATANABE Atsushi	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後（教室）または事務経由でメール対応する。	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	外科疾患・脳神経外科疾患・整形外科疾患・泌尿器科疾患	授業方法	講義
授業概要	外科疾患・脳神経外科疾患・整形外科疾患・泌尿器科疾患各々の病態と治療方法について学習する。		
教育目標	看護活動には病態と治療に関する知識が求められることから、病態治療学Ⅱでは外科疾患・脳神経外科疾患・整形外科疾患・泌尿器科疾患の病態と治療の概略を知って病気の成り立ちと回復過程を理解する。 看護学部ディプロマ・ポリシー②に関連する。		
到達目標	外科疾患・脳神経外科疾患・整形外科疾患・泌尿器科疾患の病態と治療方法が理解できる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する教科書、配布資料を１時間復習すること。		
教科書・教材	医学書院「系統看護学講座」：臨床外科看護総論　臨床外科看護各論　成人看護学〔２〕呼吸器　成人看護学〔３〕循環器　成人看護学〔５〕消化器　成人看護学〔６〕内分泌・代謝　成人看護学〔７〕脳・神経　成人看護学〔10〕運動器　成人看護学〔８〕腎・泌尿器		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（100％）		

専門基礎

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	外科疾患⑴　手術療法と麻酔、気道と肺の疾患	手術療法と適応、麻酔、気道と肺の疾患について理解できる。 肺腫瘍・気胸の病態と治療方法が理解できる。
2	外科疾患⑵　心臓の疾患	先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎と弁膜疾患の病態と治療方法が理解できる。
3	外科疾患⑶　血管系の疾患	動脈硬化症、閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤・大動脈剥離、静脈瘤・静脈血栓症の病態と治療方法が理解できる。
4	外科疾患⑷　消化器の疾患①	消化器の腫瘍（肝臓・胆のう・膵臓）の病態と治療方法が理解できる。
5	外科疾患⑸　消化器の疾患②	消化管の疾患（胃・十二指腸がん、直腸・大腸がん）の病態と治療方法が理解できる。
6	外科疾患⑹　内分泌系の疾患	下垂体・甲状腺疾患、乳がんの病態と治療方法が理解できる。
7	脳神経外科疾患⑴　脳血管系の循環障害、頭蓋内圧亢進に伴う症状	クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞の病態と治療方法が理解できる。
8	脳神経外科疾患⑵　脳血管系の循環障害、頭蓋内圧亢進に伴う症状	クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞の病態と治療方法が理解できる。
9	脳神経外科疾患⑶　脳腫瘍	脳腫瘍の病態と治療方法が理解できる。
10	整形外科疾患⑴　運動器、運動器異常、診断	運動器とは、症状（運動器異常）、診断について理解できる。
11	整形外科疾患⑵　外傷性疾患、ロコモティブシンドローム及び廃用症候群	外傷性疾患、ロコモティブシンドローム及び廃用症候群の病態と治療方法が理解できる。
12	整形外科疾患⑶　視診、補助としての看護、症状と看護	視診、補助としての看護、症状と看護について理解できる。
13	泌尿器科疾患⑴　腎不全、尿路性器感染症、尿路結石症	腎不全の分類と慢性腎不全の治療選択が理解できる。 尿路性器感染症・尿路結石の病態と治療方法が理解できる。
14	泌尿器科疾患⑵　前立腺肥大症・膀胱機能障害	前立腺肥大症と頻尿・尿失禁を来す疾患の病態と治療方法が理解できる。
15	泌尿器科疾患⑶　尿路・性器の腫瘍	腎・尿路・前立腺・精巣の腫瘍の病態と治療方法が理解できる。

病態治療学Ⅲ

Pathological TheraputicsⅢ

担当教員名	石黒　彩子・可世木　博・山田　尚登・河合　正博・寺崎　浩子・中島　務	実務経験（年数）	名古屋大学医学部付属病院・看護師・小児内科・小児外科15年
英語氏名	ISHIGURO Ayako・KASEKI Hiroshi・YAMADA Naoto・KAWAI Masahiro・TERASAKI Hiroko・NAKASHIMA Tsutomu	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	非常勤講師については授業終了後に受け付ける。または事務経由でメール対応する。	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	小児科疾患・産婦人科疾患・精神科疾患・皮膚科疾患・眼科疾患・耳鼻咽喉科疾患	授業方法	講義
授業概要	小児科疾患・産婦人科疾患・精神科疾患・皮膚科疾患・眼科疾患・耳鼻咽喉科疾患の病態と治療方法について学習する。		
教育目標	看護活動には病態と治療に関する知識が求められることから、病態治療学Ⅲでは小児科疾患、産婦人科疾患、精神科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態と治療の概略を知って病気の成り立ちと回復過程を理解する。看護学部ディプロマ・ポリシー②に関連する。		
到達目標	小児科疾患、産婦人科疾患、精神科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患の病態と治療方法が理解できる。		
予習・復習	次回の教科書範囲を指定するので、重要箇所をマーカーでチェックしておくこと。授業後に振り返りシートを渡すので、まとめておくこと。予習・復習でそれぞれ45～60分を必要とする。		
教科書・教材	系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（第14版） 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,630円　（ISBN－9784260038669） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学〔9〕女性生殖器（第15版） 松岡浩他著　医学書院　2019年　2,530円　（ISBN－9784260035675） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ母性看護学〔1〕母性看護学概論（第14版） 森恵美他著　医学書院　2021年　2,750円　（ISBN－9784260042253） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ精神看護学〔1〕精神看護の基礎（第5版） 武井麻子他著　医学書院　2017年　2,420円　（ISBN－9784260027731） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学〔12〕皮膚（第15版） 渡辺晋一他著　医学書院　2020年　2,090円　（ISBN－9784260038690） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学〔13〕眼（第14版） 大鹿哲郎他著　医学書院　2020年　1,980円　（ISBN－9784260038591） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（第14版） 小松浩子他著　医学書院　2020年　1,980円　（ISBN－9784260038645）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	修文大学試験規程による。定期試験（100%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	小児科疾患⑴　感染症、予防接種	感染症の病態・治療・予防について説明できる。	石黒
2	小児科疾患⑵　白血病、消化器疾患	白血病、消化器疾患の病態・治療について説明できる。	石黒
3	小児科疾患⑶　先天性心疾患、染色体異常、川崎病	先天性心疾患、染色体異常、川崎病の病態・治療について説明できる。	石黒
4	産婦人科疾患⑴　女性・男性生殖器　性の分化　女性の性周期と性ホルモン	女性・男性生殖器、性の分化、女性の性周期と性ホルモンについて説明できる。	可世木
5	産婦人科疾患⑵　月経異常　更年期障害　不妊症　人工授精	月経異常、更年期障害、不妊症、人工授精について説明できる。	可世木
6	産婦人科疾患⑶　子宮頸がん　子宮体がん　子宮筋腫　子宮内膜症　卵巣腫瘍	女性特有の病態と治療方法について説明できる。	可世木
7	精神科疾患⑴　神経症性障害、ストレス関連障害、気分障害、統合失調症	神経症、ストレス障害、気分障害、統合失調症の病態と治療方法を説明できる。	山田
8	精神科疾患⑵　発達障害、痴呆症、せん妄	発達障害、痴呆症、せん妄の病態と治療方法を説明できる。	山田
9	精神科疾患⑶　アルコール依存症、薬物乱用と依存、人格障害、摂食障害	アルコール依存症、薬物依存、人格障害等の病態と治療方法を説明できる。	山田
10	皮膚科疾患⑴　老人性皮膚掻痒症、白癬、疥癬、湿疹、薬疹	老人性皮膚掻痒症、白癬、疥癬の病態と治療方法について説明できる。	河合
11	皮膚科疾患⑵　老人性色素斑、帯状疱疹、褥瘡	老人性色素斑、帯状疱疹、褥瘡の病態と治療方法について説明できる。	河合
12	眼科疾患⑴　緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性	緑内障、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性の病態と治療方法について説明できる。	寺崎
13	眼科疾患⑵　白内障	白内障の病態と治療方法について説明できる。	寺崎
14	耳鼻科疾患⑴　加齢性難聴、アレルギー性鼻炎、花粉症、嗄声	加齢性難聴、アレルギー性鼻炎、花粉症の病態と治療方法について説明できる。	中島
15	耳鼻科疾患⑵　メニエール病、味覚・嗅覚・触覚の障害	メニエール病、その他耳鼻科疾患の病態と治療方法を説明することができる。	中島

病態生理学

Pathophysiology

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	1
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	人体、疾病、病理	授業方法	講義
授業概要	各臓器の病理（病理学各論）および病態生理学について学修する。		
教育目標	各臓器で発生する疾病について、その病因、発生機序、病態生理、組織学的変化などの病理学的知識を修得する。		
到達目標	臓器の疾病に関する病理学的知識を理解し、説明することができる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	カラーで学べる病理学、渡辺照男著、ヌーベルヒロカワ出版（ISBN：978－4－86174－062－6）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	15回の講義の中で小テストを３回実施し、小テスト３回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	循環器（虚血性心疾患、心奇形、心不全）	虚血性心疾患、心奇形、心不全について理解する。
2	循環器（動脈硬化症、動脈瘤、高血圧）	動脈硬化症、動脈瘤、高血圧について理解する。
3	呼吸器（閉塞性および拘束性肺疾患、肺炎、肺癌）	閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患、肺炎、肺癌について理解する。
4	消化器（胃潰瘍、胃癌、腸閉塞、大腸癌）	食道癌、胃潰瘍、胃癌、腸閉塞、大腸癌について理解する。
5	消化器（肝炎・肝硬変、肝癌、膵炎、膵癌）	肝炎・肝硬変、肝癌、膵炎、膵癌について理解する。
6	内分泌（下垂体腺腫、甲状腺癌、褐色細胞腫）	下垂体腺腫、甲状腺癌、副腎皮質機能亢進症などを理解する。
7	造血器（貧血、白血病、悪性リンパ腫）	貧血、白血病、悪性リンパ腫について理解する。
8	泌尿器（腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全）	腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全について理解する。
9	女性生殖器（子宮癌、子宮筋腫、卵巣腫瘍）	子宮癌、子宮筋腫、卵巣腫瘍について理解する。
10	男性生殖器（精巣腫瘍、前立腺肥大症、前立腺癌）	精巣腫瘍、前立腺肥大症、前立腺癌について理解する。
11	脳・神経（脳梗塞、脳出血、多発性硬化症）	脳梗塞、脳出血、多発性硬化症について理解する。
12	運動器（重症筋無力症、骨粗鬆症、関節リウマチ）	重症筋無力症、骨粗鬆症、関節リウマチについて理解する。
13	感覚器（白内障、緑内障、メニエル病）	白内障、緑内障、メニエル病について理解する。
14	皮膚（蕁麻疹、メラノーマ、熱傷）	蕁麻疹、メラノーマ、熱傷について理解する。
15	全身性疾患（膠原病、アミロイドーシス、サルコイドーシス）	膠原病、アミロイドーシス、サルコイドーシスを理解する。

臨床検査医学

Laboratory Medicine

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	1
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	臨床検査、血液検査、生理検査	授業方法	講義
授業概要	一般検査、生化学検査、免疫血清検査、血液･輸血検査、生理検査などの臨床検査医学について学修する。		
教育目標	臨床検査の意義やデータの解釈について学び、疾病の診断における臨床検査の役割を理解する。		
到達目標	疾病の診断における臨床検査の役割と意義を理解し、それらを説明できる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	臨床検査データブック コンパクト版、高久 史麿ほか著、医学書院出版（ISBN：978－4－260－02424－2）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	8回の講義の中で小テストを2回実施し、小テスト2回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	臨床検査の基礎	基準値と基準範囲、精度管理について理解する。
2	一般検査	尿検査、便検査、体腔液検査について理解する。
3	血液・凝固・輸血検査	赤血球検査、白血球検査、血小板検査、凝固検査を理解する。
4	生化学検査Ⅰ（採血法、蛋白、糖、脂質の検査）	採血法、蛋白、糖、脂質の検査について理解する。
5	生化学検査Ⅱ（窒素化合物、ビリルビン、酵素の検査）	尿素窒素、ビリルビン、酵素の検査について理解する。
6	生化学検査Ⅲ（電解質、ホルモンの検査）	電解質やホルモンの検査について理解する。
7	免疫血清検査	自己抗体、感染症、炎症マーカー、腫瘍マーカーを理解する。
8	生理検査（心電図検査、呼吸機能検査）	心電図検査や呼吸機能検査について理解する。

病原微生物学

Pathogenic Microbiology

担当教員名	越川　卓	実務経験（年数）	医師（臨床検査専門医、病理専門医、細胞診専門医）として病院勤務10年以上
英語氏名	KOSHIKAWA Takashi	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	水曜日、12：10～12：50（10515研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－健康障害と回復	単位数	1
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	病原微生物、細菌、ウイルス、微生物検査	授業方法	講義
授業概要	細菌、ウイルス、真菌、原虫などに関する微生物学について学修する。		
教育目標	病原微生物学について理解すると共に感染症の診断における微生物検査の役割を理解する。		
到達目標	細菌、ウイルス、真菌、原虫などに関する微生物学について理解し、感染症における微生物の役割を説明できる。ディプロマ・ポリシーの②③に該当する。		
予習・復習	授業内容について教科書で予習すること。講義終了後は教科書、講義資料、ビデオ教材などで授業内容を復習すること。		
教科書・教材	イラストでわかる微生物学超入門　改訂３版（ISBN：978－4－525－16343－3）		
参考書	特記なし		
成績評価方法フィードバック	８回の講義の中で小テストを２回実施し、小テスト２回分の成績を集計して評価する。100点満点で60点以上を合格とする。成績のフィードバックは、学生ポータルを介して行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	微生物の種類	病原微生物の分類について理解する。
2	細菌の種類と特徴	球菌と桿菌、グラム陽性菌と陰性菌について理解する。
3	細菌とウイルスの違い	細菌とウイルスの違いについて理解する。
4	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの分類、DNAウイルス、RNAウイルスについて理解する。
5	真菌・原虫の種類と特徴	真菌、原虫、蠕虫（寄生虫）について理解する。
6	滅菌と消毒	消毒法と滅菌法について理解する。
7	感染の予防	感染症と感染症対策について理解する。
8	化学療法	抗菌薬と薬剤耐性について理解する。

公衆衛生学

Public Health and Hygiene

担当教員名	近藤　高明	実務経験（年数）	
英語氏名	KONDO Takaaki	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	木曜日 8：30－17：00 メールで対応も可能	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康支援と社会制度	単位数	2
履修要件	特記なし	必修・選択	必修
キーワード	社会医学、疾病予防、健康の概念	授業方法	講義
授業概要	人の健康に関わる様々な生活習慣や社会・環境要因について講義する。		
教育目標	疾病の発症に関連するリスク要因を、一次予防、二次予防、三次予防の観点で整理し説明できることを目標とする。看護学部ディプロマ・ポリシーの①から⑤までのすべてに関連する。		
到達目標	集団を対象とした予防活動や健康増進活動に貢献できる知識と能力を習得する。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する教科書を前日までに1時間は熟読し、不明点は調べること。1単位あたり週90～120分を目安に予習・復習を行うこと。		
教科書・教材	「公衆衛生学入門社会・環境と健康」内藤通孝ほか著　第5版　昭和堂　2020年　ISBN：978－4－8122－1914－0		
参考書	「公衆衛生がみえる 2022－2023」医療情報科学研究所編　メディックメディア　2022年　ISBN：978－4－8963－2858－5		
成績評価方法フィードバック	課題レポート（10%）と選択式期末試験の結果（90%）で評価を行う。期末試験の正解は試験後ポータルに掲載し自己採点可能とすることで、フィードバックとする。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	公衆衛生学の歴史	公衆衛生学の歴史と現在の課題について理解する。
2	環境衛生(1)	グローバルな環境衛生の問題や物理的・環境要因について理解する。
3	環境衛生(2)	身近な生活環境の基準や安全確保について理解する。
4	衛生統計	国が実施・公開する保健関連統計や死亡率、平均寿命について理解する。
5	疫学(1)	疫学的手法の基礎理論について理解する。
6	疫学(2)・生命倫理	バイアス・ＥＢＭと生命倫理について理解する。
7	生活習慣と健康	飲酒、喫煙、運動習慣、ストレスなどの生活習慣と健康の関連について理解する。
8	主要疾患の予防(1)	がん、循環器疾患、代謝疾患の疫学と予防対策について理解する。
9	主要疾患の予防(2)	感染症の疫学と予防対策について理解する。
10	主要疾患の予防(3)	精神疾患、難病、その他の疾患の疫学と予防対策について理解する。
11	医療保障	医療保険制度と医療法について理解する。
12	医療保障	高齢者保健対策や介護保険制度について理解する。
13	労働衛生	労働者の健康を守る仕組みについて理解する。
14	母子保健・学校保健	母子保健と学校保健の制度と現状について理解する。
15	衛生行政・国際保健	国内の衛生行政機関と国際保健機関の活動について理解する。

保健･医療･介護･福祉関係法規 Legal aspects of health and welfare

担当教員名	北野　文将	実務経験（年数）	病院勤務・弁護士（11年）
英語氏名	KITANO Fumimasa	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後30分間、その他必要ならばメール対応する。	開講時期	前期
科目区分	専門基礎分野－健康支援と社会制度	単位数	2
履修要件		必修・選択	必修
キーワード	法的思考の理解、法規の解釈、医療制度の活用方法	授業方法	講義
授業概要	看護職として職務を遂行する上で必要な医療・保健・福祉・介護等に関する法的・社会的制度を学ぶ。		
教育目標	各種法律・制度の目的や理念を理解し、実際の看護業務において適切な運用・判断が行える能力を身につける。看護学部ディプロマ・ポリシー①と③と関連する。		
到達目標	医療制度の仕組みを理解して、制度の利用・運用方法を他者に説明できる。		
予習・復習	予習：教科書をもとに次回授業に関する法規・制度について調べておく。 復習：学んだ法規・制度に関する理解を深めるよう努力する。 予習・復習でそれぞれ90分から120分を必要とする。		
教科書・教材	森山幹夫『健康支援と社会保障制度［4］看護関係法令』55版（医学書院）ISBN：978－4－260－04867－5		
参考書	必要に応じて紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（60%）、課題提出（40%） 課題（小テスト等）は返却し、その際解説する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	法律の基礎・看護職が法律を学ぶ意義	医療関係法規を理解する上での基礎的な法知識を身につける。
2	保健師助産師看護師法の基礎と構造	保健師助産師看護師法の基礎が理解できる。
3	保健師助産師看護師法	保健師助産師看護師法が理解できる。
4	看護職に関する法	看護師等の人材確保の促進に関する法律等が理解できる。
5	医療法	医療法と医療制度が理解できる。
6	医療関連職に関する法律	医療関連職に関する法が理解できる。
7	医療を支えるための関連法	医療・介護の提供体制に関する法等、医療を支えるための関連法を理解できる。
8	健康保険法・国民健康保険法と医療費用	健康保険法、国民健康保険法と関連法が理解できる。
9	介護保険法と介護制度	介護保険法と関連法が理解できる。
10	年金制度	国民年金法、厚生年金保険法と関連法が理解できる。
11	薬剤と医療機器	医薬品医療機器等法と関連法が理解できる。
12	労働法と社会制度	労働基準法、雇用保険法と関連法が理解できる。
13	福祉制度の基礎	社会福祉法、生活保護法と関連法が理解できる。
14	児童・高齢者等の福祉	児童福祉法、老人福祉法、障害者基本法と関連法が理解できる。
15	虐待対策	虐待関連法と関連法が理解できる。

国際保健環境学

International Environmental Health studies

担当教員名	吉田　佳督	実務経験（年数）	厚生労働省・国家公務員Ⅰ種（薬学）16年 （うち国立がんセンター中央病院・薬剤師２年）
英語氏名	YOSHIDA Yoshitoku	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	月・水・木・金　８：30～13：30、14：30～17：15（10516研究室） 講義や会議等で不在の際はメール問い合わせ可	開講時期	前期
科目区分	専門基礎科目－健康支援と社会制度	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	国際保健、途上国の保健医療課題、SDGs	授業方法	講義・演習
授業概要	保健分野の世界的課題と健康格差、その是正のための取り組みについて学習する。また、JICA等の活動を通じて海外の方が近年日本に学ぶ事項として、感染症対策・グローバルな環境対策・災害対策があることから、これらについてもその理解を深める。また、アクティブラーニングの観点から講義の中で双方向のディスカッションを行う。		
教育目標	国際保健の現状と課題解決に向けた取り組みについて、その実際を理解することができる。ディプロマ・ポリシー①⑤に該当する。		
到達目標	国際的な視野から保健医療や看護の役割を理解し、簡潔に説明することができる。		
予習・復習	予習の際に各テーマについてＡ４用紙２枚程度にまとめたうえで受講すること。詳細は授業中に示す。自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。（課題作成も含む）		
教科書・教材	「看護師国試につかえる　これだけ！公衆衛生・関係法規」川口ちづる著　技術評論社　ISBN978－4－7741－8164－6 「これで突破！社会保障＆関係法規2023」西田幸典他著　メディカ出版　ISBN978－4－8404－7571－6		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80％）、課題（授業中に解説する）（20％）を基に評価する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	グローバルヘルスの基本概念	グローバルヘルスの基本概念について説明できる。
2	健康の社会的決定要因	健康の社会的決定要因について説明できる。
3	国際保健医療の研究方法	国際保健医療の研究方法について説明できる。
4	国際保健医療の実践（災害対策・避難民保護）	国際保健医療の実践（災害対策・避難民保護）について説明できる。
5	国際保健医療（母子・栄養）	国際保健医療（母子・栄養）について説明できる。
6	国際保健医療（メンタル・生活習慣病）	国際保健医療（メンタル・生活習慣病）について説明できる。
7	国際保健医療（感染症・伝統医療）	国際保健医療（感染症・伝統医療）について説明できる。
8	国際保健医療の関連領域としてのグローバルな環境対策	国際保健医療の関連領域としてのグローバルな環境対策について説明できる。

疫学

Epidemiology

担当教員名	吉田　佳督	実務経験（年数）	厚生労働省・国家公務員Ⅰ種（薬学）16年 （うち国立がんセンター中央病院・薬剤師２年）
英語氏名	YOSHIDA Yoshitoku	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	月・水・木・金　８：30～13：30、14：30～17：15（10516研究室） 講義や会議等で不在の際はメール問い合わせ可	開講時期	後期
科目区分	専門基礎分野－健康支援と社会制度	単位数	２
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	疫学の概念、暴露量、罹患率、リスク比	授業方法	講義・演習
授業概要	人間集団の中で出現する健康関連事象の頻度と分布や、それらに影響を与える要因を明らかにする疫学を学習する。また、アクティブラーニングの観点から講義の中で双方向のディスカッションを行う。		
教育目標	健康関連の諸問題に対する有効な対策を樹立する疫学手法を修得し、看護の実践に役だてるように理解できる。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	科学的根拠に基づく看護が求められており、この実践のための疫学について簡潔に説明することができる。		
予習・復習	予習の際に各テーマについてＡ４用紙２枚程度にまとめたうえで受講すること。詳細は授業中に示す。自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。（課題作成も含む）		
教科書・教材	「基礎からわかる看護疫学入門第３版」大木秀一著　医歯薬出版　ISBN978－4－263－23698－7		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80％）、課題（授業中に解説する）（20％）を基に評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	疫学の概念：疫学の歴史、個と集団	疫学の概念について理解したことを説明できる。
2	危険因子と予防因子	危険因子と予防因子について理解したことを簡潔に説明できる。
3	疫学的な因果関係の考え方	疫学的な因果関係の考え方について理解したことを説明できる。
4	因果関係を判定するための基準	因果関係を判定するための基準について理解したことを説明できる。
5	疾病頻度の各種指標	疾病頻度の各種指標について理解したことを説明できる。
6	寄与危険と相対危険	寄与危険と相対危険について理解したことを説明できる。
7	人口寄与危険割合	人口寄与危険割合について理解したことを説明できる。
8	疫学研究手法の分類	疫学研究手法の分類について理解したことを説明できる。
9	疫学研究の質	疫学研究の質について理解したことを説明できる。
10	バイアスと交絡因子	バイアスと交絡因子について理解したことを説明できる。
11	スクリーニング検査	スクリーニング検査について理解したことを説明できる。
12	フィールド疫学	フィールド疫学について理解したことを説明できる。
13	社会疫学・政策疫学	社会疫学・政策疫学について理解したことを説明できる。
14	臨床疫学・遺伝疫学	臨床疫学・遺伝疫学について理解したことを説明できる。
15	ライフコース疫学	ライフコース疫学について理解したことを説明できる。

保健医療福祉行政論Ⅱ

Health and Welfare Policy Ⅱ

担当教員名	船橋　香緒里	実務経験（年数）	（保健師）24年
英語氏名	FUNAHASHI Kaori	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	授業後に対応する。	開講時期	前期
科目区分	専門基礎科目－健康支援と社会制度	単位数	2
履修要件	保健医療福祉行政論Ⅰを単位取得済みであること。（先修条件）	必修・選択	必修
キーワード	社会保障制度、保健医療福祉行政のしくみ	授業方法	講義
授業概要	看護を取り巻く社会の動向や特性について理解するとともに、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶ。		
教育目標	看護職として、健康生活・療養生活を支援する様々な社会福祉と社会保障に関する制度や法律、行政のしくみ・取り組みを理解することができる。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	①社会保障の目的や機能、歴史について理解し、社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。 ②社会保障関連諸制度の活用方法がわかる。		
予習・復習	予習：講義1回目に該当ページを提示するのであらかじめ読んでおくこと。 復習：関係する法律についてまとめておくこと。		
教科書・教材	ナーシング･グラフィカ　健康支援と社会保障③　社会福祉と社会保障、増田雅暢・島田美喜・平野かよ子編、株式会社メディカ出版　ISBN－10：４－8404－7211－4 ISBN－13：978－4－8404－7211－1		
参考書	必要に応じて紹介する。		
成績評価方法フィードバック	振り返りシート（10%）及び定期試験（90%）を基に評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	なぜ看護職は社会福祉や社会保障を学ぶのか	保健医療福祉の概要について説明できる。
2	社会保障・社会福祉の歴史と行政のしくみ	保健医療福祉行政のしくみについて説明できる。
3	看護と保健医療福祉	社会保障と保健医療福祉関連制度の関連がわかる。
4	地域福祉と地域包括ケア	地域福祉と、共生社会が理解できる。
5	児童福祉と児童関連法・主な施策	児童福祉関連法が理解できる。
6	障害児（者）福祉と関連法・主な施策	障害者福祉関連法が理解できる。
7	高齢者福祉と高齢者関連法・主な施策	高齢者福祉関連法が理解できる。
8	虐待関連法（児童・DV・高齢者・障害者）・主な施策	虐待関連法が理解できる。
9	生活保護法と関連法・主な施策	生活保護法と関連法が理解できる。
10	社会保険制度①：診療報酬と看護	医療保険と診療報酬が理解できる。
11	社会保険制度②：医療保険	医療保険と他の保健医療福祉制度の関連がわかる。
12	看護職の働く環境と職域関連法	職域の関連法が離解できる。
13	社会保険制度③：雇用保険と労災保険	雇用保険・労災保険が離解できる。
14	暮らしに必要な保健医療福祉制度	保健医療福祉制度の活用方法がわかる。
15	今後の課題	保健医療福祉の現状と課題。

専 門 分 野

◇ 基 礎 看 護 学

◇ 地域・在宅看護学

◇ 成 人 看 護 学

◇ 母 性 看 護 学

◇ 小 児 看 護 学

◇ 老 年 看 護 学

◇ 精 神 看 護 学

◇ 統 合 看 護

◇ 公衆衛生看護学

看護学概論Ⅰ

Introduction to Nursing I

担当教員名	春田　佳代	実務経験（年数）	病院勤務・看護師8年
英語氏名	HARUTA Kayo	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	月・木（16：10～17：10）10504研究室	開講時期	前期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	看護とは、看護の対象、健康、ナイチンゲール	授業方法	講義
授業概要	看護の定義・役割・機能、保助看法、対象、健康を理解することで、看護の基本的な考えを学習する。		
教育目標	看護の対象や健康、法的規制を理解し、ナイチンゲール理論を通して、看護専門職業人に求められる資質の基盤を育成する。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	看護とは何かを理解し、看護専門職業人に求められる姿勢について、自らの考えを述べることができる。		
予習・復習	次回の講義予定部分の教科書を読み講義に臨む、講義中に示した重要ポイントをノートにまとめる。予習・復習はそれぞれ60分～90分必要とする。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①：看護学概論　第7版、メディカ出版　ISBN 978－4－8404－7535－8（科目名：看護学概論Ⅱでも使用） ナーシング・グラフィカ　基礎看護学②：基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、ISBN 978－4840475365（科目名：フィジカルアセスメントでも使用） ナイチンゲールの『看護覚え書』イラスト・図解でよくわかる、西東社　ISBN 978－4－7916－3107－0		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（90%）、課題レポート（10%）、課題レポートは講義時に解説する。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	看護の本質、看護の役割と機能	看護とは何か、看護に求められる役割と機能について理解できる。
2	看護理論：ナイチンゲール	フローレンス・ナイチンゲールの著書「看護覚え書」から看護とは何かを考えることができる。
3	看護に関連する法的側面	保健師助産師看護師法など看護実践の法的規制・法的責任について理解できる。
4	看護の対象、人間のライフサイクル・人間の特徴	看護の対象となる人間とはどのような特徴を持っているのか理解できる。
5	健康のとらえ方、健康に及ぼす影響・健康と病気	健康の概念、健康に関連する要因、健康に対する働きかけについて理解できる。
6	看護におけるコミュニケーション	看護におけるコミュニケーションを理解できる。
7	看護におけるコミュニケーションとは グループ討議	看護におけるコミュニケーションをグループ討議し、考えを述べることができる。
8	ナイチンゲールについてグループ討議	ナイチンゲール看護理論から看護とは何かをグループ討議し、考えを述べることができる。

看護学概論Ⅱ

Introduction to Nursing Ⅱ

担当教員名	春田　佳代	実務経験（年数）	病院勤務・看護師8年
英語氏名	HARUTA Kayo	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	月・木（16：00～17：00）10504研究室	開講時期	前期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	1
履修要件	看護学概論Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	看護理論、看護倫理、看護実践、医療安全	授業方法	講義
授業概要	科学的根拠に基づいた看護実践、看護実践の基盤となる看護理論、看護倫理、チームアプローチ、看護マネジメントについて学習する。		
教育目標	科学的根拠および看護理論に基づいた看護、対象を尊重した看護実践の基本的な姿勢を育成する。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	ヘンダーソン理論に基づいた看護および看護の倫理的課題についての考えをまとめることができる。		
予習・復習	次回の講義予定部分の教科書を読み講義に臨む、講義中に示した重要ポイントをノートにまとめる。予習・復習はそれぞれ90分必要とする。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学①：看護学概論第7版、メディカ出版、（1年次購入済み） ナーシング・グラフィカ　基礎看護学②：基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、ISBN 978－4840475365（科目名：フィジカルアセスメントでも使用） 看護の基本となるもの、日本看護協会出版会、ISBN 978－4818019966		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（90%）、課題レポート（10%）、課題レポートは講義時に解説する。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	看護実践と科学的根拠、看護過程	科学的根拠に基づいた看護実践、看護実践における看護過程について理解できる。
2	看護理論、各看護理論家と看護	看護実践の基盤となる看護理倫について、各看護理論家の理論枠組みを理解できる。
3	看護倫理とは、看護における倫理の必要性、道徳的ジレンマと倫理的課題	看護倫理について理解できる。
4	倫理的課題についてのグループ討議	看護における倫理的課題についてグループ討議し、考えを述べることができる。
5	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉における看護の特徴と看護職の役割が説明できる。
6	看護におけるチームアプローチ	チームアプローチの看護の役割を理解できる。
7	看護のマネジメント、質の高い看護の提供、医療安全、リーダーシップ	看護のマネジメントの意味が理解できる。
8	ヘンダーソンについてのグループ討議	ヘンダーソン理論に基づいた看護についてグループ討議し、考えを述べることができる。

フィジカルアセスメント Physical Assessment

担当教員名	春田　佳代・東山　新太郎・ 相撲　佐希子・諏訪　美栄子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師８年
英語氏名	HARUTA Kayo・HIGASHIYAMA Shintaro・ SUMAI Sakiko・SUWA Mieko	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後30分間（10506研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	2
履修要件	演習への参加は講義の聴講ならびに、事前課題の実施が必須。	必修・選択	必修
キーワード	健康聴取歴、フィジカルメントの基本的技術	授業方法	講義・演習
授業概要	フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、倫理的側面を重視しながら全人的に診査する。問診から、身体診査、評価までの過程における観察、測定、コミュニケーション技術の基本を学ぶ。		
教育目標	健康歴聴取、フィジカルアセスメントの基本的技術を活用して、身体各部をアセスメントする方法を理解し、実践することができる。ディプロマ・ポリシーの②④に相当する。		
到達目標	健康状態を把握するための身体診査を行い、評価することができ、基本的技術の目的、方法、アセスメント結果を正しく対象者に伝えることができる。		
予習・復習	人体解剖学・組織学・生理学の事前課題を実施した上で講義を望む。演習はナーシングスキルに沿った課題を課す。予習・復習は各120分必要とする。		
教科書・教材	「ナーシンググラフィカ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ」松尾ミヨ子他著、メディカ出版※看護学概論Ⅱにおいても使用する、ISBN978－4－8404－7536－5 「看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント」医療情報科学研究所著、メディックメディア、ISBN978－4－89632－781－6		
参考書	「ベイツ診察法　第３版」Lynn S. Bickley他著、メディカル・サイエンス・インターナショナル出版、ISBN978－4－8157－3056－7 「フィジカルアセスメントガイドブック　第２版」山内豊明著、医学書院　ISBN978－4260013840		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）、技術試験（10%）、課題（10%）。 減点対象：課題の提出状況、身だしなみチェック表に沿わない身だしなみなどを対象とする。		

専門

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	講義：ガイダンス、ヘルスアセスメントの意義と看護への活用、健康歴聴取、基本的技術	ヘルスアセスメントの意義、健康歴聴取、基本的技術について理解できる。	春田
2	講義：フィジカルアセスメントの進め方	フィジカルアセスメントの進め方、臨床推論について理解できる。	全員
3･4	講義：バイタルサインズ（体温、呼吸、酸素飽和度）	体温、呼吸、酸素飽和度の測定･評価について理解できる。	東山
5･6	講義：バイタルサインズ（脈拍・血圧）	脈拍、血圧の測定・評価について理解できる。	東山
7･8	演習：全身、顔色、皮膚・爪、脈拍、血圧測定	全身、顔色、皮膚・爪、脈拍、血圧測定を実施・評価できる。	全員
9･10	演習：バイタルサインズ（体温、脈拍、血圧、呼吸、酸素飽和度）測定評価	バイタルサインズ（体温、脈拍、血圧、呼吸、酸素飽和度）を測定評価できる。	全員
11･12	技術試験１回目：バイタルサインズ測定・評価（体温・脈拍・呼吸数・血圧）	バイタルサインズ測定・評価を実践できる。	全員
13･14	講義：呼吸器系の問診、視診、打診、呼吸音聴診	呼吸器系の問診、視診、打診、呼吸音の聴診について理解できる。	東山
15･16	演習：呼吸器系の問診、視診、触診、打診、呼吸音聴診	呼吸器系の問診、視診、触診、打診、呼吸音の聴診について実施・評価できる。	全員
17･18	講義：循環器系の問診、視診、打診、心音の聴取、末梢循環	循環器系の問診、視診、打診、心音の聴取、末梢循環を理解できる。	東山
19･20	演習：循環器系の問診、視診、打診、心音の聴取、末梢循環	循環器系の問診、視診、打診、心音の聴取、末梢循環を実施・評価できる。	全員
21･22	講義：腹部の問診、視診、腸蠕動音の聴診、打診、触診	腹部の問診、視診、触診、聴診、打診を理解できる。	東山
23	演習：腹部の問診、腹部の視診、腸蠕動音の聴診、打診、触診	腹部の問診、視診、触診、聴診、打診を実施･評価できる。	全員
24	講義：筋・骨格系の問診、運動機能、歩行、関節の視診・触診、関節可動域、MMT	筋・骨格系の問診、運動機能、歩行、関節の視診・触診、MMTを理解できる。	東山
25	講義：脳神経系の問診、意識、眼球運動、瞳孔、対光反射	脳神経系の問診、意識障害、眼球運動、瞳孔所見について理解できる。	東山
26	演習：瞳孔所見、MMT、関節可動域	瞳孔所見、MMT、関節可動域の測定を実施・評価できる。	全員
27･28	演習：事例に基づいたバイタルサインズの測定（体温・脈拍・呼吸・血圧）、症状の観察	事例を基に、バイタルサインズ測定や症状の観察を実施できる。	全員
29･30	演習：バイタルサインズ測定（体温・脈拍・呼吸・血圧）、症状の観察、評価の実際	模擬患者を対象に問診、バイタルサインズ測定、症状観察、評価を行ない、その場面を基にグループディスカッションを行う。	全員

基礎看護援助技術Ⅰ

Fundamental Nursing Care Skills Ⅰ

担当教員名	春田 佳代・諏訪 美栄子・東山 新太郎	実務経験（年数）	病院勤務　看護師経験8年
英語氏名	HARUTA Kayo・SUWA Mieko・HIGASHIYAMA Shintaro	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後30分（於担当教員研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	2
履修要件	演習への参加は講義の聴講ならびに、事前課題の実施が必須。	必修・選択	必修
キーワード	人間の基本的欲求、倫理の尊重、日常生活援助	授業方法	講義・演習
授業概要	基礎看護援助技術の目的や科学的根拠から意義を理解し、基本的な知識、技術、態度を育成する。演習では療養生活を過ごす患者の基本的欲求の充足に向け、倫理を尊重し安全、安楽、自立ならびに看護の作用を考慮しながら日常生活援助に焦点をあてた看護技術を学修する。		
教育目標	基礎看護援助技術の目的、科学的根拠、看護の作用を理解し、非日常生活を過ごす対象への日常生活援助の具体的方法を学習する。基本的欲求の未充足な対象に安全、安楽、自立を考えた看護実践ができる能力を育む。看護学部ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	基礎看護援助技術の目的や科学的根拠を理解して、倫理に重きをおいた、安全で安楽な技術が実践できる。		
予習・復習	ナーシング・スキルに沿った演習前課題および指定した動画の視聴による事前準備を行い、主体的に参加する。演習後課題は、演習で実践した内容を自己評価し、小テストは100％に達成するまで実施し、期日までに提出する。予習・復習でそれぞれ120分必要とする。		
教科書・教材	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ」、松尾ミヨ子ほか編、メディカ出版、ISBN978－4－8404－7537－2 「看護がみえるvol.1　基礎看護技術」　医療情報科学研究所著、メディックメディア　ISBN978－4－89632－733－5		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80％）、技術試験（10％）、ナーシング・スキル課題（10％）。 減点対象：課題の提出状況、身だしなみチェック表に沿わない身だしなみなどを対象とする。		

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	ガイダンス 講義：看護倫理、医療安全、安全を守る技術（感染対策：標準予防策）	基礎看護援助技術Ⅰを学ぶ意義が理解できる。 看護倫理、医療安全について理解できる。	春田
2	演習：標準予防策（手指衛生、個人防護具の着脱）	標準予防策の基本が実践できる。	全員
3･4	講義：人間工学の看護への活用 講義：活動と休息、意味	ボディメカニクスの意義を理解して、安全で安楽な姿勢、体位変換、移動と移送の方法が理解できる。	春田
5･6	演習：ボディメカニクスの活用（体位変換、移動、移送）	ボディメカニクスを活用した体位変換、移動、移送が実践できる。	全員
7	講義：生活環境の調整、活動と休息、環境の調整、臥床患者のシーツ交換	入院患者が生活するための環境調整について述べることができる。安全、安楽を考えたシーツ交換の方法を理解できる。	東山
8	講義：更衣、整容セルフケア不足のある人への援助	安全、安楽を考えた整容や衣生活、寝衣交換の方法を理解できる。	諏訪
9	講義：清潔セルフケア不足のある人への援助技術（口腔ケア）	口腔ケアの意義と効果、具体的な口腔ケアの方法が理解できる。	東山
10	演習：整容・口腔ケア	安全、安楽、自立を考えた整容・口腔ケアが実践できる。	全員
11･12	演習：ボディメカニクスの活用（ベッドメーキング、就寝患者のシーツ交換）	ボディメカニクスを活用したベッドメーキング、就床患者のシーツ交換が実践できる。	全員
13･14	演習：就床患者の寝衣交換	ボディメカニクスを活用した効果的な寝衣交換が実践できる。	全員
15･16	講義：清潔セルフケア不足のある人への援助技術（清潔、入浴、手浴、足浴）	清潔の意義を理解できる。入浴、手浴、足浴の効果と具体的な方法が理解できる。	諏訪
17･18	講義：清潔セルフケア不足のある人への援助技術（全身清拭、洗髪）	全身清拭、洗髪の意義と効果、具体的な方法について理解できる。	諏訪
19･20	演習：手浴、足浴	安全、安楽、自立を考えた手浴、足浴方法を考え実践できる。	全員
21･22	演習：洗髪	安全、安楽、自立を考えた洗髪方法を考え実践できる。	全員
23･24	演習：全身清拭、寝衣交換	安全、安楽、自立、ボディメカニクスを活用した全身清拭と寝衣交換が実践できる。	全員
25	講義：摂食セルフケア不足のある人への援助	食事の意義、安全、安楽、自立を考えた環境の整備と食事介助が理解できる。	東山
26･27	講義：排泄セルフケア不足のある人への援助 排泄の援助と陰部の清潔ケア	排泄のメカニズム、対象者への排泄の意義、排泄介助の方法が理解できる。陰部を清潔に保つ意義と効果、陰部洗浄の方法について理解できる。	諏訪
28･29	演習：床上排泄・陰部洗浄	環境調整を行い、安全・安楽・自立を考えた床上排泄の援助と陰部洗浄が実践できる。	全員
30	技術試験	試験課題の日常生活援助技術が実践できる。	全員

基礎看護援助技術Ⅱ

Fundamental Nursing Care SkillsⅡ

担当教員名	春田　佳代・相撲　佐希子・ 諏訪　美栄子・東山　新太郎	実務経験（年数）	病院勤務　看護師経験8年
英語氏名	HARUTA Kayo・SUMAI Sakiko・ SUWA Mieko・HIGASHIYAMA Shintaro	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後30分（於担当教員研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	2
履修要件	基礎看護援助技術Ⅰの単位が修得されていること。演習への参加は講義の聴講ならびに、事前課題の実施が必須である。	必修・選択	必修
キーワード	診療の補助、無菌操作、身体侵襲	授業方法	講義・演習
授業概要	本科目で学習する技術は身体に侵襲を伴うおそれのある技術であるため、既習の専門基礎科目の知識（人体の構造と機能、免疫学、薬理学等）を想起し、対象にとって安全・安楽かつ的確に実施するための科学的根拠と技術、倫理的な姿勢・態度を学修する。		
教育目標	健康上の問題を有する対象の治療過程における看護職の役割を考える。科学的根拠を基に、診療の補助に属する治療・処置を理解し、対象者、看護師にとって、より安全、安楽で効果的かつ具体的な看護援助が展開できる能力を育む。ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	健康上の問題を有する対象の診療・治療過程に伴う援助技術の科学的根拠や理論、方法を理解し、対象者、看護者に安全、安楽な技術が実践できる。		
予習・復習	ナーシング・スキルに沿った演習前課題および指定した動画の視聴による事前準備を行い、主体的に参加する。演習後課題は、演習で実践した内容を自己評価する。小テストは100%に達するまで実施し、期日までに提出する。 主体的に自己練習を行い技術の向上に努める。予習・復習でそれぞれ120分必要とする。 無菌操作を必要とする演習には、技術試験の合格を求める。		
教科書・教材	「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術」メディカ出版：ISBN　978－4－8404－5795－8 「看護がみえるvol.1　基礎看護技術」メディックメディア：ISBN　978－4－89632－733－5 「看護がみえるvol.2　臨床看護技術」メディックメディア：ISBN　978－4－89632－734－2		
参考書	適時紹介する		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）、技術試験（10%）、ナーシング・スキル課題（10%） 減点対象：課題の提出状況、身だしなみチェック表に沿わない身だしなみなどを参考にする。		

専門

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標	担当
1･2	ガイダンス、講義：倫理	科目の概要について理解でき、技術に必要な倫理的姿勢について考えることができる。	春田
	講義：検査を安全に行う技術	検査の目的・方法からその意義について理解し、看護師の役割について述べることができる。	
3･4	講義：滅菌物の取り扱いと無菌操作　創傷管理①	侵襲的な処置に必要な滅菌物の取り扱いや無菌操作について考え、述べることができる。創傷治癒過程を理解できる。	諏訪
5･6	演習：無菌操作の基本的技術と応用	無菌操作と創傷管理の基本的技術が習得できる。	全員
7	講義：創傷管理②	創傷の治癒過程を理解し、創傷管理の方法を考え、述べることができる。	諏訪
8	講義：症状マネジメントの技術（排便）	排便のメカニズムを想起し、排便困難がある人へ安全・安楽を考慮した技術（浣腸）について考え、述べることができる。	春田
9･10	演習：モデルを使用したグリセリン浣腸の実際	排便困難がある患者へ安全・安楽を考慮したグリセリン浣腸の基本的手技が実践できる。	全員
11	講義：症状マネジメントの技術（排尿）	排尿のメカニズムを想起し、排尿困難がある人へ安全・安楽を考慮した技術（一時導尿）について考え、述べることができる。	春田
12･13	技術試験	試験課題：無菌操作の基本的技術が実践できる。	全員
14･15	演習：モデルを使用した一時導尿の実際	排尿困難がある患者へ安全・安楽を考慮した一時導尿の基本的手技が実践できる。	全員
16	講義：薬物の与薬と方法	薬物の作用機序や体内動態について想起し、与薬を安全で適切に実施するために必要な知識や技術を習得し、看護師の役割について述べることができる。	相撲
17	講義：注射法① （皮下注射、筋肉注射）	各注射法の目的、作用機序を述べられ、正しい注射部位を解剖学的に述べることができる。看護師の責務や役割について考え、述べることができる。	相撲
18･19	演習：モデルを使用した注射法の実際	安全で安楽な注射を実践するために必要な基本的技術と態度が習得できる。	全員
20	講義：注射法② （静脈内注射・点滴静脈内注射）	静脈内注射の作用機序、薬効、目的から注射部位の選択に必要な解剖学的知識を想起し、安全で安楽な静脈内注射法について述べることができる。	相撲
21･22	演習：モデルを使用した採血の実際	静脈に穿刺するために必要な安全で安楽な基礎的技術が習得できる。	全員
23･24	演習：モデルを使用した静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	安全で安楽な静脈内注射を実践するための基礎的技術が習得できる。	全員
25	演習：与薬と医療過誤について（事例①）	安全で安楽な与薬を実践するために必要な知識を想起し、与薬事故防止に必要な知識と技術を用いて、看護師の役割と責務についてグループで話し合い、考えることができる。	全員
26	講義：経管栄養	栄養管理の必要性と経管栄養の種類と適応について述べることができる。	東山
27	演習：経管栄養（事例②）	経管栄養に関連した事例を通して、安全で安楽な経管栄養を実践するための知識を想起し、看護師の役割と責務、ならびに事故を防ぐ対策についてグループで話し合い、考えることができる。	全員
28	講義：口腔内吸引・酸素療法	口腔内吸引と酸素療法を安全で安楽に実践するために必要な呼吸器に関連した知識を想起し、援助技術の必要性を理解する。	東山
29	演習：口腔内吸引・酸素療法（事例③）	口腔内吸引・酸素療法に関連した事例を通して、安全で安楽な技術を実践するための知識を想起し、看護師の役割と責務、ならびに事故を防ぐ対策についてグループで話し合い、考えることができる。	全員
30	講義：罨法（温罨法、冷罨法）	罨法が身体に及ぼす作用と、安全、安楽について述べることができる。	諏訪

看護援助論

Nursing Process

担当教員名	相撲　佐希子	実務経験（年数）	病院経験10年（循環器内科、血液内科、手術室）
英語氏名	SUMAI Sakiko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後30分間	開講時期	後期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	1
履修要件	基礎看護概論Ⅱ、基礎看護援助技術Ⅱ、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	ヘンダーソン、看護過程、展開	授業方法	講義
授業概要	科学的で意図的な看護実践のために、ヘンダーソンの看護理論に基づいて看護過程のプロセスを学習する。 情報収集から看護問題の明確化までを事例に沿って段階的に学習する。		
教育目標	ヘンダーソンの理論をもとに問題解決のための看護過程のプロセスを理解し、看護の実践と評価に繋げることができる。ディプロマ・ポリシーの②④に該当する。		
到達目標	事例を活用して、アセスメントから看護問題の明確化までを看護過程のプロセスを踏まえて展開出来る。		
予習・復習	本講義は、看護概論Ⅱ、看護アセスメント論の講義内容を活用して進めていく。したがって、講義内容をまとめておく。事例を理解するために必要な既習科目や、病気の理解に必要な解剖生理・病態治療・薬理学などを活用して、各回の講義の準備をしておく。		
教科書・教材	「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践［第4版］」秋葉公子ほか著、ヌーベルヒロカワ、 ISBN978－4－86174－056－5		
参考書	看護がみえるvol.4 看護過程の展開　ISBM978－4－89632		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（100％）		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、看護過程とは、アセスメント①（ヘンダーソンの枠組みに基づく情報収集） 事例に基づいた情報収集	ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程について理解することができる。常在条件・病理的状態・基本的欲求の情報の分類・整理ができる。
2	全体像の作成（病態関連図+個別性）	情報間や要因間につながりがあることを理解し、一般的な病態関連図から全体像を描くことで個別性を見出すことができる。
3	アセスメント②－1　基本的欲求の充足・未充足の判断と分析・解釈（Step 1）	常在条件と病理的状態の情報を関連づけて、基本的欲求の充足・未充足を判断することができる。
4	事例に基づいて、情報の分析・解釈（Step 1）	
5	アセスメント②－2　情報の分析・解釈 未充足の原因・誘因を検討（Step 2）	基本的欲求の未充足の原因・誘因について情報の意味付けをすることができる。
6	事例に基づいて、情報の分析・解釈（Step 2）	
7	アセスメント②－3　未充足の原因・誘因を生活行動能力から決定（Step 3 ・ 4）・看護上の問題の明確化	生活行動能力（体力、意思力、知識）の何が不足しているのか結論づけ、看護上の問題を明確化できる。
8	事例に基づいて、情報の分析・解釈（Step 3 ・ 4）・看護上の問題の明確化	

専門

看護援助演習

Nursing Process Exericise

担当教員名	相撲 佐希子・諏訪 美栄子・春田 佳代	実務経験（年数）	病院勤務　看護師10年（循環器内科、血液内科、手術室）
英語氏名	SUMAI Sakiko・SUWA Mieko・HARUTA Kayo	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後30分間（於担当教員研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	1
履修要件	看護援助論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	ヘンダーソン看護理論、看護過程の活用	授業方法	講義、演習（個人ワーク、グループワーク）
授業概要	事例展開を通して、ヘンダーソン看護理論に基づいたアセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、評価について看護過程のプロセスを学習をする。		
教育目標	事例展開を通して看護過程の理解を深め、看護の実践と評価につなげることができる。 ディプロマ・ポリシーの②④に該当する。		
到達目標	事例の個別性を考えながら、看護問題解決のための情報の分類・整理、分析・解釈、看護問題の明確化、看護計画の立案・評価のプロセスを理解し、看護過程を展開することができる。		
予習・復習	解剖生理・病態治療・薬理学の知識を活用し、事例の理解を深める。演習ガイドに沿った演習前課題、演習後課題を課す。予習・復習は各120分必要とする。		
教科書・教材	「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践［第4版］」秋葉公子ほか著、ヌーヴェルヒロカワ、 ISBN978－4－86174－056－5（※看護アセスメント演習で使用した教科書）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（100％） 減点：出席状況、演習前課題の状況、個人課題の提出などを参考にする。 講義の振り返りは、次回の講義やポータルサイトから学生にフィードバックする。		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1･2	演習：ヘンダーソン理論枠組みによる情報収集、確認、分類・整理	事例患者の情報を常在条件と病理的状態の情報に分類・整理することができる。 ヘンダーソンの枠組みに基づいて、基本的欲求の状態を分類・整理できる。	相撲 諏訪 春田
3･4	演習：全体像（関連図）、看護問題の明確化、優先順位の決定	全体像（関連図）を記述することができる。	相撲 諏訪 春田
5･6	演習：ヘンダーソン理論枠組みによる情報の分析・解釈①	情報の分析・解釈として、基本的欲求の状態を常在条件、病理的状態と関連付けて充足・未充足を判断できる。 未充足の内容を特定できる（Step 1）。	相撲 諏訪 春田
7･8	演習：ヘンダーソン理論枠組みによる情報の分析・解釈②	未充足と判断した情報の分析･解釈を考えることができる。 未充足の原因・誘因を考えることができる（Step 2）。	相撲 諏訪 春田
9･10	演習：ヘンダーソン理論枠組みによる情報の分析・解釈③④	未充足の原因・誘因を考えながら生活行動に必要な能力（体力、意思力、知識）の何が欠如しているか考えることができる（Step 3）。 未充足状態を補うためにどのような援助が必要か考えることができる（Step 4）。	相撲 諏訪 春田
11	演習：看護問題の明確化、優先順位の決定	看護問題を明確化し、問題の優先順位を記述することができる。	相撲 諏訪 春田
12	講義：看護目標（期待される結果）の設定、目標の達成時期･表現	看護目標の設定・表現について理解できる。	諏訪
13	講義：看護計画の立案、評価、修正	看護計画の立案（O、T、E-P）、評価・修正と看護実践の記録、看護サマリーについて理解できる。	諏訪
14･15	演習：看護目標の設定、看護計画の立案	看護目標（長期・短期目標）を設定し、看護計画の立案ができる。	相撲 諏訪 春田

看護アセスメント演習

Nursing Assessment Exercise

担当教員名	相撲　佐希子・諏訪　美栄子 春田　佳代・東山　新太郎	実務経験（年数）	病院経験10年（循環器内科、血液内科、手術室）
英語氏名	SUMAI Sakiko・SUWA Mieko・ HARUTA Kayo・HIGASHIYAMA Shintaro	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義終了後1時間	開講時期	前期
科目区分	専門分野－基礎看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	ヘンダーソン、アセスメント	授業方法	講義・演習
授業概要	患者の健康問題を明らかにするアセスメントは、看護実践が意図的な行為であることを科学的・論理的に説明することである。最適な看護を提供するための思考様式として、ヘンダーソンの基本的欲求が充足した状態をベースに系統的アセスメントを用いた徹底的検討法によりデータのもつ意味を客観的思考し、解釈・分析するための基礎的能力を習得する。		
教育目標	根拠のある看護実践の土台となる看護の視点に基づく思考過程を学ぶ。ディプロマ・ポリシー②④に該当する。		
到達目標	看護の視点に基づく情報収集、情報の分析・解釈の基本ができる。		
予習・復習	看護学概論Ⅱでヘンダーソンの理論の内容をまとめておく。各自でも事例患者のグループワークで発言できるよう準備をして講義に臨む。		
教科書・教材	「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践［第4版］」秋葉公子ほか著、ヌーベルヒロカワ、 ISBN：978－4－86174－056－5		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100％）、減点：出席状況、グループワークの参加度（自分の意見を積極的に発言する。役割に責任をもって対応する）が不十分な場合。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	講義：ガイダンス　看護アセスメントに必要な思考過程とは	なぜ、看護にアセスメントが必要なのか。看護に必要な思考過程がわかる。
2	講義：情報収集：看護の視点をもった情報と収集について	看護アセスメントに必要な意図的な情報収集が理解できる。(常在条件・病理的状態・基本的欲求の構成要素) Sデータ、Oデータについて理解できる。
3 4	演習：ヘンダーソン看護理論のフレームワークに基づいた意図的情報収集(1)事例提示	ヘンダーソンの看護理論のアセスメントのフレームワークに基づいて事例に対する意図的な情報が選択できる。
5	演習：ヘンダーソン看護理論のフレームワークに基づいた意図的情報収集(2)	選択した情報の意図について述べることができる。
6 7	演習：ヘンダーソン看護理論のフレームワークに基づいた意図的情報収集(3)	意図的な情報収集について修正できる。
8 9	演習：ヘンダーソン看護理論のフレームワークに基づいた意図的情報収集(4)	事例患者の意図的な情報収集についてまとめることができる。（発表/修正）
10	講義：分析・解釈：収集した情報の分析・解釈について	分析・解釈に必要な医学的視点による科学的思考と看護の視点による論理的思考を活用することがわかる。
11	演習：健康時と入院後の比較から日常生活への影響の分析・解釈(1)	客観的事実（情報）の分析・解釈を科学的根拠に基づいて考えることができる。
12	演習：健康時と入院後の比較から日常生活への影響の分析・解釈(2)	客観的事実（情報）の分析・解釈を科学的根拠に基づいて考えたことを述べることができる。
13	演習：健康時と入院後の比較から日常生活への影響の分析・解釈(3)	客観的事実（情報）を活用した分析・解釈を科学的根拠を用いた内容に修正できる。
14 15	演習：健康時と入院後の比較から日常生活への影響の分析・解釈(4)	事例患者の分析・解釈について科学的根拠に基づいた内容でまとめることができる。（発表/修正）

地域・在宅看護学Ⅰ

Community Health and Home Care Nursing Ⅰ

担当教員名	浅場　香	実務経験（年数）	看護師（20年）　がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師
英語氏名	ASABA Kaori	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	14：00～15：00（10404研究室）不在の場合はメール対応する	開講時期	前期
科目区分	専門分野－地域・在宅看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	地域・暮らしの理解、看護活動の場の多様化、看護の役割	授業方法	講義、GW
授業概要	人々が暮らす地域を理解し、人々の暮らしと人々が支え合って生きること（互助）の重要性を理解するとともに、地域に暮らす人々への看護の役割と活動の場の多様性を学ぶ。		
教育目標	在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動方法の特徴、及び在宅看護の役割と課題に関する基礎的知識を習得する。ディプロマ・ポリシーの①③⑤に該当する。		
到達目標	人々が地域で暮らし続けることの意義を理解することができる。人々の暮らしの拠点としての「地域」を理解することができる。地域における多様な看護活動の場と役割が理解できる。		
予習・復習	指定した事前学習課題に取り組んでから授業に参加すること。復習は講義で解説したポイントを整理しておくこと。次講義の最初に確認テストを実施する。		
教科書・教材	系統看護学講座　地域・在宅看護論［1］　地域・在宅看護の基盤　医学書院（ISBN 978－4260046893）		
参考書	地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア　第7版　ナーシンググラフィカ（ISBN 978－4840475433）		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（70%）、確認テスト（10%）、課題レポート（20%） 確認テストとレポートは返却の際に解説する		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	人々の暮らしと地域・在宅看護	人々の暮らしと地域・在宅看護の関係、暮らしの基盤としての地域を理解できる。
2	在宅看護の歴史から考える在宅看護の役割	在宅看護の歴史から、在宅看護に通底する考え方と、社会背景の変化に伴い求められる看護実践の変化について理解できる。
3	地域・在宅看護の対象	地域の特性が健康に影響していること、ライフステージの特徴、家族を含めた対象について理解する。
4	地域・在宅看護の対象（ゲストレクチャー）	在宅療養と家族支援、緩和ケア、ACP、グリーフケア、多職種連携の事例から、地域・在宅看護の対象について理解する。
5	暮らしを支える看護	暮らしを支える看護についてイメージできる。環境を整える看護の役割を理解できる。
6	地域・在宅看護の実践の場と連携	地域・在宅看護の場を人々の暮らしと結び付けて考え、さまざまな看護実践の場があることを学ぶ。多職種で連携する中で看護師に求められる役割を理解できる。
7	地域・在宅看護に関わる法・制度・社会資源	在宅看護の関わる法・制度として、医療保険と介護保険が理解できる。在宅看護に関連する住まいの場について理解できる。
8	在宅看護における倫理的課題と対応	在宅看護における倫理的課題の背景を理解できる。また、そのような事象に対する対応について知ることができる。

地域・在宅看護学Ⅱ

Community Health and Home Care Nursing Ⅱ

担当教員名	浅場　香	実務経験（年数）	臨床看護師（20年）　がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師
英語氏名	ASABA Kaori	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	14：00～15：00（10404研究室）不在の場合はメール対応する	開講時期	前期
科目区分	専門分野－地域・在宅看護学	単位数	2
履修要件	地域・在宅看護学Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	様々な健康レベルと自助の支援（予防活動）	授業方法	講義、GW
授業概要	地域で療養生活を送る療養者及び家族の理解を深め、在宅看護における看護師の役割と機能について理解する。比較的健康レベルの高い人のハイリスクアプローチの方法を理解する。		
教育目標	在宅で療養生活を送る人と家族の理解をするための知識を習得する。地域に暮らす人々の健康生活に向けた支援に必要な基礎的知識を習得する。ディプロマ・ポリシーの①②③に該当する。		
到達目標	在宅看護の概念、役割、社会的意義、社会資源の活用、家族のエンパワメントを支えるケアについて理解する。保健指導の理論を理解し、具体的に活用することができる。		
予習・復習	指定した事前学習課題に取り組んでから授業に参加すること。復習は講義で解説したポイントを整理しておくこと。次講義の最初に確認テストを実施する。		
教科書・教材	系統看護学講座　地域・在宅看護論［1］　地域・在宅看護の基盤　医学書院（ISBN 978－4260046893）		
参考書	系統看護学講座　成人看護学［1］　成人看護学総論　医学書院（ISBN 978－4260047012） 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア　第7版　ナーシンググラフィカ（ISBN 978－4840475433）		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（70%）、確認テスト（10%）、課題レポート（20%） 確認テストとレポートは返却の際に解説する		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	様々な在宅療養者の理解	在宅で療養生活を送る人々の健康レベル・ライフステージなどからみる多様性を理解することができる。
2	在宅療養者を支える家族の理解と家族看護の意義	在宅療養者を支える家族について理解し、家族を看護することの意義を理解することができる。
3	家族システム理論からみる家族の理解と看護	在宅療養者を支える家族を看護すること、その方法を理解することができる。
4	在宅療養者を支える様々な制度(1)	在宅療養を支える様々な制度について理解することができる。
5	在宅療養者を支える様々な制度(2)	在宅療養を支える様々な制度の効果的な活用について理解することができる。
6	事例を通して考える効果的な社会資源の活用	事例を通して、在宅療養を支える様々な制度の効果的な活用について考えることができる。
7	事例を通して考える在宅看護の意義と役割	事例を通して、在宅看護の意義、役割について考えることができる。
8	社会の変化と求められる健康支援活動	これからの社会に求められる健康支援活動の意義について考えることができる。
9	健康支援方法 －ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ－	健康支援の方法、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチについて理解することができる。
10	健康支援に活用する理論(1) －ヘルスビリーフモデル－	健康支援のために必要な基礎的理論が理解できる。
11	健康支援に活用する理論(2) －行動変容のステージモデル－	健康支援のために必要な基礎的理論が理解できる。
12	健康支援に活用する理論(3) －ストレングスモデル－	健康支援のために必要な基礎的理論が理解できる。
13	事例の健康支援活動の実際（講義・演習）	健康支援のために必要な理論を活用して、健康支援活動を考えることができる。
14	事例の健康支援活動の実際（グループワーク）	事例を通して、理論を活用した健康支援活動について考えることができる。
15	事例の健康支援活動の実際（発表）	事例を通して、理論を活用した健康支援活動について理解することができる。

地域・在宅看護学Ⅲ

Community Health and Home Care NursingⅢ

担当教員名	浅場　香	実務経験（年数）	臨床看護師（20年）　がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師
英語氏名	ASABA Kaori	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	14：00～15：00（10404研究室）不在の場合はメール対応する	開講時期	後期
科目区分	専門分野－地域・在宅看護学	単位数	2
履修要件	地域・在宅看護学Ⅱの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	長期間にわたる継続的な支援と互助の活用､自己決定支援､多職種協働（共助、公助の効果的な活用）	授業方法	講義、演習、GW
授業概要	自助、共助、公助、互助の意義と役割を理解したうえで、暮らしと健康をアセスメントする。在宅で療養生活を送る人の病期、病態、障害に応じた看護の実際を学ぶ。		
教育目標	地域に暮らす人々の健康活動に向けた支援について理解できる。地域で暮らす人々の支援に向けて多職種協働の意義と方法について基礎的知識を習得する。ディプロマ・ポリシーの②③④に該当する。		
到達目標	療養者とその家族の望む生活を実現するための支援と対象の特徴に応じた看護を理解できる。		
予習・復習	指定した事前学習課題に取り組んでから授業に参加すること。復習は講義で解説したポイントを整理しておくこと。 次講義の最初に確認テストを実施する。		
教科書・教材	系統看護学講座　地域・在宅看護論［1］　地域・在宅看護の基盤　医学書院（ISBN 978－4260046893） 系統看護学講座　地域・在宅看護論［2］　地域・在宅看護の実践　医学書院（ISBN 978－4260047142）		
参考書	地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術　第2版　ナーシンググラフィカ（ISBN 978－4840475440） 在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション改訂第2版　オーム社（ISBN 978－4274217289）		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（60%）、確認テスト（10%）、課題レポート（30%） 確認テストとレポートは返却の際に解説する		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	地域包括ケアシステムと公助、共助、互助、自助における看護の役割	地域包括ケアシステム構築にむけて公助、共助、互助、自助の意義と看護師の果たす役割について考えることができる。
2	暮らしと健康をアセスメントするための視点（時間・空間・手段・金銭・役割、規範）と方法	暮らしと健康のアセスメント方法を理解することができる。
3	自己決定支援、権利擁護の意義と看護師の役割	自己決定支援、権利擁護を踏まえた暮らしと健康のマネジメントについて、看護師の果たす役割を理解することができる。
4	事例の暮らしと健康のアセスメント	事例を通して、地域に暮らす人々の暮らしと健康のアセスメント方法について理解することができる。
5	事例の自己決定、権利擁護を踏まえたマネジメントの実際（グループワーク）	事例を通して、自己決定支援、権利擁護を踏まえた暮らしと健康のマネジメントについて考えることができる。
6	事例の自己決定、権利擁護を踏まえたマネジメントの実際（発表）	自己決定支援、権利擁護を踏まえた暮らしと健康のマネジメントについて理解することができる。
7	外来受診、入院、在宅療養準備期、在宅療養移行期の看護	外来、入院、施設など療養の場の移行に伴う看護について理解することができる。
8	療養の場の移行に伴う退院支援・退院調整	支援体制、医療連携システムを理解することができる。
9	在宅療養安定期、急性増悪、在宅終末期の看護	在宅療養者の病期に応じた看護が理解できる。
10	在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護(1) 脳梗塞・片麻痺・リハビリ期	脳血管障害のある在宅療養者の病期・病態・障害の特徴に応じた看護が理解できる。
11	在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護(2) 肝臓がん・終末期	がん疾患のある在宅療養者の病期・病態・障害の特徴に応じた看護が理解できる。
12	在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護(3) 一人暮らしの認知症	認知症のある在宅療養者の病期・病態・障害の特徴に応じた看護が理解できる。
13	在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護(4) COPD急性増悪期	呼吸器疾患のある在宅療養者の病期・病態・障害の特徴に応じた看護が理解できる。
14	在宅療養者の病態・病期・障害に応じた看護(5) ALS人工呼吸器装着期	ALS在宅療養者の病期・病態・障害の特徴に応じた看護が理解できる。
15	地域・在宅看護と災害看護	在宅療養時に起こりうる災害時の看護について理解できる。

在宅看護援助論

Home Care Nursing

担当教員名	浅場　香	実務経験（年数）	臨床看護師（20年）　がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師
英語氏名	ASABA Kaori	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	14：00～15：00（10404研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－在宅看護学	単位数	2
履修要件	在宅看護援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	臨床判断、在宅看護過程、多職種協働	授業方法	講義・演習
授業概要	暮らしの場で行われる治療・処置と看護の実際を学ぶ。		
教育目標	医療と生活の折り合いをつけるために療養生活を阻害せず、医療を生活の中に位置づけ、必要な効果を引き出すための看護を展開するプロセスを事例を通して学ぶ。各専門領域で既習した内容を深めながら、適切な臨床判断について理解し、在宅での医療ケアの実践力を身に付ける。ディプロマ・ポリシーの②③④に該当する。		
到達目標	在宅で療養生活を送る人と家族の看護問題を理解し、解決するための看護過程と看護技術を習得する。		
予習・復習	指定した事前学習課題に取り組んでから授業に参加すること。復習は講義で解説したポイントを整理しておくこと。		
教科書・教材	在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション改訂第2版　オーム社（ISBN 978－4274217289） 強みと弱みからみた地域・在宅看護過程　第2版　医学書院（ISBN 978－4260050821）		
参考書	系統看護学講座　地域・在宅看護論［2］ 地域・在宅看護の実践　医学書院（ISBN 978－4260047142） 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術　第2版　ナーシンググラフィカ（ISBN 978－4840475440）		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（60%）、演習（20%）、課題レポート（20%） 演習用紙とレポートは返却時に解説する		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	在宅看護における看護過程	在宅看護における看護過程の構成要素とアセスメントを学び、看護過程の基礎について理解を深める。
2	事例Aの在宅療養者の看護過程(1)	事例の疾患とアセスメントの概要を学び、情報収集、アセスメントについて理解を深める。
3	事例Aの在宅療養者の看護過程(2)	事例の関連図、看護診断について理解を深め、看護計画を立案する。
4	暮らしの場での臨床判断 －フィジカルアセスメント（呼吸・循環系）－	立案した看護計画に基づき、フィジカルイグザミネーションの修得と状態観察、臨床判断について理解を深める。
5	暮らしの場での医療処置(1) －与薬、バルーン留置－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
6	暮らしの場での医療処置(2) －在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸療法－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
7	暮らしの場での医療処置(3) －褥瘡管理－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
8	事例Bの在宅療養者の看護過程(1)	事例の疾患とアセスメントの概要を学び、情報収集、アセスメントについて理解を深める。
9	事例Bの在宅療養者の看護過程(2)	事例の関連図、看護診断について理解を深め、看護計画を立案する。
10	暮らしの場での臨床判断 －フィジカルアセスメント（消化器系）－	立案した看護計画に基づき、フィジカルイグザミネーションの修得と状態観察、臨床判断について理解を深める。
11	暮らしの場での医療処置(4) －輸液管理－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
12	暮らしの場での医療処置(5) －排泄ケア－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
13	暮らしの場での医療処置(6) －疼痛管理－	暮らしの場で行われる医療処置について看護の実際を理解する。医療処置等についての家族指導の方法について考えることができる。
14	訪問看護技術	訪問看護のマナーとコミュニケーションの基本、情報収集のポイントが理解できる。
15	訪問看護演習	これまでの学習を活用し、訪問看護の場面を展開できる。

成人看護学Ⅰ

Adult Nursing I

担当教員名	池松　裕子	実務経験（年数）	整形外科２年、集中治療室６年
英語氏名	IKEMATSU Yuko	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	月曜日10：30～12：00（10509研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－成人看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	成人期　発達課題　セルフケア　健康　危機	授業方法	講義
授業概要	成人期は社会での責任が重く、心身の健康障害は本人の生活のみでなく周囲にも影響を及ぼす。そのような特徴を理解し、成人期にある人の健康維持・増進、疾病予防、健康回復への援助における基本的な考え方を学ぶ。また、自分で疑問をもって学ぶ姿勢を身に付ける。授業の際には臨床で遭遇した事例を紹介することがあるため、学生各自の守秘を求める。		
教育目標	成人期にある人の健康課題を明確にし、看護を行う上での基本的考え方を述べることができる。 ディプロマ・ポリシーの①②③に該当する。		
到達目標	①成人各期の健康課題の特徴について説明できる。 ②成人期にある人の健康危機における反応を説明できる。		
予習・復習	各回に対応する教科書のページを示すので、それを読み、書いてある内容から一つ以上の事柄について各自で調べてくる。		
教科書・教材	ナーシンググラフィカ「成人看護学概論」安酸史子、メディカ出版（ISBN9784840472074）電子版		
参考書			
成績評価方法フィードバック	定期試験（100%）		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、人間のライフサイクル等	成人看護学の位置づけと学習方法を理解できる。
2	成人各期の特徴と発達課題、成人の保健動向	成人各期の身体的、心理・社会的特徴を説明できる。
3	成人の健康問題、健康観の多様性と健康指標	成人各期の健康問題および健康を脅かす要因について説明できる。
4	成人看護に有用な概念／理論１.	主に急性期成人看護に用いられる代表的な概念／理論について、概要を説明できる。
5	成人看護に有用な概念／理論２.	主に慢性期成人看護に用いられる代表的な概念／理論について、概要を説明できる。
6	急性の健康障害のある成人の理解	成人各期にある人が急性疾患に罹患したときの身体・心理・生活について理解することができる。
7	慢性の健康障害のある成人の理解	成人各期にある人が慢性疾患とともに生きる生活について理解することができる。
8	成人対象者への看護活動	これまで学んだ理論や患者理解を生かして看護を行うための思考過程を説明できる。

成人看護学Ⅱa

Adult NursingⅡa

担当教員名	池松　裕子	実務経験（年数）	整形外科2年、集中治療室6年
英語氏名	IKEMATSU Yuko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	月曜日10：30～12：00（10509研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－成人看護学	単位数	成人看護学Ⅱbと合わせて2
履修要件	成人看護学Ⅰ	必修・選択	必修
キーワード	急性疾患、外傷、生体侵襲、アセスメント、回復	授業方法	講義
授業概要	急激な健康状態の変化をきたした成人への看護を学ぶ。		
教育目標	様々な急性疾患・外傷による身体・心理・社会・スピリチュアルな影響を述べることができる。 様々な急性疾患・外傷の病態生理に伴う観察および看護介入を述べることができる。 様々な急性疾患・外傷による健康状態破綻からの早期回復を支援する方法を述べることができる。 ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	急性疾患・外傷患者の看護の原則を述べることができる。		
予習・復習	各回に該当する教科書のページを示すため、あらかじめ読んでから授業に臨むこと。 毎回の授業冒頭において、前回の授業内容について質問するため復習しておくこと。		
教科書・教材	成人看護学　急性期看護論　ヌーヴェルヒロカワ　池松裕子　他　ISBN978－4－902085－12－9 経過別成人看護学①急性期看護・クリティカルケア　明石恵子　他　メヂカルフレンド社　ISBN 9783839233259 看護アセスメントスケール＆ツール　照林社　池松裕子　ISBN978－4－7965－2434－6		
参考書			
成績評価方法フィードバック	定期試験（成人看護学Ⅱbの試験結果との合計で評価する）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	急性期看護の考え方・急性期にある人々への援助	急性期看護の対象および看護の特徴を述べることができる。
2	急性期患者の循環アセスメント	急激に循環機能が低下した患者のアセスメントを述べることができる。
3	循環器疾患患者の検査・治療と看護	心電図の基礎と、カテーテルインターベンションに伴う看護を述べることができる。
4	代表的な心疾患患者の看護	急性心不全、急性心筋梗塞、急性大動脈解離患者の看護の原則を述べることができる。
5	急性期患者の呼吸アセスメント	急激に呼吸機能が低下した患者のアセスメントを述べることができる。
6	呼吸を助ける援助と代表的な呼吸器疾患患者の看護	換気・酸素化を促進する援助および肺炎・気管支喘息・COVID-19患者の看護の原則を述べることができる。
7	体液・電解質のアセスメントと看護援助	成人の体液・電解質バランスのアセスメントと、異常をきたした患者の看護援助を述べることができる。
8	腎機能のアセスメントと腎機能障害患者の看護	腎機能をアセスメントし、腎機能が障害された患者の看護の原則を述べることができる。
9	急性の運動器疾患／外傷患者の看護	骨折・捻挫・脱臼患者の看護および松葉杖・牽引・ギプス療法中の患者の看護の原則を述べることができる。
10	急性の脳・神経障害患者の看護	頭部外傷患者の看護の原則および頭蓋内圧亢進の予防のための看護を述べることができる。
11	急性消化器疾患患者の看護	急性の消化器疾患および消化管出血患者の看護の原則を述べることができる。
12	ショック患者の看護	ショックの種類と早期発見、ショック患者の看護の原則について述べることができる。
13	急変時の看護	外来および病棟において急変した患者への対応と看護を述べることができる。
14	急性期に行われる医療処置に伴う看護	多くの急性期医療現場で行われる医療処置に伴う看護の原則を述べることができる。
15	急性期における間接的看護・安全／感染管理・倫理的課題	急性期における家族援助・多職種連携・安全管理について述べることができるとともに倫理的課題について考える。

成人看護学Ⅱb

Adult NursingⅡb

担当教員名	夏目　恵美子　他	実務経験（年数）	外科系病棟・手術室勤務（30年）
英語氏名	NATSUME Emiko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義日12：10～12：40（10503研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－成人看護学	単位数	成人看護学Ⅱaと合わせて2
履修要件	成人看護学Ⅰ	必修・選択	必修
キーワード	手術、麻酔、生体侵襲、合併症、退院指導	授業方法	講義
授業概要	手術療法を受ける患者が最良の状態で手術に臨み、早期に回復し、社会復帰できるための看護援助を学ぶ。		
教育目標	手術が患者に及ぼす身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな影響を述べることができる。 主な合併症の予防と早期発見のための看護援助を述べることができる。 離床と早期リハビリテーション、退院指導の必要性と方法を述べることができる。		
到達目標	代表的な手術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。		
予習・復習	各回の授業の系統において、人体の構造と機能・疾病・治療の復習をして望む。講義中に質問等で確認する。授業後の復習を確実に実施し理解する。		
教科書・教材	メディカ出版　周手術期看護　臨床で役立つ看護アセスメント スケール&ツール　池松裕子（編集）		
参考書	医学書院　系統看護学講座別巻　臨床外科看護総論、系統看護学講座別巻　臨床外科看護各論　医学書院、疾患別看護ケア関連図：中央法規、疾患別看護過程＋関連図：医学書院、これならわかる術前・術後の看護ケア：ナツメ社、看護技術プラクティス第3版：Gakken、看護診断ハンドブック　第11版　著者：リンダ.J.カルペニート、監訳：黒江ゆり子：医学書院、系統看護学講座別巻　臨床外科総論：医学書院、系統看護講座　成人看護学　5.6.7.8.9.10：医学書院、周術期看護ぜんぶガイド（プチナース）北島泰子（著）、中村充浩（著）		
成績評価方法フィードバック	定期試験（成人看護学Ⅱaの試験結果との合計で評価する）		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	手術および麻酔に伴う生体侵襲反応と回復過程	生体侵襲反応の時間的経過と必要な看護について述べることができる。
2	手術過程に応じた看護Ⅰ：手術前の看護	手術を受ける患者の心理的援助、術前オリエンテーションおよび身体機能のアセスメントについて述べることができる。
3	手術過程に応じた看護Ⅱ：手術直前・手術中の看護	手術室入室までと、手術室における看護について述べることができる。
4	手術過程に応じた看護Ⅲ：手術直後の看護	手術当日の呼吸・循環管理および出血予防、疼痛管理について述べることができる。
5	手術過程に応じた看護Ⅳ：術後1日目の看護	手術侵襲に応じた呼吸・循環管理と早期離床について述べることができる。
6	手術過程に応じた看護Ⅴ：合併症予防	代表的な合併症の好発時期と予防方法・対処を述べることができる。
7	手術過程に応じた看護Ⅵ：退院指導	退院後の生活を見据え、個別性に応じた退院指導の方法を述べることができる。
8	消化器（消化管）の手術を受ける患者の看護	食道・胃・腸の手術および人工肛門造設を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
9	消化器（肝・胆・膵）の手術を受ける患者の看護	肝臓切除術・胆のう摘出術・膵頭十二指腸切除術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
10	肺の手術を受ける患者の看護	肺切除術・片肺全摘術・ブラ切除術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
11	心臓手術を受ける患者の看護	冠動脈・弁・大動脈の手術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
12	内外分泌器官の手術を受ける患者の看護	乳房・甲状腺・下垂体の手術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
13	脳外科手術を受ける患者の看護	脳腫瘍・脳動脈瘤の手術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。
14	運動器の手術を受ける患者の看護	人工股関節／膝関節全置換術を受ける患者の看護および四肢切断患者の看護の原則を述べることができる。
15	腎・泌尿器の手術を受ける患者の看護	腎腫瘍・尿路結石・膀胱がん・前立腺がんの手術を受ける患者の看護の原則を述べることができる。

成人看護学Ⅲ

Adult NursingⅢ

担当教員名	神谷　美香・平野　明美	実務経験（年数）	看護師臨床経験7年
英語氏名	KAMIYA Mika・HIRANO Akemi	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後1時間	開講時期	後期
科目区分	専門分野－成人看護学	単位数	2
履修要件	1年次専門科目（必須）の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	慢性期看護、セルフケア、生活習慣、QOL	授業方法	講義
授業概要	慢性的な健康障害の特徴を理解し、セルフマネジメント（自己管理）能力を高めるために必要な対象の理解、および必要な援助方法について学ぶ。また看護実践を理論的に展開することをめざして、看護理論と実践との結びつきを知る。慢性的な健康障害をもつ成人を対象とした援助方法を学ぶ。具体的には慢性期看護の特徴を踏まえ、患者及び家族が最適な生活を営み、QOL向上を目差すための援助方法と必要な技術を学ぶ。また、健康回復および健康を維持するための治療、検査の目的、方法、看護について理解する。演習では紙上事例を元に患者指導の体験をする。		
教育目標	慢性的な健康障害の特徴と看護の要点を理解し、セルフケアマネジメント能力向上に向けた援助方法を理解する。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。 慢性的な健康障害を持つ成人を対象とした援助方法を学び、健康回復、および健康を維持するための治療、検査の目的、方法、看護について理解する。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	①慢性疾患の特徴と患者のQOL促進をめざす看護の要点を説明できる。 ②長期に療養が必要な患者への看護アプローチに有用な「行動変容モデル、病みの軌跡、オレムセルフケア理論、自己効力理論、アンドラゴジー（成人教育）」の概要について説明できる。 ③慢性疾患を患う患者の特徴・病態生理・検査・治療とその看護について理解することができる。		
予習・復習	授業に臨む際には人体の構造と機能、病態治療学を復習し、授業計画に沿って教科書等で予習をすることで、講義の理解を深める。毎回課題を提示するので次回提出する。授業終了後は配布資料･教科書をもとに復習する。必要時ポータルサイトにDVDの事前視聴を指示する。		
教科書・教材	系統看護学講座　成人看護学［2］呼吸器（第15版）･［3］循環器･［4］血液・造血器･［5］消化器･［6］内分泌・代謝･［8］腎・泌尿器，医学書院 食品交換表第7版、日本糖尿病協会・文光堂		
参考書	ナーシンググラフィカ「成人看護概論」安酸史子、メディカ出版（ISBN9784840449151） 系統看護学講座　専門基礎分野：成人看護学：1、成人看護学総論、医学書院. 慢性期看護　鈴木久美，南江堂（ISBN9784524241989） 慢性期看護論　鈴木静枝、ヌーベルヒロカワ（ISBN9784861740519） 検査データハンドブック		
成績評価方法フィードバック	修文大学試験規定による。試験（70%）、課題（30%）を総合的に評価する。		

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標
1･2	慢性期看護の概念と特徴	慢性的な健康障害の特徴を述べられる。 慢性疾患患者がたどる「病みの軌跡」を説明できる。
3･4	成人慢性期看護学における概念、看護理論 成人教育の概念、成人教育に有用な理論と概念、成人教育の実際	成人慢性期看護学における概念、理論について理解することができる。 成人教育（アンドラゴジー）の特徴を説明できる。 行動変容モデル、自己効力理論などの概要を説明できる。
5･6	看護理論を用いた慢性疾患患者の理解	慢性疾患患者の看護を理論を用いて理解することができる。慢性期看護学で用いる看護理論を用いて自己の看護を振り返り、レポートを作成できる。
7･8	慢性期疾患を持つ患者の治療に伴う援助（がん看護）	がんを患う患者の特徴的な治療（化学療法・放射線療法など）に伴う看護について理解することができる。
9･10	慢性期疾患を持つ患者の治療に伴う援助（透析療法などを受ける患者の看護）	慢性期疾患を持つ患者の特徴的な治療（透析療法など）に伴う看護について理解できる。
11･12	慢性期疾患を持つ患者の終末期看護	終末期にある患者・家族の看護、意思決定について理解することができる。
13･14	呼吸器系（気管支喘息・COPD・肺がん）に健康障害を持つ患者の看護	呼吸器（気管支喘息・COPD・肺がん）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
15･16	循環器系（不整脈・狭心症）に健康障害を持つ患者の看護	循環器系（不整脈・狭心症）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
17･18	循環器系（心筋梗塞・心不全）に健康障害を持つ患者の看護	循環器系（心筋梗塞・心不全）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
19･20	内分泌系（甲状腺、糖尿病）に健康障害をもつ患者の看護	甲状腺腫瘍、糖尿病患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
21･22	糖尿病患者の教育計画の立案、指導パンフレット作成（GW）	成人教育の原理を踏まえて、事例患者（糖尿病）の教育計画を立案し、指導パンフレットを作成できる。
23･24	腎臓系（慢性腎不全）、血液系（白血病）に健康障害を持つ患者の看護	腎臓機能障害、血液疾患（白血病）患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
25･26	消化器系（食道・胃十二指腸潰瘍）に健康障害を持つ患者の看護	上部消化管（食道・胃十二指腸潰瘍）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
27･28	消化器系（膵臓・胆嚢・肝臓）に健康障害を持つ患者の看護	上部消化管（膵臓・胆嚢・肝臓）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。
29･30	慢性期看護学全般のまとめ、定期試験	慢性期看護学全般における知識を確認できる。

クリティカルケア論　Critical Care Nursing

担当教員名	池松　裕子	実務経験（年数）	集中治療室６年
英語氏名	IKEMATSU Yuko	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	月曜日10：30～12：00	開講時期	後期
科目区分	専門分野－成人看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	生命危機、臓器機能不全、臓器サポート	授業方法	講義
授業概要	生命危機状態にある急性・重症患者を全人的に捉え、生命維持・全身状態改善・二次障害予防・QOLの向上のための看護援助について学ぶ。		
教育目標	急な臓器機能不全のために生命危機状態に陥った患者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな特徴を述べることができる。 生命危機状態にある患者への看護に必要な知識・技術・態度を考察できる。 ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	１．クリティカルな状態にある患者の身体・心理・社会・スピリチュアルな特徴を述べることができる。 ２．クリティカルな状態にある患者を理解する方法を説明できる。 ３．クリティカルな状態にある患者への看護を考える思考過程を述べることができる。 ４．クリティカルな状態にある患者の家族の特徴を知り、看護の必要性を述べることができる。		
予習・復習	呼吸・循環・腎／肝機能・脳神経系の解剖生理について復習して授業に臨むこと。 ICUに入室した患者または家族のブログ等を読み、本科目授業内と照らし合わせて考察する。		
教科書・教材	成人看護学　急性期看護論　ヌーヴェルヒロカワ　池松裕子　他　ISBN978－4－902085－12－9 経過別成人看護学①急性期看護・クリティカルケア　明石恵子　他　メヂカルフレンド社　ISBN 9783839233259 看護アセスメントスケール＆ツール　照林社　池松裕子　ISBN978－4－7965－2434－6		
参考書	クリティカルケア看護１　池松裕子　他　メヂカルフレンド社　ISBN：978－4－8392－1453－1 クリティカルケア看護２　池松裕子　他　メヂカルフレンド社　ISBN：978－4－8392－1454－8		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100%）		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	クリティカルケア看護の概要の理解	クリティカルケア看護が行われる場と看護の対象、生命危機状態にある患者の身体・心理・社会・スピリチュアルな特徴を述べることができる。
2	クリティカルな状態にある患者への看護活動	クリティカルな状態にある患者への看護内容と、思考過程を述べることができる。
3	クリティカルな状態にある患者の呼吸管理	呼吸不全状態にある患者の病態を理解し、援助する方法を説明できる。
4	クリティカルな状態にある患者の循環管理	循環不全状態にある患者の病態を理解し、援助する方法を説明できる。
5	敗血症患者の看護・重症熱傷患者の看護	複合的な臓器不全である敗血症患者と重症熱傷患者の看護を通して、生命危機状態にある患者の全人的な捉え方を学ぶ。
6	クリティカルな状態にある患者の二次障害予防	クリティカルな状態にある患者に生じやすい二次障害と、それらを予防するための看護を説明できる。
7	集中ケア認定看護師の活動	看護師・多職種への指導や院内横断的活動、社会貢献など、認定看護師としての役割と活動の実際を説明できる。
8	クリティカルな状態にある患者の日常生活援助	クリティカルな状態にある患者のQOLを維持・向上させるための日常生活援助を説明できる。

急性期看護援助論

Methods of Acute Nursing

担当教員名	池松　裕子・夏目　恵美子	実務経験（年数）	外科系病棟・手術室勤務（30年）
英語氏名	IKEMATSU Yuko・NATSUME Emiko	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	講義日12：10～12：40（10503研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－成人看護学	単位数	2
履修要件	急性期看護援助概論の単位を取得していること。	必修・選択	必修
キーワード	急性期・周術期・危機・看護過程	授業方法	講義・演習
授業概要	急激に健康状態が変化する成人期のある人を対象に急性期の特徴を理解し、生活の再調整・再構築のための指導するための援助を学ぶ。また、周術期（開復術・開胸術・開頭術・開心術・内視鏡術等）、クリティカルケアの基本的な看護についても講義する。後半、急性期の基本的な看護技術と周術期事例の一場面の看護技術を演習する。		
教育目標	健康状態の急激な変化に伴う成人期を対象とした系統疾患別な知識を理解できる。また、前半の知識を基に根拠のある看護技術と人を尊重する基本的な態度を身につける。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	急性期にある人の特徴とその看護について理解し、基本的・安全な看護技術を習得する。		
予習・復習	各回の授業の系統において、人体の構造と機能・疾病・治療の復習をして臨む。講義中に質問等で確認する。授業後の復習を確実に実施し理解する。毎回、復習を兼ねて確認テストを実施する。		
教科書・教材	疾患別看護ケア関連図：中央法規、疾患別看護過程＋関連図：医学書院、これならわかる術前・術後の看護ケア：ナツメ社、看護診断ハンドブック　第11版　著者：リンダ.J.カルペニート　監訳：黒江ゆり子：医学書院、系統看護学講座　別巻　臨床外科総論・臨床外科各論：医学書院、系統看護講座　成人看護学　5.6.7.8.9.10：医学書院		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	修文大学試験規定による。試験（70%）、課題・演習（30%）を総合的に評価する。		

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標
1･2	消化器①（大腸がん・胃がん）	大腸がん、胃がん患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
3･4	消化器②（膵臓・胆嚢がん、肝臓がん）	膵臓がん、胆嚢がん、肝臓がん患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
5･6	呼吸器（肺がん等）	肺がん患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
7･8	循環器（開心術）	開心術を受ける患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
9･10	脳神経①（神経脱落症状・高次能機能障害）	脳・神経系に機能障害のある患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
11･12	脳神経②（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血等）	脳梗塞患者、開頭術を受ける患者（脳出血、くも膜下出血）のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
13･14	性・生殖器系（乳がん、子宮筋腫、子宮がん） 泌尿器系（腎臓・膀胱がん、前立腺肥大等）	乳がん、子宮筋腫、子宮がん、腎臓がん、膀胱がん、前立腺肥大で手術を受ける患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
15･16	筋・骨格系（腰・頸椎ヘルニア、脊椎損傷）	脊椎系の手術をする患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
17･18	変形性膝関節症、脊髄損傷、試験	変形性膝関節症、脊髄損傷の患者のアセスメントとその援助について学習し理解できる。
19･20	看護技術 1	急性期の基本的な看護技術を習得できる。 ※詳細は、技術演習要項を参照する。
21･22	看護技術 2	
23･24	看護技術 3	
25･26	看護技術 4	
27･28	周術期看護技術 1	看護過程演習事例の場面をアセスメントし、看護計画を立案し実践する。
29･30	周術期看護技術 2	

専門

慢性期療養生活援助論　Methods of Chronic Nursing

担当教員名	神谷　美香・平野　明美	実務経験（年数）	看護師臨床経験７年
英語氏名	KAMIYA Mika・HIRANO Akemi	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後１時間	開講時期	前期
科目区分	専門科目－成人看護学	単位数	2
履修要件	慢性期療養生活援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	慢性期、セルフケア、生活習慣、QOL	授業方法	講義・演習
授業概要	慢性的な健康障害をもつ成人を対象とした援助方法を学ぶ。具体的には慢性期看護の特徴を踏まえ、患者及び家族が最適な生活を営み、QOL向上を目差すための援助方法と必要な技術を学ぶ。また、健康回復および健康を維持するための治療、検査の目的、方法、看護について理解する。演習では紙上事例を元に患者指導の体験をする。		
教育目標	慢性的な健康障害を持つ成人を対象とした援助方法を学び、健康回復、および健康を維持するための治療、検査の目的、方法、看護について理解する。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	慢性疾患の特徴とその看護について理解することができる。		
予習・復習	授業に臨む際には人体の構造と機能、病態治療学を復習し、授業計画に沿って教科書等で予習をすることで、講義の理解を深める。毎回課題を提示するので次回提出する。授業終了後は配布資料･教科書をもとに復習する。必要時ポータルサイトにDVDの事前視聴を指示する。		
教科書・教材	看護診断ハンドブック第11版、著者リンダ－J. カルペニート、監訳新道幸恵　第５版ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断。江川隆子著. ヌーヴェルヒロカワ　系統看護学講座　成人看護学［２］呼吸器（第15版）･［３］循環器・［４］血液・造血器・［５］消化器・［６］内分泌・代謝・［８］腎・泌尿器. 医学書院　食品交換表第７版、日本糖尿病協会・文光堂		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	修文大学試験規定による。試験・課題（70%）、演習（30%）を総合的に評価する。		

専門

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標	担当
1･2	呼吸器系（気管支喘息・COPD・肺がん）に健康障害を持つ患者の看護	呼吸器（気管支喘息・COPD・肺がん）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
3･4	循環器系（不整脈・狭心症）に健康障害を持つ患者の看護	虚血系心（狭心症・心筋梗塞）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
5･6	循環器系（心筋梗塞・心不全）に健康障害を持つ患者の看護	循環器（心不全）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
7･8	内分泌系（甲状腺、糖尿病）に健康障害を持つ患者の看護	甲状腺腫瘍、糖尿病患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	神谷
9･10	糖尿病患者の教育計画の立案､指導パンフレット作成(GW)	成人教育の原理を踏まえて、事例患者（糖尿病）の教育計画を立案し、指導パンフレットを作成できる。	神谷
11･12	事例患者への食事指導（演習）	患者指導用パンフレットを完成し、予行演習・患者指導ができる。	神谷
13･14	腎臓系（慢性腎不全)、血液系（白血病）に健康障害を持つ患者の看護	腎臓機能障害、血液疾患（白血病）患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
15･16	消化器系（食道、胃十二指腸潰瘍）に健康障害を持つ患者の看護	上部消化管（食道、胃、十二指腸潰瘍）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
17･18	消化器系（膵臓、胆嚢、肝臓）に健康障害を持つ患者の看護	上部消化管（膵臓、胆嚢、肝臓）疾患患者のアセスメントと援助について学習し理解できる。	平野
19･20	慢性期疾患を持つ患者の看護全般まとめ、定期試験	慢性期疾患患者の看護についてまとめ、知識を確認することができる。	平野
21･22	看護過程演習１：(GW)	紙上患者の情報を収集しデータベースを記述することができる。	神谷
23･34	看護過程演習２：(GW)	紙上患者の情報をもとにアセスメントができる。	神谷
25･26	看護過程演習３：(GW)	紙上患者の情報をもとにアセスメントができる。	神谷
27･28	看護過程演習４：(GW)	紙上患者の情報をもとに関連図･問題リストが作成できる。	神谷
29･30	看護過程演習５：(GW)	紙上患者の看護計画を立案することができる。	神谷

ターミナルケア論

Terminal Care Nursing

担当教員名	神谷　美香	実務経験（年数）	病院勤務・看護師８年
英語氏名	KAMIYA Mika	対象学生	４年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後１時間（10510研究室） 実習等で不在の場合はメール対応する。	開講時期	後期
科目区分	専門科目－成人看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	死生観　ターミナル期　緩和ケア　看護	授業方法	講義
授業概要	人間の死生観について学び、緩和ケアとターミナル期にある人と家族への援助について、講義する。		
教育目標	人間の死生観を理解し、緩和ケアとターミナル期にある人と家族への援助について理解を深める。自らの死生観と、死が迫っている患者・家族に対して果たすべき看護者の役割について考察する。看護学部ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	１．ターミナル期にある人の全人的苦痛について理解することができる。 ２．緩和ケアとターミナル期にある人と家族への援助について理解することができる。 ３．医療・社会的な現状および倫理的課題を知り、看護の役割を考えることができる。 ４．自己の死生観について考えを述べることができる。		
予習・復習	授業内容に沿って課題を課す。文献を用いながら自己の考えをまとめる。講義終了後は、予習した内容と配布資料や文献を振り返り整理する。予習・復習で90～120分を要する。		
教科書・教材	新体系 看護学全書 経過別成人看護学　終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア　第２版　田村恵子編　ISBN 978－4－8392－3388－4		
参考書	系統看護学講座 別巻「緩和ケア」医学書院　ISBN 978－4－260－01818－0 成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論　第２版　鈴木志津枝他編　ヌーベルヒロカワ　ISBN 978－4－86174－044－2 その他、講義時に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	課題レポート提出（100％） 課題レポートは講義時に解説する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	死生観	人間のさまざまな死生観について理解できる。 自己の死生観を考えることができる。
2	ターミナル期に関する医療・社会的現状・療養の場と倫理的課題	緩和ケア・ターミナルケアの概念と医療・社会的な現状・療養の場と看護の役割について理解できる。 死をめぐる倫理的課題と看護の役割について理解できる。
3	意思決定と緩和ケアの対象者の広がり・コミュニケーション	意思決定に関わる支援について理解できる。 対象集団の特徴による緩和ケア内容について理解できる。
4	ターミナル期にある人の日常生活を支える援助 ターミナル期にある人の身体症状の特徴	日常生活を支える看護介入について理解できる。 身体症状の特徴と看護の役割について理解できる。
5	ターミナル期にある人の身体的ケア	主要な身体症状に対する治療とケアについて理解できる。
6	ターミナル期にある人の精神的・社会的・スピリチュアルケア	精神的・社会的苦痛とスピリチュアルペインにはどのようなものがあり、それらに対するケアについて理解できる。
7	看取りをする家族の理解と援助	看取りをする家族の理解と援助、家族のニード、予期悲嘆、役割移行などへの援助について理解できる。
8	エンゼルケア・死別後のケア	死別後の遺族への援助について理解できる。

がん看護

Cancer Nursing

担当教員名	宇根底　亜希子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師16年、がん看護専門看護師11年
英語氏名	UNESOKO Akiko	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	（非常勤講師室）短い質問は、授業内で受け付けます。メールでの問い合わせ可。	開講時期	前期
科目区分	専門科目－成人看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	がん予防、治療、緩和ケア	授業方法	講義
授業概要	がんの病態やその特徴、各種治療法における根拠に基づく看護を解説する。		
教育目標	がん患者・家族を全人的に捉えることができ、患者の意向に沿った支援を実践できるようになるために、がんに関する基礎知識と基本的な支援方法を習得することができる。ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	がん医療とケアに関する基本的な知識を身につけ、がん患者・家族の支援に役立つ知識と技術を身につけることができる。		
予習・復習	予習は、初回講義までに第Ⅰ章、次回は初回講義時に示した箇所を一読すること。復習は、講義で解説したポイントを整理し、講義で学んだことをまとめること。		
教科書・教材	看護実践のための根拠がわかる成人看護技術　がん・ターミナルケア、神田清子、二渡玉江編著、定価3,250円、ISBN978－4－8392－1592－7		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	ミニ試験（30%）、課題提出（30%）、グループワークの取組み（40%）で総合的に評価する。		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1･2	がん医療の動向、がん患者・家族の理解、多職種協働チーム／グループワーク	がん医療の動向を知り、がん患者・家族を取り巻く状況と支援体制を理解できる。
3･4	がん看護における看護師の役割、緩和ケア／グループワーク	がん看護における看護師の役割および緩和ケアの概念を理解できる。
5･6	治療期における患者支援／グループワーク	様々ながん治療の特徴および有害事象について理解できる。
7･8	終末期における患者支援／グループワーク	終末期に生じやすい課題を知り、患者の意向に沿った支援について理解する。

母性看護学Ⅰ

Maternal Nursing I

担当教員名	那波　潤美	実務経験（年数）	臨床助産師５年
英語氏名	NAWA Masumi	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	原則講義内で受け付ける。	開講時期	前期
科目区分	専門分野－母性看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	リプロダクティブヘルス／ライツ、母子保健統計、セクシュアリティ、家族、プレコンセプションケア	授業方法	講義
授業概要	女性の一生を通じた健康の保持・増進と、次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達を促すために、母性看護が果たす役割と課題について講義する。		
教育目標	リプロダクティブヘルス/ライツの理念を母性看護の基盤として、母性看護の対象を身体的、心理社会的存在として理解し、看護実践に必要な基礎的な能力を養う。ディプロマ・ポリシー①⑤と関連する。		
到達目標	女性の一生を通じた健康の保持・増進、および次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達のための看護の役割について、幅広い視点から考えることができる。		
予習・復習	各回の授業内容に関して、講義前までに、１時間程度かけて教科書を熟読し、予習をして講義に臨むこと。講義後は、講義内容について、１時間程度かけて教科書と照らし合わせて復習すること。		
教科書・教材	１）系統看護学講座「母性看護学概論 第14版」医学書院（e－テキスト）（ISBN978－4－260－04225－3） ２）病気がみえるvol.9産婦人科・乳腺外科　メディック・メディカ（ISBN978－4－89632－712－0）		
参考書	適宜、紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	修文大学試験規程による。定期試験（90%）、小試験等（10%）＊ ＊返却しない。講義内で解説を行う。＊＊受講態度は参考にする。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	母性の概念と母性の特性・母性看護の歴史	母性の概念と母性の特性、母性看護の歴史の変遷を知り、母性を取りまく環境の特徴と母性看護の役割を考える。
2･3	母子保健統計の動向と母子保健に関する法律および母子保健対策・活動	母子保健統計から日本の母子保健の動向を把握することができる。母子保健推進のための法的規制や施策を理解する。
4･5	女性の各ライフステージと健康 （思春期・更年期・老年期）	女性のライフステージ各期における心身の健康面の特徴や課題を説明でき、健康に向けての看護を述べることができる。
6･7	リプロダクティブ・ヘルスとリプロダクティブ・ライツ	リプロダクティブ・ヘルスとリプロダクティブライツについて理解する。受胎調節、妊娠中絶、DV、児虐待、プレコンセプション等々と女性の健康について、その現状および看護職者としての対応について理解を深める。
8	不妊カップルへの理解と看護 人工生殖・代理母出産・出生前診断	不妊カップルへの理解とその援助について説明できる。生殖補助医療とその恩恵と問題点、倫理について考えることができる。

専門

母性看護学Ⅱ

Maternity NursingⅡ

担当教員名	那波　潤美・松野　智香子	実務経験（年数）	臨床助産師５年
英語氏名	NAWA Masumi・MATSUNO Chikako	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	原則講義内で受け付ける。メールは随時可。（那波10307／松野10305）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－母性看護学	単位数	1
履修要件	母性看護学Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	マタニティサイクル、妊娠、妊婦、胎児、家族、生理的特徴、経過診断、アセスメント、ニーズ	授業方法	講義
授業概要	妊娠期の生理的特徴や経過診断とアセスメントについて講義する。また基本的な看護技術（妊婦健診など）を実習室で演習する。		
教育目標	妊婦およびその家族に適切な看護を行うために必要な基礎知識が身につき、アセスメントと援助に対する思考過程を育む。ディプロマ・ポリシー①②と関連する。		
到達目標	１．妊娠期の生理的特徴や経過診断に必要な情報についての説明ができる。 ２．妊娠期のニーズを把握してアセスメントができる。問題解決およびウェルネスの視点から看護の方向性を述べることができる。また必要な母性看護技術を実施することができる。		
予習・復習	予習として必ず次に行われる単元の教科書の部分をすべて熟読してくること。および指示された課題を予習として行った上で講義に参加すること（120分）。 復習として、配布された資料や該当する教科書を読み直し、整理すること（90分）。 小児母性実習室における練習用に開放された日程内に、積極的に自己にて看護技術練習を行うこと。		
教科書・教材	１）系統看護学講座「母性看護学各論　第14版」医学書院（eテキスト）　ISBN　978－4－260－04223－9 ２）「根拠がわかる母性看護過程：事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画」南江堂　ISBN　978－4－524－25513－9 ３）「病気がみえる　産科　vol.10」メディック・メディア　ISBN　978－4－89632－713－7 ４）「根拠と事故防止からみた母性看護技術　第３版」医学書院　ISBN　978－4－260－04324－3 ５）系統看護学講座「母性看護学概論　第14版」医学書院 ６）「病気がみえる　婦人科・乳腺外科　vol.9第４版」メディック・メディア ＊５）および６）について、２年次　母性看護学Ⅰにて購入済み。 ＊そのほか授業で配布された資料や、病態（婦人科疾患領域の授業）で配布された資料を必ず持参すること。		
参考書	適宜、紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80%）　課題（20%）＊修文大学試験規程による。返却は課題の種類による、別途示す。　＊＊授業態度は参考にする。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容		到達目標
1	妊娠期の看護	ガイダンス	授業展開のあり方を十分理解して自己の予習・復習計画を立てる。
		正常な妊娠の経過(1)	妊娠に伴う母体の変化と心理・社会的特性と胎児の成長発達について説明できる。
2		正常な妊娠の経過(2)	
3		正常な妊娠の経過(3)	
4		妊婦－胎児の健康と生活のアセスメント(1)	妊婦と胎児について、妊娠経過の診断・アセスメントができる。
5		妊婦－胎児の健康と生活のアセスメント(2)	
6		妊婦と家族への看護	妊婦とその家族について、順調な妊娠経過を辿るための看護が説明できる。
7		妊娠期の健康問題に対する看護(1)	妊婦と胎児に起きる異常について説明できる。
8		妊娠期の健康問題に対する看護(2)	

母性看護援助論

Maternity Nursing

担当教員名	那波　潤美・松野　智香子	実務経験（年数）	臨床助産師５年
英語氏名	NAWA Masumi・MATSUNO Chikako	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	原則講義内で受け付ける。メールは随時可。（那波10307／松野10305）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－母性看護学	単位数	2
履修要件	母性看護援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	マタニティサイクル、妊娠、分娩、産褥、新生児、家族、生理的特徴、経過診断、アセスメント、ニーズ	授業方法	講義・演習
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の生理的特徴や経過診断とアセスメントについて講義する。看護過程演習の授業とリンクさせながら行う。また、各期の基本的な看護技術（妊婦健診、子宮復古の観察、授乳、新生児の観察、沐浴、褥婦の観察など）を実習室で演習する。		
教育目標	妊産褥婦と新生児、およびその家族に適切な看護を行うために必要な基礎知識が身につき、アセスメントと援助に対する思考過程を育む。ディプロマ・ポリシー①②と関連する。		
到達目標	１．妊娠・分娩・産褥期および新生児期の生理的特徴や経過診断に必要な情報についての説明ができる。 ２．妊娠・分娩・産褥期および新生児期のニーズを把握してアセスメントができる。問題解決およびウェルネスの視点から看護の方向性を述べることができる。また必要な母性看護技術を実施することができる。		
予習・復習	予習として必ず次に行われる単元の教科書の部分をすべて熟読してくること（60分）。および指示された課題を予習として行った上で講義に参加すること（120分）。 復習として、配布された資料や該当する教科書を読み直し、整理すること（90分）。 小児母性実習室における練習用に開放された日程内に、積極的に自己にて看護技術練習を行うこと。		
教科書・教材	１）系統看護学講座「母性看護学各論 第14版」医学書院　ISBN　978－4－260－04223－9 ２）「根拠がわかる母性看護過程：事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画」南江堂　ISBN　978－4－524－25513－9 ３）「病気がみえる　産科　vol.10」メディック・メディア　ISBN　978－4－89632－713－7 ４）「根拠と事故防止からみた母性看護技術 第３版」 医学書院　ISBN　978－4－260－04324－3 ５）系統看護学講座「母性看護学概論　第14版」医学書院 ６）「病気がみえる　婦人科・乳腺外科　vol.9第４版」メディック・メディア ＊５）および６）は、２年次　母性看護援助概論にて購入済み。 ＊そのほか授業で配布された資料や、看護過程演習（３年前期履修）および予防看護（２年次履修）の授業で配布された紙上事例や資料も必ず持参すること。		
参考書	適宜、紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80%）　演習課題（20%）＊修文大学試験規程による。返却は課題の種類による、別途示す。　＊＊授業態度は参考にする。		

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス	授業展開のあり方を十分理解して自己の予習計画を立てる。
2･3	妊娠期の看護	妊娠に伴う母体の変化と心理・社会的特性と胎児の成長発達について説明できる。
4･5		妊娠経過の診断・アセスメントができる。順調な妊娠経過のための看護が説明できる。
6･7		妊娠期の異常と看護について説明できる。
8･9	分娩期の看護	分娩開始と分娩経過について説明できる。産婦・胎児の変化と看護アセスメントについて説明できる。
10･11		産婦および家族のニーズと看護について説明できる。
12		分娩期の異常と看護について説明できる。
13･14	産褥期の看護（継続看護含む）	産褥期の身体と心理社会的変化を説明できる。産褥経過の診断とアセスメントを説明できる。
15･16		褥婦の身体的機能回復のための看護が述べられる。
17･18		進行性変化への看護について説明できる。母子関係確立と育児技術について説明でき、家族役割再構築、退院後の育児支援について説明できる。
19･20	新生児期の看護	新生児の子宮外生活適応過程が説明できる。新生児の生理的経過の特徴と経過の判断について説明できる。
21･22		正常経過の新生児看護について説明できる。新生児の異常と看護を説明できる。
23		
24-26	演習	基本的な母性看護技術（妊婦健診、子宮復古の観察、授乳、新生児の観察、沐浴、褥婦の観察など）が実施できる。
27-29		
30	紙上事例	紙上事例で看護過程が展開できる。

専門

小児看護学Ⅰ

Pediatric Nursing Ⅰ

担当教員名	大村　政生・石黒　彩子	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師7年
英語氏名	OMURA Masaki・ISHIGURO Ayako	対象学生	1年
オフィスアワー（教員室）	火曜日12：10～12：50（10306研究室） メールでの問い合わせ可　omura.m@shubun.ac.jp	開講時期	後期
科目区分	専門分野－小児看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	小児看護、子どもの成長・発達、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期・青年期	授業方法	講義
授業概要	小児の健やかな成長を願い、胎児から新生児、乳児、幼児、学童、思春期・青年期に至る成長発達の過程と各発達段階で必要な養育支援の方法について学ぶ。また、小児医療･保健･福祉の歴史と今後の動向、福祉政策、子どもの権利、子どもを取り巻く環境などについて展望する。毎回、小課題を提示して積極的に学習できる配慮をした進め方をする。		
教育目標	小児への関心をもち、小児看護援助論を円滑に学習できる動機づけとなるような学習展開をする。看護学部ディプロマ・ポリシー①⑤に関連する。		
到達目標	小児医療・保健・福祉の歴史と今後の動向、福祉政策、子どもの権利、子どもを取り巻く環境について理解できる。 胎児から新生児、乳児、幼児、学童、思春期･青年期に至る健康な小児の成長･発達の特徴と看護について理解できる。		
予習・復習	授業前にポータルサイトに課題を掲載しておくので各自で調べて授業までに課題に取り組むこと。 この内容を含めた課題を授業の最後に課す（課題カード）。予習復習にて90～120分必要とする。		
教科書・教材	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［1］小児看護学概論/小児臨床看護総論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,190円　（ISBN－9784260038607） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［2］小児臨床看護各論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,630円　（ISBN－9784260038669）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	試験（90%）、授業内の課題カード（10%）。 課題カードは返却する。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	小児看護の特徴と理念	小児看護の目指すところ、小児と家族の諸統計、小児看護の変遷、小児看護における倫理、小児看護の課題について理解できる。	石黒
2	子どもと家族を取り巻く社会、家族の特徴とアセスメント	世界の子どもの健康問題を考えることができる。主な小児の保健・福祉行政、定期予防接種、家族の特徴とアセスメントの必要性が理解できる。	石黒
3	子どもの成長・発達	成長・発達の進み方、子どもの成長・発達に影響を及ぼす要因について理解することができる。子どもの成長・発達を評価することができる。	大村
4	胎児期、新生児期の特徴	胎児期、新生児期の身体生理の特徴を理解し、新生児期の子どもの養育について理解することができる。	石黒
5	乳児期の特徴	乳児期の成長・発達過程を理解し、乳児期の子どもの養育について理解できる。	大村
6	幼児期の特徴	幼児期の成長・発達過程を理解し、幼児期の子どもの養育について理解できる。	石黒
7	学童期の特徴	学童期の成長･発達過程と学童を取り巻く諸環境を理解し、学童期の子どもの養育について理解できる。	大村
8	思春期の特徴	思春期の成長・発達過程と心理社会的適応に関する問題を理解し、思春期の子どもの援助について理解できる。	大村

小児看護学Ⅱ

Pediatric NursingⅡ

担当教員名	大村　政生・石黒　彩子	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師7年
英語氏名	OMURA Masaki・ISHIGURO Ayako	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	火曜日12：10～12：50（10306研究室） メールでの問い合わせ可　omura.m@shubun.ac.jp	開講時期	後期
科目区分	専門分野－小児看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	小児看護、子どもの成長・発達、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期・青年期	授業方法	講義
授業概要	健康障害をもつ小児の経過別（急性期・周手術期）における特徴とそれらに応じた看護について学ぶ。また、健康障害をもつ小児とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を知り、「子どもは小さな大人ではない」という立場、小児と家族への援助方法と看護師の役割について学ぶ。さらに小児とのコミュニケーション方法、遊びの援助、プレパレーションなど多彩で実際的な支援の方法について学ぶ。		
教育目標	健康障害（急性期・周手術期）を持つ小児とその家族の心理的・社会的特徴を知り、「子どもは小さな大人ではない」という立場、小児と家族への援助方法について学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシー①②と関連する。		
到達目標	⑴健康障害（急性期・周手術期）を持つ小児とその家族の心理的・社会的特徴を理解できる。 ⑵急性期および周手術期の小児の主な疾患と健康障害をもつ小児および家族の特徴と援助方法を理解できる。		
予習・復習	授業前にポータルサイトに課題を掲載しておくので各自で調べて授業までに課題に取り組むこと。 この内容を含めた課題を授業の最後に課す（課題カード）。予習復習にて90～120分必要とする。		
教科書・教材	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［1］小児看護学概論/小児臨床看護総論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,190円　（ISBN－9784260038607）（1年次購入済） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［2］小児臨床看護各論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,630円　（ISBN－9784260038669）（1年次購入済）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	試験（90%）、授業内の課題カード（10%）。 課題カードは返却する。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護 入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護	病気・障害をもつ子どもと家族の看護について理解できる。 入院中の子どもと家族の看護について理解できる。 外来における子どもと家族の看護について理解できる。	大村
2	急性期にある子どもと家族の看護 小児感染症をもつ子どもと家族の看護	急性期の特徴と急性期にある子どもと家族の看護について理解できる。 小児感染症の子どもと家族の看護が理解できる。	大村
3	呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護	呼吸器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村
4	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護	循環器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村
5	アレルギー疾患をもつ子どもと家族の看護	アレルギー疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	石黒
6	周手術期にある子どもと家族の看護 検査・処置を受ける子どもと家族の看護	周手術期の特徴と周手術期にある子どもと家族の看護について理解できる。 検査・処置を受ける子どもの看護が理解できる。	大村
7	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護	消化器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村
8	運動器・精神疾患をもつ子どもと家族の看護	運動器・精神疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村

小児看護援助論

Methods of Child Nursing

担当教員名	大村　政生・石黒　彩子・小島　ひで子	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師７年
英語氏名	OMURA Masaki・ISHIGURO Ayako・KOJIMA Hideko	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	火曜日12：10～12：50（10306研究室） メールでの問い合わせ可　omura.m@shubun.ac.jp	開講時期	前期
科目区分	専門科目－小児看護学	単位数	2
履修要件	小児看護援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	小児の疾患と看護　小児看護技術　小児看護過程	授業方法	講義（グループワークあり）、演習
授業概要	小児の主な疾患を学び、健康障害をもつ小児および家族の特徴と援助方法を学ぶ。紙上事例にて小児看護過程を展開し、演習で必要な小児看護技術を習得する。		
教育目標	健康障害を持つ小児とその家族の心理的・社会的特徴を知り、「子どもは小さな大人ではない」という立場、小児と家族への援助方法について学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシー①②と関連する。		
到達目標	⑴小児の主な疾患と健康障害をもつ小児および家族の特徴と援助方法を理解できる。 ⑵紙上事例を通して、小児の看護過程を展開することができる。 ⑶小児看護に必要な看護技術を習得することができる。		
予習・復習	【講義】ポータルサイトに課題を掲載しておくので､各自で調べて授業までに解いておくこと。この内容を含むレポート課題を授業の最後に課す。 【演習】ポータルサイトに事前課題（演習ノート）を課すので各自で調べてから臨むこと。演習後に期日までに演習ノートを提出すること。詳細は授業中に示す。予習復習90～120分を必要とする。		
教科書・教材	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［１］小児看護学概論/小児臨床看護総論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,190円　（ISBN－9784260038607）　（２年次購入済） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［２］小児臨床看護各論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,630円　（ISBN－9784260038669）　（２年次購入済） 「発達段階からみた小児看護過程（第４版）」 浅野みどり他著　医学書院　2021年　4,290円　（ISBN－9784260046763） 「新訂第２版写真でわかる小児看護技術アドバンス」 山元恵子監修　インターメディカ　2022年　3,520円　（ISBN－97848999645134）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	試験（80%）、紙上事例・演習課題（10%）、レポート課題（10%）。レポート課題・紙上事例・演習課題は返却する。課題を提出しない場合は評価対象にならない。		

専門

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標	担当
1･2	講義：健康障害をもつ小児と家族の特徴と入院の影響 講義：小児における疾病の経過（慢性・急性期・周手術期）と看護	健康障害をもつ小児と家族の特徴が理解できる。 小児における疾病の経過と看護が理解できる。	大村 大村
3･4	講義：先天異常・低出生体重による疾患をもつ子どもと家族の看護 講義：小児感染症をもつ子どもと家族の看護	先天異常・低出生体重による疾患をもつ子どもと家族の看護が理解できる。 小児感染症の子どもと家族の看護が理解できる。	大村 小島
5･6	講義：呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護 講義：循環器疾患をもつ子どもと家族の看護	呼吸器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。 循環器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村 大村
7･8	講義：アレルギー疾患をもつ子どもと家族の看護 講義：代謝性・内分泌・腎疾患をもつ子どもと家族の看護	アレルギー疾患の子どもと家族の看護が理解できる。 代謝性・内分泌・腎疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	石黒 大村
9･10	講義：消化器疾患をもつ子どもと家族の看護 講義：血液造血器疾患をもつ子どもと家族の看護	消化器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。 血液造血器疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村 小島
11･12	講義：運動器・精神疾患をもつ子どもと家族の看護 講義：神経疾患をもつ子どもと家族の看護	運動器・精神疾患の子どもと家族の看護が理解できる。 神経疾患の子どもと家族の看護が理解できる。	大村 大村
13･14	講義：悪性新生物をもつ子どもと家族の看護 講義：終末期にある子どもと家族の看護	悪性新生物の子どもと家族の看護が理解できる。 終末期にある子どもと家族の看護が理解できる。	石黒 石黒
15･16	講義：子どもの虐待、事故・外傷への看護 講義：子どものバイタルサイン測定とフィジカルアセスメント	子どもの虐待、事故・外傷への看護が理解できる。 子どものバイタルサイン測定とフィジカルアセスメントの方法が理解できる。	大村 大村
17･18	講義：検査・処置・薬物療法を受ける子どもの看護 紙上事例：紙上事例の展開方法のオリエンテーション	検査・処置を受ける子どもの看護が理解できる。 小児の看護過程の展開方法を理解できる。	大村 大村
19･20	紙上事例：小児看護過程　全体像の理解 紙上事例：小児看護過程　関連図の作成	小児の看護過程における関連図を作成して全体像を把握し、看護問題を抽出することができる。	大村､石黒
21･22	紙上事例：小児看護過程　関連図GW発表 紙上事例：小児看護過程　フォーカスアセスメント､看護計画立案､看護目標の設定	小児の看護過程におけるフォーカスアセスメント、看護計画の立案、看護目標の設定ができる。	大村､石黒
23･24	紙上事例：小児看護過程　展開の発表準備 紙上事例：小児看護過程　展開の発表	グループで小児の看護過程の展開について発表できる。 他グループの発表を聞き、修正することができる。	大村､石黒
25･26	演習：子どもの病態と発達段階に合わせた遊び	入院中の子どもの病態と発達段階に合わせた遊びができる。	大村､石黒
27･28	演習：乳児の基本的な日常生活援助 演習：応急処置、酸素吸入、薬液吸入	乳児の基本的な日常生活援助ができる。 小児の応急処置、酸素・薬液吸入ができる。	大村､石黒
29･30	演習：小児の輸液管理 演習：抗生物質の希釈計算と実施	小児の輸液管理の方法が理解できる。 小児の抗生物質の希釈計算と投与方法ができる。	大村､石黒

老年看護学Ⅰ

Gerontological Nursing Ⅰ

担当教員名	山口　陽子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師12年
英語氏名	YAMAGUCHI Yoko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義日　12：10～12：40（10518研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－老年看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	高齢者の理解、老年看護の基礎、超高齢社会	授業方法	講義
授業概要	超高齢社会において高齢者のQOLを高めるための老年看護について講義する。老年看護のやりがいと魅力を伝える。		
教育目標	老年看護の対象となる高齢者の特徴を理解し、態度や接し方を学び、老年看護実践能力の基盤を形成する。看護学部ディプロマ・ポリシーの①②に関連する。		
到達目標	高齢者を理解することができ、老年看護学の基盤となる知識を習得できる。		
予習・復習	予習は教科書の該当部分を一読し、復習は教科書や配布された資料を読み直して整理する。予習復習でそれぞれ90分必要とする。		
教科書・教材	系統看護学講座専門分野　老年看護学　医学書院　2022年　第９版　ISBN978－4－260－03186－8		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（90%）課題レポート（10%）課題レポートは講義内に解説する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	老いること、老いを生きるということ	加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について学び、老いについて理解できる。
2	超高齢社会と社会保障	わが国の高齢化率など超高齢社会の現状を知り、社会保障について理解できる。
3	加齢に伴う変化とアセスメント	高齢者の身体の加齢変化を理解し、アセスメント方法について述べることができる。
4	老年看護のなりたち、役割、特徴	老年看護のなりたちや役割を理解し、老年看護の特徴について説明できる。
5	健康生活モデルと高齢者の健康増進	高齢者の健康生活モデルを理解し、高齢者の健康づくりの実際について学ぶ。
6	老年看護の場の特性	介護保険施設について理解し、施設における老年看護活動の実際について学ぶ。
7	高齢者の医療事故とリスクマネジメント	高齢者医療のリスクを理解し、リスクマネジメント活動の実際について学ぶ。
8	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	高齢者家族の現状を理解し、家族の介護負担を軽減する方法について説明することができる。

老年看護学Ⅱ

Gerontological NursingⅡ

担当教員名	山口　陽子・中村　美奈子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師12年
英語氏名	YAMAGUCHI Yoko・NAKAMURA Minako	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義日　12：10～12：40（10518研究室） e-mailにて問い合わせ可	開講時期	後期
科目区分	専門分野－老年看護学	単位数	1
履修要件	老年看護学Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	高齢者、看護、生活機能、健康障害	授業方法	講義
授業概要	高齢者の生活機能や健康障害をアセスメントし、看護の要点について講義する。看護実践演習を実施する際の基盤を作ることができる。		
教育目標	高齢者の生活機能や健康障害を理解し、科学的な看護実践ができる資質を育む。ディプロマ・ポリシー①②に関連する。		
到達目標	高齢者の生活機能を整える方法を理解し、健康障害に応じた看護実践をするための知識を得ることができる。		
予習・復習	予習は教科書の該当部分を一読し、復習は教科書や配布された資料を読み直して整理する。予習復習でそれぞれ90分必要とする。		
教科書・教材	系統看護学講座専門分野　老年看護学　医学書院　2022年　第９版　ISBN978－4－260－03186－8		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（90%）課題レポート（10%）課題レポートは講義内に解説する。		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、 高齢者の生活機能を整える看護の展開① 日常生活を支える基本的活動	授業展開の在り方を理解する。 日常生活を支える基本的活動における基本動作と環境のアセスメントについて理解できる。
2	高齢者の生活機能を整える看護の展開② 食事・食生活	高齢者の食生活の意義や加齢に伴う摂食・嚥下機能の変化、栄養状態の変調等のアセスメントや援助について理解できる。
3	高齢者の生活機能を整える看護の展開③ 排泄・清潔	高齢者の排泄や排泄障害のアセスメントや援助について理解できる。また清潔の意義、アセスメントや援助について理解できる。
4	高齢者の生活機能を整える看護の展開④ 生活リズム・コミュニケーション	高齢者の生活リズムや睡眠と覚醒の変化へのアセスメントや援助について理解できる。
5	健康逸脱からの回復を促す看護① 症候のアセスメントと看護	高齢者の症候（発熱、痛み、掻痒感、脱水等）について症状のなりたちやアセスメント、看護の要点について理解できる。
6	健康逸脱からの回復を促す看護② 身体疾患のある高齢者の看護	身体疾患（骨粗鬆症、骨折等）のある高齢者の病態生理、診断・治療、看護の要点について理解できる。
7	健康逸脱からの回復を促す看護③ 身体疾患のある高齢者の看護	身体疾患（脳卒中、パーキンソン病等）のある高齢者の病態生理、診断・治療、看護の要点について理解できる。
8	健康逸脱からの回復を促す看護④ 認知機能障害のある高齢者の看護 治療を必要とする高齢者の看護	認知機能障害のある高齢者の病態生理、診断・治療、看護の要点について理解できる。 治療を必要とする高齢者への援助について理解できる。

老年看護援助論

Geriatric Nursing

担当教員名	山口　陽子・中村　美奈子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師12年
英語氏名	YAMAGUCHI Yoko・NAKAMURA Minako	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	講義日12：10～12：40（10518研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－老年看護学	単位数	2
履修要件	老年看護援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	高齢者　看護　生活機能　アセスメント	授業方法	講義・演習
授業概要	老年看護実践に必要な知識・技術について学ぶ。紙上事例で看護過程の展開を実施する。		
教育目標	高齢者に質の高いケアを提供する。ディプロマ・ポリシー②③に関連する。		
到達目標	高齢者の看護実践に必要な知識・技術を習得する。		
予習・復習	予習は教科書該当部分を熟読し（90分）、復習は教科書や資料を読み整理すること（90分）		
教科書・教材	生活機能からみた老年看護過程第４版　山田律子編　医学書院2021　ISBN978－4－260－04274－1		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）課題レポート（20%）を基に評価する。 小テスト、レポートなどの内容は、次の講義内で振り返りを行う。		

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標
1～3	オリエンテーション　高齢者疑似体験	高齢者疑似体験によって加齢による身体的変化を体験し、高齢者の日常生活の援助のあり方を説明できる。
4･5	高齢者の住まい・コミュニケーション	住環境のアセスメントの視点を理解できる。高齢者とのコミュニケーション方法について理解できる。
6･7	食生活、脱水、低栄養、嚥下障害、口腔ケア	安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助方法について理解できる。
8･9	演習（とろみ食、食事の援助、口腔ケア）	食事に集中できるように環境を調整し、食前・食事時・食後のケアについて理解できる。
10	清潔、衣生活、皮膚へのケア、疥癬	清潔・衣生活のアセスメントとセルフケア支援方法について理解できる。工夫したケアについて話す。
11･12	排泄障害へのケア、おむつ交換	排泄障害のアセスメントとセルフケア支援方法について理解できる。おむつ交換について説明できる。
13･14	演習（おむつ交換）	プライバシーを守り、羞恥心に配慮した排泄の援助について理解できる。
15	高齢者の活動・休息	高齢者の活動と休息の特徴を理解し、アセスメントと支援方法について理解できる。
16･17	歩行・移動　廃用症候群、骨折	歩行・移動のアセスメントと支援方法について理解できる。廃用症候群予防の看護について説明できる。
18･19	演習（車椅子、歩行器等の扱い方）	車椅子と歩行器の介助方法等を体験により理解することができる。
20	うつ病、せん妄、肺炎、パーキンソン病	うつ病、せん妄、肺炎、パーキンソン病の特徴とアセスメント、患者の看護について理解できる。
21~23	薬物療法・手術療法・検査　入院・退院時看護	薬物療法や手術療法など治療を受ける高齢者の看護について理解できる。
24	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションについて理解できる。終末期のリハビリテーションについて話す。
25	高齢者の終末期の看護	高齢者の終末期看護について理解できる。看取りを終えた家族への看護について話す。
26~30	看護過程　グループワーク　発表	生活機能から見た老年看護過程の考え方を理解し、１事例の看護過程を展開することができる。

専門

精神看護学Ⅰ

Psychiatric Nursing I

担当教員名	茂木　泰子	実務経験（年数）	病院勤務　看護師（16年）
英語氏名	MOTEGI Yasuko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義後16：20～17：00　e-mailにて問合せ可（motegi.y@shubun.ac.jp）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－精神看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	心身の健康と発達、精神保健、精神看護学	授業方法	講義
授業概要	心のはたらきに関わる発達理論、人間関係論、精神力動論等の基礎を理解し、心の危機とストレスへの対処機制を学ぶ。また、精神保健医療福祉や法・制度をめぐる様々な課題について考え、社会病理などの問題について理解する。		
教育目標	精神機能の基礎的な知識を踏まえ、現代社会における心の問題について考える知識を提供する。看護学部ディプロマ・ポリシーの①②③に関連する。		
到達目標	1．現代社会における心の問題について考えることができる。 2．精神看護学における心身の健康と病いについて言える。		
予習・復習	各単元ごとの目標について、予習や復習、課題等を通して準備し理解を深める。（90分から120分程度）		
教科書・教材	1．系統看護学講座専門分野　精神看護の基礎 2．系統看護学講座専門分野　精神看護の展開　医学書院		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法フィードバック	修文大学試験規定による。定期試験70%　課題提出30%		

専門

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス 第1章　精神看護学で学ぶこと	精神看護学の基本的な考え方と精神看護の実践者としての態度を学ぶ。
2	第2章　精神保健の考え方	精神の健康と不健康、正常と異常とはどういうことか、精神の健康について基本的な考え方を学ぶ。
3	第2章　精神保健の考え方	精神の健康と不健康、正常と異常とはどういうことか、精神の健康について基本的な考え方を学ぶ。
4	第3章　心のはたらきと人格の形成	心のはたらきと心の仕組みを知り、人格の形成にむけた基本的な考え方を学ぶ（エリクソンの発達段階）。
5	第3章　心のはたらきと人格の形成	心のはたらきと心の仕組みを知り、人格の形成にむけた基本的な考え方を学ぶ（エリクソンの発達段階のまとめ）。
6	第3章　心のはたらきと人格の形成	心のはたらきと心の仕組みを知り、人格の形成にむけた基本的な考え方を学ぶ（エリクソンの発達段階）。
7	第4章　関係のなかの人間	看護の基本的となる人間関係をシステムの観点から学び集団の役割と意味を知る。
8	第4章　関係のなかの人間	看護の基本的となる人間関係をシステムの観点から学び集団の役割と意味を知る。

精神看護学Ⅱ

Psychiatric NursingⅡ

担当教員名	茂木　泰子・足立　勝宣	実務経験（年数）	精神科病棟勤務　看護師（10年）
英語氏名	MOTEGI Yasuko・ADACHI Katsunori	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義後16：20～17：00 e-mailにて問合せ可（motegi.y@shubun.ac.jp・adachi.k@shubun.ac.jp）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－精神看護学	単位数	1
履修要件	精神看護学Ⅰを履修・習得していること。	必修・選択	必修
キーワード	心身の健康と発達、精神保健、精神看護学	授業方法	講義・演習
授業概要	健康障害の病態と治療等の代表的な症状・状態について知識の習得をする。精神の健康上の問題に直面している対象とその家族が抱える問題を理解し、倫理的配慮と人権擁護について考え、精神看護に必要な実践方法を学ぶ。		
教育目標	精神機能の基礎的な知識を踏まえ､現代社会における心の問題について考える知識を提供する。看護学部ディプロマ・ポリシーの①②③④⑤に関連する。		
到達目標	1．現代社会における心の問題について考えることができる。 2．精神看護学における心身の健康と病いについて言える。		
予習・復習	各単元ごとの目標について、予習や復習、課題等を通して準備し理解を深める。（90分から120分程度）		
教科書・教材	1．系統看護学講座　専門分野Ⅱ精神看護の基礎 2．系統看護学講座　専門分野Ⅱ精神看護の展開　医学書院		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	修文大学試験規定による。定期試験70％　課題提出30％		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス 第５章　精神疾患のあらわれ方	A　精神を病むことといきること　B　精神症状論と状態像 C　精神障害の診断と分類　①診断と疾病分類　②統合失調症
2	第５章　精神疾患のあらわれ方	C　精神障害の診断と分類　③気分障害　④神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
3	第５章　精神疾患のあらわれ方	C　精神障害の診断と分類　③気分障害　④神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
4	第６章　精神疾患のあらわれ方	A　精神科における治療　B　精神療法
5	第６章　精神疾患のあらわれ方	C　薬物療法　D　電気けいれん療法　E　環境療法・社会療法
6	第７章　社会のなかの精神障害	A　精神障害と治療の歴史　B　日本における精神医学・精神医療の流れ
7	第７章　社会のなかの精神障害	C　精神障害と文化　D　精神障害と社会学　E　精神障害と法制度　F　主な精神保健医療福祉対策とその動向
8	第８章　ケアの人間関係	A　ケアの前提　B　ケアの原則　C　ケアの方法　D　関係をアセスメントする

精神看護援助論

Psychiatric Nursing

担当教員名	茂木　泰子・足立　勝宣	実務経験（年数）	精神科病棟勤務（10年）
英語氏名	MOTEGI Yasuko・ADACHI Katsunori	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	講義後16：20～17：00 e-mailにて問合せ可(motegi.y@shubun.ac.jp・adachi.k@shubun.ac.jp)教員室	開講時期	前期
科目区分	専門科目－精神看護学	単位数	2
履修要件	精神看護学援助概論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	精神疾患と看護、精神看護技術	授業方法	講義・演習
授業概要	現代社会における心の問題を知り、精神障害の理解と基本的な知識を踏まえて精神看護技術を学ぶ。		
教育目標	精神機能の基礎的な知識を踏まえ､現代社会における心の問題について考える知識を提供する。看護学部ディプロマ・ポリシーの①②③④⑤に関連する。		
到達目標	精神看護学における必要な知識・技術を習得する。		
予習・復習	各単元ごとの目標について、予習や復習、課題等を通して準備し理解を深める。(90分から120分程度)		
教科書・教材	1．系統看護学講座専門分野Ⅱ　精神看護の基礎 2．系統看護学講座専門分野Ⅱ　精神看護の展開　医学書院		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	修文大学試験規定による。定期試験70%　課題提出30%		

専門

■授業計画（全30回）

回	授業内容	到達目標
1･2	講義：ガイダンス　講義：第６章　精神科での治療	1．講義および評価方法について知る。 2．精神科で行われる主な治療について知る。
3･4	講義：第７章　社会のなかの精神障害	1．精神障害と治療の歴史を理解する。 2．社会学の視点から精神障害を考える。
5･6	講義：第８章　ケアの人間関係	1．患者－看護師関係で起きる現象のしくみと対処法を学ぶ。 2．プロセスレコードの意味と書き方が説明できる。
7･8	講義：第９章　回復を支援する	1．精神科における回復とはどういう意味か理解する。 2．看護師にとってのリカバリーの意味を理解する。
9･10	講義：第10章　地域におけるケアと支援	精神科医療から地域におけるケアへと向かう日本の地域精神保健の動きを知る。
11･12	講義：第11章　入院治療の意味	精神科を受診するということの患者の思いと家族の思いを考える。
13･14	講義：第12章　身体をケアする	精神科の患者が身体ケアを受けるということの意味を考える。
15･16	講義：第12章　身体をケアする	精神科の患者が身体ケアを受けるということの意味を考える。
17･18	講義：第13章　安全をまもる	精神科の患者に対する人権と安全のバランスについて多角的な視点で考える。
19･20	講義：第14章　医療の場におけるメンタルヘルスと看護	1．身体疾患をもつ患者のメンタルヘルスについて考える。 2．リエゾン精神看護とその活動について学ぶ。
21･22	講義：第15章　災害時のメンタルヘルスと看護	災害とは何か、災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響について学ぶ。
23･24	講義：第16章　看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	感情労働とは何かを理解し、看護師がどのように感情の管理を行っているのか知る。
25･26	演習：紙上事例の解説	事例を通して疾患・治療・看護援助について学ぶ。
27･28	演習：紙上事例の展開	事例を通してアセスメントし、看護計画立案できる。
29･30	演習：紙上事例のまとめ	事例を通して看護計画を立案し、実践に結び付ける。

医療安全学

Patient safety

担当教員名	伊藤　寿英	実務経験（年数）	看護師経験10年（病棟・訪問看護） 医療安全管理者４年
英語氏名	ITO Toshihide	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	短い質問は、授業内で受付ける。他にメールにて対応する。	開講時期	後期
科目区分	専門分野－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	患者安全、医療事故、医療の質	授業方法	講義
授業概要	医療の現場で生じうる様々な事故（リスク）とその発生機序について知り、それらを分析・回避する方法について学ぶ。リスクマネジメントとインシデントレポートの意義について理解し、事故原因の分析防止対策の立案についての考え方を学ぶ。		
教育目標	看護職として必要な医療安全の知識を学ぶ。様々な事故（リスク）に対して、リスクマネジメントの方法と医療の質改善の方法を学ぶ。ディプロマ・ポリシーの①③に該当する。		
到達目標	医療安全の重要性を理解し、医療の質の向上および医療安全対策の方法について説明できる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する教科書を１時間熟読し、不明点は調べること。授業後は１時間程度内容を振り返り、解決しない疑問や不明点については次回授業への問題提起につなげるようにする。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践⑵：医療安全　第５版　松下由美子 編集ほか　メディカ出版 （ISBN：978－4－8404－7846－5）		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80%）課題レポート（20%）を基に評価する。 小テスト、レポートについては講義時に解説する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	医療安全と看護の理念	医療安全の意味とその重要性について説明できる。
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価	国の医療安全の取り組みと医療の質評価について説明できる。
3	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	エラー発生メカニズムの理解と対策の考え方について説明できる。
4	チームで取り組む安全文化の醸成	チームで取り組む安全対策の重要性を説明できる。
5	看護における医療事故と安全対策	看護業務を行う際の環境の特徴とリスクを理解し、看護業務にかかわる医療事故について説明できる。
6	在宅看護における医療事故と安全対策	在宅における医療事故の特徴について説明できる。
7	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	医療機器、薬剤など医療従事者を脅かすリスクについて説明できる。
8	看護実習における医療安全	実習中の事故予防および事故発生時の対応について説明できる。

家族看護学

Family Care Nursing

担当教員名	大村　政生・石黒　彩子	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師7年
英語氏名	OMURA Masaki・ISHIGURO Ayako	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	火曜日12：10～12：50（10306研究室） メールでの問い合わせ可　omura.m@shubun.ac.jp	開講時期	前期
科目区分	専門分野－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	家族の定義、家族のライフサイクル、セルフケア機能、家族アセスメント	授業方法	講義
授業概要	1～4回の講義で家族看護に関する概論を学び、5回目以降に様々な家族のあり方と健康問題に対する看護の展開方法を学ぶ。		
教育目標	近年、わが国の家族看護学は、看護学の1分野としてめざましい成長を遂げてきた。家族には、本来集団としての健康を維持していこうとするセルフケアの機能が備わっているが、それが何らかの理由で機能不全に陥ったときに援助のニーズが発生する。あらゆる場面で家族が持っている機能を最大限に活用できるように、看護ケアを行うことは重要な課題である。家族看護学の講義をとおして、家族の発達課題の達成・健康的なライフスタイルの維持・健康問題への対応能力のアセスメントと、看護活動の展開方法の基本を学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシー②④に該当する。		
到達目標	⑴家族看護の定義・目的を理解できる。 ⑵家族を理解するための諸理論を理解できる。 ⑶家族看護過程を理解できる。 ⑷様々な家族のあり方と健康問題に対する看護の展開方法を理解できる。		
予習・復習	事前に課題を提示するので、各自で調べて授業までに課題に取り組むこと。授業の最後にレポートまたは小テストを課すので、授業後に振り返りをすること。予習・復習にて90～120分を必要とする。		
教科書・教材	「家族看護学　理論と実践（第5版）」 鈴木和子他著　日本看護協会出版会　2019年　3,520円 （ISBN－9784818022089）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	講義ごとにレポートまた小テストにて評価する（100%）。 レポート・小テストは返却する。		

専門

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	家族看護学とは何か①　家族の概念、家族看護の歴史、家族看護の定義	家族看護学の発展過程、看護における「家族」の概念、家族看護のニーズと視点、家族看護の定義・目的を理解する。	石黒
2	家族看護学とは何か②　家族のセルフケア機能	家族のセルフケア機能と発達課題の達成、健康的ライフスタイルの維持、健康問題への対応について理解できる。	石黒
3	看護学における家族の理解	「家族の健康」の概念、家族の形態と機能、家族を理解するための諸理論を理解できる。	石黒
4	家族看護過程	家族像を形成するための利点、内容、情報収集とアセスメントの方法、留意点およびジェノグラム・エコマップの記載方法を理解できる。	大村
5	乳児をもつ家族への看護	児の出生によって家族が受ける影響、養育期の発達課題および援助の実際について理解できる。	大村
6	重症心身障がい児をもつ家族への看護	障がいのある子に対する基本的な考え方および重症心身障がい児の家族への支援を理解できる。	大村
7	高齢者介護を行っている家族への看護	高齢者介護を行っている家族の理解および介護を行う家族への援助方法を理解できる。	石黒
8	終末期患者の家族への看護	家族成員が終末期を迎えることによる家族が受ける影響、終末期の家族成員を含む家族への援助の目標と実際を理解できる。	石黒

看護人間工学

Nursing Ergonomics

担当教員名	常見　麻芙	実務経験（年数）	
英語氏名	TSUNEMI Mafu	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	講義後およびe-mailによる質問も可	開講時期	後期
科目区分	専門分野－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	看護師の健康、患者安全、姿勢・動作、リスクマネジメントシステム	授業方法	講義（グループワークあり）
授業概要	人間工学の視点で、看護業務における健康・安全リスクに関する対策について、基礎知識を講義する。		
教育目標	看護対象者への安全・安心を確保し、確実な看護提供ができるためのリスクマネジメントの知識について、医療安全にかかわる事例をもとに考えを深める。生体力学の側面をふまえた法則や作用を応用し、看護職者自身の健康・安全を守る実践力を身につける。		
到達目標	○人間工学の考え方を理解して、看護との関わりについて説明できる。 ○患者安全・医療安全を担保するために、リスクマネジメント視点による職場改善策、リスク軽減策の実践を提案できる。 ○看護職者の健康リスクを軽減する移乗・移送・介助方法について、解決策を提案できる。		
予習・復習	各回の授業内容に関係する配布資料を事前に熟読し、不明点は調べること。また、グループ討議に際しては積極的に参加すること。		
教科書・教材	資料を毎回配付		
参考書	書名：人間工学チェックポイント　第2版 著者名：小木和孝　編著		
成績評価方法フィードバック	授業内の課題20点、授業態度等20点、レポート60点。レポートは全講義終了時に出題。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	人間工学概論①：人間工学の歴史、基礎的な考え方、看護領域での応用	人間工学は人間の特性に応じて広義の環境を設計する実践技術であることを理解する。
2	人間工学概論②：人間の諸特性の理解	身体的・認知的・社会組織的行動特性があることを理解し、安全対策視点を身につける。
3	人間工学概論③：ヒューマンエラー	ヒューマンエラーの基本的な対策の視点を習得する。
4	安全・健康リスクアセスメント	アクションチェックリストによる参加型アプローチのリスク評価法を理解できる。
5	作業姿勢・動作①：バイオメカニクスの基礎	ボディメカニクスの基本原理を体験・グループワークを通じて理解できる。
6	作業姿勢・動作②：看護業務における人間工学対策	シンプルかつ低コストによる人間工学対策の基本原理を理解できる。
7	腰痛予防と人間工学最前線	疫学研究による最新知見から作業関連疾患の概念やリスク要因の概要について理解できる。
8	患者安全・医療安全と人間工学	安全文化・組織安全など、医療安全マネジメントシステムの概要を理解できる。

感染看護学Ⅰ

Infection Nursing Ⅰ

担当教員名	諏訪　美栄子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師22年 感染管理認定看護師５年
英語氏名	SUWA Mieko	対象学生	１年
オフィスアワー（教員室）	講義日の12：10～12：40（於10505研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	感染、感染経路、感染予防策	授業方法	講義
授業概要	人と感染症の歴史から、今までどのような感染症と向き合い、克服・共生してきたのかを学ぶ。また、人が生活する周りには、多くの細菌やウイルスなど、感染症の原因となる微生物が多く存在している。それらの微生物からどのように感染が拡がり、感染症が発症するのかを理解するとともに、医療に関連した感染の予防策と看護の基本的な方法について学習する。		
教育目標	感染症の歴史から、感染症とどのように向かいあい、克服・共生してきたかを知る。また、感染予防策の基本的な方法（標準予防策、感染経路別予防策）を学び、患者（対象）の入院環境に潜む感染のリスクから、根拠のある感染予防策と看護を考えることができる。感染症患者の看護に関わる倫理的側面について考えながら、対象者の日常生活の援助に必要な感染防止の方法や看護への活用方法を考える。さらに、医療従事者の職業感染予防について考える。ディプロマ・ポリシー①②		
到達目標	感染に興味を持つことで感染症と向かい合い、感染症を克服・共生することについて考えることができる。また、感染予防の基本的な考え方や技術を理解することができる。		
予習・復習	シラバスに沿って教科書を熟読し不明な点は調べ、重要箇所はマーカーでチェックすること。授業後に渡す振り返りシートに、学んだことが述べられるようにまとめておく。復習は教科書や講義資料、参考文献を使用し、内容を整理して理解を深める。予習・復習時間それぞれ１時間必要とする。		
教科書・教材	感染看護学　患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する　南江堂、ISBN978－4－524－22978－9		
参考書	必要に応じて提示する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80%）、小テストや振り返り（20%）などにより総合的に評価する。小テストや振り返りシートは返却しないが、解説やフィードバックは講義の中やポータルサイトで行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	感染症の歴史と、現代社会における感染症の課題	人類が経験した感染症の歴史と現代社会における感染症の課題について理解できる。
2	感染の基礎知識と感染症	感染の成立について学び、医療関連感染の原因となる微生物について理解できる。
3	感染症と法制度 感染看護と倫理	感染症にかかわる法制度と医療体制について理解できる。 感染に関連した倫理的な問題について考えることができる。
4	感染予防のための基本的な考え方	感染症予防についての基本的な考え方､「清潔」「不潔」「汚染」「ゾーンニング」の概念について理解できる。
5	感染予防のための基本技術 標準予防策：手指衛生と個人防護具の意義と効果 感染経路別予防策：接触・飛沫・空気感染の予防策	手指衛生と個人防護具の種類と役割について理解できる。 感染経路について理解し、予防策について述べることができる。
6	療養環境（清掃、リネン、感染性廃棄物）に潜む感染リスクと対策	対象の療養環境の中に潜む感染リスクについて理解し、感染予防策について述べることができる。
7	感染管理認定看護師の役割と活動 対象の日常生活の看護援助場面で必要な感染予防策の実際	感染管理認定看護師の役割と活動を理解できる。 対象の日常生活に必要な看護援助の中での感染予防策について考えることができる。
8	職業感染（流行性ウイルス疾患）のリスクと予防（ワクチンを含む）	看護師を目指すものとして、職業感染予防についての自分の考え述べることができる。

感染看護学Ⅱ

Infection NursingⅡ

担当教員名	諏訪　美栄子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師22年 感染管理認定看護師５年
英語氏名	SUWA Mieko	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	講義日の12：10～12：40（於10505研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門分野－統合看護	単位数	1
履修要件	感染看護学Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	感染予防策、医療関連感染、職業感染	授業方法	講義
授業概要	現在課題となっている感染症及びその予防対策に関する理解を深める。また、感染予防における多職種や地域連携の中での看護師の役割について理解する。さらに侵襲的な処置を行うために必要な感染看護の基本的知識と方法や感染症患者の看護に関わる倫理的側面について学習する。		
教育目標	感染予防にかかわる多職種や地域連携の意義を学習し、対象（患者）やその家族、医療従事者を感染から守るための具体的な方法を理解できる。 ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	医療関連感染の特徴と感染予防について理解し、患者やその家族、自分自身や周囲の人々を感染から守るための具体的方法を考えることができる。また、感染予防における多職種や地域連携の重要性と看護師の役割が理解できる。		
予習・復習	教科書範囲を指定するので、教科書を熟読し不明な点は調べ、重要箇所はマーカーでチェックすること。復習は教科書や講義資料、参考文献を使用し、内容を整理して理解を深める。予習・復習時間それぞれ45分必要とする。		
教科書・教材	感染看護学　患者の健康と権利を守り安全に看護を実践する 南江堂、ISBN978－4－524－22978－9　　※１年生で購入したものを使用する		
参考書	必要に応じて提示する。		
成績評価方法フィードバック	定期試験（80%）、小テストや振り返り（20%）などにより総合的に評価する。小テストや振り返りシートは返却しないが、解説やフィードバックは講義の中やポータルサイトで行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	宿主の因子が影響する感染と看護ケア医療処置に関連した感染と看護ケア	易感染宿主、薬剤耐性菌について理解し、適切な療養環境を考えることができる。
2	洗浄・消毒・滅菌の概念と具体的な方法	洗浄・消毒・滅菌の概念と具体的な取り扱い方法を述べることができる。
3	医療処置に関連した感染と看護ケア	医療処置に関連した感染症を理解し、その予防策を述べることができる。
4	治療部門に関連した感染の特徴と対策	治療部門に関連した感染の特徴と対策について理解できる。
5	災害と感染対策	災害時の感染症について理解し、感染対策について考えることができる。
6	職業感染と予防 （針刺し、切創、血液・体液曝露）	血液媒介ウイルス曝露の危険性を理解し、職業感染予防の具体策を述べることができる。
7	感染対策チームの役割と活動の実際 感染予防における多職種連携、地域連携	感染対策チームの役割と活動を理解できる。 感染予防における多職種や地域連携の重要性と看護師の役割について理解できる。
8	感染看護に関する倫理的な課題	薬害の事例から、感染に関する倫理的な問題を理解し、今後の感染看護の倫理的な課題を考えることができる。

チームケア論

Team Care

担当教員名	池松　裕子	実務経験（年数）	
英語氏名	IKEMATSU Yuko	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	月曜日10：30～12：00（10509号室）	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	チームアプローチ、多職種連携、協働	授業方法	名古屋大学IPE参加 講義
授業概要	医療チームを構成する専門職種相互が理解・尊重してよりよい医療を提供する基盤を形成する。		
教育目標	チームケアにおける各専門職の役割を理解し、対象にとって望ましいチームケアのあり方を考えることができる。 ディプロマポリシー③に相当する。		
到達目標	チームケアにおける各専門職の役割を理解し、対象にとって望ましいチームケアのあり方を考えることができる。 ディプロマポリシー③に相当する。		
予習・復習	各回のテーマについて参考書等により事前に学習し受講すること。		
教科書・教材	指定しない。		
参考書	安井裕樹　編著：医薬看クロスオーバー演習、京都廣川書店、ISBN 978－4－906992－07－2		
成績評価方法 フィードバック	IPE（多職種連携教育）におけるディスカッション（20%） 最終レポート（80%）		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1 2 3 4 5	名古屋大学医学部医学科IPE（多職種連携教育）の「医学入門」の授業に参加し、同医学科学生および名城大学薬学部学生とともにシネメデュケーション（映画を見てディスカッションする）に参加する。 10月11日　8：50～16：15　名古屋大学鶴舞キャンパス	多職種連携に必要な知識を修得することができる。 各専門職の視点から、医療・福祉のありかたを考察することができる。
6	チームケアと多職種連携	
7	救急医療におけるチームケア	
8	クリティカルケアにおけるチームケア	
9	災害医療におけるチームケア	
10	手術室におけるチームケア	
11	リハビリテーションにおけるチームケア	
12	医療安全におけるチームケア	
13	感染予防におけるチームケア	
14	終末期医療におけるチームケア	
15	在宅医療におけるチームケア	

学校看護

School Nursing

担当教員名	北林　由紀子	実務経験（年数）	藤田医科大学病院看護師８年、春日井市保健センター、健康管理センター保健師４年
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00（北林研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択（保健師課程必修）
キーワード	学校保健安全、健康課題（児童・生徒）、特別支援教育、養護教諭	授業方法	講義
授業概要	学校保健における理念や目的、制度やシステムを理解し、活動の展開方法について学ぶ。学校の場で展開される看護の実際や連携・役割を学び実践方法を身に付ける。		
教育目標	学校保健の歴史や制度・システムを学ぶ。児童及び生徒の健康課題について理解することができる。養護教諭の職種や活動について学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシーの③と⑤に関連する。		
到達目標	１．学校保健の制度とシステムについて理解できる。２．児童及び生徒の健康課題を理解する。 ３．特別な支援を要する子どもへの対応を考えることができる。４．養護教諭の職務や役割を理解する。		
予習・復習	各回の授業内容に沿って教科書を読んで予習してくること。 各回の予習・復習は60分から90分必要とする。		
教科書・教材	・標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動　松田正己他著　医学書院　3,400円+税 ISBN978－4－260－03187－5 ・必要に応じて資料提示あり。		
参考書	・最新保健学講座３　公衆衛生看護活動論１　金井克子編　メヂカルフレンド社 ・公衆衛生看護学.ＪＰ　荒賀直子編　インターメディカル		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（70%）、課題（10%）、小テスト（20%）小テストは必ず次の授業でフィードバックを行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	学校保健・看護の定義と歴史	学校保健と学校看護の定義と理念を理解し、歴史の変遷を学ぶことができる。
2	学校保健の制度とシステム ・学校保健における組織 ・学校保健安全法に関する法律 ・学校環境衛生	学校保健に関する法律を理解し、制度やシステムについて学ぶことができる。
3	健康課題への対策と支援・児童及び生徒への健康課題 ・現代的な健康課題について ・学校保健統計の動向、定期健康診断の結果から	発達段階的にみる対象の特徴と健康課題への対策と支援を考えることができる。学校保健のデータから現在の児童及び生徒の健康状況を把握することができる。
4	特別な支援を要する子どもへの対応	発達障害を持つ児への援助や特別支援教育について理解し、支援を必要とする子どもへの対策を考えることができる。
5	養護教諭の職務と保健室の機能(1) ・養護教諭の業務	養護教諭の職務と役割が理解できる。
6	養護教諭の職務と保健室の機能(2) ・保健室の機能と法的位置づけ ・健康診断と事前・事後指導	保健室の機能と役割を理解することができる。健康診断の意味や事前・事後の措置について理解することができる。
7	養護教諭の職務と保健室の機能(3) ・健康相談と保健指導 ・感染症予防と対策 ・健康教育	学校における感染症予防と対策について理解する。学校における健康教育について学ぶことができる。
8	・まとめ　　学校保健の課題	学校保健の健康課題について考えることができる。

専門

災害看護

Disaster Nursing

担当教員名	夏目　恵美子	実務経験（年数）	基幹災害拠点病院　救急部門勤務25年 日本DMAT隊員
英語氏名	NATSUME Emiko	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	講義日12：10～12：40　メールは随時（10503研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	災害サイクル、トリアージ、災害時要配慮者	授業方法	講義および演習
授業概要	これまでに発生した自然災害から、被災者の健康破綻の特徴、災害が人や生活、地域社会に及ぼす影響について教授し、災害サイクルに沿った支援の方法について考える。具体的にはトリアージ、心のケア、避難所における災害時要配慮者への対応などについてグループワークと避難所運営ゲーム（HUG）を通して学習を深める。		
教育目標	主として日本の自然災害から、被災者の健康破綻の特徴、災害が人や生活、地域社会に及ぼす影響を理解し、災害直後の急性期、慢性期、回復期、静穏期の災害サイクルに沿った支援の方法について学ぶ。具体的にはトリアージ、心のケア、災害時要配慮者への対応方法を身につける。以上を通して、健康危機管理及び対策に関わる看護職の役割と他職種との協働・連携について考える。ディプロマ・ポリシー①③に該当する。		
到達目標	1．災害および災害看護に関する基礎的知識を説明できる。 2．災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を学び災害発生時の社会の対応や仕組みや個人の備えが説明できる。 3．災害サイクルに沿った災害医療・看護の特徴について説明できる。 4．災害時に看護が果たす役割を説明できる。 5．被災者および救援者のストレスと心のケアについて理解できる。 6．避難行動要支援者および災害時要配慮者への支援方法を考える。 7．災害時における自分と家族、地域の安全を考え、対策をとることができる。		
予習・復習	初回授業において毎回の授業の事前学習と授業後の学習について説明する。各回に関する時事問題を新聞やニュースなどで読み授業に臨む。また初回授業前までに各自が居住している地域の「防災マップ」にアクセスし、その評価と改善点を述べることができるように準備しておく。		
教科書・教材	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践⑶：災害看護　第5版		
参考書	災害看護学―看護の統合と実践〈2〉 小井土雄一（編集）、石井美恵子（編集）：メヂカルフレンド社		
成績評価方法フィードバック	筆記・技術試験（40%）、課題レポート2本（30%）、授業後記入シート（30%）、合計100点満点とし、60点以上を合格とする。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	授業ガイダンス、災害看護概論	既習の知識・技術と関連づけ、この科目を学ぶ意味を考える。
2	災害サイクル「急性期」のCSCATTT	災害「急性期」の医療・看護の特徴について説明できる。
3	トリアージの目的、方法、課題	前回までの授業内容のミニテストに解答できる。 トリアージの目的、方法について説明できる。
4	トリアージの実際、トリアージの課題	トリアージの判断基準に基づき判定できる（実技試験）。災害時は日常の基準と異なることに気づき、それに伴う課題を考える。
5	避難行動訓練「EVAG」 避難所・仮設住宅の看護、被災者のストレス	体験・参加型のシミュレーションを通して地域防災を考える。 被災者のストレスを理解できる。
6	グループワーク「避難所運営ゲーム」	避難所における災害時要配慮者への対応について考える。
7	被災者および救援者のストレスと心のケア	被災者・救援者のストレスを理解し心のケアについて考える。
8	地域における災害への備え、災害拠点病院の役割	自助、共助、公助について理解し対策を考える。 これまでの授業についてのミニテストに解答できる。

健康危機管理論

Health Crisis Management

担当教員名	久保　美幸・池田　成幸	実務経験（年数）	医療安全者・看護部長
英語氏名	KUBO Miyuki・IKEDA Shigeyuki	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	mailにて応じる。	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	医療事故、危機管理、患者安全	授業方法	講義
授業概要	わが国の医療危機管理を概観し、患者安全の基本的な考え方について講義する。自らの危機管理の体験から学んだことを伝える。		
教育目標	医療の危機管理について理解し、事故防止策や事故発生後の対応について学ぶ。 看護学部ディプロマ・ポリシー②③に関連する。		
到達目標	危機管理について理解し患者安全に必要な知識・技術を身に着けることができる。		
予習・復習	各回の授業内容について事前に調べておく。予習・復習でそれぞれ120分必要とする。		
教科書・教材	特になし。		
参考書	講義時に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	課題レポート（100%） 課題レポートは、講義時に解説する。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	医療に求められている危機管理	医療に求められている危機管理（概論）を説明できる。
2	患者安全Ⅰ：ヒューマンファクターと危険予知トレーニング	ヒューマンファクターと危険予知トレーニングについて説明できる。
3	患者安全Ⅱ：ヒヤリハット報告の意義と重要性	ヒヤリハット報告の意義と重要性を説明できる。
4	医療事故後の対応について	医療事故後の対応について説明できる。
5	院内感染	院内感染について理解できる。
6	医療機関における事故防止活動の実際	医療機関における事故防止活動の実際、薬剤事故防止対策について説明できる。
7	看護職一人ひとりの災害への備え	看護職一人ひとりの災害への備えについて理解できる。
8	医療機関における防犯	医療機関における防犯について理解できる。

特別講義

Special Lectures

担当教員名	池松 裕子・高橋 和夫(藤田医科大学)	実務経験（年数）	
英語氏名	IKEMATSU Yuko・TAKAHASHI Kazuo	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	池松：月曜日10：30～12：00（10509号室） 高橋：Moodle上に質問コーナーを設ける	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	医療、進歩、最先端	授業方法	Web講義
授業概要	医学、医療、公衆衛生の発達により現代は長寿社会となった。一方で高齢化に伴うがん（悪性腫瘍）、生活習慣病、認知症などの増加は、社会全体にかかわる問題となった。本プログラムでは、現代疾患の特徴、人と社会の関わりについて臓器の垣根を越えて学ぶことにより、社会を支える医療の概要を理解することを目的とする。		
教育目標	各専門分野の最先端医療を知り、看護の未来を考える参考とする。		
到達目標	1．現代疾患の特徴を説明することができる。 2．社会を支える医療の概要を説明することができる。		
予習・復習	予習は、授業予定に基づき、各会のトピックについて、該当する学会のホームページ等を閲覧し、情報収集しておく。（例：日本集中治療医学会、など） そのほか、レポート課題のための事前準備、各講義後に小テスト等。		
教科書・教材	指定しない　詳細については　https://www.fujita-hu.ac.jp/fujita_education.html　を参照。		
参考書	適宜配布する。		
成績評価方法 フィードバック	小テスト各回５％×12回＝計60％、レポート40％。ただしレポート未提出の場合は不合格とする。 また講義における積極的な質問に関してはレポートに加点する。小テストについてはMoodleで解説する。		

専門

■授業計画（全12回）

回	授業内容	到達目標
1	病気と社会	愛知学長懇話会単位互換事業のホームページ https://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop でシラバスの内容、申込方法を確認すること。
2	超高齢化社会における認知症ケア	
3	リハビリテーション医学の現在と未来	
4	集中治療医学の進歩と医療	
5	乳がんに関する最近の話題	
6	生活習慣と疾患	
7	外科学の進歩（ロボット）	
8	病気を診断することの重要性と面白さ	
9	移植－臓器不全患者が助かる国へ－	
10	法医学事件ファイル	
11	がん治療の未来	
12	皮膚と美容	

家族看護

Family Care Nursing

担当教員名	大村　政生・石黒　彩子	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師7年
英語氏名	OMURA Masaki・ISHIGURO Ayako	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	火曜日12：10～12：50（10306研究室） メールでの問い合わせ可　omura.m@shubun.ac.jp	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	選択
キーワード	家族の定義、家族のライフサイクル、セルフケア機能、家族アセスメント	授業方法	講義
授業概要	1～4回の講義で家族看護に関する概論を学び、5回目以降に様々な家族のあり方と健康問題に対する看護の展開方法を学ぶ。		
教育目標	近年、わが国の家族看護学は、看護学の1分野としてめざましい成長を遂げてきた。家族には、本来集団としての健康を維持していこうとするセルフケアの機能が備わっているが、それが何らかの理由で機能不全に陥ったときに援助のニーズが発生する。あらゆる場面で家族が持っている機能を最大限に活用できるように、看護ケアを行うことは重要な課題である。家族看護学の講義をとおして、家族の発達課題の達成・健康的なライフスタイルの維持・健康問題への対応能力のアセスメントと、看護活動の展開方法の基本を学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシー②④に該当する。		
到達目標	⑴家族看護の定義・目的を理解できる。 ⑵家族を理解するための諸理論を理解できる。 ⑶家族看護過程を理解できる。 ⑷様々な家族のあり方と健康問題に対する看護の展開方法を理解できる。		
予習・復習	事前に課題を提示するので、各自で調べて授業までに課題に取り組むこと。授業の最後にレポートまたは小テストを課すので、授業後に振り返りをすること。予習・復習にて90～120分を必要とする。		
教科書・教材	「家族看護学　理論と実践（第5版）」 鈴木和子他著　日本看護協会出版会　2019年　3,520円 （ISBN－9784818022089）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	講義ごとにレポートまた小テストにて評価する（100%）。 レポート・小テストは返却する。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	家族看護学とは何か①　家族の概念、家族看護の歴史、家族看護の定義	家族看護学の発展過程、看護における「家族」の概念、家族看護のニーズと視点、家族看護の定義・目的を理解する。	石黒
2	家族看護学とは何か②　家族のセルフケア機能	家族のセルフケア機能と発達課題の達成、健康的ライフスタイルの維持、健康問題への対応について理解できる。	石黒
3	看護学における家族の理解	「家族の健康」の概念、家族の形態と機能、家族を理解するための諸理論を理解できる。	石黒
4	家族看護過程	家族像を形成するための利点、内容、情報収集とアセスメントの方法、留意点およびジェノグラム・エコマップの記載方法を理解できる。	大村
5	乳児をもつ家族への看護	児の出生によって家族が受ける影響、養育期の発達課題および援助の実際について理解できる。	大村
6	重症心身障がい児をもつ家族への看護	障がいのある子に対する基本的な考え方および重症心身障がい児の家族への支援を理解できる。	大村
7	高齢者介護を行っている家族への看護	高齢者介護を行っている家族の理解および介護を行う家族への援助方法を理解できる。	石黒
8	終末期患者の家族への看護	家族成員が終末期を迎えることによる家族が受ける影響、終末期の家族成員を含む家族への援助の目標と実際を理解できる。	石黒

認知症看護

Dementia Nursing

担当教員名	長谷川　奈々子	実務経験（年数）	病院等勤務・看護師３年
英語氏名	HASEGAWA Nanako	対象学生	２年
オフィスアワー（教員室）	メール対応	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	認知症、看護、家族、環境	授業方法	講義（遠隔）
授業概要	国内外の認知症対策や認知症看護の基本的な考え方について講義する。		
教育目標	高邁な倫理観を育み、認知症の人々に質の高い看護ケアを提供する。看護学部ディプロマ・ポリシー①に関連する。		
到達目標	認知症の人を理解し、認知症看護に必要な知識・技術を身に着けることができる。		
予習・復習	予習は参考書該当部分を一読し、復習は参考書と資料を読み直して整理する。 予習・復習でそれぞれ180分必要とする。		
教科書・教材	なし		
参考書	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学 医学書院　ISBN978－4－260－03186－8 最新　老年看護学第４版　日本看護協会出版会　ISBN978－4－8180－2366－6		
成績評価方法 フィードバック	講義の出席・レポート30%、定期試験70%		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	認知症施策の動向と看護	国内外の主な認知症施策を理解する。
2	認知症の理解	認知症の定義、症状、鑑別が必要な疾患について理解する。
3	認知症高齢者の看護の基本	認知症の原因疾患、特徴をふまえ、全人的に理解する。認知症看護のアプローチを理解する。
4	認知症高齢者とのコミュニケーション	認知症高齢者とのコミュニケーションの原則を理解する。
5	認知機能および生活機能の評価	認知機能や生活機能の評価尺度、活用方法について理解する。
6	認知症高齢者のアセスメントとケア	認知症高齢者のアセスメントの視点と方法について理解する。日常生活行動との関連を理解する。
7	認知症高齢者の家族の看護	認知症高齢者の家族支援について理解する。
8	さまざまな場での認知症高齢者の看護の実際	認知症高齢者の療養生活や施設生活における看護を理解する。

健康教育学Ⅱ

Health Education Ⅱ

担当教員名	青山 京子・北林 由紀子・和田 恵子	実務経験（年数）	愛知県保健所健康支援課　保健師10年
英語氏名	AOYAMA Kyoko・KITABAYASHI Yukiko・WADA Keiko	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	健康教育学Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	保健指導　ヘルスプロモーション	授業方法	講義・演習
授業概要	地域における健康教育の位置づけや健康教育の方法、特徴を学び、提示した事例を基に健康教育を展開する。		
教育目標	行動変容に繋がるための対象特性に応じた健康教育の実際が展開できる。 看護学部ディプロマ・ポリシーの③と⑤に関連する。		
到達目標	1）対象特性を理解し健康教育の企画書・指導案が作成できる。 2）目標達成のための適切な教育媒体を選定、作成できる。 3）行動変容に繋がる健康教育の実施、評価ができる。		
予習・復習	各回の演習内容について予習して授業に参加すること。		
教科書・教材	「最新保健学講座２公衆衛生看護支援技術」メジカルフレンド社（健康教育学Ⅰで購入済み） 「国民衛生の動向2021-2022年版」厚生労働統計協会（健康教育学Ⅰで購入済み）		
参考書	講義内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	演習課題・プレゼンテーション（100％）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	・健康教育学Ⅰの復習 ・演習① 1）演習のオリエンテーション 2）企画書の確認 3）指導案の検討及び作成	・健康教育学Ⅰの内容を復習し企画書の確認と修正ができる。 ・企画書に沿った指導案が作成できる。	青山
2	演習② 1）企画書の完成 2）指導案の検討	企画書を完成させ、企画書に沿った指導案を考えることができる。	北林 青山 和田
3	演習③ 1）指導案の完成 2）媒体の検討	企画書を踏まえて、指導案を完成することができる。	北林 青山 和田
4	演習④ 1）媒体の作成 2）発表原稿の作成	企画書・指導案に沿って媒体を考え作成できる。	北林 青山 和田
5	演習⑤ 1）媒体・発表原稿の完成 2）発表の準備	1）対象や目的に合った媒体を完成させ、指導案に基づき健康教育の原稿を作成できる。 2）健康教育の時間配分や役割等、グループで共有し準備できる。	北林 青山 和田
6	演習⑥ グループで健康教育の実施	指導案に基づき、時間配分や役割等、メンバーで協力して健康教育が実施できる。	北林 青山 和田
7	演習⑦ グループで健康教育の実施	指導案に基づき、時間配分や役割等、メンバーで協力して健康教育が実施できる。	北林 青山 和田
8	演習⑧ 評価、まとめ	実施した健康教育の評価ができる。	北林 青山 和田

看護過程演習

Nursing Process Exercise

担当教員名	足立　勝宣・池松　裕子・ 神谷　美香・那波　潤美・ 浅場　香・山口　陽子・ 大村　政生・松野　智香子	実務経験（年数）	精神看護6年

英語氏名	ADACHI Katsunori・IKEMATSU Yuko・KAMIYA Mika・ NAWA Masumi・ASABA Kaori・YAMAGUCHI Yoko・ OMURA Masaki・MATSUNO Chikako	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	原則講義日（各担当教員の指示による）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	看護過程の理解、看護過程の展開、紙上事例	授業方法	講義

授業概要	各看護学領域において紙上事例等々を用いて、看護の対象となる人々の全体像の把握と看護実践のための看護過程の展開のあり方を学ぶ。
教育目標	紙上事例などを用いて、各看護学領域における看護過程の展開を試みることによって、科学的な看護の実践ができる資質を育む。ディプロマ・ポリシー②
到達目標	各看護学領域において紙上事例などを用いて、看護の対象となる人々の全体像の把握や看護実践のための看護過程の展開のあり方を理解できる。
予習・復習	各回の授業内容に関する教科書や配布された紙上事例、資料などを前日までに熟読し、不明な点は自分なりに調べ、課題を作成した上で講義に臨むこと。 予習・復習として、各講義につき2時間程度は必要である。
教科書・教材	1年生で用いた各看護学領域の概論、および2年生で用いた各看護領域の援助論の教科書、資料等。そのほか、紙上事例に関する資料などは、各看護学領域の講義にて適宜配布する。各担当教員の指示による。
参考書	講義時に紹介する。
成績評価方法 フィードバック	各領域の課題提出（各看護学領域）100% 課題内容は、解説又は返却など各領域によりフィードバックを行う。

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1･2 3･4 5	成人看護学領域における看護過程の展開 （各3・2回ずつ：急性期および慢性期）	紙上事例を用い、「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを学習し、看護診断を用いた看護過程の展開ができる。	池松・神谷
6･7	老年看護学領域における看護過程の展開	高齢者の「もてる力」を引き出す生活行動モデルを用いて、生活機能の観点から看護過程の展開ができる。	山口
8･9	母性看護学領域における看護過程の展開	問題指向型のみだけでなくウェルネスの視点を持ちながら、紙上事例を用いて妊娠、産褥、新生児の看護過程の展開ができる。	那波・松野
10･11	小児看護学領域における看護過程の展開	紙上事例を用いて小児特有の疾患をもつ子どもと家族の全体像を把握し、発達段階を考慮した看護過程の展開ができる。	大村
12･13	精神看護学領域における看護過程の展開	生物学的・心理学的・社会学的側面より対象理解に必要な方法について理解できる。	足立
14･15	在宅看護学領域における看護過程の展開	在宅で療養生活を送る対象者とその家族介護者の事例を用いて、グループごとに訪問看護のＰＤＣＡサイクル展開ができるようにする。	浅場

看護管理論

Nursing Management

担当教員名	夏目　恵美子	実務経験（年数）	認定看護管理者 看護師長・卒後臨床研修センター師長13年
英語氏名	NATSUME Emiko	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	講義日12：10～12：40　メールは随時（10503研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	マネジメント、組織、医療安全、看護の質	授業方法	講義・GW
授業概要	チーム医療の概念に基づき看護活動を組織としてよりよく展開するためのメンバーおよびリーダーとしての基礎的知識並びに医療安全について学ぶ。また、看護管理の知識は管理者のみに必要ではなく、看護師が行う日々のケアにおいてもマネジメントの知識が必要であることを学ぶ。 学生は看護管理という内容をむずかしく感じる傾向があるので、看護管理者の経験を踏まえ、どのような場面でマネジメントが必要であるか等を具体例を挙げて説明し、興味が持てるように工夫する。		
教育目標	①チーム医療の中の看護部組織の一員として良質な看護を組織としてよりよく展開するための仕組みや自己の役割遂行に必要な基礎的知識を学ぶ。 ②医療におけるリスク管理と安全対策の方法を学ぶ。ディプロマ・ポリシー③④に該当する。		
到達目標	①看護管理の目的、管理プロセスについて説明できる。 ②看護チームの一員として看護ケアマネジメントの方法を説明できる。 ③医療安全のためのリスクマネジメントの重要性と安全対策の方法を説明できる。		
予習・復習	適宜、課題を提示するので、その予習をし、A４用紙１枚程度にまとめ講義の前に提出する。また、コピーを手元に置き、GWの際に活用し、学びを共有する。		
教科書・教材	看護の統合と実践［1］看護管理　第10版　メディカ出版		
参考書	必要時、講義中に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（60%）、課題レポート（30%）およびGWの取り組み（10%）を総合的に評価する。		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	授業ガイダンス、看護管理の定義、歴史、組織	看護管理の定義と意義について説明できる。
2	看護職のキャリア形成とその支援	専門職としてのキャリア形成と組織におけるキャリア開発について学習する。1）社会人基礎力　2）現任教育の構築・看護実践能力（クリニカルラダー）　3）看護の専門性と教育
3	マネジメントの概念　管理プロセス、看護方式	①組織として良質な看護サービスを提供するための管理プロセスについて説明できる。 ②病院における看護体制の種類と特徴を説明できる。
4	組織の一員としての役割（メンバー、リーダー、看護管理者）	組織におけるメンバー、リーダー、看護管理者の役割を説明できる。
5	リーダーシップの概念、リーダーシップ論	リーダーシップの定義、リーダーシップスタイルの特徴について説明できる。
6	タイムマネジメント、看護ケアマネジメント（GW）	日常行う看護ケアマネジメントの方法について要点を述べられる。（タイムマネジメント）
7	GW：発表	意見交換を通して、学びを共有する。
8	まとめ（重点事項の整理等）①中間試験（30分）	既習の学びを復習する。
9	医療安全の概念とその取り組み	医療安全に対する国の政策、医療事故と看護師の法的責任について説明できる。
10	インシデントの種類別医療安全対策、ヒューマンエラー、コミュニケーションエラー等	看護職が遭遇しやすいインシデントを知り、患者の生命と安全を守るための知識・技術、態度の重要性を認識できる。
11	多重課題の対応（DVD） 組織としての医療安全対策	
12	演習（GW）：看護ケアにおけるリスク予見	術後患者のケア時におけるリスク予見の重要性を認識できる。
13	看護管理に有用な看護理論：変革理論	看護における問題解決に有用な変革理論の概要を説明できる。
14	看護の質保証（質評価の指標）、看護管理と法律（保助看法、診療報酬制度、人材確保法）	①看護の質評価、課題について考えることができる。 ②看護管理に関係する法律の概要について説明できる。
15	看護職の健康管理（ストレス管理）とワークライフバランス	専門職としての役割を円滑に果たすためのストレス管理等の自己管理の必要性について述べられる。

保健統計学Ⅱ

Statistics for Health Science Ⅱ

担当教員名	吉田　佳督	実務経験（年数）	厚生労働省・国家公務員Ⅰ種（薬学）16年 （うち国立がんセンター中央病院・薬剤師２年）
英語氏名	YOSHIDA Yoshitoku	対象学生	３年
オフィスアワー（教員室）	月・水・木・金　８：30～13：30、14：30～17：15（10516研究室） 講義や会議等で不在の際はメール問い合わせ可。	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	１
履修要件	保健統計学Ⅰを単位取得済みであること。（先修条件）	必修・選択	必修
キーワード	保健統計概論、保健統計の利用と解析	授業方法	講義・演習
授業概要	保健統計学Ⅰで学んだ基礎的な統計内容を踏まえ、さらに仮説検定などの統計手法の応用のしかたについて学ぶ。講義の中で実際に電卓を用いて統計解析を行うので電卓を持参すること。また、アクティブラーニングの観点から講義の中で双方向のディスカッションを行う。		
教育目標	地域における保健活動や健康管理に必要な情報検索、情報の収集、分析方法等に関する能力を涵養することができる。ディプロマ・ポリシー②④に該当する。		
到達目標	地域保健活動等に必要な情報の収集、分析を行い、実際の医療の場で活用すべく応用することができる。		
予習・復習	予習の際に各テーマについてＡ４用紙２枚程度にまとめたうえで受講すること。詳細は授業中に示す。自習時間は予習・復習でそれぞれ90分から120分必要である。（課題作成も含む）		
教科書・教材	「やさしい保健統計学改定第５版」縣俊彦著　南江堂　ISBN978－4－524－26821－4		
参考書	授業内で紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	定期試験（80％）、課題（授業中に解説する）（20％）を基に評価する。		

専門

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	標本数	標本数について説明できる。
2	仮説検定の概要	仮説検定の概要を説明できる。
3	母比率の検定	母比率の検定を説明できる。
4	対応のない２組の平均値の差の検定	対応のない２組の平均値の差の検定を説明できる。
5	対応のある２組の平均値の差の検定	対応のある２組の平均値の差の検定を説明できる。
6	適合度・独立性の検定	適合度・独立性の検定を説明できる。
7	対応のある２標本の比較	対応のある２標本の比較を説明できる。
8	統計図表の作成と分類	統計図表の作成と分類を説明できる。

看護研究方法Ⅰ

Methodology of Nursing Research Ⅰ

担当教員名	神谷　美香	実務経験（年数）	病院勤務・看護師8年
英語氏名	KAMIYA Mika	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	授業終了後1時間（10510研究室） 実習等で不在の場合はメール対応する。	開講時期	前期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	必修
キーワード	探求心　文献検索　研究計画書	授業方法	講義
授業概要	看護研究は看護の実践活動を科学的に研究し、改善或いは新たな知見を見出すことにより、看護学の発展に寄与する活動である。本科目は各自の疑問・関心事を研究的に探究して発展させるための基礎的な方法を学ぶ。		
教育目標	看護研究の意義を理解し、看護研究を実施するための基礎的知識・技術を習得する。ディプロマ・ポリシー②④に該当する。		
到達目標	1．研究の進め方を説明できる。 2．研究に必要な文献検索ができる。 3．文献クリティークの意義が理解できる。 4．看護研究における倫理的配慮について理解できる。 5．研究デザインの特徴について理解できる。 6．研究計画書の構成が理解できる。		
予習・復習	文献クリティーク1編、試験に代わるレポートを提示するので、講義の復習を確実に行い、計画的に進め、指定日に提出する。未提出者は評価0とするので注意すること。この科目は卒業研究の基盤となる知識・技術を学ぶため、全出席するように心がけること。		
教科書・教材	ナーシング･グラフィカ　基礎看護学④　看護研究（第4版）　前田ひとみ編　株式会社メディカ出版 （ISBN978－4840478397）		
参考書	看護研究サポートブック　改訂4版　足立はるゑ　メディカ出版（ISBN9784849461269c3047） 系統看護学講座　別巻　看護研究　医学書院　（ISBN978－4260049955）		
成績評価方法 フィードバック	ミニテスト（20%）課題（80%）定期試験はなし。授業態度を参考にする。		

■授業計画（全8回）

回	授業内容	到達目標
1	ガイダンス 看護研究の意義と研究のプロセス	看護研究とは何かを知り、この科目を学ぶ目的を理解する。 看護研究のプロセスを概観できる。
2	看護研究のはじめ方 文献検索の仕方・検索	看護に関係する「気になるテーマ」を考えることができる。 研究に必要な文献検索の意義を理解し、実践できる。
3	看護研究のクリティーク	クリティークの意義と実践方法について理解できる。
4	研究における倫理	倫理原則と倫理的配慮について理解できる。
5	研究デザインの選択①　量的研究の基礎	量的研究・質的研究の違いについて理解できる。 量的研究の特徴を説明できる。
6	研究デザインの選択②　質的研究の基礎	質的研究の特徴を説明できる。
7	研究計画書の作成 研究成果のまとめと公表	研究計画書の書式と記載内容が理解できる。 研究成果のまとめ方・伝え方について理解できる。
8	研究のプロセス（ミニテスト30分） 研究疑問の作成・文献クリティーク（まとめ）	研究のプロセスを理解することができる。

看護研究方法Ⅱ

Methodology of Nursing Research Ⅱ

担当教員名	春田　佳代・相撲　佐希子・ 池松　裕子・茂木　泰子・ 北林　由紀子・山口　陽子・ 那波　潤美・青山　京子・ 浅場　香・神谷　美香・ 夏目　恵美子・足立　勝宣・ 平野　明美・大村　政生・ 諏訪　美栄子・松野　智香子・ 東山　新太郎・和田　恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	HARUTA Kayo・SUMAI Sakiko・IKEMATSU Yuko・ MOTEGI Yasuko・KITABAYASHI Yukiko・YAMAGUCHI Yoko・ NAWA Masumi・AOYAMA Kyoko・ASABA Kaori・ KAMIYA Mika・NATSUME Emiko・ADACHI Katsunori・ HIRANO Akemi・OMURA Masaki・SUWA Mieko・ MATSUNO Chikako・HIGASHIYAMA Shintaro・WADA Keiko	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	各担当教員の指示による。	開講時期	通年
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	看護研究方法Ⅰを履修していないものは受講できない。	必修・選択	必修
キーワード	看護の科学性・卒業研究・研究課題・研究計画書	授業方法	小グループならびに個別学習
授業概要	研究計画書作成から最終レポート提出まで1年間にわたり看護研究を実践学習する。一連の研究過程を学習し、論文をまとめる。		
教育目標	看護専門職者として看護を科学的に探求し、看護の発展に貢献できる能力を育成する。学生が研究計画書を作成し主体的に計画書に基づいた創造的な看護研究が実践できるように繋げる。看護学部ディプロマ・ポリシー②④に関連する。		
到達目標	作成した研究計画書の再確認の後、各自、研究課題に向け研究をまとめ、提出する。また、同じ領域内において、発表することができる。		
予習・復習	まとめた部分の指導を適時受け、主体的に毎回まとめ報告する。		
教科書・教材	教科書：定めない		
参考書	参考書：看護研究の進め方　　論文の書き方【第2版】ISBN978－4－260－01683－4 その他、講義中に紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	卒業論文・発表（100%）		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	オリエンテーション・研究計画書の再確認	研究実施が確実にできる研究計画書を作成し、説明できる。
2	研究計画書の再確認①	研究実施が確実にできる研究計画書を作成し、説明できる。
3	倫理委員会申請用紙の確認①	倫理委員会申請書類の記載がわかる。
4	倫理委員会申請用紙の確認②	倫理委員会申請書類の記載がわかる。
5	文献収集と文献検討	論文を客観的な視点で批判することができる。
6	調査研究・文献研究①	協力を得ながら主体的に実施し、説明できる。
7	調査研究・文献研究②	協力を得ながら主体的に実施し、説明できる。
8	調査研究・文献研究③	協力を得ながら主体的に実施し、説明できる。
9	調査研究・文献研究④	協力を得ながら主体的に実施し、説明できる。
10	研究の進捗状況・中間報告会	研究の進捗状況を説明できる。
11	研究のまとめ（はじめから結果）①	看護研究の一連のまとめを段階的に実施し､説明・報告ができる。
12	研究のまとめ（結果から考察）②	看護研究の一連のまとめを段階的に実施し､説明・報告ができる。
13	研究のまとめ（はじめから考察・文献）要旨作成③	看護研究の一連のまとめを段階的に実施し､説明・報告ができる。
14	担当教員グループごとに発表会①	発表体験を通して討議し、客観的に批判することができる。
15	担当教員グループごとに発表会②	発表体験を通して討議し、客観的に批判することができる。

専門ゼミナール

Seminar : Nursing Sciences

担当教員名	春田　佳代・相撲　佐希子・ 池松　裕子・茂木　泰子・ 北林　由紀子・山口　陽子・ 那波　潤美・青山　京子・ 浅場　香・神谷　美香・ 夏目　恵美子・足立　勝宣・ 平野　明美・大村　政生・ 諏訪　美栄子・松野　智香子・ 東山　新太郎・和田　恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	HARUTA Kayo・SUMAI Sakiko・IKEMATSU Yuko・ MOTEGI Yasuko・KITABAYASHI Yukiko・YAMAGUCHI Yoko・ NAWA Masumi・AOYAMA Kyoko・ASABA Kaori・ KAMIYA Mika・NATSUME Emiko・ADACHI Katsunori・ HIRANO Akemi・OMURA Masaki・SUWA Mieko・ MATSUNO Chikako・HIGASHIYAMA Shintaro・WADA Keiko	対象学生	3年
オフィスアワー（教員室）	各担当教員の指示による。	開講時期	後期
科目区分	専門科目－統合看護	単位数	1
履修要件	3学年次生のみ	必修・選択	必修
キーワード	文献検討・研究課題の明確化・研究計画書	授業方法	小グループによる主体的学習形態
授業概要	文献を検討（クリティーク）を通して、自らの看護研究の課題を明らかにし、研究計画書作成までの一連の看護研究（卒業研究）プロセスを通して4年次の研究に繋げる学びを展開する。		
教育目標	社会に送り出す看護職者の資質を高める一環として、看護にかかわる文献を検討して、自らの研究課題を明確にする。文献検討内容を論理的に要約・報告する。意見交換をする中で思考力、表現力を育み、研究への主体的な学びの姿勢を育成する。その中で研究課題を明らかにしつつ研究計画書作成の基盤を学ぶ。ディプロマ・ポリシー②④に関連する。		
到達目標	文献を通して、批判的な文献の読み方を学び、複数の文献を検討する中で論理的思考を育成、論理的な文章表現が記載できる能力を育む。また、研究疑問を明確にし、研究計画書を作成することができる。		
予習・復習	文献検索、複数文献を批判的に熟読し、まとめ（要約）、毎回報告する。		
教科書・教材	教科書：定めない		
参考書	参考書：看護研究の進め方　　論文の書き方【第2版】ISBN978－4－260－01683－4 その他、講義中に紹介する。		
成績評価方法フィードバック	研究計画書・発表（100%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	オリエンテーション・看護研究論文とは・文献検討とは	文献検討することの意味が理解できる。
2	看護教育に関する研究の紹介と理解①	教員の研究への取り組みと結果の表現方法がわかる。
3	看護教育に関する研究の紹介と理解②	教員の研究への取り組みと結果の表現方法がわかる。
4	学生（関心のある文献）による文献検討・討議①	文献検討することの意味が理解でき、批判的に論じ、伝えることができる。
5	学生（関心のある文献）による文献検討・討議②	文献検討することの意味が理解でき、批判的に論じ、伝えることができる。
6	学生（関心のある文献）による文献検討・討議③	文献検討することの意味が理解でき、批判的に論じ、伝えることができる。
7	学生（関心のある文献）による文献検討・討議④	文献検討することの意味が理解でき、批判的に論じ、伝えることができる。
8	学生が研究したいと考える研究紹介と文献検討・討議①	研究疑問に繋げる考え方、工夫を主体的に考え、述べることができる。
9	学生が研究したいと考える研究紹介と文献検討・討議②	研究疑問に繋げる考え方、工夫を主体的に考え、述べることができる。
10	学生が研究したいと考える研究紹介と文献検討・討議③	研究疑問に繋げる考え方、工夫を主体的に考え、述べることができる。
11	研究疑問の明確化①	研究疑問を明確に記述し、報告できる。
12	研究疑問の明確化②	研究疑問を明確に記述し、報告できる。
13	量的・質的研究のプロセス確認・倫理申請	看護研究が実践できる具体的な方法を再確認し、記述できる。
14	研究計画書・発表①	研究計画書を作成し、グループメンバーに伝えることができる。
15	研究計画書・発表②	研究計画書を作成し、グループメンバーに伝えることができる。

公衆衛生看護学概論

Introduction to Public Health Nursing

担当教員名	北林　由紀子	実務経験（年数）	藤田医科大学病院看護師８年、春日井市保健センター、健康管理センター保健師４年
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko	対象学生	保健師選抜２年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00（北林研究室）	開講時期	後期
科目区分	専門分野－公衆衛生看護学	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	選択（保健師課程必修）
キーワード	公衆衛生看護の基本理念、対象と場、社会環境の変化と健康課題、公衆衛生看護活動と展開の基盤・展開方法、公衆衛生看護の歴史	授業方法	講義
授業概要	公衆衛生看護の理念・意義・目的・歴史等について学ぶ。また、公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織や地域の人々の健康や生活の質の向上をめざし、地域全体の健康レベルの向上を図る活動方法を学ぶ。		
教育目標	公衆衛生看護の理念、歴史、保健師活動の基盤を理解し、保健師の活動や展開方法を理解する。 看護学部ディプロマ・ポリシーの③と⑤に関連する。		
到達目標	１．公衆衛生看護の理念・意義・目的・歴史等について理解することができる。２．保健師活動の目標と活動の展開方法について理解することができる。３．保健師に求められる基本的な資質・能力・倫理観について学ぶことができる。		
予習・復習	各回の授業内容に沿って教科書を読んで予習してくること。 各回の予習・復習は90分から120分程度必要とする。		
教科書・教材	・標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論　第６版　医学書院　3,200円+税　ISBN978－4－260－04707－4 ・「国民衛生の動向」2023/2024年版　厚生労働統計協会 ・必要に応じて資料提示あり。		
参考書	・保健学講座１「公衆衛生看護学概論」金川克子編　メディカルフレンド社 ・公衆衛生看護学.ＪＰ　荒賀直子編　インターメディカル ・学生のための現代公衆衛生　改訂８版　野中浩一編著　南山堂		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（70%）、小テスト（30%）小テストは必ず次の授業でフィードバックを行う。		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	公衆衛生看護の基本理念、公衆衛生の理念とは。	公衆衛生看護とは、公衆衛生を基盤にした看護活動であることを理解する。
2	公衆衛生看護の基盤となる概念、公衆衛生看護における倫理とは。	公衆衛生看護は住民の暮らしと健康をまもる公共的な活動であることを理解する。また、公衆衛生看護の実践には倫理や倫理観が重要であることを理解する。
3	公衆衛生看護の対象 ・個人・家族・集団・組織、地域	公衆衛生看護の対象は地域で生活するすべての人々であることを理解する。
4･5	公衆衛生看護の場(1)(2) ・行政機関、職域 ・学校、医療機関、福祉施設	保健師の就業場所が様々な場で行われることを学ぶ。
6･7	社会環境の変化と健康課題(1)(2) ・人口及び疾病構造の変化 ・社会情勢、政治・経済産業構造の変化	少子超高齢社会である日本の現状について学び、日本の社会構造が変化してきていることを理解することができる。
8	社会環境の変化と健康課題(3) ・環境の変化と健康課題	公害や地球環境の変化は、人々の健康に大きな影響を与えていることを理解し、今、自分たちがやれることは何なのかを考えることができる。
9･10	公衆衛生看護活動の展開の基盤(1)(2) ・健康と生活 ・個別・家族・集団、地域へのアプローチ ・地域アセスメントモデルの活用	人々の健康は、生活・社会と密接に関連していることを理解する。また、公衆衛生看護活動のアプローチ方法の基本は、生活モデルであることを理解することができる。
11･12	公衆衛生看護活動における地域アセスメント(1)(2)	地域アセスメントは、公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の基盤であることを公衆衛生看護の理論を用いて理解することができる。PDCAサイクルについて理解することができる。
13	公衆衛生看護活動における地域アセスメント(3) ・子育て支援に対してのアセスメント・計画立案・評価	子育て支援について、保健師の地域アセスメントの実際を学ぶことができる。
14	保健医療福祉における施策化 ・保健計画の策定	保健計画は、保健医療福祉分野における各事業を効果的かつ効率的に実施するために必要不可欠であることを理解する。
15	公衆衛生看護の歴史 ・日本における歴史､米国と英国の公衆衛生の発達と活動の歴史	時代の背景や特徴をとらえながら公衆衛生看護の歴史を概観することができる。

保健医療福祉行政論Ⅰ

Health and Welfare Policy I

担当教員名	中島　民恵	実務経験（年数）	保健センター所長を含め衛生行政28年
英語氏名	NAKAJIMA Tamie	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	短い質問は、授業内で受付ける。	開講時期	後期
科目区分	専門分野－公衆衛生看護学	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	保健医療福祉行政　地域保健行政　社会保障制度	授業方法	講義
授業概要	保健医療福祉行政の仕組みや制度の変遷とその背景となる社会状況の変化について、把握・理解し、今後の社会保障制度のめざすものと方向性について学ぶ。		
教育目標	保健医療福祉の制度全般にわたり、法令等の根拠と現状について理解を深め、保健師活動に応用できるようにする。 看護学部ディプロマ・ポリシー②と③に関連する。		
到達目標	保健・医療・福祉に関する制度と施策について説明できる。		
予習・復習	予習：教科書をあらかじめ読んで、重要箇所をマーカーでチェックしておくこと。 復習：講義中に解説した語句をまとめ、理解する。		
教科書・教材	「標準保健師講座　別巻1　保健医療福祉行政論　第5版」医学書院　定価3,410円　ISBN 978－4－260－04222－2		
参考書	「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会		
成績評価方法フィードバック	定期試験（100%）で評価する。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標
1	保健医療福祉行政の基本	保健医療福祉行政の基盤となる根拠や公衆衛生の定義を理解する。
2	保健医療福祉制度の変遷	近代公衆衛生の歴史を通じて公衆衛生の本質を理解する。
3	保健医療福祉制度の変遷（平成以降）	日本の保健・医療・福祉に関する政策の具体的内容をその経緯とともに理解する。
4	保健医療福祉行政の理念としくみ	保健医療福祉行政の定義と役割、体系を理解する。
5	保健医療福祉行政の財政	社会保障の給付と財源について理解する。
6	国際的な活動	保健医療分野の国際協力のしくみを理解する。
7	地域保健の体系	都道府県と市町村の役割分担を理解する。
8	社会保障制度の理念としくみ	社会保障制度の概念・目的・制度体系などを理解する。
9	医療提供体制	医療提供体制について医療施設や医療従事者の概況を理解する。
10	社会保険制度（医療保険制度）	医療保険制度のしくみと、持続可能な医療制度のための改革について理解する。
11	社会保険制度（介護保険制度）	介護保険制度のしくみを理解する。
12	社会保険制度（年金保険と雇用保険、労働者災害補償保険）	年金保険と雇用保険、労働者災害補償保険のしくみを理解する。
13	社会福祉制度（公的扶助）	公的扶助のしくみと動向を理解する。
14	社会福祉制度（児童家庭福祉）	児童家庭福祉の流れと制度を理解する。
15	社会福祉制度（高齢者福祉と障害者福祉）	高齢者福祉と障害者福祉の流れと制度を理解する。

公衆衛生看護学概論Ⅱ

Introduction to Public Health Nursing Ⅱ

担当教員名	北林　由紀子	実務経験（年数）	藤田医科大学病院看護師８年、春日井市保健センター、健康管理センター保健師４年
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko	対象学生	保健師選抜３年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00（北林研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	1
履修要件	公衆衛生看護学概論Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	選択（保健師課程必修）
キーワード	公衆衛生看護の理念、予防の概念、公衆衛生看護活動の根拠法令、地域包括ケアシステム、地域アセスメント	授業方法	講義
授業概要	公衆衛生看護の理念や保健活動の歴史、対象の特性・活動等を学び、保健師活動の展開についてGWで討議したり、課題レポート等によって考察を深める。		
教育目標	公衆衛生看護の理念、歴史、保健師活動の基盤を理解し、展開方法を構築することができる。 看護学部ディプロマ・ポリシーの③と⑤に関連する。		
到達目標	１．公衆衛生の理念・活動等について理解できる。 ２．保健師活動の目標と活動の展開方法について理解できる。 ３．保健師に求められる基本的な資質・能力について理解できる。		
予習・復習	各回の授業内容に沿って教科書を読んで予習してくること。 各回の予習・復習は90分から120分程度必要とする。		
教科書・教材	・保健学講座１「公衆衛生看護学概論」金川克子編、メディカルフレンド社（２年次購入済み） ISBN－13：978－4839221799 ・「国民衛生の動向　2023／2024年版」厚生労働統計協会（２年次健康教育学で購入済み） ・必要に応じて資料提示あり。		
参考書	・標準保健師講座１　公衆衛生看護学概論　松田正己他著　医学書院 ・公衆衛生看護学.ＪＰ　荒賀直子編　インターメディカル ・学生のための現代公衆衛生　改訂８版　野中浩一編著　南山堂		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（70%）、課題（10%）、小テスト（20%）小テストは必ず次の授業でフィードバックを行う。		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	公衆衛生看護の基本 ・基本理念、活動の根拠、基本的な考え方 ・保健師に求められる基本的な資質・能力	公衆衛生看護の基本理念や概念について理解できる。
2	公衆衛生看護の歴史と変遷 ・保健師が取り組む健康課題の変遷	公衆衛生看護の歴史、保健師活動の変遷について理解できる。
3	社会保障制度改革と公衆衛生看護活動 専門職としての貢献	社会保障制度改革による公衆衛生看護活動の動向を理解できる。
4	公衆衛生看護の対象と場	公衆衛生看護の対象と場の特性を理解できる。
5	予防の概念と健康に影響する社会的要因について ・人口構造の変化と健康課題 ・社会構造・社会情勢の変化と健康課題 ・疾病構造の変化と健康課題	現代社会の情勢を理解し、保健師活動のあり方や対策等を考えることができる。
6	環境の変化と健康課題 ・地域環境の変化 ・環境汚染と公害 ・生活環境の変化 ・地域の健康危機	現代社会の環境問題を把握し、人々の健康課題を述べることができる。
7	公衆衛生看護活動の根拠法令 ・地域包括ケアシステムの構築に向けて	公衆衛生看護活動に関する法令を理解する。
8	現代社会の情勢から健康に影響する要因や環境問題等をGWで討議し、健康課題を導き出す。	GWで話し合い、各自で健康課題を作成しレポートを提出する。

地域ケアシステム論

Care Systems for Community Health Nursing

担当教員名	青山 京子・北林 由紀子・和田 恵子	実務経験（年数）	愛知県保健所健康支援課　保健師10年
英語氏名	AOYAMA Kyoko・KITABAYASHI Yukiko・WADA Keiko	対象学生	保健師課程４年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：00～17：00	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	選択（保健師課程必修）
キーワード	地域ケアシステム、保健事業計画・評価、地区組織活動、地域ケアシステムづくり	授業方法	講義・演習
授業概要	地域ケアシステムの概念、発展過程、構築方法、地域ケアシステムと保健活動について学ぶ。また、実習市町村の健康課題解決に向けた事業計画の立案を演習にて展開する。		
教育目標	１）地域ケアシステムの概念と地域ケアシステム構築における保健師の役割を理解できる。 ２）公衆衛生看護活動における事業化と施策化の意義が理解できる。 看護学部ディプロマ・ポリシーの③と④に関連する。		
到達目標	１）地域ケアシステムの概念について説明できる。 ２）地域ケアシステムにおける保健師の役割を考えることができる。 ３）地域診断から抽出された健康課題の解決に向け、目標を設定し計画できる。		
予習・復習	授業内容に関する教科書のページを読んで授業に臨むこと。 演習課題に関連する市町村の情報については、関心をもって積極的に収集する。		
教科書・教材	最新保健学講座５『公衆衛生看護管理論』メヂカルフレンド社（２年次購入済） 必要に応じて資料配布または提示する。		
参考書	国民衛生の動向2021／22年版 保健師業務要覧　　標準保健師講座１『公衆衛生看護学概論』第６版　医学書院		
成績評価方法フィードバック	筆記試験（40%）　演習課題・プレゼンテーション（60%）		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	ガイダンス 講義：１）地域ケアシステムとは ２）地域ケアシステムの発展過程	この科目を学ぶ目的と概要および地域ケアシステムの概念･発展過程について理解できる。	青山
2	講義：１）ネットワーク形成とシステムづくりの実際 ２）地域ケアシステムにおける保健師の役割	ネットワークづくりと地域ケアシステムにおける保健師の役割について考えることができる。	青山
3	講義：事業計画と保健師の役割（その１） １）地域診断の概念とプロセス（復習） ２）事業計画とは	地域診断の学びと連動させて、事業計画策定の意義を理解できる。	北林
4	講義：事業計画と保健師の役割（その２） １）活動目標・事業計画の策定 ２）事業計画の見直しと評価	事業計画策定と保健師の役割について理解できる。	北林
5	講義：事業計画と保健師の役割（その３） １）保健師活動と計画策定 ２）地方公共団体における保健医療福祉計画	地方公共団体における保健医療福祉計画の意義や必要性について理解できる。	北林
6	演習：保健医療福祉計画の実際① 実習市町村の地域診断のための情報収集	実習市町村の地域診断のための情報収集をすることができる。	北林 青山 和田
7	演習：保健医療福祉計画の実際② 実習市町村の地域診断のための情報収集	実習市町村の地域診断のための情報収集をすることができる。	北林 青山 和田
8	演習：保健医療福祉計画の実際③ 情報収集に基づくアセスメント	実習市町村の情報収集を基にアセスメントすることができる。	北林 青山 和田
9	演習：保健医療福祉計画の実際④ 情報収集に基づくアセスメント	実習市町村の情報収集を基にアセスメントすることができる。	北林 青山 和田
10	演習：保健医療福祉計画の実際⑤ 健康課題の明確化	アセスメントを基に健康課題を抽出することができる。	北林 青山 和田
11	演習：保健医療福祉計画の実際⑥ 健康課題の構造化	健康課題について構造化することができる。	北林 青山 和田
12	演習：保健医療福祉計画の実際⑦ 事業計画の立案	健康課題解決のための事業計画を立案できる。	北林 青山 和田
13	演習：保健医療福祉計画の実際⑧ 立案した事業計画の評価方法の検討	立案した事業計画の評価方法を考えることができる。	北林 青山 和田
14	演習：保健医療福祉計画の実際⑨ 事業計画のプレゼンテーション	実習市町村の事業計画のプレゼンテーションができる。 これまでの演習を通して地域診断プロセスが理解できる。	北林 青山 和田
15	演習：保健医療福祉計画の実際⑩ 事業計画のプレゼンテーション	実習市町村の事業計画のプレゼンテーションができる。 これまでの演習を通して地域診断プロセスが理解できる。	北林 青山 和田

公衆衛生看護援助論

Methodology of Public Health Nursing

担当教員名	北林 由紀子・青山 京子・和田 恵子	実務経験（年数）	藤田医科大学病院看護師８年、春日井市保健センター、健康管理センター保健師４年
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko・AOYAMA Kyoko・WADA Keiko	対象学生	保健師課程４年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	4
履修要件	なし	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	支援技術、健康相談、健康診査、家庭訪問、グループ支援	授業方法	講義・演習
授業概要	個人・家族・集団の健康保持増進、人々が主体的に問題解決できる支援の特徴を学ぶ。また、保健師が行う健康相談、家庭訪問の特徴、プロセスを学ぶ。		
教育目標	保健師の支援技術を学び、対象や課題に応じた保健指導が展開できる。 看護学部ディプロマ・ポリシーの②と④に関連する。		
到達目標	１．個人・家族への健康支援方法を理解することができる。 ２．個人･家族が自ら健康問題を解決できるよう支援するための保健師の技術を習得する。 ３．提示された事例を基にアセスメントし、対象の特徴を踏まえた計画立案、支援の実施、評価の一連のプロセスが展開できる。		
予習・復習	講義内容を踏まえて復習し演習に臨むこと。演習ガイドを事前に読んでおくこと。 予習復習に90分から120分必要とする。		
教科書・教材	書名：最新保健学講座２『公衆衛生看護支援技術』メヂカルフレンド社（２年次購入済み） 必要に応じて資料配布または提示する。		
参考書	『標準保健師講座２ 公衆衛生看護支援技術』著者名：中村裕美子他（医学書院） 国民衛生の動向2021／2022年版		
成績評価方法フィードバック	演習課題・プレゼンテーション（100%）		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	講義：健康相談 １）健康相談の目的、対象 ２）援助、カウンセリング	健康相談の目的、対象、方法、健康相談援助の基本姿勢、健康相談におけるカウンセリング方法を理解できる。	北林
2	講義：グループ支援の方法と実際 グループ支援の特徴・理論	グループ支援の特徴、意義、理論が理解できる。	北林
3	講義：家庭訪問の方法と実際 目的・特徴・プロセス	家庭訪問の目的、特徴、プロセスが理解できる。	青山
4	講義：健康診査の方法と実際① １）乳幼児健康診査の意義・位置づけ・目的	乳幼児健康診査の目的、対象、種類、方法を理解できる。	青山
5	講義：健康診査の方法と実際② ２）特定健康診査・特定保健指導の目的・内容・方法	成人、高齢者に行われる健康診査の目的、対象、種類、方法を理解できる。	青山
6･7	演習①②：健康相談事例	事例のアセスメント、相談内容に応じた援助計画（グループワーク）	北林 青山 和田
8･9	演習③④：健康相談グループ発表	事例を想定した相談支援が展開できる。	北林 青山 和田
10･11	演習⑤⑥：家庭訪問事例（母子）	事例のアセスメント、訪問計画（グループワーク）	北林 青山 和田
12･13	演習⑦⑧：家庭訪問（難病またはTB）	事例のアセスメント、訪問計画（グループワーク）	北林 青山 和田
14･15	演習⑨⑩：家庭訪問グループ発表	訪問計画に従って実際の場面を想定して訪問活動の展開ができる。	北林 青山 和田

公衆衛生活動看護実践論Ⅰ　Public Health Nursing Skills I

担当教員名	青山 京子・北林 由紀子・和田 恵子	実務経験（年数）	愛知県保健所健康支援課　保健師10年
英語氏名	AOYAMA Kyoko・KITABAYASHI Yukiko・WADA Keiko	対象学生	保健師課程３年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	公衆衛生看護活動　母子保健、成人保健、産業保健、高齢者保健	授業方法	講義
授業概要	母子保健活動・成人保健活動・高齢者保健活動・精神保健活動等における理念、健康課題、具体的支援について学ぶ。また、各保健対策の歴史的変遷、背景にある施策やその根拠法令についても学び、今後の保健師活動を展望する。		
教育目標	母子保健活動・成人保健活動・高齢者保健活動、精神保健活動等の保健師が展開する公衆衛生看護活動について理解し、活動の特徴を説明できる。看護学部ディプロマ・ポリシー②と④に関連する。		
到達目標	１．母子保健・成人保健・高齢者保健・精神保健の理念について説明できる。 ２．対象別の健康課題に対する保健活動を理解できる。 ３．健康課題を解決するための支援方法について考えることができる。		
予習・復習	講義初回に各回の学習計画を提示するので、教科書を必ず読んで予習をすること。 予習復習にそれぞれ60分から90分必要とする。		
教科書・教材	書名：「標準保健師講座３ 対象別公衆衛生看護活動」松田正己他著　医学書院　3,400円+税 ISBN978－4－260－03187－5　　必要に応じて資料配布する。		
参考書	最新保健学講座７「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社 国民衛生の動向2022／2023年版		
成績評価方法フィードバック	定期試験（90%）小テスト（10%）で総合的に評価する。小テストのフィードバックは次回講義で行う。		

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	母子保健：母子保健の理念、母子健康関連指標の動向・施策の変遷	母子保健の歴史と母子保健の動向と対策を理解できる。	青山
2	母子保健：母性各期の健康課題と支援	母性各期の健康課題と支援方法について理解できる。	青山
3	母子保健：乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援	乳幼児の成長発達を理解し、健康課題に応じた支援方法が理解できる。	青山
4	母子保健：支援ニーズの高い親子の健康課題と支援	支援ニーズの高い親子の健康課題と支援について理解できる。	青山
5	母子保健：地域のサポートシステム・社会資源 障害のある児等への対応、児童虐待	地域の社会資源とサポートシステムについて考えることができる。	青山
6	精神保健活動：精神保健医療福祉の歴史的変遷・動向	精神保健の歴史と動向、関連する法規を理解できる。	北林
7	精神保健：精神障害者の生活と支援	精神障害者の生活と支援について理解できる。	北林
8	障害者（児）保健：現状と歴史、動向	障害者（児）保健福祉施策の変遷が理解できる。	北林
9	障害者（児）保健：施策と保健師の役割	現在の障害者（児）保健福祉施策と保健師の役割が理解できる。	北林
10	成人保健：理念・目的・歴史的変遷	成人保健の理念、目的、歴史的変遷について理解できる。	青山
11	成人保健：成人期の健康と健康課題	成人期の健康課題について説明できる。	青山
12	成人保健：成人期の保健活動（生活習慣病、特定保健指導等）	成人期の具体的な保健活動について理解できる。	青山
13	高齢者保健：高齢者保健医療福祉の動向	高齢者保健の理念と歴史的変遷、高齢者施策について理解できる。	和田
14	高齢者保健：高齢者の健康状態、健康課題	健康な高齢者の特性から介護予防につながる予防活動が理解できる。	和田
15	高齢者保健：高齢者の健康課題と支援	高齢者の健康課題に応じた支援方法について理解できる。	和田

公衆衛生活動看護実践論Ⅱ　Public Health Nursing Skills Ⅱ

担当教員名	青山 京子・北林 由紀子・和田 恵子	実務経験（年数）	愛知県保健所健康支援課　保健師10年
英語氏名	AOYAMA Kyoko・KITABAYASHI Yukiko・WADA Keiko	対象学生	保健師課程３年
オフィスアワー（教員室）	講義曜日：16：20～17：00	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	2
履修要件	なし	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	感染症保健活動、難病保健活動、歯科保健活動、産業保健	授業方法	講義
授業概要	感染症保健活動、難病保健活動、歯科保健活動・産業保健等の歴史的変遷、動向、保健対策事業とその根拠法令、保健師の具体的支援活動について学ぶ。また、地域包括ケアにおける保健師の役割についても学ぶ。看護学部ディプロマ・ポリシー②と④に関連する。		
教育目標	感染症保健活動、難病保健活動、歯科保健活動・産業保健等における対策の歴史的変遷、動向、保健師が展開する各対象者への支援活動について理解し、活動の特徴を説明できる。看護学部ディプロマ・ポリシー②と④に関連する。		
到達目標	１．難病の歴史的変遷、感染症法の目的、理念、感染症保健対策と保健師活動について理解できる。 ２．地域包括ケアにおける保健師の役割について説明できる。 ３．産業保健における健康課題への施策と支援について理解できる。		
予習・復習	講義初回に各回の学習計画を提示するので、教科書を必ず読んで予習をすること。 予習復習にそれぞれ60分から90分必要とする。		
教科書・教材	書名：「標準保健師講座３ 対象別公衆衛生看護活動」松田正己他著 医学書院　3,400円+税 ISBN978－4－260－03187－5 必要に応じて資料配布する。		
参考書	最新保健学講座７「保健医療福祉行政論」メヂカルフレンド社 国民衛生の動向2022／2023年版		
成績評価方法フィードバック	定期試験（90%）小テスト（10%）で総合的に評価する。小テストのフィードバックは次回講義中に行う。		

専門

■授業計画（全15回）

回	授業内容	到達目標	担当
1	難病保健活動：難病対策の動向	難病保健の動向と対策が理解できる。	北林
2	難病保健活動：難病療養支援システムと社会資源の活用	難病患者のサポートシステムと社会資源が理解できる。	北林
3	難病保健活動：難病患者の生活と保健指導	難病患者に必要な支援方法が理解できる。	北林
4	地域包括ケアとは	地域包括ケアの背景と実現に向けた取り組みが理解できる。	和田
5	地域包括ケアにおける保健師活動	地域包括ケアにおける保健師活動と役割が理解できる。	和田
6	感染症保健の動向：感染症保健の理念、感染症対策の変遷	感染症保健の理念と対策の変遷について理解できる。	青山
7	感染症保健施策と保健師活動	感染症法、予防接種法に基づく保健師活動が理解できる。	青山
8	感染症保健活動：結核患者への保健指導	結核の基礎知識と必要な保健指導が説明できる。	青山
9	感染症保健活動：科目内特別講義	日本の結核対策と保健師活動について理解できる。	青山
10	感染症保健活動： １）行政機関（保健所）の役割 ２）新型コロナウイルス感染症対策と保健師活動	感染症発生時の保健所の役割や保健師活動が理解できる。	青山
11	感染症保健活動：疾病管理	主要な感染症について動向や保健活動が理解できる。	青山
12	歯科保健：動向と保健活動の実際	歯科保健の動向と対策を理解できる。	北林
13	産業保健：目的、産業保健師活動、保健師の役割	産業保健の目的、保健師活動について理解できる。	青山
14	産業保健：産業保健の制度とシステム	産業保健の制度とシステムについて理解できる。	青山
15	産業保健：健康課題への施策と支援	産業保健における健康課題への施策と支援について理解できる。	青山

公衆衛生看護管理論

Management of Public Health Nursing

担当教員名	北林　由紀子	実務経験（年数）	藤田医科大学病院看護師８年、春日井市保健センター、健康管理センター保健師４年
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko	対象学生	４年
オフィスアワー（教員室）	講義日の16時20分から17時（北林研究室）	開講時期	前期
科目区分	専門科目－公衆衛生看護学	単位数	1
履修要件	なし	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	公衆衛生看護、管理機能、健康危機管理	授業方法	講義
授業概要	公衆衛生看護管理の定義や目的、管理機能について学ぶ。また、健康危機管理の実際と保健活動について学ぶ。		
教育目標	保健師が行う公衆衛生看護管理の特徴や機能、健康危機管理、災害時保健活動の実際について理解を深める。 看護学部ディプロマ・ポリシー③と⑤に関連する。		
到達目標	１．公衆衛生看護管理の理念、しくみ、特徴について理解できる。 ２．保健師に求められる管理能力について理解できる。 ３．健康危機管理、災害発生と保健活動について理解できる。		
予習・復習	授業内容に該当する教科書のページを予習して授業に臨むこと。また復習して理解をより深める。		
教科書・教材	書名：最新保健学講座５『公衆衛生看護管理論』メヂカルフレンド社 （地域看護診断論２年次購入済み） 必要に応じて提示する。		
参考書	最新保健学講座４『公衆衛生看護活動論２』メヂカルフレンド社 公衆衛生看護学Jp（インターメディカル）　国民衛生の動向2021／2022年版		
成績評価方法フィードバック	課題レポート提出（100％）		

■授業計画（全８回）

回	授業内容	到達目標
1	公衆衛生看護管理の特徴 １）公衆衛生看護管理の目的 ２）公衆衛生看護管理の機能	公衆衛生看護管理の特徴、機能が理解できる。
2	公衆衛生看護管理機能の概要－その１－ １）事業・業務管理 ２）予算管理	事業・業務管理、予算管理が理解できる。
3	公衆衛生看護管理機能の概要－その２－ １）人事管理 ２）組織運営・組織管理	人事管理、組織管理が理解できる。
4	公衆衛生看護管理機能の概要－その３－ １）情報管理 ２）地域ケアの質の管理	情報管理および地域のケアの質管理が理解できる。
5	健康危機管理－その１－ 健康危機管理とは	健康危機管理の定義、平常時の保健活動が理解できる。
6	健康危機管理－その２－ 感染症集団発生時の保健活動	感染症集団発生時の保健師活動について理解できる。
7	健康危機管理－その３－ 災害発生時の保健師活動	大規模災害時の保健師活動の実際が理解できる。
8	公衆衛生看護活動に関する法令	公衆衛生看護活動に関する法令が理解できる。

臨地実習

早期体験看護実習

Practicum : Early Exposure Nursing Practice

担当教員名	池松　裕子・春田　佳代・ 北林　由紀子・茂木　泰子・ 相撲　佐希子・那波　潤美・ 山口　陽子・青山　京子・ 浅場　香・神谷　美香・ 平野　明美・夏目　恵美子・ 大村　政生・足立　勝宣・ 諏訪　美栄子・松野　智香子・ 東山　新太郎・和田　恵子	実務経験（年数）	看護師、保健師、養教１級、開業ET／WOC看護師・所長20年 名古屋大学医学系研究科教員20年、在宅看護学・がん看護学
英語氏名	IKEMATSU Yuko・HARUTA Kayo・KITABAYASHI Yukiko・ MOTEGI Yasuko・SUMAI Sakiko・NAWA Masumi・ YAMAGUCHI Yoko・AOYAMA Kyoko・ASABA Kaori・ KAMIYA Mika・HIRANO Akemi・NATSUME Emiko・ OMURA Masaki・ADACHI Katsunori・SUWA Mieko・ MATSUNO Chikako・HIGASHIYAMA Shintaro・WADA Keiko	対象学生	１年
オフィスアワー（教員室）	実習用携帯電話にて対応する（詳細は別途案内する）。	開講時期	前期
科目区分	専門分野－臨地実習	単位数	1
履修要件	特に定めなし。	必修・選択	必修
キーワード	早期体験　看護　病院　施設	授業方法	実習
授業概要	看護学部に入学したばかりの学生が実際に看護師が活躍する現場を体験することにより、看護の機能や役割を知り、看護学生としての自覚をもち、看護への動機づけの機会とする。		
教育目標	看護の対象となる多様な人々との出会いを通して看護を学ぶことへの意識や意欲を高める。 看護学部ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	看護の対象となる多様な人々や看護師の活動を知ることによって、看護師を目指す自己の課題が明確にできる。		
予習・復習	基礎ゼミナール、看護学概論Ⅰの内容を想起する。特に、基礎ゼミナールで学んだ「接遇⑴⑵」「レポートの書き方」については、実践出来るようにする。		
教科書・教材	適時紹介する。		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	実習評価表に準ずる。		

■授業計画（全５回）

回	授業内容	到達目標
1	実習施設オリエンテーション	実習施設ごとに分かれて、Zoomを通したオリエンテーションを受ける。
2	施設での活動場面の見学・カンファレンス	担当看護師に同行し、患者・入所者・園児に実践されている援助内容や看護師の活動を見学する。
3	施設での活動場面の見学・カンファレンス	担当看護師に同行し、患者・入所者・園児に実践されている援助内容や看護師の活動を見学する。
4	施設での活動場面の見学・カンファレンス	担当看護師に同行し、患者・入所者・園児に実践されている援助内容や看護師の活動を見学する。
5	実習報告会	実習の学びを振り返り、学生間で学びを共有できる。

基礎看護学実習Ⅰ

Practicum：Fundamental Nursing Ⅰ

担当教員名	春田　佳代・相撲　佐希子・ 諏訪　美栄子・東山　新太郎	実務経験（年数）	病院勤務　看護師8年
英語氏名	HARUTA Kayo・SUMAI Sakiko・ SUWA Mieko・HIGASHIYAMA Shintaro	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	実習用携帯電話にて対応する（詳細は別途案内する）。	開講時期	前期
科目区分	専門分野－臨地実習	単位数	1
履修要件	看護学概論Ⅰ、基礎看護援助技術Ⅰの単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	信頼関係の構築、患者理解、日常生活援助	授業方法	実習
授業概要	看護師の役割を理解し、受け持ち患者とコミュニケーションをとりながら、人間を総合的に理解することに努める。患者の日常生活に必要な看護援助を考え、臨地実習指導者とともに実践する中で、倫理的配慮、基礎知識や技術、態度を学ぶ。 ※新型コロナウイルス感染症の影響で実習内容や方法が変更になる場合がある。		
教育目標	アセスメント能力を用いて、健康上の問題のために日常生活が損なわれている個人を対象に、人間関係を築きながら日常生活援助に焦点をあて、対象に安全で安楽な看護実践ができる。看護学部ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	受け持ち患者と信頼関係を築き、日常生活の未充足を補う看護援助を実践できる。		
予習・復習	基礎看護援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメントで学んだ技術を主体的に練習する。毎日実習の振り返りを行い、自己学習を行う。予習・復習時間はおよそ30時間を目安とする。		
教科書・教材	適時紹介する。		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	実習評価表に準ずる。		

■授業計画（全6回）

回	授業内容	到達目標
1	病院、病棟オリエンテーション 受持ち患者の情報収集	受け持ち患者とコミュニケーションをとることができる。
2	受持ち患者の情報収集・看護実践	看護師とともに、患者の情報収集や日常生活に必要な援助ができる。
3	受持ち患者の看護実践	受け持ち患者の日常生活の未充足に気づくことができる。
4	受持ち患者の看護実践	受け持ち患者に必要な日常生活の援助を実践できる。
5	受持ち患者の看護実践、最終カンファレンス	受け持ち患者に必要な日常生活援助を実践し、振り返ることができる。
6	実習報告会	実習の学びを振り返り、学生間で学びを共有できる。

基礎看護学実習Ⅱ

Practicum : Fundamental NursingⅡ

担当教員名	相撲　佐希子・春田　佳代・ 諏訪　美栄子・東山　新太郎	実務経験（年数）	病院勤務　看護師10年（循環器内科、血液内科、手術室）
英語氏名	SUMAI Sakiko・HARUTA Kayo・ SUWA Mieko・HIGASHIYAMA Shintaro	対象学生	2年
オフィスアワー（教員室）	実習用携帯電話にて対応する（詳細は別途案内する）。	開講時期	後期
科目区分	専門分野－臨地実習	単位数	2
履修要件	看護学概論Ⅱ　基礎看護援助技術Ⅱ　ヘルスアセスメント　看護援助論 看護援助演習　基礎看護学実習Ⅰの単位が修得されていること。	必修・選択	必修
キーワード	基礎看護学　実習　看護過程　日常生活援助	授業方法	実習
授業概要	基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者の日常生活援助を通して看護過程展開のプロセスを学ぶ。また、患者との関わりや看護の実践を通して、自らの看護に対する考えを深める。 ※新型コロナウイルス等感染症の影響で実習内容や方法が変更になる場合がある。		
教育目標	受け持ち患者をアセスメントし、看護問題を明確にしたのち対象の健康問題解決のため看護計画を立案し、看護を実践、評価するとともに必要に応じて計画を修正することができる。ディプロマ・ポリシーの①②に該当する。		
到達目標	受け持ち患者と良好な関係を築き、日常生活援助を通して看護過程展開のプロセスを実践できる。また、実習を通して自らの看護観を深めることができる。		
予習・復習	看護過程の展開や、日常生活援助技術について、実習前まで自己トレーニングをしておくこと。（学内での演習室・実習室の使用可能） 実習中は、実施した看護援助について常に省察する。		
教科書・教材	適時紹介する。		
参考書	適時紹介する。		
成績評価方法 フィードバック	実習評価表に準ずる。		

臨地実習

■授業計画（全11回）

回	授業内容	到達目標
1	病棟オリエンテーション 受け持ち患者　情報収集	病棟の概要と、系統的に受け持ち患者の情報収集ができる。
2	受け持ち患者　情報収集・アセスメント	受け持ち患者とのコミュニケーションを通して情報収集し、情報の分類・整理ができる。
3	受け持ち患者の看護に参加	受け持ち患者の看護ケアを見学、ならびに看護師とともに実践し、情報収集や情報の分類・整理・解釈ができる。
4	受け持ち患者の看護に参加	受け持ち患者の看護ケアを見学、ならびに看護師とともに実践し、情報収集や情報の整理をすることで全体像（関連図）を作成し、看護問題を明確にできる。
5	受け持ち患者の看護実践 中間カンファレンス	受け持ち患者の看護ケアを看護師とともに実践できる。受け持ち患者の全体像（関連図）から看護問題を明確にし、優先順位を考え看護の方向性を見出すことができる。
6	受け持ち患者の看護実践（看護計画立案・実践）	受け持ち患者の優先度の高い看護問題について、看護計画（日常生活援助について）を立案し実践できる。
7	受け持ち患者の看護実践・評価	受け持ち患者の優先度の高い看護計画を実践したのちSOAPを用いて振り返り、必要に応じて計画の追加・修正ができる。
8		
9		
10	受け持ち患者の看護実践・評価 最終カンファレンス	受け持ち患者の看護について振り返ると共に看護要約（サマリー）を作成し、継続が必要な看護を説明することができる。
11	報告会準備 報告会	実習での学びを学生相互で伝え、学びを共有することで自らの課題を明確にできる。

急性期看護学実習

Practicum : Adult Nursing（Acute）

担当教員名	池松　裕子・夏目　恵美子	実務経験（年数）	外科系病棟・手術室勤務（30年）
英語氏名	IKEMATSU Yuko・NATSUME Emiko	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	実習中はmail及び携帯電話にて応じる。	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	3
履修要件	成人看護援助概論、急性期看護援助概論、慢性期療養生活援助概論、急性期看護援助論、慢性期療養生活援助論を履修していること。	必修・選択	必修
キーワード	急性期・周術期・身体侵襲・看護過程	授業方法	実習
授業概要	急性期にある患者を受け持ち看護過程の展開とともに看護技術を習得する。		
教育目標	成人期の発達段階・発達課題をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、健康障害のレベル、あるいはニーズに対応した看護過程を展開することで看護実践力能力を習得する。ディプロマ・ポリシー①②に該当する。		
到達目標	患者のニーズに対応した看護過程を展開することで看護実践能力を養う。		
予習・復習	既習の専門基礎科目、成人看護学の必修科目を復習をする。		
教科書・教材	急性期看護援助論に準じる。		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実習評価基準に準じる。		

■内容

	実習内容
15日間	対象患者を受け持ち下記内容を実践することができる。 1．急性期・周手術期にある患者の個別性を理解し、看護過程を展開できる。 2．患者の早期回復・セルフケア促進と心理的な安定をはかるため必要な看護実践を展開できる。 3．チーム医療の重要性を考え、各々の役割が理解できる。 4．看護学生として責任ある行動がとれる。 5．手術室・ICUオリエンテーション、手術室・ICU見学実習により手術室・ICUの特徴を理解する。

慢性期看護学実習

Practicum : Adult Nursing（Chronic）

担当教員名	神谷　美香・平野　明美 他	実務経験（年数）	臨床経験7年
英語氏名	KAMIYA Mika・HIRANO Akemi	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	実習中はmail及び実習時連絡電話にて応じる。	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	3
履修要件	成人看護援助概論、慢性期療養生活援助概論、慢性期療養生活援助論を履修していること。	必修・選択	必修
キーワード	慢性期・セルフケア・生活習慣・看護過程	授業方法	実習
授業概要	慢性疾患をもつ患者を受け持ち看護過程の展開とともに看護技術の習得をする。		
教育目標	成人期の発達段階・発達課題をふまえ、患者の健康上の問題を科学的根拠に基づき理解し、健康障害のレベル、あるいはニーズに対応した看護過程を展開することで看護実践能力を習得する。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	患者のニーズに対応した看護過程を展開することで看護実践能力を習得する。		
予習・復習	「成人看護援助概論」「慢性期療養生活援助概論」「慢性期療養生活援助論」の習得科目の復習をする。		
教科書・教材	「成人看護援助概論」「慢性期療養生活援助概論」「慢性期療養生活援助論」に準じる。		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実習評価表に準じる。		

■内容

	実習内容
15日間	対象患者を1～2名受け持ち下記内容を達成できるように実習を行う。 1．成人期の発達段階・発達課題をふまえ、慢性期にある患者、終末期にある患者の全体像をとらえることができる。 2．慢性期にある患者、終末期にある患者のニーズ、症状緩和、セルフケア、QOLの維持・向上を考慮した看護が実践できる。 3．看護師としての倫理的配慮ができる。 4．医療チームにおける看護職の役割を理解できる。 5．学習者・将来の専門職者として、ふさわしい態度および看護観が育成できる。

母性看護学実習

Maternity Nursing Practice

担当教員名	那波　潤美・松野　智香子	実務経験（年数）	臨床助産師５年
英語氏名	NAWA Masumi・MATSUNO Chikako	対象学生	３・４年
オフィスアワー（教員室）	実習時間内に適宜応じる。 （那波10307／松野10305）	開講時期	３年後期・４年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	2
履修要件	母性看護援助概論、母性看護援助論を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	妊婦、産婦、褥婦、新生児、家族、看護、実践、アセスメント	授業方法	実習
授業概要	臨床施設の産科において、妊婦、産婦、褥婦と新生児およびその家族の看護援助方法を学ぶ。 受け持った対象者の看護過程を展開する。		
教育目標	母性看護援助概論および援助論で得た知識に重ねて、妊婦、産婦、褥婦と新生児およびその家族の身体的、精神的、社会的な特性を理解する。質の高いケアを提供することができるよう看護実践能力を養う。ディプロマ・ポリシー①・⑤		
到達目標	妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族への適切な看護を実践するための基礎的能力を養う。		
予習・復習	「母性看護援助概論」「母性看護援助論」の教科書および講義資料、実習共通要項や母性看護学実習要項など熟読し、理解してから実習に臨む。実習記録の作成、事前課題などを課す。予習・復習として毎日180分以上必要である。		
教科書・教材	１）根拠と事故防止からみた母性看護技術　医学書院　ISBN　978－4－260－04324－3 ２）系統看護学講座　母性看護学概論　第14版　医学書院　ISBN　978－4－260－04225－3 ３）系統看護学講座　母性看護学各論　第14版　医学書院　ISBN　978－4－260－04223－9 ４）病気がみえるvol.10　メディック・メディア　ISBN　978－4－89632－713－7 ５）病気が見えるvol.9　メディック・メディア　ISBN　978－4－89632－712－0 ６）根拠がわかる母性看護過程－事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画－　ISBN　978－4－25513－9 ＊１）～６）について、母性看護援助概論と母性看護援助論にて購入済み。		
参考書	適宜紹介していく。		
成績評価方法フィードバック	実習評価表に基づいて、看護実践や実習記録等を総合的に判断し評価する（詳細は実習要項等別途示す）。フィードバックは、実践を通して、個別あるいはカンファレンス等の場面を活用して行う。		

■内容

	実習内容
10日間	【実習目的】 妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象の身体的・心理的・社会的な特性を理解し、母子とその家族への適切な看護を実践するための基礎的能力を養う。 【実習目標】 周産期ケアを通じて、母親とその家族への倫理的配慮を踏まえた看護の方法と姿勢を学ぶ。 １．妊娠期 １）妊娠期にある母親と胎児の健康についてアセスメントをすることができる。 ２）妊娠期にある母体とその家族の身体的・心理的・社会的側面からアセスメントをし、看護上の問題を考えることができる。 ２．分娩期 １）分娩期にある母子の適応状況を観察することができる。 ２）分娩期における必要な看護ケアを考え、指導のもと実践、参加することができる。 ３）産婦と家族の出産に対する思いや反応を観察することができる。 ４）分娩が安全に経過するための環境を整えることができる。 ３．産褥期 １）産褥期にある母親とその家族の特性を理解することができる。 ２）産褥期にある母親と新生児の健康問題について、身体的・心理的・社会的側面からアセスメントをし、看護上の問題を考えることができる。 ３）褥婦の進行性変化および退行性変化について理解することができる。 ４）親役割や育児行動の獲得状況を観察し、アセスメントできる。 ５）退院後の生活を見据えた母親やその家族への保健指導のあり方や、活用しうる社会資源について考えることができる。 ６）実践した看護を振り返り評価した上で、より適切な看護を実践するための看護の展開を考えることができる。 ４．新生児期 １）胎児期からの健康状態を把握した上で、新生児の健康状態、胎外生活への適応過程を観察し、アセスメントできる。 ２）新生児の胎外生活適応を促すための養育環境（安全な環境、清潔、栄養、愛着等）や日常生活援助を考えることができる。 ３）母児相互作用の視点から看護を展開することができる。 ４）母乳栄養確立のための看護の具体的な方法を学ぶことができる。 ５．継続看護 １）母子の継続看護（両親学級・退院後の母子の健診・助産師外来）の実際を学ぶ。

小児看護学実習

Practicum : Pediatric Nursing

担当教員名	大村　政生	実務経験（年数）	小児専門病院・看護師7年
英語氏名	OMURA Masaki	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	mailにて応じる。 omura.m@shubun.ac.jp（大村）	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	2
履修要件	小児看護援助概論、小児看護援助論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	小児の疾患と看護　小児看護技術　小児看護過程	授業方法	実習
授業概要	臨床の場にて、小児の主な疾患を学び、健康障害をもつ小児および家族の特徴と援助方法を学ぶ。看護過程を展開し、必要な小児看護技術を習得する。		
教育目標	健康な小児と健康障害をもつ小児双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。さらに、小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるための基本的な知識・技術・態度を修得する。看護学部ディプロマ・ポリシー①②に関連する。		
到達目標	⑴子どもとその家族を尊重し、信頼関係を築くことができる。 ⑵小児各期の特徴を理解し、成長発達を促進することができる。 ⑶子どもと家族に関わる健康問題を把握し、発達段階と健康レベルに応じた看護過程の展開ができる。 ⑷日常生活における小児の安全を守ることができる。 ⑸施設における他職種との連携を知り、様々な小児看護の場における看護の役割を理解することができる。 ⑹小児看護を学ぶ看護学生として適切な学習態度を身につけ、自己成長を意識することができる。		
予習・復習	「小児看護援助概論」「小児看護援助論」時に配布した授業資料と教科書を熟読して実習に臨むこと。事前課題ノート（小児のフィジカルアセスメントなど）の作成する。予習・復習に180分以上必要である。		
教科書・教材	「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［1］小児看護学概論／小児臨床看護総論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,190円　（ISBN－9784260038607）　（2年次購入済） 「系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学［2］小児臨床看護各論（第14版）」 奈良間美保他著　医学書院　2020年　3,630円　（ISBN－9784260038669）　（2年次購入済） 「発達段階からみた小児看護過程（第3版）」 浅野みどり他著　医学書院　2017年　4,180円　（ISBN－9784260028370）　（3年次前期購入済） 「新訂版　写真でわかる小児看護技術アドバンス」 山元恵子監修　インターメディカ　2020年　3,520円　（ISBN－9784899964094）　（3年次前期購入済）		
参考書	実習オリエンテーションで紹介する。		
成績評価方法フィードバック	評価表に基づき、臨地実習指導者・指導担当教員の評価および学生の自己評価を参考にして、科目担当教員が総合的に評価する（評価表は別途示す）。4／5以上の出席がない場合は評価対象とならない。実習記録を提出しない場合は評価対象にならない。		

■内容

	実習内容
5日間	幼稚園実習 実習目的 幼稚園での生活場面を通して、健康な子どもを理解し、個々の成長発達段階に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を修得する。 実習目標 ⑴子どもの個別性をとらえ、コミュニケーションをとることができる。 ⑵幼児期の子どもの日常生活行動を観察し、発達段階の特徴を理解する。 ⑶発達段階と基本的生活習慣の自立状況に応じた援助の実際を知る。 ⑷子どもの安全を重視し、子どもの成長・発達に重要な環境について理解する。 ⑸幼稚園における生活環境や健康教育および健康管理の実際を知る。
5日間	病棟実習 実習目的 健康障害を持つ小児とその家族を理解し、小児の成長発達段階と病状に応じた看護が実践できるための基礎的能力を修得する。 実習目標 ⑴患児とその家族を尊重し、信頼関係を築くことができる。 ⑵患児と家族に関わる健康問題を把握し、発達段階と健康レベルに応じた看護過程の展開ができる。 ⑶患児の発達段階と健康レベルに応じた基本的な看護技術を安全・安楽に提供することができる。 ⑷施設での他職種との連携を知り、様々な小児看護の場における看護の役割を理解することができる。 ⑸小児看護を学ぶ看護学生として適切な態度で行動することができる。

老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

Geriatric Nursing Practice

担当教員名	山口　陽子	実務経験（年数）	病院勤務・看護師12年
英語氏名	YAMAGUCHI Yoko	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	mailにて応じる。 金曜日12：10～12：40（10518研究室）	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	4
履修要件	老年看護援助概論、老年看護援助論を履修していること。	必修・選択	必修
キーワード	高齢者　看護　実践　アセスメント	授業方法	実習
授業概要	介護老人保健施設と病院において、高齢者の看護援助方法を学ぶ。受け持ち患者の看護過程を展開する。		
教育目標	高齢者に質の高いケアを提供することができる看護実践能力を養う。看護学部ディプロマ・ポリシー②③に関連する。		
到達目標	高齢者を理解し、高齢者に対応した看護過程を展開することで看護実践能力を修得する。		
予習・復習	予習は「老年看護援助概論」「老年看護援助論」の授業資料や教科書を熟読して実習に臨むこと。復習は実習記録や教科書を読み返すこと。予習・復習でそれぞれ180分以上必要である。		
教科書・教材	系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院　2021年　第9版　ISBN978－4－260－03186－8		
参考書	適宜紹介していく。		
成績評価方法 フィードバック	実習記録、課題レポート等を総合的に評価する。 振り返りは各実習の終了時に面談を行う。		

■内容

	実習内容
10日間 ×2	老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ 実習目的 老年期にある対象の身体的・精神的心理・社会的変化や発達課題を理解し、安全に配慮した看護を実践できる。老年期の特徴を踏まえたアセスメントを行い、健康状態に応じた看護実践能力を養う。 実習目標 1．高齢者の尊厳と権利を擁護し、円滑な人間関係を築くことができる。 2．老年期における対象の身体的・精神心理的・社会的変化や障害に応じ安全に配慮した看護を実践できる。 3．老年期の特徴を踏まえたアセスメントを行い、高齢者の異常の発見につなげる看護を実践できる。 4．高齢者の健康危機をアセスメントし合併症や廃用症候群を予防する看護を実践できる。 5．高齢者がもつ機能をアセスメントし、エンパワーメントの視点から機能を引き出す看護を実践できる。 6．高齢者がその人らしい終末期を送れるように個別性、価値観、家族、社会背景を踏まえた看護を実践できる。 7．総合的なケアの方針に沿って、多様な専門職・非専門職と連携しながら看護を実践できる。

精神看護学実習

Psychiatric Nursing Practice

担当教員名	茂木　泰子・足立　勝宣	実務経験（年数）	
英語氏名	MOTEGI Yasuko・ADACHI Katsunori	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	茂木（10403研究室）E-mail：motegi.y@shubun.ac.jp 足立（10406研究室）E-mail：adachi.k@shubun.ac.jp 質問は実習時間内にて適宜応じる。	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	2
履修要件	精神看護援助概論・精神看護援助論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	精神疾患と看護、アセスメント、看護過程	授業方法	実習
授業概要	精神障害をかかえる対象を総合的に理解し、障がいによって阻害されている日常生活の援助と看護の具体的な方法を学び、社会復帰施設やその役割について知る。		
教育目標	対象者のかかえる生きにくさについて、生物学的・心理学的・社会学的側面から総合的に理解できる。対象者との相互関係をとおして、治療的コミュニケーション技術を習得する。		
到達目標	精神看護領域における健康課題を踏まえ、対象の特徴を理解し、看護過程の展開を通じて援助方法の実際を学ぶ。また、保健医療福祉チームの一員として看護職の役割、精神保健福祉法に基づく処遇等について学ぶ。		
予習・復習	講義・演習時に配布した資料を熟読し、整理すること。事前課題レポートを作成する。		
教科書・教材	1．武井麻子監修、系統看護学講座専門分野Ⅱ、精神看護学[1]、精神看護の基礎第5版、医学書院、2017（2年次購入済） 2．武井麻子監修、系統看護学講座専門分野Ⅱ、精神看護学[2]、精神看護の基礎第5版、医学書院、2017（2年次購入済）		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実習記録、看護実践の内容、課題レポートなどを総合的に評価する。		

■内容

	実習内容
10日間	1．対象者がかかえる精神保健上の健康課題について、生物学的・心理学的・社会学的側面から総合的に理解する。 1）対象者の生物学的・心理学的・社会学的側面や対象者の気持ちに寄り添うことで、症状や行動の意味を理解できる。 2）対象者の発達段階や病期を理解し、日常生活の援助、受けている治療過程（薬物療法、リハビリテーション療法など）への援助ができる。 2．対象者の健康問題を把握し、個別性に応じた看護過程の展開ができる。 1）対象のセルフケアの維持・拡大、ならびに地域移行にむけて、情報を適切に収集することができる。 2）対象者の体験と希望に基づき、看護目標を設定できる。 3）対象者の心理社会学的アセスメントを加味し、看護計画を立案することができる。 4）日々の看護実践、追加、修正など、看護過程の評価を行うことができる。 3．対象者との関わりを通して治療的人間関係のプロセスを深め、対象者への援助に活かすことができる。 1）治療的人間関係のプロセスを通して、対象者との関係構築の過程を考察できる。 2）対象者との間で起こっている現象を振り返り、言語的・非言語的表現および行動上・対人関係上のパターンについて、その背景や特徴を考察できる。 3）対象者との関わりを通して自己の感情に気づき、言語的・非言語的表現及び行動上の特性を考察できる。 4．精神科医療の機能と看護師の役割を理解する。 1）治療の場としての精神科病棟の特殊性、生活の場と環境、設備について理解できる。 2）対象者の人権、権利擁護、メンタルヘルスケアにおける看護師の役割及び機能について理解できる。 3）デイケア、退院支援、社会復帰へのプログラムの目的と方法を理解できる。 4）対象者の日常生活に必要な社会資源を理解できる。 5）精神科医療にかかわる多職種の役割、連携について理解できる。 5．精神看護を学ぶ看護学生として適切な態度で行動することができる。 1）個人情報を遵守する。 2）学生として責任ある態度で実習することができる。（報告、連絡、相談、身だしなみ、言葉遣い、健康管理等） 3）カンファレンスに積極的に参加し、リーダーまたはメンバーとしての役割を果たすことができる。

在宅看護学実習

Home Care Nursing Practice

担当教員名	浅場　香　他	実務経験（年数）	臨床看護師（20年）がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師
英語氏名	ASABA Kaori	対象学生	3・4年
オフィスアワー（教員室）	浅場（10404研究室）E-mail：asaba.k@shubun.ac.jp	開講時期	3年後期・4年前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	2
履修要件	在宅看護援助論の単位を修得していること。	必修・選択	必修
キーワード	地域包括ケアシステム、在宅看護過程、臨床判断、多職種協働	授業方法	実習
授業概要	個々の健康を生活者の視点からとらえ、地域で生活する個人、家族、それらを取り巻く地域の特徴をふまえた看護活動を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶとともに、基礎的な実践能力を習得する。		
教育目標	訪問看護ステーションにおいて同行訪問を行い、訪問看護や在宅ケアシステムの実際を学ぶ。疾病や障害をもつ人とその家族を地域の生活者としてとらえ、療養者とその家族に必要な看護を考えることができる。地域における、保健・医療・福祉サービスとそれらの連携について理解し、看護の役割を理解する。ディプロマ・ポリシーの①②③に該当する。		
到達目標	在宅で療養している訪問看護の利用者とその家族の生活の多様性を理解し、安心して療養を継続するために必要な看護活動を展開できる。		
予習・復習	「在宅看護援助概論」「在宅看護援助論」の授業資料と教科書を熟読して実習に臨むこと。予習・復習に180分以上必要である。		
教科書・教材	系統看護学講座　地域・在宅看護論［2］地域・在宅看護の実践　医学書院（ISBN 978－4260047142） 強みと弱みからみた地域・在宅看護過程　第2版　医学書院（ISBN 978－4260050821）		
参考書	地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術第2版　ナーシンググラフィカ（ISBN 978－4840475440） 在宅医療と訪問看護・介護のコラボレーション改訂第2版　オーム社（ISBN 978－4274217289）		
成績評価方法 フィードバック	事前課題レポート（10%）実習への取り組み（20%）実習記録（50%）実習後レポート（20%） 欠席、遅刻・早退、実習態度はその都度減点する。		

■内容

	実習内容
10日間	【実習目的】 在宅で療養している訪問看護利用者とその家族の生活の多様性を理解し、安心して療養を継続するために必要な看護活動を展開できる知識・技術、態度を学ぶとともに、基礎的な実践能力を習得する。 【実習目標】 1．在宅で生活する療養者とその家族のヘルスニーズや、支援方法を理解する。 2．訪問看護を提供する機関の機能や訪問看護の制度を理解する。 3．訪問看護の実際と役割を学ぶ。 4．在宅療養者を支援するための社会資源活用方法について学ぶ。 5．地域包括ケアシステムにおける多職種との連携や調整機能の実際を理解する。 【実習の進め方】 ・臨地実習施設は訪問看護ステーションであり、訪問看護師と居宅へ同行訪問する。 ・学生は1人1事例を受け持ち、看護展開（情報収集／アセスメント／関連図／計画立案／計画に基づく援助の実施／評価）をする。 ・受け持ち事例の他、訪問看護師と同行する事例に関わりながら学びを深める。 ・カンファレンスを通して、療養者とその家族に対する看護の特徴について考察する。

統合看護実習

Practicum : Synthesis Nursing

担当教員名	春田　佳代・相撲　佐希子・ 池松　裕子・茂木　泰子・ 北林　由紀子・山口　陽子・ 那波　潤美・青山　京子・ 浅場　香・神谷　美香・ 夏目　恵美子・足立　勝則・ 平野　明美・大村　政生・ 諏訪　美栄子・松野　智香子・ 東山　新太郎・和田　恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	HARUTA Kayo・SUMAI Sakiko・IKEMATSU Yuko・ MOTEGI Yasuko・KITABAYASHI Yukiko・YAMAGUCHI Yoko・ NAWA Masumi・AOYAMA Kyoko・ASABA Kaori・ KAMIYA Mika・NATSUME Emiko・ADACHI Katsunori・ HIRANO Akemi・OMURA Masaki・SUWA Mieko・ MATSUNO Chikako・HIGASHIYAMA Shintaro・WADA Keiko	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	実習中はmail、実習用携帯電話にて対応する。	開講時期	前期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	2
履修要件	1年～3年までの必修科目を履修していること。	必修・選択	必修
キーワード	チームメンバー、統合、他職種連携	授業方法	実習
授業概要	医療機関における看護チームの一員として、複数の受け持ち患者をもち、必要な看護を実施する。また、チームリーダーや看護管理者との同行び他職種連携等の見学を通してチーム医療の実際と看護師の役割及び責任について理解を深める。		
教育目標	各領域で学んだ知識・技術・態度を統合し、医療機関における看護チームメンバーの役割を実践することで、看護実践力を高める。ディプロマ・ポリシー②③に該当する。		
到達目標	1．看護チームメンバーとして複数の患者の看護を優先度を考慮し実践できる。 2．チーム医療における多職種連携・協働の重要性と看護師の役割を認識できる。		
予習・復習	この実習は4年間の最後の実習であり、これまでの学習成果を実際の臨床の場で活用し、チーム医療の中の看護師の役割と実践力を体得するものである。したがって、患者・家族の安全・安楽、看護の質保証に向けた事前学習を確実に行うことが重要である。また、チーム内における連絡・相談・報告を密に行い、よりよい看護のあり方を探求することが必要である。		
教科書・教材	系統看護学講座統合分野　看護管理　上泉和子他　医学書院（ISBN－978－4－260015738）		
参考書			
成績評価方法フィードバック	実習評価表に準じる。看護実践と実習記録物、態度等から総合的に評価する。		

■内容

	実習内容
10日間	実習目的 各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任を果たす看護師の役割について学ぶ。また、関連機関、関係職種との連携･協働しながら、総合的な看護実践能力を培い、看護に対する考え方を探求する。 実習目標 1．複数の受け持ち患者（看護の対象者）に関して、チームリーダー、チームメンバーの業務を体験し、チームの一員としての看護師の役割を理解する。 2．退院調整のあり方を理解し、地域包括ケア推進のための他職種連携の活動を知る。 3．看護管理の実際を通し、病院管理について理解を深める。 4．今まで学習した各領域の臨地実習における学びの集大成として、自己の課題を明確にする。 5．看護の対象者の尊厳と権利を擁護し、援助的関係を形成することができる。

公衆衛生看護学実習Ⅰ　Public Health Nursing Practice Ⅰ

担当教員名	北林 由紀子・青山 京子・和田 恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko・AOYAMA Kyoko・WADA Keiko	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	実習中はmailおよびTELにて応じる。	開講時期	後期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	4
履修要件	保健師課程科目すべて履修していること。	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	保健師活動・ヘルスプロモーション・健康課題解決	授業方法	実習
授業概要	地域で生活している人々の健康とQOL向上をめざす公衆衛生看護活動の実際を理解する。更に、人々の健康問題を分析し、その問題解決のための支援方法、支援技術を習得する。		
教育目標	1．保健行政機関（保健所･市町村）の機能と保健活動の実際を理解する。 2．個人・家族が生活している地域の健康課題を明らかにする方法と保健活動の展開を理解する。 3．人々の行動変容や地域住民のセルフケア能力を高める支援について理解する。 4．公衆衛生看護活動における健康危機管理の実際を理解する。 5．公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。 看護学部ディプロマ・ポリシー①③に関連する。		
到達目標	1．保健行政機関（保健所･市町村）各組織の機能を説明できる。 2．個人・家族・集団・地域の健康問題に対する保健福祉事業を説明できる。 3．集団・地域を単位として行われる保健医療福祉サービスの必要性が説明できる。 4．地域住民のセルフケア能力を高める支援について説明できる。 5．公衆衛生看護活動における保健師の役割を説明できる。		
予習・復習	予習は講義・演習時に配布した資料や教科書を熟読して実習に臨むこと。事前課題レポートを作成すること。予習・復習にそれぞれ180分以上必要である。		
教科書・教材	①最新保健学講座1～7　メヂカルフレンド社　　（購入済み） ②「国民衛生の動向2022／2023」一般社団法人厚生労働統計協会（雑誌コード03854－08）		
参考書	保健師業務要覧（第4版）、他適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実習評価表、実習記録、実習態度を総合的に判断し評価する（評価表は別途示す）。		

■内容

	実習内容
20日間	Ⅰ．実習目的 生活者としての個人・家族・集団の健康状態を把握し、学び、公衆衛生看護活動における保健師の役割および支援方法について学修する。 Ⅱ．実習目標 1．保健行政機関（保健所･市町村）の機能と保健活動の実際を理解する。 1）各組織・各部署の業務がわかる。 2）保健所・市町村で実施している保健事業がわかる。 2．個人・家族が生活している地域の健康課題を明らかにする方法と保健活動の展開を理解する。 1）地域の特性を把握するための情報収集ができる。 2）収集した情報から地域の特性と健康課題のアセスメントができる。 3）地域の健康課題解決にむけた保健活動について考えることができる。 4）保健活動の評価がわかる。 5）地域特性に基づいた保健事業の実際がわかる。 3．人々の行動変容や地域住民のセルフケア能力を高める支援について理解する。 1）健康教育による支援ができる。 2）健康診査の実際がわかる。 3）訪問指導による支援ができる。 4）小集団および地区組織活動の実際がわかる。 5）関係機関・職種との連携及び地域に存在する社会資源とその活用がわかる。 4．公衆衛生看護活動における健康危機管理の実際を理解する。 1）保健所・市町村における健康危機管理体制がわかる。 2）保健所・市町村における健康危機（感染症、虐待、災害等）に対する取り組みがわかる。 5．公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。 1）対人保健サービスにおける保健師の役割がわかる。 2）保健計画策定にかかわる保健師の役割がわかる。 3）健康危機管理における保健師の役割がわかる。 4）地域全体の健康課題解決のための保健師の役割がわかる。

公衆衛生看護学実習Ⅱ　Public Health Nursing PracticeⅡ

担当教員名	北林 由紀子・青山 京子・和田 恵子	実務経験（年数）	
英語氏名	KITABAYASHI Yukiko・AOYAMA Kyoko・WADA Keiko	対象学生	4年
オフィスアワー（教員室）	実習中はmailおよびTELにて応じる。	開講時期	後期
科目区分	専門科目－臨地実習	単位数	1
履修要件	保健師課程科目すべて履修していること。	必修・選択	保健師課程必修
キーワード	ヘルスプロモーション・学校保健・産業保健	授業方法	実習
授業概要	学校保健および病院の健康診断機関における保健活動の実際を学ぶとともに、養護教諭や保健師の役割を理解する。		
教育目標	1．学校保健 生徒（児童）の健康状態や学校教育および学校保健の実際を知り、成長発達段階の集団生活の役割及び保健教育と保健管理の必要性を学び、地域保健との連携の意義について考えることを目指す。 2．産業保健 病院の健康診断機関における保健活動の実際や保健師の役割を学ぶ。 看護学部ディプロマ・ポリシー①③に関連する。		
到達目標	1．学校保健、産業保健における保健事業の実際を理解できる。 2．学校保健、産業保健における看護職の役割を理解できる。 3．学校、産業、地域の連携の必要性を考えることができる。		
予習・復習	予習：事前学習ノートの作成により学ぶ。 復習：実習記録及び関連レポートにより復習する。		
教科書・教材	①最新保健学講座1～7　メヂカルフレンド社　（購入済み） ②標準保健師講座1～3　医学書院 ③国民衛生の動向2022／2023（公衆衛生看護学実習Ⅰで購入）		
参考書	適宜紹介する。		
成績評価方法フィードバック	実習評価表、実習記録、実習態度を総合的に判断し評価する。		

■内容

	実習内容
4~5日間	学校保健（修文学院高等学校、一宮市内小学校） 1．学校保健の制度とシステムおよび保健室の機能がわかる。 1）学校保健活動の実際がわかる。 2）保健室の機能について説明できる。 2．養護教諭の保健教育活動の実際がわかる。 1）児童生徒の健康状態を把握する方法がわかる。 2）児童生徒の生活状況や発達課題から健康課題を考えることができる。 3）学校保健活動における養護教諭の役割について説明できる。 3．学校と地域の連携の必要性を考えることができる。 産業保健（一宮西病院健診センター、海南病院健康管理センター） 4．病院の健康診断機関で実施されている保健事業がわかる。 5．病院の健康診断機関における看護職の機能と役割について説明できる。 6．健康課題に応じた支援の実際がわかる。 7．地域保健との連携について考えることができる。

編集・発行　修 文 大 学
〒491-0938 一宮市日光町 6 番地
ＴＥＬ 0586－45－2101
ＦＡＸ 0586－45－4410

制　　作　サンメッセ株式会社
〒491-0833 一宮市平島2-15-22
ＴＥＬ 0586－75－5411(代)
ＦＡＸ 0586－75－5412

学籍番号	
氏　　名	